

# 第2期

## 高岡市中心市街地活性化基本計画

富 山 県 高 岡 市

平成24年3月

平成24年3月29日 認定

平成25年3月28日 変更

平成26年3月28日 変更

平成27年7月31日 変更



# 目 次

ページ数

基本計画の名称	1
作成主体	1
計画期間	1
1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針	1
〔1〕 高岡市の概要	1
〔2〕 高岡市中心市街地の状況	2
(1) 位置	2
(2) 中心市街地の特徴と有効活用の方法の検討	2
(3) データから見た中心市街地の現状	6
(4) 市民から見た中心市街地の現状	16
〔3〕 1期計画に掲げた事業の成果と課題	27
(1) 1期計画の概要	27
(2) 事業の進捗状況	27
(3) 主な事業の成果と課題	30
〔4〕 現状分析と課題の整理	48
(1) 現状分析	48
(2) 課題の整理	50
〔5〕 計画の基本方針	51
(1) スローガン	51
(2) 基本方針	51
〔図表〕 現状分析・課題から導き出される基本方針の体系	53
2. 中心市街地の位置及び区域	54
〔1〕 位置	54
〔2〕 区域	55
(1) 区域（エリア）	55
(2) 中心市街地の範囲の考え方	56
〔3〕 中心市街地要件に適合していることの説明	58
3. 中心市街地の活性化の目標	67
〔1〕 基本計画の目標	67
〔2〕 計画期間の考え方	68
〔3〕 基本計画で達成すべき数値目標の設定について	69
(1) 歴史・文化資産の活用によるまちなか交流人口の拡大	69
(2) まちなか居住の推進	79
(3) 中心商店街の賑わいの創出	84

4. 土地区画整理事業、市街地再開発事業、道路、公園、駐車場等の公共の用に供する施設の整備その他の市街地の整備改善のための事業に関する事業	97
〔1〕市街地の整備改善の必要性	97
(1) 現状分析・課題	97
(2) 取り組むべき事業	97
(3) フォローアップの考え方	97
〔2〕具体的事業の内容	98
(1) 法に定める特別の措置に関連する事業	98
(2) ①認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した特例措置に関連する事業	98
(2) ②認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した重点的な支援措置に関連する事業	99
(3) 中心市街地の活性化に資するその他の支援措置に関連する事業	101
(4) 国の支援がないその他の事業	103
5. 都市福利施設を整備する事業に関する事項	104
〔1〕都市福利施設を整備の必要性	104
(1) 現状分析・課題	104
(2) 取り組むべき事業	104
(3) フォローアップの考え方	104
〔2〕具体的事業の内容	105
(1) 法に定める特別の措置に関連する事業	105
(2) ①認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した特例措置に関連する事業	105
(2) ②認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した重点的な支援措置に関連する事業	105
(3) 中心市街地の活性化に資するその他の支援措置に関連する事業	105
(4) 国の支援がないその他の事業	105
6. 公営住宅等を整備する事業、中心市街地共同住宅供給事業その他の住宅の供給のための事業及び当該事業と一体として行う居住環境の向上のための事業等に関する事項	107
〔1〕まちなか居住の推進の必要性	107
(1) 現状分析・課題	107
(2) 取り組むべき事業	107
(3) フォローアップの考え方	107
〔2〕具体的事業の内容	108
(1) 法に定める特別の措置に関連する事業	108
(2) ①認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した特例措置に関連する事業	108
(2) ②認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した重点的な支援措置に関連する事業	109
(3) 中心市街地の活性化に資するその他の支援措置に関連する事業	109
(4) 国の支援がないその他の事業	109

7. 中小小売商業高度化事業、特定商業施設等整備事業その他の商業の活性化の ための事業及び措置に関する事項	1 1 1
〔1〕 商業の活性化の必要性	1 1 1
(1) 現状分析・課題	1 1 1
(2) 取り組むべき事業	1 1 1
(3) フォローアップの考え方	1 1 2
〔2〕 具体的事業の内容	1 1 2
(1) 法に定める特別の措置に関連する事業	1 1 2
(2) ①認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した特例措置に関連する 事業	1 1 3
(2) ②認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した重点的な支援措置に 関連する事業	1 2 3
(3) 中心市街地の活性化に資するその他の支援措置に関連する事業	1 2 3
(4) 国の支援がないその他の事業	1 2 3
8. 4から7までに掲げる事業及び措置と一体的に推進する事業に関する 事項	1 2 8
〔1〕 公共交通機関の利便性の増進及び特定事業の推進の必要性	1 2 8
<公共交通機関の利便性の増進>	
(1) 現状分析・課題	1 2 8
(2) 取り組むべき事業	1 2 8
(3) フォローアップの考え方	1 2 8
<特定事業の推進>	
(1) 現状分析・課題	1 2 9
(2) 取り組むべき事業	1 2 9
(3) フォローアップの考え方	1 2 9
〔2〕 具体的事業の内容	1 2 9
(1) 法に定める特別の措置に関連する事業	1 2 9
(2) ①認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した特例措置に関連する 事業	1 2 9
(2) ②認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した重点的な支援措置に 関連する事業	1 3 1
(3) 中心市街地の活性化に資するその他の支援措置に関連する事業	1 3 2
(4) 国の支援がないその他の事業	1 3 2
◇ 4から8までに掲げる事業及び措置の実施箇所	1 3 4
9. 4から8までに掲げる事業及び措置の総合的かつ一体的推進に関する 事項	1 3 5
〔1〕 市町村の推進体制の整備等	1 3 5
(1) 庁内における推進・連携体制	1 3 5
(2) 高岡市議会における討議の内容	1 3 5
(3) 中心市街地活性化等について市民意見を聴取する場の設定	1 3 7

〔2〕 中心市街地活性化協議会に関する事項	138
(1) 高岡中心市街地活性化協議会の概要	138
(2) 高岡市中心市街地活性化協議会の組織等	138
(3) 高岡市中心市街地活性化協議会による意見書	141
(4) 高岡市中心市街地活性化協議会の活動経過	143
〔3〕 基本計画に基づく事業及び措置の一体的推進	144
(1) 中心市街地活性化基本計画1期計画の総括	144
(2) さまざまな主体の巻き込みと各種事業等との連携・調整等	146
(3) 客観的現状分析、ニーズ分析	149
10. 中心市街地における都市機能の集積の促進を図るための措置に関する事項	150
〔1〕 都市機能の集積の促進の考え方	150
〔2〕 都市計画手法の活用	150
〔3〕 都市機能の適正立地、既存ストックの有効活用等	150
(1) 都市機能の状況	150
(2) 大型店の状況	153
〔4〕 都市機能の集積のための事業等	157
11. その他中心市街地の活性化のために必要な事項	158
〔1〕 基本計画に掲げる事業等の推進上の留意事項	158
(1) 個別事業等に関連した実践的・試行的活動の内容・結果等	158
〔2〕 都市計画との調和等	159
(1) 高岡市総合計画との関係	159
(2) 高岡市都市計画マスタープランとの関係	159
(3) 北陸新幹線新高岡駅（仮称）周辺まちづくり計画との関係	160
〔3〕 その他の事項	161
12. 認定基準に適合していることの説明	162

- 基本計画の名称：第2期高岡市中心市街地活性化基本計画
- 作成主体：富山県高岡市
- 計画期間：平成24年4月～平成29年3月（計画期間5年）

## 1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

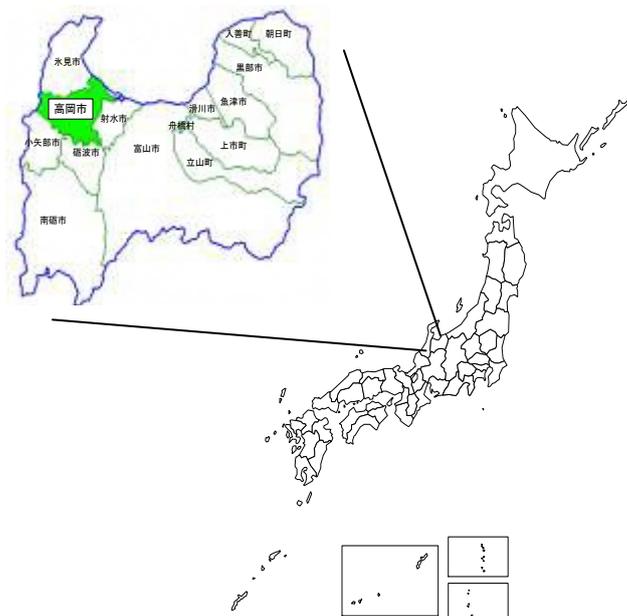
### 〔1〕 高岡市の概要

高岡市は、富山県北西部に位置し、人口約18万人を有する県内第2の都市であり、鉄道ではJR北陸本線、氷見線、城端線、及び路面電車万葉線が、道路網では北陸の大動脈である国道8号と156号、160号が交わる交通結節点に位置し、通勤・通学、商業など県西部の中核的な都市である。

歴史上、県内で最も古くから開拓された地域で、奈良時代には越中国府が置かれ、天平18年には万葉集の代表的歌人である大伴家持が国守として当地に赴任し、在任5年の間に二上山や雨晴海岸などの風光明媚を愛でて詠んだ220首余りの秀歌を万葉集に残している。

近世に入って加賀藩前田家2代目当主前田利長が関野ヶ原（現在の高岡台地）に築城し、城下町として現在の高岡市の基礎が築かれることとなった。利長の死後、一国一城令により高岡城は廃城となったが、3代目当主前田利常が商工業振興策を進め、武家のまちから商工業を中心とする町人のまちとして発展し、銅器、漆器、仏壇、仏具などの伝統産業を生み出した。また、県内唯一の国宝である瑞龍寺をはじめ、勝興寺、氣多神社、菅野家・武田家両住宅など数多くの重要文化財、前田利長墓所（国指定史跡）、高岡鋳物の製作用具及び製品（登録有形民俗文化財）、山町筋（重要伝統的建造物群保存地区）、高岡古城公園[高岡城跡]（富山県指定史跡）など県内でも有数の歴史的・文化的資産が集積している。

明治以降は伏木港の発展とともに重化学工業、木材・紙・パルプなどの工業集積が形成され、戦後になると伝統的な高岡の金属工業はアルミ産業へと発展し、全国有数の一大産地を形成するなど、高岡市は日本海側有数の産業都市として発展し、現在に至っている。



## 〔2〕 高岡市中心市街地の状況

### (1) 位置

高岡市の中心市街地は、JR高岡駅を中心とする一帯の市街地である。

歴史・文化を受け継ぐとともに産業、行政の様々な都市機能を担い、まさに「高岡の顔」として発展してきた地域である。



### (2) 中心市街地の特徴と有効活用の方法の検討

#### ①歴史・文化資産

高岡は、慶長14年(1609)、加賀藩前田家2代目当主前田利長の隠居場所として高岡城が築城され、城下町として町立てられたところに起源をもつ。城に続く台地上に馬場や武家屋敷が置かれ、台地下には商人町が配置されるとともに、千保川沿いに開かれた金屋町では招致された鋳物師による職人町が形成され、高岡市の原形が形づくられることとなった。

本市中心市街地は、いわば近世高岡発祥の地、高岡市の原点としての性格を有している。

このように近世における町の発展が明治以降も続き、商工業の発達とともに近代から現在に至る町並みが形成されてきた。

また、戦災の影響がなかったことから、現在でも中心市街地には、瑞龍寺(国宝)、山町筋(重要伝統的建造物群保存地区)、高岡古城公園[高岡城跡](県指定文化財)や高岡御車山祭(重要有形・無形民俗文化財)といった伝統行事など数多くの歴史・文化資産が集積しており、富山県内で他に類を見ない状況である。

## 国指定文化財・国登録有形文化財等の状況

	国宝	重要文化財	重要伝統的建造物群保存地区	登録有形文化財
中心市街地内	1	7	1	13
その他高岡市内	0	12	0	19
高岡市 計	1	19	1	32
(県内順位)	(1)	(2)	(2)	(2)
富山県 合計	1	95	3	91
中心市街地／高岡市	100%	36.8%	100%	40.6%
中心市街地／富山県	100%	7.4%	33.3%	14.3%

出典：  
富山県文化財・文化施設等一覧  
(H23. 3. 31 現在)

### 中心市街地における歴史・文化資産の分布状況



これらの歴史・文化資産は、中心市街地内の主要観光拠点として、年間約 120 万人の観光客が訪れ、高岡市における観光交流拠点として重要な役割を担っている。

これらの歴史・文化資産を磨き、魅力を高めるとともに、まちなかを回遊する取り組みを進める必要がある。

とりわけ、平成 23 年 6 月に国の認定を受けた高岡市歴史的風致維持向上計画と一体となった、中心市街地活性化の取り組みが重要である。



瑞龍寺  
[国宝 3 棟、重要文化財 7 棟他]



高岡御車山祭  
[重要有形・無形民俗文化財]



高岡古城公園（高岡城跡）  
[県指定文化財]

## ②社会資本など

高岡市は非戦災都市であることから、前述した歴史・文化資産のみならず、字名や条里など、中心市街地には開町時の町立ての雰囲気の色濃く残っている。

本市では、都市基盤の充実を図るため、中心市街地において様々な社会資本の整備に取り組んできた。特に、市民会館、市立博物館、市民体育館の設置をはじめ、ウイング・ウイング高岡（市立中央図書館、生涯学習センターなどが入居）などに代表される再開発事業を行い、多くの公共・公益施設が集積する拠点としての性格を確立するに至っている。

また、市全体の発展に伴って高岡駅北側の末広町、御旅屋通り、高の宮通り、末広坂の4つの商店街が形成され、長年にわたり中心的な商店街として位置づけられてきた。そのクロスポイントに位置する御旅屋セリオ〔核店舗：大和高岡店（呉西地域唯一の百貨店）〕とともに、高岡の商業を代表するエリアとなっている。

さらには、公共交通の拠点として、JR高岡駅、万葉線、バスターミナルが立地するとともに、平成23年8月にJR高岡駅の橋上駅舎化、南北自由通路〔通称：万葉ロード〕が、供用開始されたことによって、鉄道によって分断されていた駅南北が地上で連結されることとなった。今後、交通広場、北口駅前広場、ステーションビルのリニューアル等の整備が進められることにより、拠点機能がさらに高まり、中心市街地を交流拠点として、市民のみならず周辺都市をも含めた人の流れが活発化し、富山県西部地域全体の発展に寄与することが期待されている。

このような都市基盤と多様な都市機能が集積し、ストックされてきた中心市街地において、これらの既存ストックを活かしつつ、中心商店街と連携を図り、また、まちづくり会社やたかまち街づくり協議会といった多様なまちづくり機関の活動を助長しながら様々な施策・事業に取り組むことは、高岡らしい賑わいと活力に溢れたまちなかを創出するものであり、中心市街地の活性化にとって有効な取り組みである。



御旅屋第一街区市街地再開発事業  
〔御旅屋セリオ（大和高岡店など）〕



駅前西第一街区市街地再開発事業  
〔ウイング・ウイング高岡〕

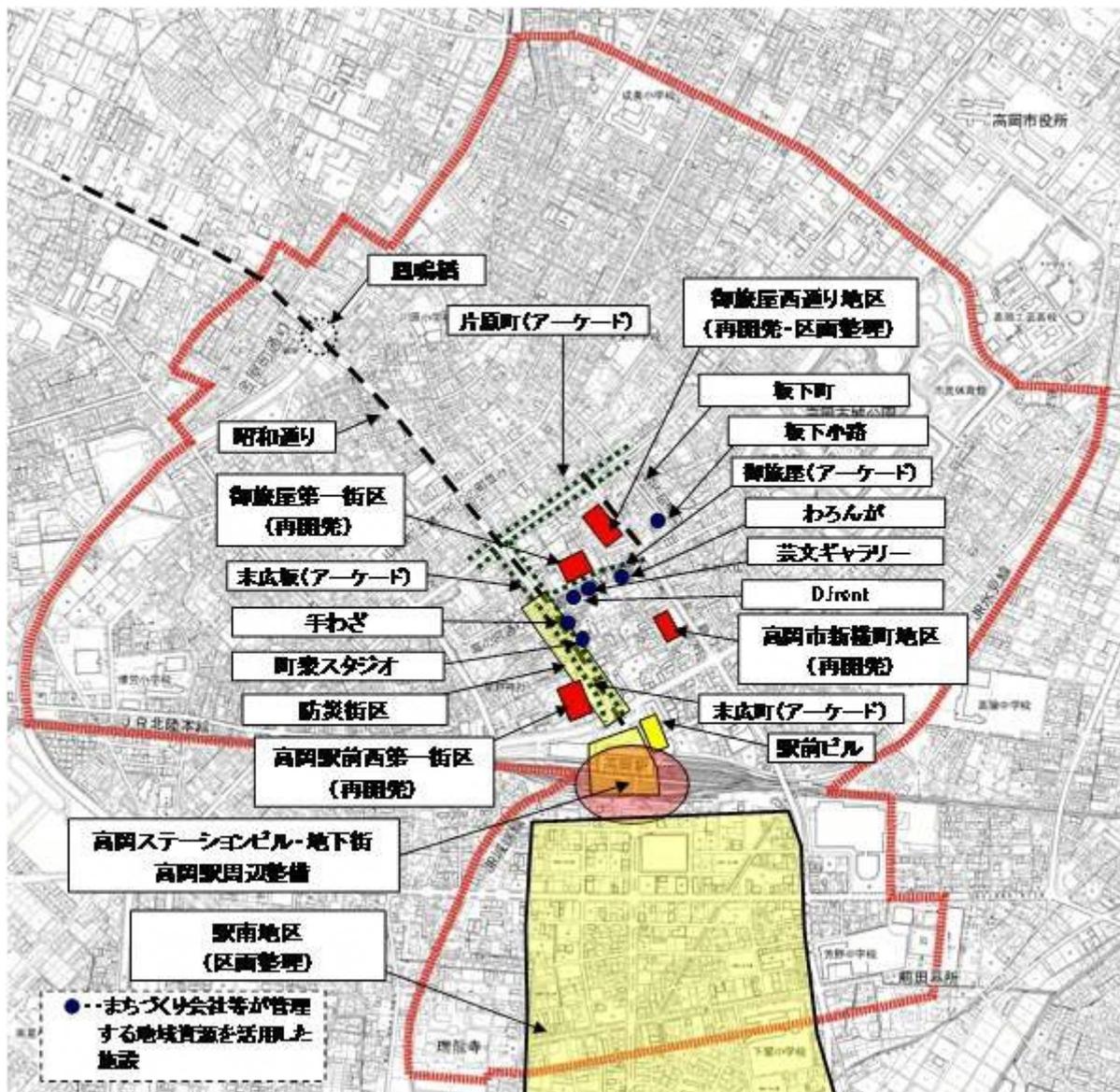


南北自由通路  
〔通称：万葉ロード〕

高岡駅周辺整備計画（模型）



主な社会資本整備等の分布状況



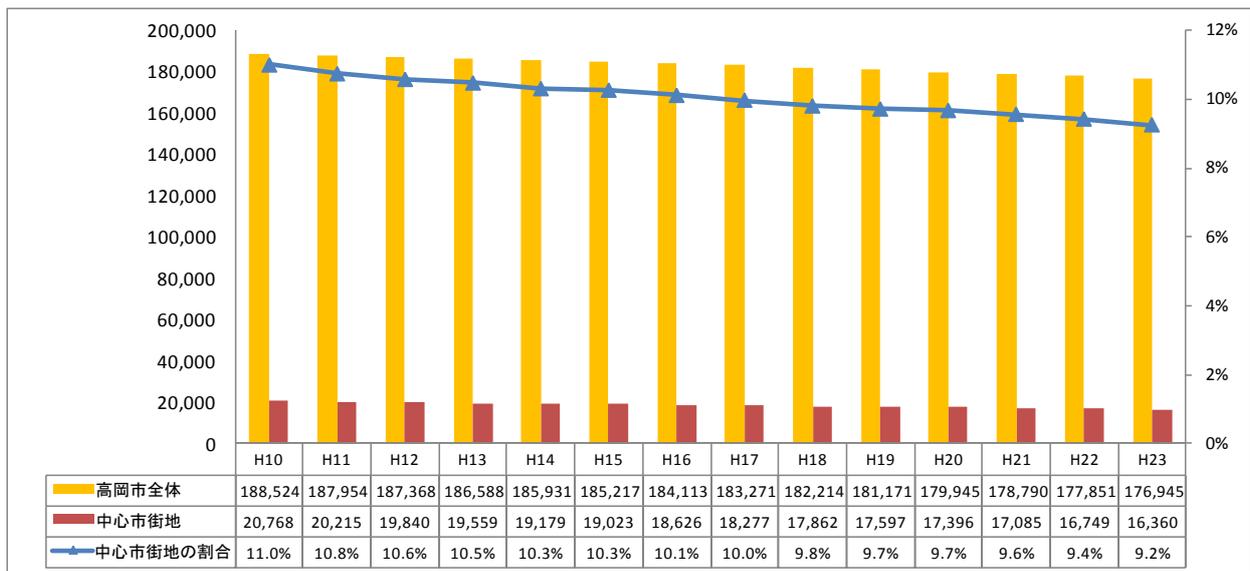
### (3) データから見た中心市街地の現状

#### ① 人口・世帯数の状況

高岡市全体が人口減少する中、中心市街地の人口は市全体を上回るペースでの減少が続いており、全市に対する中心市街地の人口割合は、1期計画がスタートした平成19年時点と比較しても0.5ポイント低下の9.2%となった。

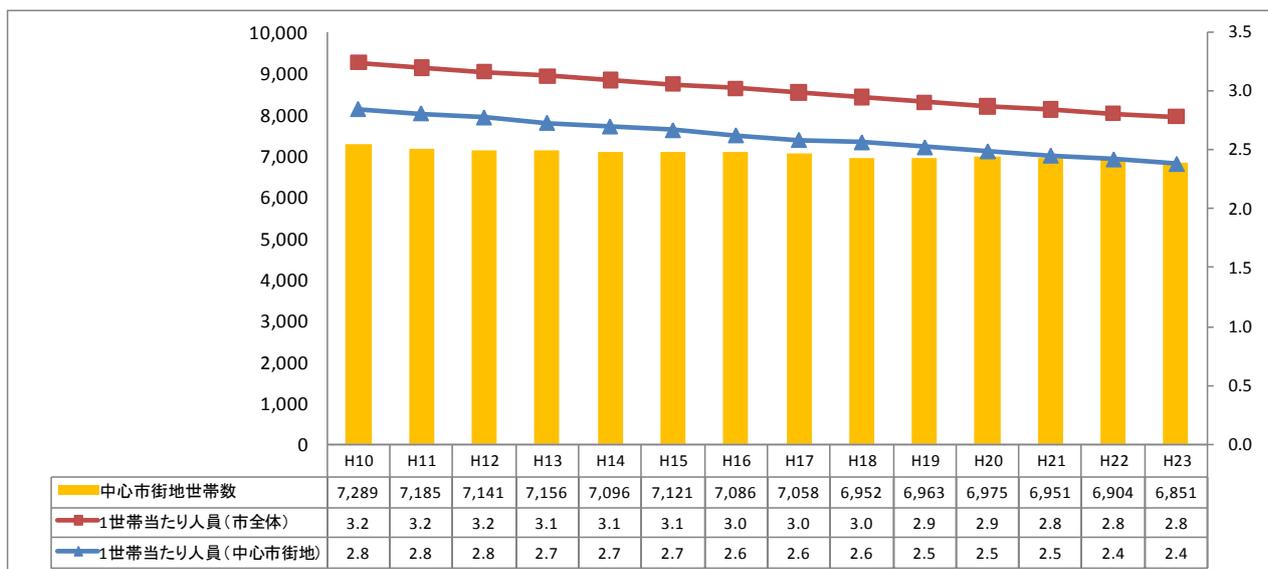
中心市街地の世帯数については、平成19年と比較して1.6%の減少となっており、一世帯あたりの人員数も2.5人から2.4人へ減少している。高岡市全体の2.8人と比較して1世帯あたりの人員数が少なく、核家族化、単独世帯化が進んでいることがわかる。

中心市街地の人口推移



出典：住民基本台帳（各年3.31現在） 平成17年までは旧高岡市と旧福岡町の合計

中心市街地の世帯推移



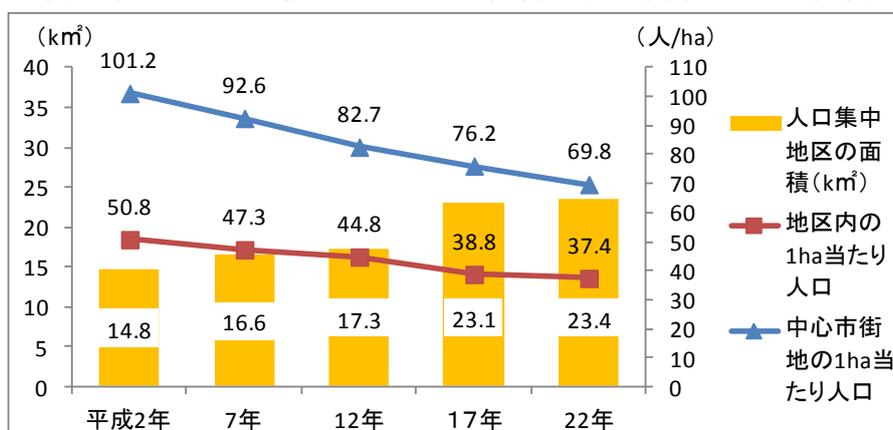
出典：住民基本台帳（各年3.31現在） 平成17年までは旧高岡市と旧福岡町の合計

## ②人口密度

郊外居住の進展により、高岡市のD I D（人口集中地区）面積は平成2年の14.8 km<sup>2</sup>から平成22年には23.4 km<sup>2</sup>に拡大した。特に、平成12～17の5年間でD I D面積は1.3倍となり市街地の拡大が進んだ。その一方で、D I D面積1 ha当りの人口密度は平成2年の50.8人から平成17年には38.8人に低下し、平成17年以降は市街地拡散のペースが大幅に鈍化したものの、D I D面積1 ha当りの人口密度は37.4人となり、人口密度は低下を続けている。

中心市街地の人口密度も、平成17～22年の5年間で6.4ポイント低下しており人口密度の低下が進んでいる。

高岡市のD I D面積、D I D人口密度、中心市街地の人口密度



出典：総務省「国勢調査」、中心市街地人口は住民基本台帳による

## ③住宅の状況

富山県の持ち家比率は全国1位であり、持ち家に対する意識の高い地域である。また、一人あたりの住宅延べ床面積も、持ち家比率と同様、全国1位である。

これらのことから、県民性として、「広くて大きな家を持ちたい」という意識が強いことが伺われ、県内における人口移動には、住宅の取得が大きく影響を与えているものと推察される。

富山県西部地域における1,000世帯当たりの新設住宅戸数をみると、上述のような志向を反映し、地価が比較的安く、まとまった土地が確保しやすい砺波市や射水市において新規の住宅着工が進んだことがわかる。

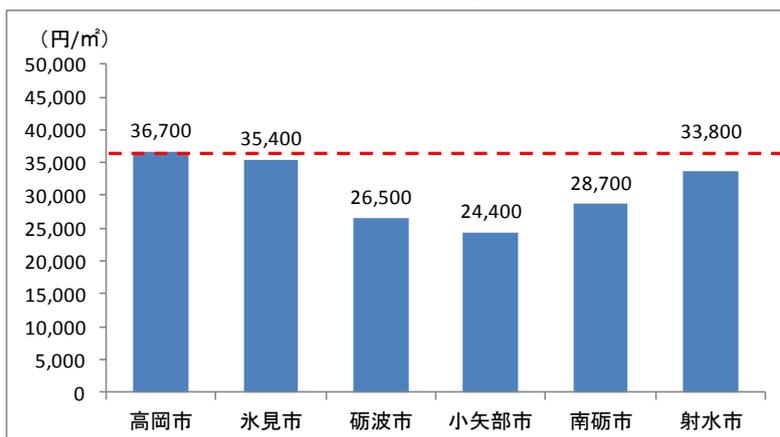
高岡市の1,000世帯当たり新設住宅戸数は、平成12年度、18年度を除き、ほぼ年間15戸前後で推移し、市全体の人口は漸減傾向にある。そうしたトレンドの中、中心市街地については、全市を上回るペースで人口減少が進んでいること、空き家化、平面駐車場化が進んでいることを考慮すれば、郊外部あるいは他市への流出が続いていると推察される。

富山県内各市における持ち家比率

順位		持ち家比率(%)
1	氷見市	91.9
2	南砺市	89.5
3	小矢部市	88.3
4	滑川市	84.4
5	黒部市	84.1
6	射水市	81.9
7	砺波市	80.5
8	魚津市	79.1
9	高岡市	78.6
10	富山市	70.8
	富山県	78.3

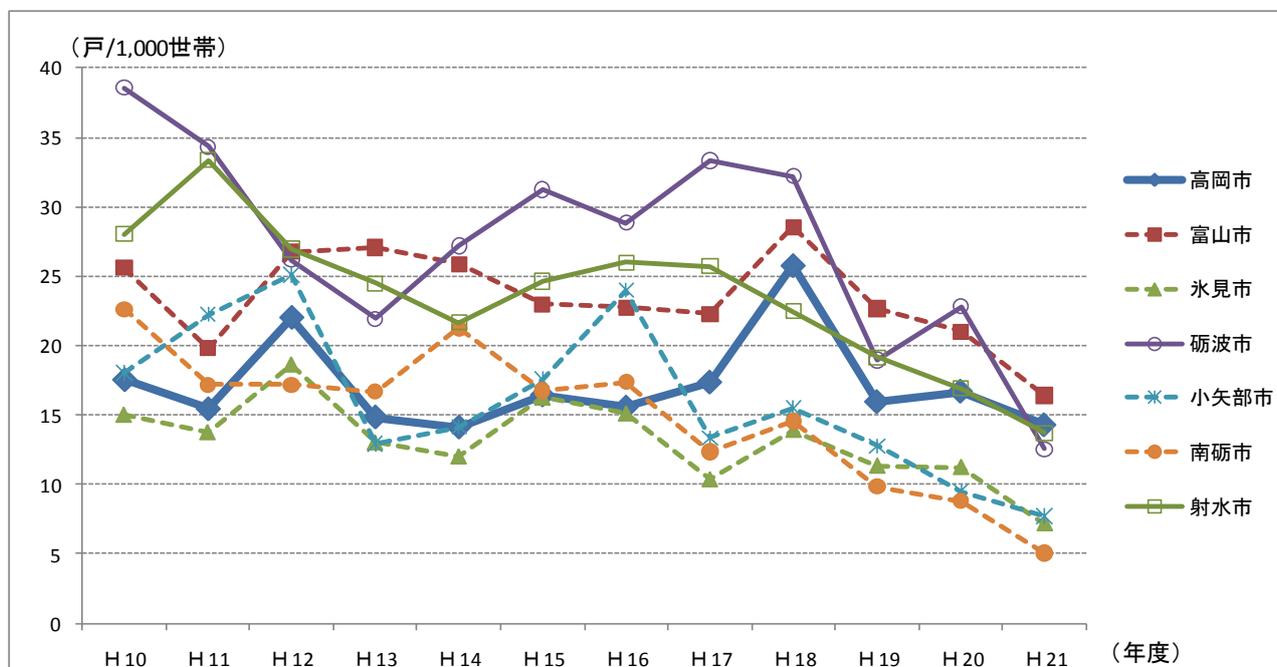
出典：H22 国勢調査  
網掛けは富山県西部の都市

富山県西部各市における住宅地平均価格（平成 23 年）



出典：国土交通省地価公示

1,000 世帯当たり新設住宅戸数の推移



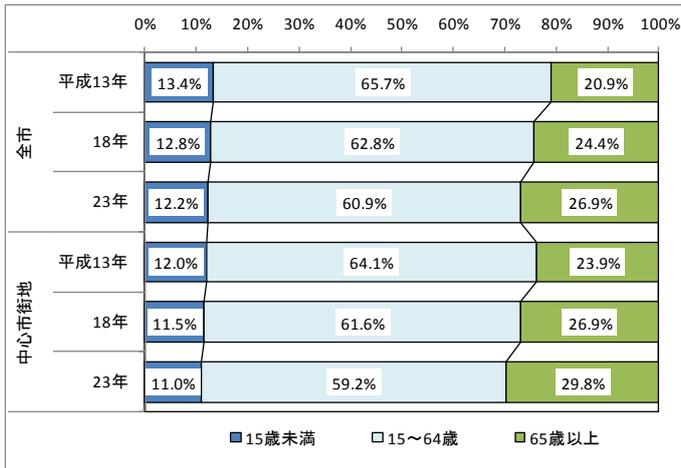
出典：国土交通省「建築統計年報」、総務省「住民基本台帳人口要覧」により作成

#### ④少子高齢化の状況

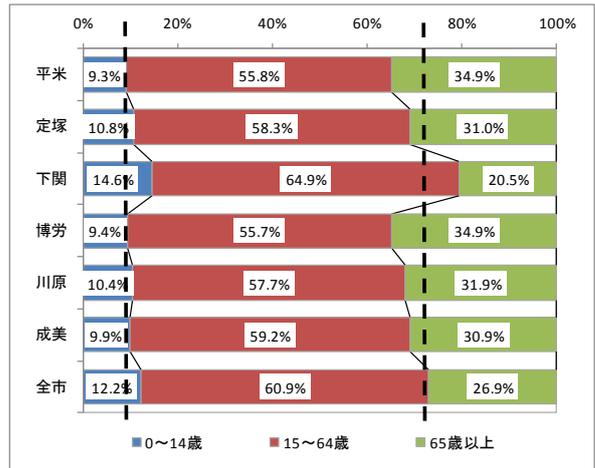
年齢 3 区分による変化を見てみると、全市、中心市街地ともに年少人口の割合が低下する一方で 65 歳以上人口の割合は上昇しており、全市的に少子高齢化が進展している。

中心市街地の 65 歳以上人口の割合は、全体としてみると全市平均の 26.9%よりも 3 ポイント程度高い 29.8%になっている。特に、近年宅地開発が進んだ下関地区を除く地域ではこの割合が高くなっており、高齢化の進展がみられる。

### 年齢3区分による人口構成及び推移



### 中心市街地内の地区別年齢構成



出典：住民基本台帳（各年3月31日現在）平成13年の「全市」は旧高岡市

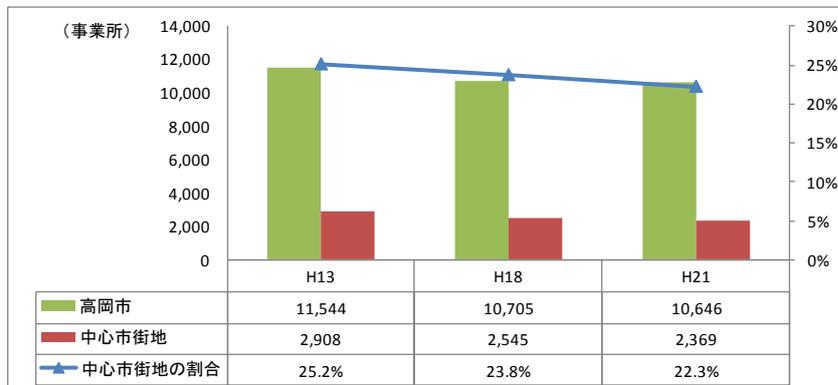
（注）中心市街地（6地区）の割合は、町丁字による年齢別人口を抽出できないことから、中心市街地におおむね含まれる平米、定塚、下関、博労（木津除く）、川原、成美の6地区の人口から算出

### ⑤事業所・従業者数（全業種）の状況

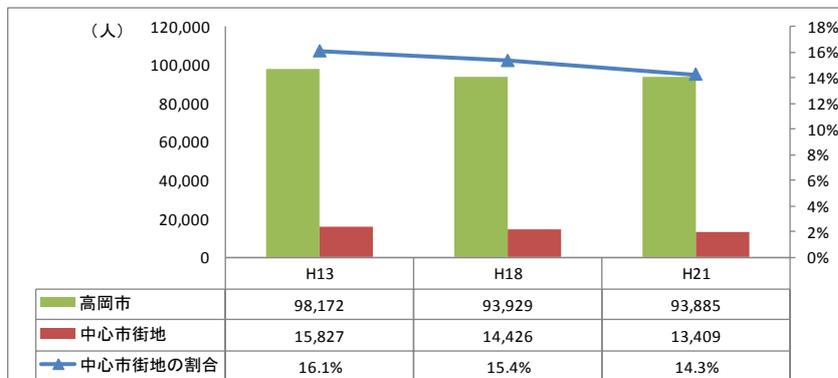
中心市街地における事業所数・従業者数（全業種）は、減少が続いているものの、平成18年からは減少数が少なくなっている。

全市における中心市街地のシェアをみると、事業所数、従業者数（全業種）とも引き続き低下しており、中心市街地への集積度が低下していることがわかる。

#### 中心市街地における事業所数（全業種）の推移



#### 中心市街地における従業者数（全業種）の推移



出典：総務省「事業所・企業統計調査」および「経済センサス基礎調査」

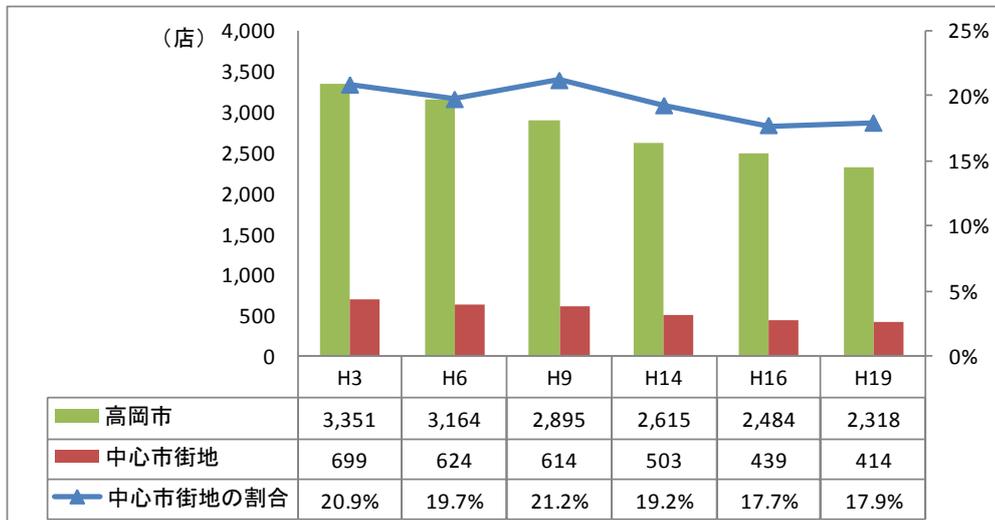
（注1）中心市街地の数値は、中心市街地内に属する全町丁の合計

（注2）平成13年の高岡市は、旧高岡市と旧福岡町の合計

## ⑥商店数（小売業）の状況

商店数は、高岡市全体、中心市街地（商業集積の合計）ともに長期的に減少が続いていたが、平成 19 年商業統計において中心市街地（商業集積の合計）では下げ止まる傾向を見せ、全市に占める中心市街地のシェアは 17.9%となっている。

中心市街地における小売業商店数の推移



出典：経済産業省「商業統計」（立地環境特性格集計）

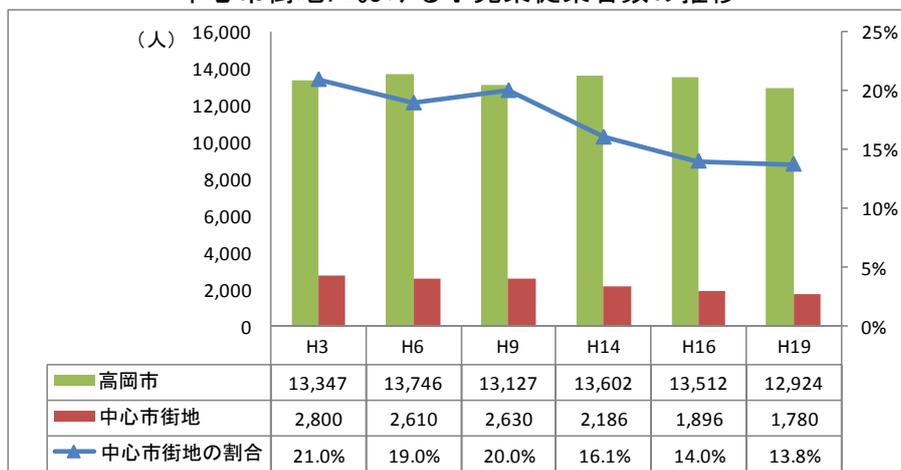
（注）中心市街地内に立地する、坂下町・大仏前通り商店街、ステーションビル商店街、末広町・恵比須通り商店街、末広坂商店街、片原町商栄会、えんじゅ通り商店街、御旅屋通り商店街、中央通り商店街、高の宮通り商店街（昭和 45 年～平成 21 年）、駅南商店街、旅籠町商店街（昭和 57 年～）、鴨島商店街（昭和 57 年～）、成美商店街（昭和 63 年～）、駅前商店街（昭和 57 年～平成 9 年）、桐木町商店街（昭和 57 年～平成 9 年）の合計で、当該集積内に立地する御旅屋セリオ、高岡サティ（平成 21 年閉店）、クレビ、ダイエー高岡店（平成 9 年閉店）、ユニー高岡店（平成 6 年閉店）、ミズの街（昭和 63 年閉店）を含む数値。なお、平成 16 年までの「高岡市」は旧高岡市と旧福岡町の合計。

## ⑦従業者数（小売業）の状況

小売業従業者数についても、高岡市全体、中心市街地（商業集積の合計）ともに減少が続いている。

中心市街地（商業集積の合計）については、平成 5 年 10 月の高岡サティ開店、平成 6 年 3 月の御旅屋セリオ開店により、平成 9 年に全市に占めるシェアは増加したものの、その後再び減少するに至り、平成 19 年には、全市に占めるシェアは 13.8%となっている。

中心市街地における小売業従業者数の推移



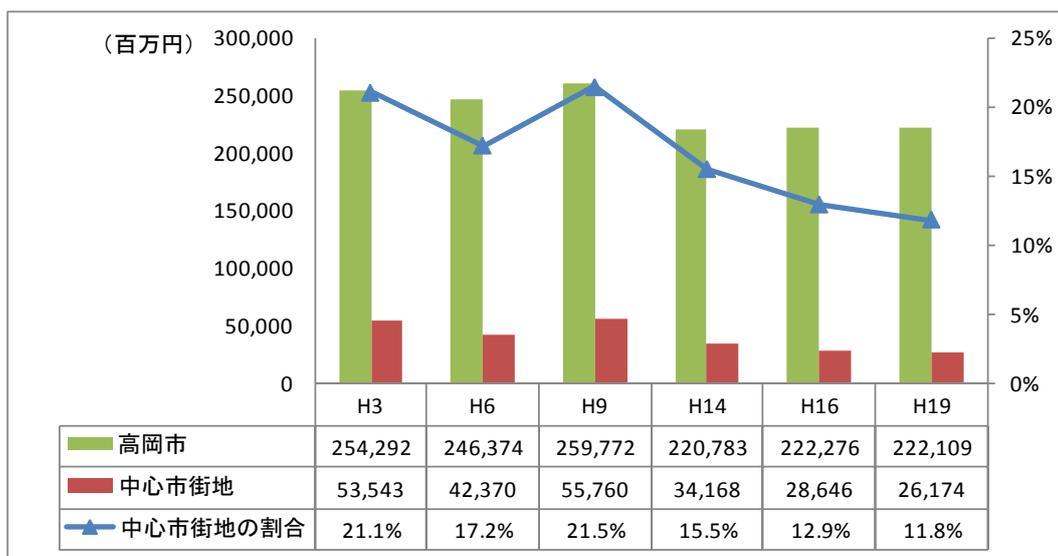
出典：経済産業省「商業統計」（立地環境特性格集計）

### ⑧年間商品販売額の状況

年間商品販売額は、ここ数年高岡市全体が横這い傾向にある中、郊外型店舗への購買流出が進んだことから、中心市街地では連続減少しており、全市に占める中心市街地のシェアは11.8%にまで低下、商店数および従業者数の落ち込み割合と比較して減少幅がより大きなものとなっている。

中心市街地の商店数、従業者数の減少ペースが鈍化する中で、販売額が大きく減少していることから、中心市街地に立地する商店の経営状況は悪化していると推察される。

中心市街地における小売業年間販売額の推移



出典：経済産業省「商業統計」（立地環境特性格集計）

### ⑨大規模小売店舗の状況

平成23年4月1日時点で高岡市内に43の大規模小売店舗が立地しており、このうち6店舗は1期計画策定後に開店している。これらの大規模小売店舗の売場面積合計は194,493 m<sup>2</sup>で、平成19年の商業統計調査における高岡市内の小売業の売場面積（334,574 m<sup>2</sup>）に対して58%の水準となっており、大規模小売店舗の存在が高岡市商業全体に大きなウェートを占めていることがわかる。

このうち、中心市街地内に立地するものは、御旅屋セリオ、高岡ステーションビル、クレビの3施設である。クレビについては展示場ないしはホテルの機能の一部として使用されていることや、高岡ステーションビルは改築のため一旦閉鎖されるため、中心市街地内で営業している大規模小売店舗は御旅屋セリオのみになることから、中心市街地の吸引力の低下が懸念される。

但し、平成23年11月に、高岡サティ跡地にホームセンターおよび食品スーパーが開店したほか、平成26年春には、新しいステーションビルが完成することなどから、中心市街地における商業機能および吸引力の向上が期待されている。

## 高岡市における大規模小売店舗の状況

店舗名	開店日	売場面積 (㎡)	店舗名	開店日	売場面積 (㎡)
1 イオンモール高岡	H14.9.19	54,200	11 パロー高岡木津店	H17.4.28	3,982
2 御旅屋セリオ	H6.3.1	19,877	12 アルビス米島店	H19.6.1	3,900
3 イオン高岡ショッピングセンター	S58.7.27	11,996	13 ヤマダ電機テックランド高岡店	H12.8.11	3,600
4 ホームセンタームサシ高岡店	H22.10.12	6,873	14 カーマホームセンター高岡六家店	H6.12.1	3,518
5 カーマホームセンター高岡野村店	H6.4.29	5,489	15 高岡市新横町第1種再開発事業「クレビ」	S61.10.1	3,367
6 ニトリ高岡店	H19.4.20	5,271	16 アルペン高岡店	H10.9.10	3,281
7 上島リビング	S52.5.1	5,066	17 福岡ショッピングセンタータピス	H2.12.8	3,236
8 グリーンモール中曽根	H20.11.20	4,945	第2種大規模小売店舗 26施設		47,103
9 パローショッピングセンター高岡万葉店	H11.11.18	4,738			
10 ひらせいスーパーセンター高岡内島店	H19.6.13	4,051	合計 43施設		194,493

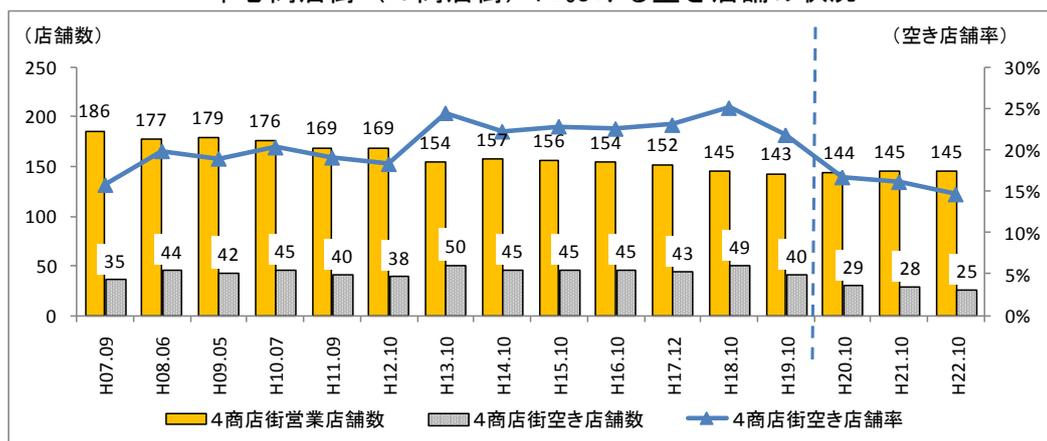
出典：富山県商業まちづくり課 大規模小売店舗の概要（平成23年4月1日現在）

### ⑩中心商店街（4商店街）の空き店舗率・空き店舗数

中心商店街（4商店街）における空き店舗率・空き店舗数は長期間にわたって増加傾向にあったが、1期計画実施後は空き店舗数、空き店舗率とも改善をみた。

但し、空き店舗減少は開業支援事業の実施による営業店舗化促進によるところが大きい。店舗の完全廃業に伴う一般住宅化、青空駐車場化による側面もある。

#### 中心商店街（4商店街）における空き店舗の状況



出典：高岡市商業観光課・末広開発㈱「空き店舗調査」

（注）末広町商店街、末広坂商店街、高の宮通り商店街（平成21年解散）、御旅屋通り商店街の合計

### ⑪歩行者・自転車通行量の状況

中心市街地のメインに位置する中心商店街（6地点）における歩行者・自転車通行量は長期間にわたって減少を続け、通行量は平日・休日ともに高岡市が調査を開始した平成6年時点の半分以下の水準にまで落ち込んでいる。特に、平成9～12年の4年間で約3割減と落ち込みが大きく、この傾向は中心市街地の小売業年間販売額の減少とほぼ平行の関係にある。中心市街地への最大誘因は「買物」であるが、郊外部および周辺市町村に大規模小売店舗が相次いで出店し、その一方で中心市街地内の大規模小売店舗の撤退（平成9年ダイエー高岡店の閉店）、商店数が減少することによって中心市街地の商業機能が低下した。そのため、買物客の流出による商業集積としての機能がさらに落ち込み、中心市街地の賑わいがよりいっそう失われていくという負のスパイラルに陥っていることがわかる。

そして、平日の通行量は平成16年4月のウイング・ウイング高岡オープン以後

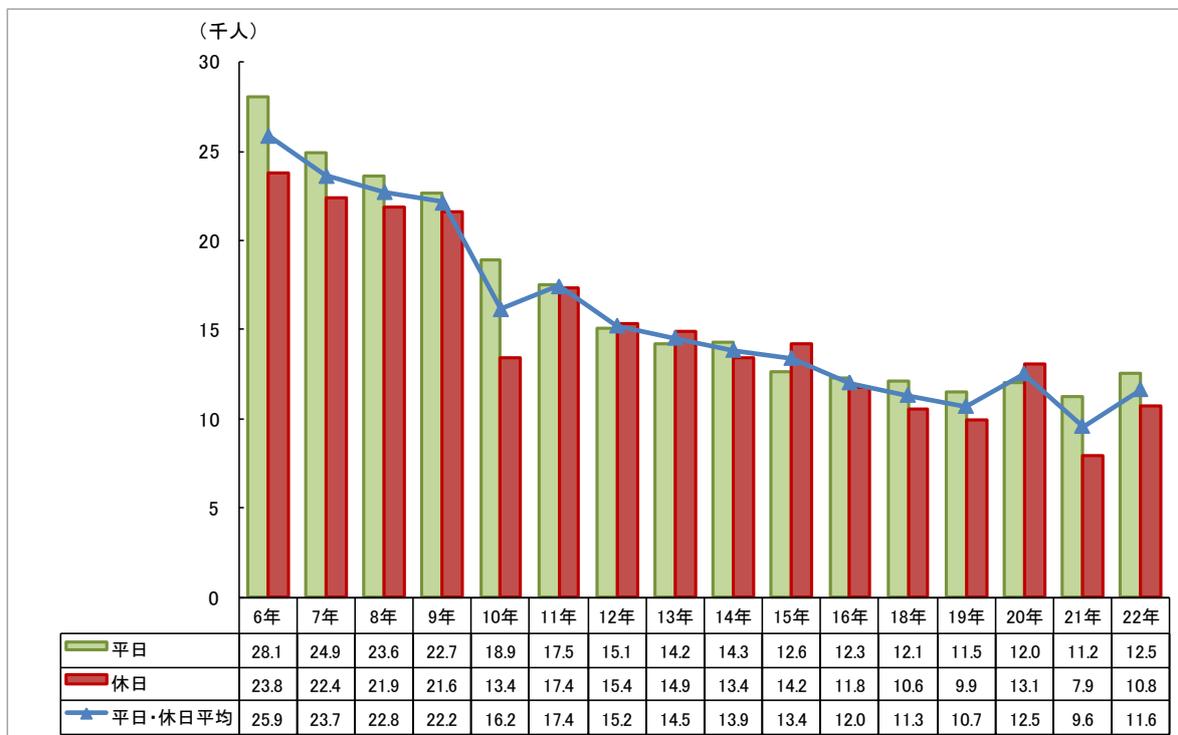
横ばいに近い水準を保ちながら推移しているが、休日の通行量は平成 14 年にイオン高岡ショッピングセンター（現在のイオンモール高岡）が開店したこともあり、減少を続け、平成 16 年以降は再び平日の通行量が休日の通行量を上回る状態となった。

1 期計画実施後は空き店舗対策の支援強化の取り組みや、観光・文化的な魅力向上など高岡市の地域特性を活かした新たな誘引強化の取り組みを通じ、平成 19 年以降は歩行者・自転車通行量の減少に歯止めがかかりつつある。

【歩行者・自転車  
通行量 6 調査地点】



中心商店街（6 地点）における歩行者・自転車通行量の推移



出典：高岡市商業観光課「歩行者・自転車通行量調査」

(注) 調査地点：①駅前地下街自由通路、②末広町（東側）、③末広町（西側）、④高の宮通り、⑤末広坂（両側）、⑥御旅屋通り

平成 17 年は調査が未実施

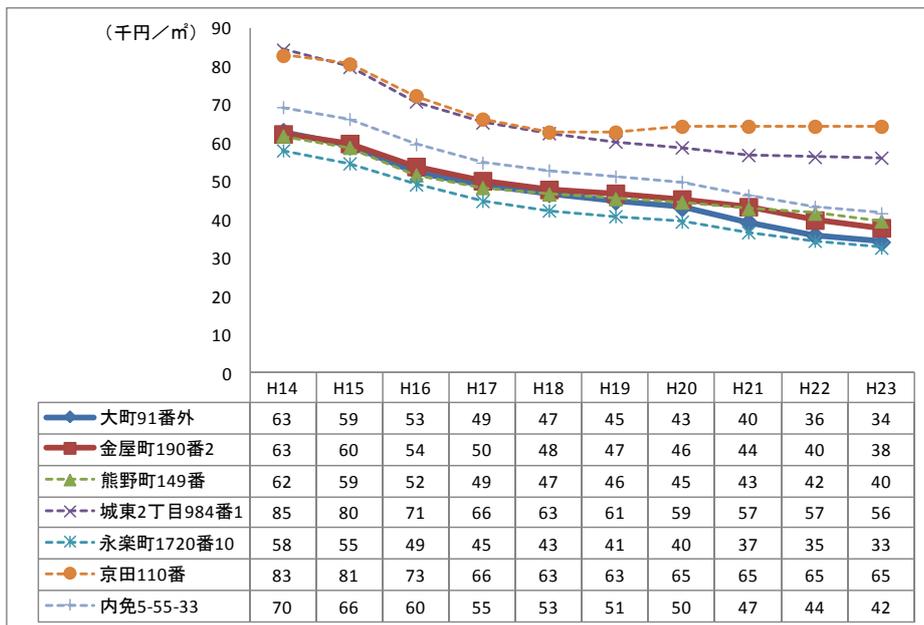
## ⑫地価の状況

中心市街地内住宅地の地価は長期的に下落傾向にあるが、下落率の傾向は近年マンションの建設等による開発が進んだ駅南部、城東地区を除いた全市的な傾向に近く、地価も隣接する地域と比較して相対的に低くなっている。

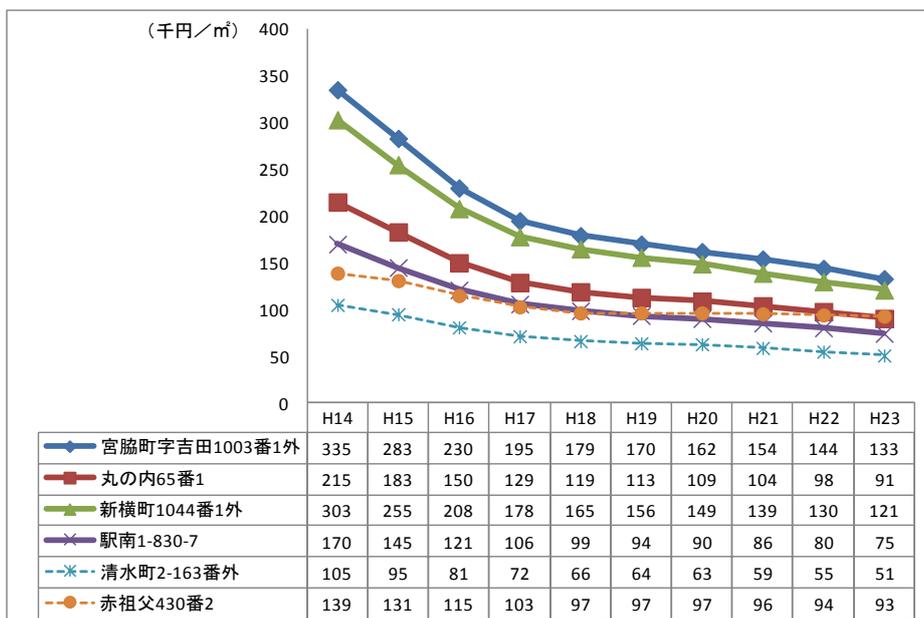
しかしながら、駅北部の中心市街地には狭隘な区画が多く、まとまった広さの土地を確保できないことに加え、老朽化した建物が多く、それらの除却費がかかることなどにより、開発が進まない状況にある。

他方、中心市街地内商業地の地価は、周辺地区と比較して下落幅が大きいものの、水準自体は依然として高く、中心市街地への新たな店舗や事業所の進出が進まない要因の一つになっていると考えられる。

中心市街地および隣接地区における地価（1㎡あたり）の推移（住宅地）



中心市街地および隣接地区における地価（1㎡あたり）の推移（商業地）



出典：国土交通省地価公示

(注) 波線は中心市街地に隣接する地区の公示価格

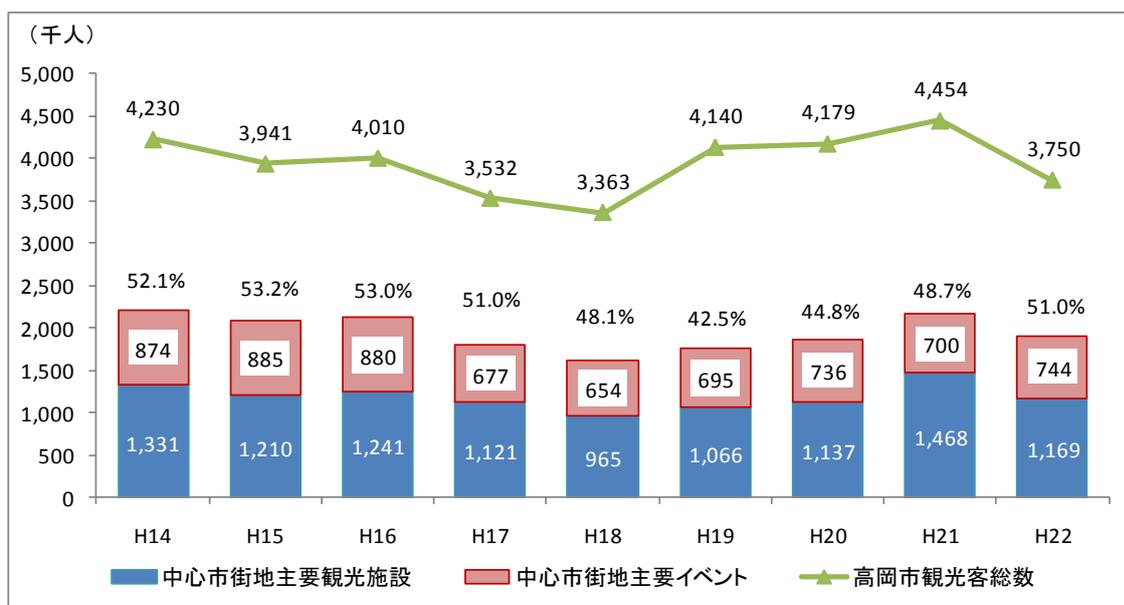
### ⑬観光客の状況

中心市街地には、高岡市を代表する歴史・文化資産が集積しており、本市への観光客の約半数は中心市街地に立ち寄る。中心市街地主要観光施設における観光客入込数は、平成8年の緑化フェア開催以降、大河ドラマ「利家とまつ」が放送された平成14年を除き、1期計画がスタートする前年の平成18年までは長期的減少トレンドにあった。

その後、1期計画がスタートした平成19年以降は、中心市街地においても交流人口拡大に向けた各種取り組みの実施、開町400年事業の実施に力を入れ、さらに東海北陸自動車道の全線開通もあって、全市および中心市街地において観光客数が増加基調となった。

平成22年は前年の開町400年事業の反動減および東海北陸自動車道全線開通の効果が薄れてきたことにより、全市的に観光客入込数が減少する中で、中心市街地主要観光施設の入込数も減少したが、1期計画開始時点と比較して依然として増加トレンドにあり、主要イベントへの入込数は増加している。

観光客入込数の推移と中心市街地のシェア



出典：高岡市商業観光課

- (注1)・中心市街地主要観光施設は、古城公園、瑞龍寺、高岡大仏、山町筋（菅野家住宅、土蔵造りのまち資料館）、鑄物資料館を合計したもの  
 ・中心市街地主要イベントは、高岡御車山祭・高岡七夕まつり・高岡万葉まつり・日本海高岡なべ祭り・高岡桜まつり・八丁道おもしろ市・金屋町楽市を合計したもの
- (注2)・瑞龍寺ライトアップは瑞龍寺の観光客入込数とし計測  
 ・平成21年の古城公園は開町400年記念事業による入込客数を含む  
 ・平成14年～平成17年は、旧高岡市と旧福岡町の合計

### ⑭JR高岡駅周辺における公共交通利用者の状況

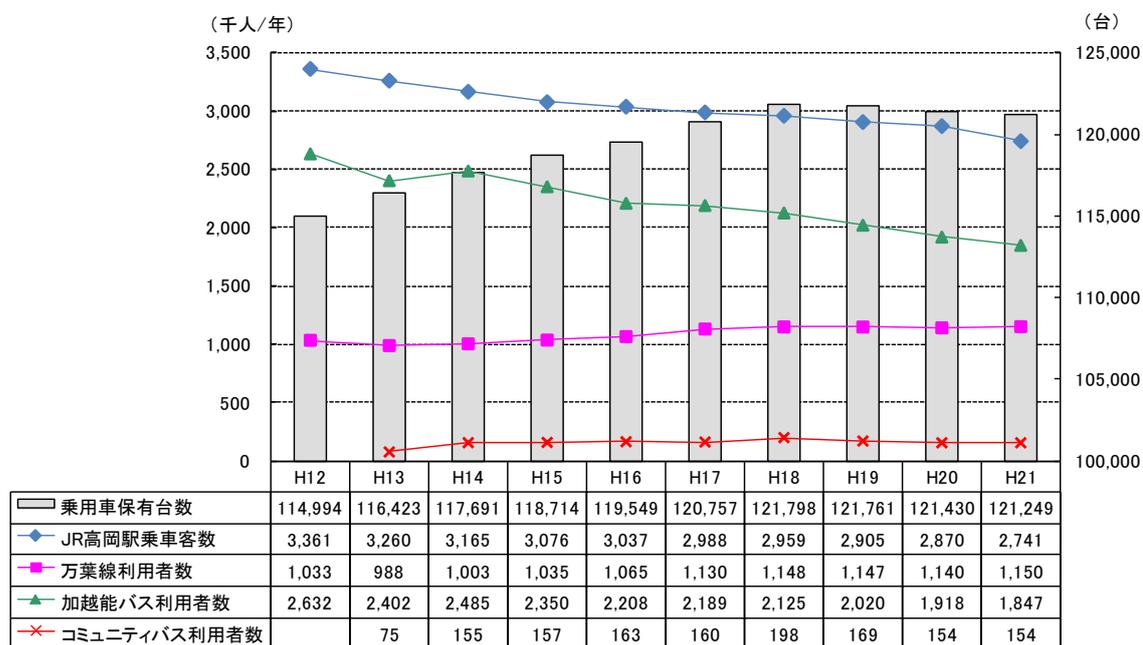
全市の人口が減少する中、これまで増加を続けてきた乗用車保有台数も平成18年をピークに減少しており、人的流動については、その発生絶対量が減少に向かっていると推察される。こうした状況下で、公共交通機関の利用者数も万葉線を除い

で漸減傾向にあり、市街地の日常的な移動手段として平成 13 年度より運行が始まったコミュニティバスについても平成 18 年度をピークに利用者が減少している。

しかし、1 日当りの利用者数をみると、平成 21 年は J R 高岡駅では 7,500 人/日が乗車利用しており、加越能バスおよび万葉線の高岡駅での乗車利用はそれぞれ 2,200 人/日、1,000 人/日と推定され、コミュニティバスを含めると、現在でも約 11,000 人が移動する際の拠点として J R 高岡駅周辺が機能している。

今後は、平成 23 年 8 月に供用開始となった南北自由通路や橋上駅舎、および今後整備が進められる駅北口交通広場、高岡ステーションビルにより、交通・交流のための結節点としての機能が強化され、J R 高岡駅周辺が賑わい創出の拠点として大きな役割を發揮することが期待されている。

### 公共交通機関の利用状況

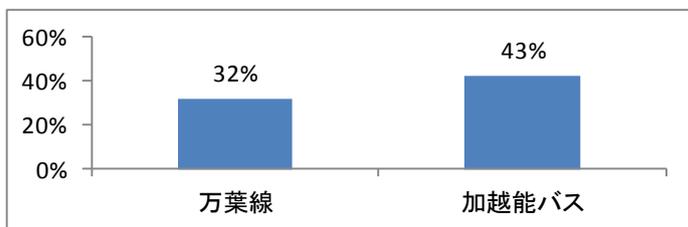


出典：高岡市統計書、富山県政要覧

(注 1)・乗用車保有台数は、各年 3/31 現在の数値。平成 18 年 3 月までは旧高岡市と旧福岡町の合計。

(注 2)・コミュニティバスは、平成 18 年度より 2 ルート運行。

### 乗車人員数に占める高岡駅前電停・バス停乗降者の割合



出典：  
 (万葉線) 平成 21 年 6 月調査  
 (加越能バス)  
 平成 22 年 高岡市自動車乗降調査

## (4) 市民から見た中心市街地の現状

### ①市民意識調査

#### i) 調査実施時期

平成 23 年 7 月 1 日～7 月 19 日

## ii) 調査対象・方法

18歳以上の市民1,870人を無作為に抽出し、郵送配布・回収により調査を実施。763人から回答を得た（回収率40.8%）。

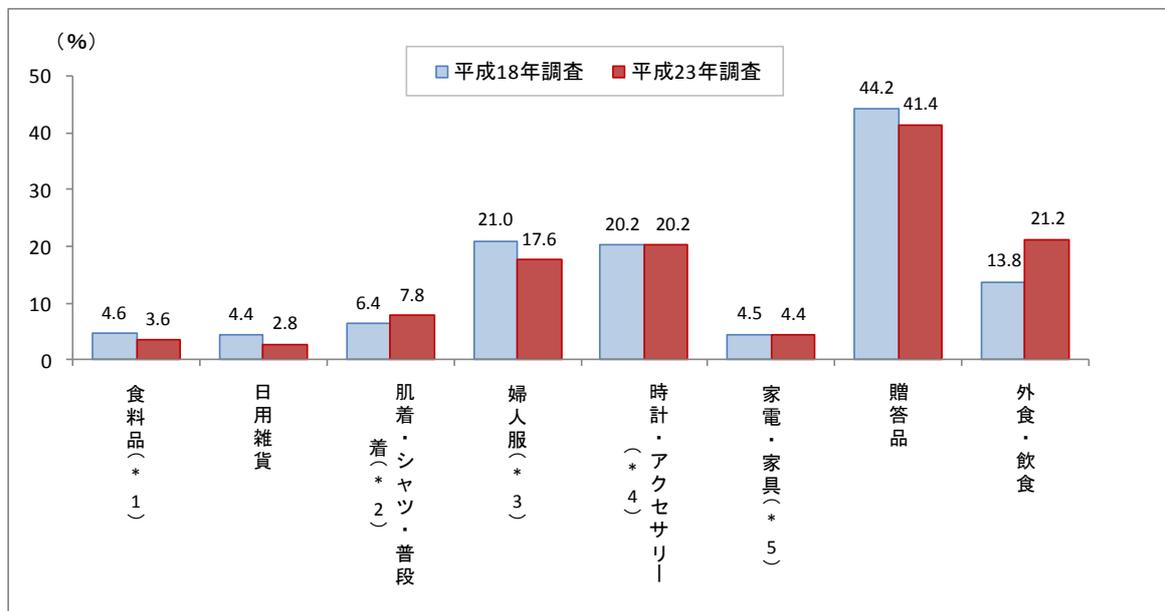
## iii) 買物・飲食での中心市街地利用状況および中心商店街の商圈

買物・飲食等で中心市街地を最も多く利用する人の割合は、「贈答品」で41.4%、「飲食」で21.2%、「時計・アクセサリ」で20.2%、「婦人服」で17.6%となっている。これに対し、最寄品目で中心市街地を最も利用するという回答は極めて少ない。

平成18年に実施したアンケート結果と比較すると、購買にかかる部分については外出用の衣料品で若干の低下がみられるものの、全般的に大きな変化はなく、「買物」を目的として週に1回以上中心市街地を訪れるとの回答が27.9%あることと合わせ、市内全域を商圈（買回り品商圈＝週末商圈）とする商業集積は維持されている。

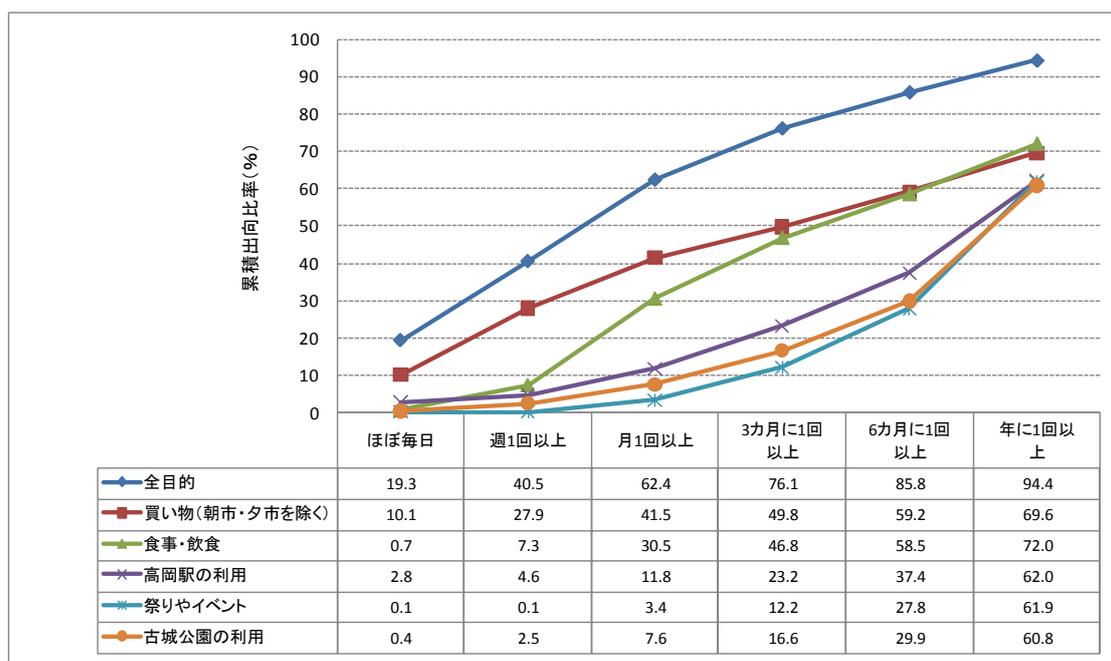
また、「飲食」については、中心市街地内で飲食店が増加したことにより、平成18年の13.8%が平成23年調査では21.2%と大幅に上昇していることに加え、「教育・教養サービス」「レジャー、娯楽」分野で回答者の約3分の1が「中心市街地に行く場合が多い」としており、商業以外の教養、文化、娯楽の場としても中心市街地が一定の位置付けを得ていることがわかる。

買い物・飲食での中心市街地の利用状況  
（最も利用する場所として中心商店街・百貨店を挙げた割合）

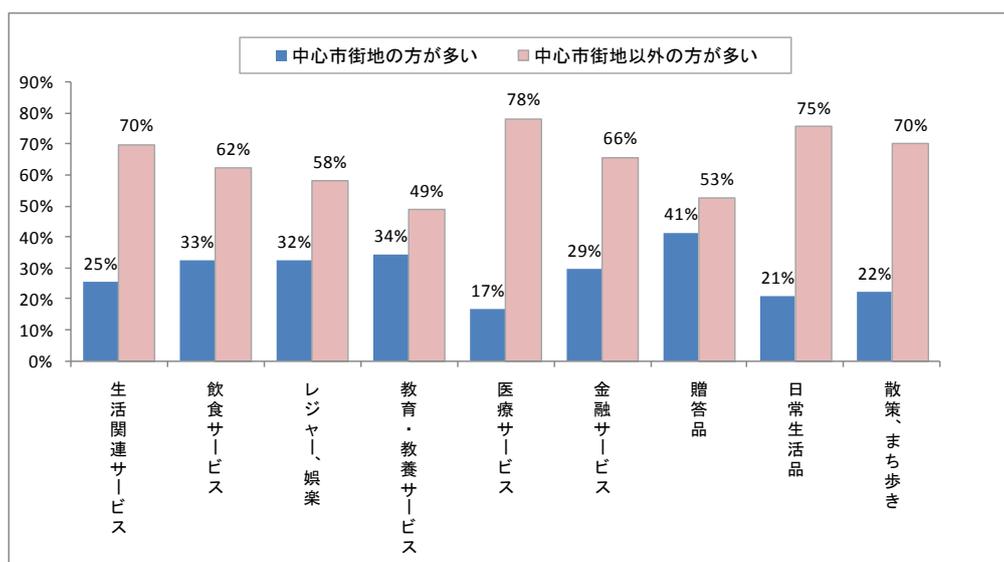


(\*1) 平成18年は「日常の食料品」、(\*2) 平成18年は「肌着・下着類」「普段着」の平均、(\*3) 平成18年は「外出着」、(\*4) 平成18年は「服飾雑貨」、(\*5) 平成18年は「家具・インテリア」「家電製品」の平均

中心市街地に出かけることが多い目的の頻度別累積出向比率



他の地域と比較した中心市街地（全域）の選択状況

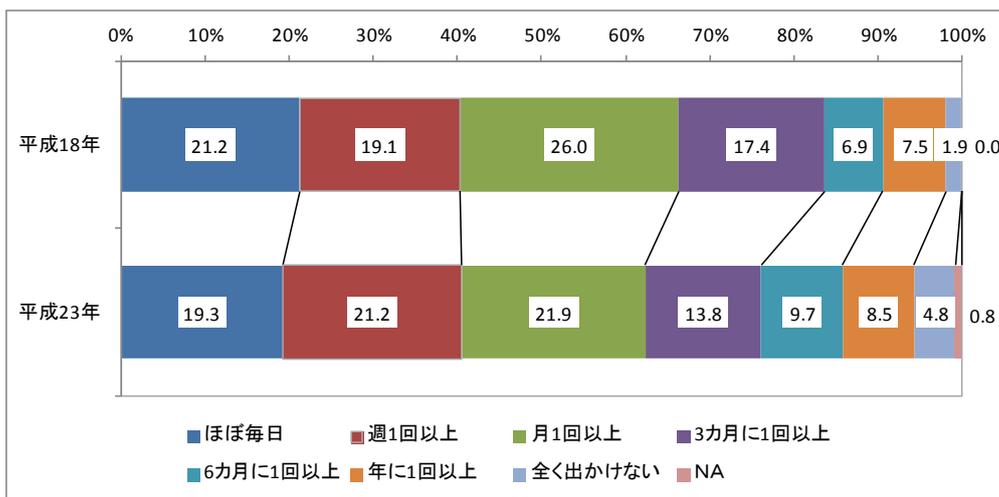


#### iv) 中心市街地への来街頻度

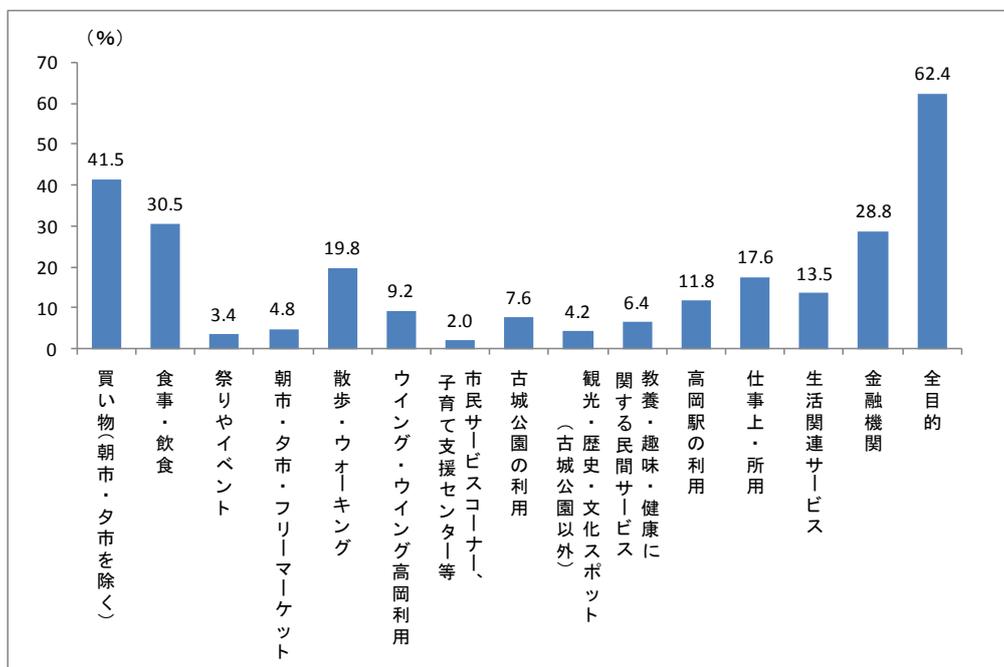
何らかの目的で中心市街地に出かける頻度は、「週に1回以上」で全回答者の約4割、「月に1回以上」で約6割、「3か月に1回以上」で4分の3、「6か月に1回以上」で85.9%となり、「全く出かけない」人の割合は4.8%にとどまる。即ち、ほぼ全市民が何らかの目的で最低でも1年に1回は中心市街地を訪れていることになる。但し、平成18年に実施したアンケート結果と比較して、中心市街地への来街頻度はやや低下している。

目的別の来街頻度については、当該行動の実施頻度が異なることから一概には言えないが、「買い物」および「飲食」目的による来街頻度が高く、これらが中心市街地への主要な来街誘因となっている。

### 来街頻度（全目的）



### 1カ月に1回以上来街する人の割合（目的別）



### v) 中心市街地に対する現状認識及び改善の評価

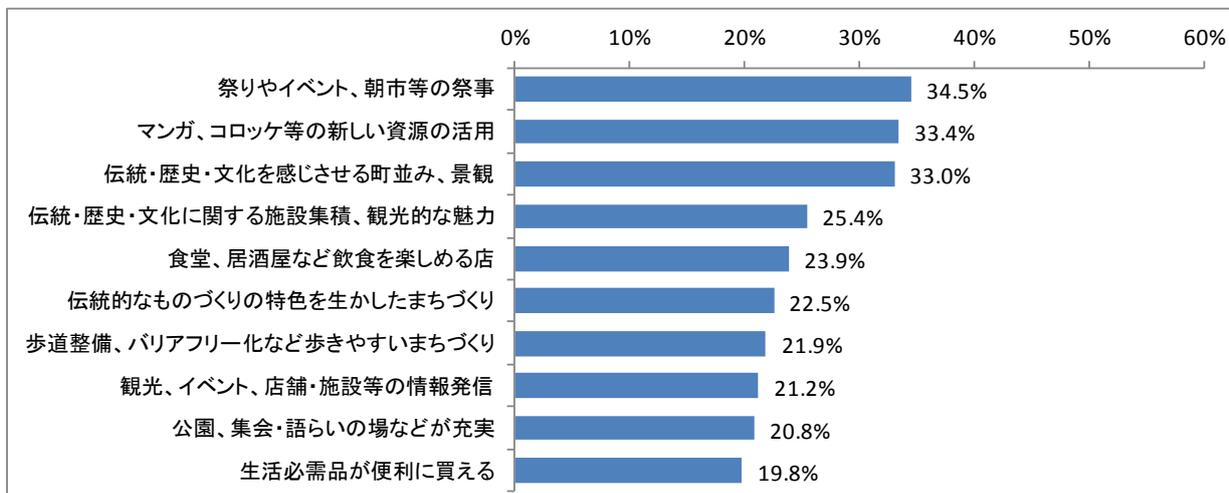
中心市街地の現状認識および改善状況について尋ねたところ、現状については全般的に否定的な見方が多い中、「歴史的な町並み、景観」「祭り・イベントの実施」「マンガやコロッケ等の新しい資源を活かしたまちづくり」において市民の評価が比較的高く、中心市街地の歴史・文化や高岡らしい特徴を活かしたまちづくりの取り組みが評価されている。

また、「交通利便性」「歩行環境の整備」「公園」「公共施設」といった都市福利機能についても、現状の評価が十分に高まっているとは言えないまでも「改善している」との評価がなされ、特に中心市街地居住者から一定の評価を得ている。このことから、中心市街地活性化に向けた各種環境整備の取り組みが、中心市街地居住者を中心として市民に浸透してきていることがうかがわれる。

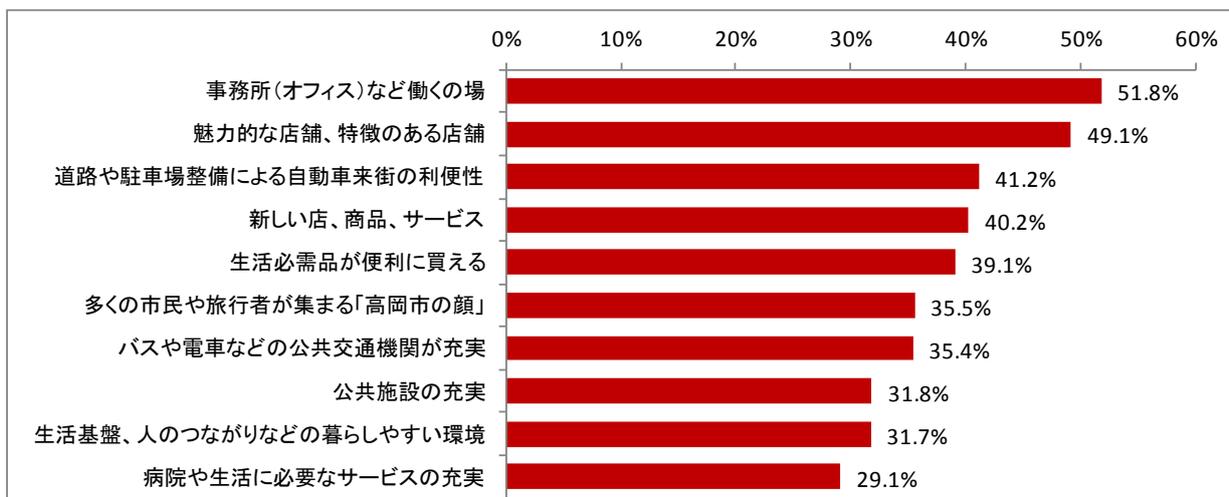
他方、「業務機能」「店舗・新サービス」といった商業的、経済的な側面につい

ては総じて現状に対する評価が低いことにくわえ、「以前よりも悪化した」とする回答が多く、商業・産業面における中心市街地活性化の取り組み強化が求められていると言える。

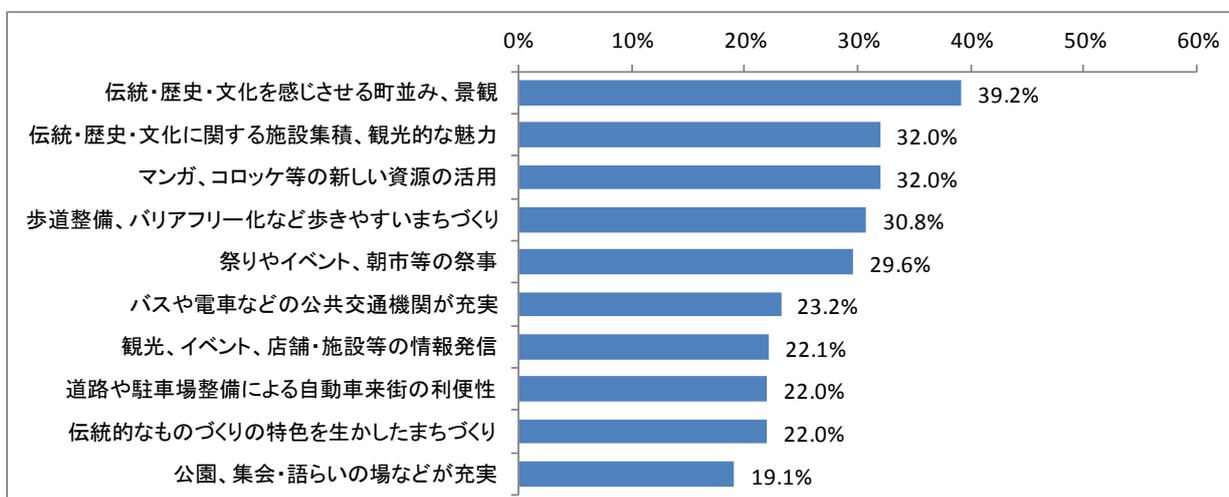
### 中心市街地の現状として比較的評価が高い項目



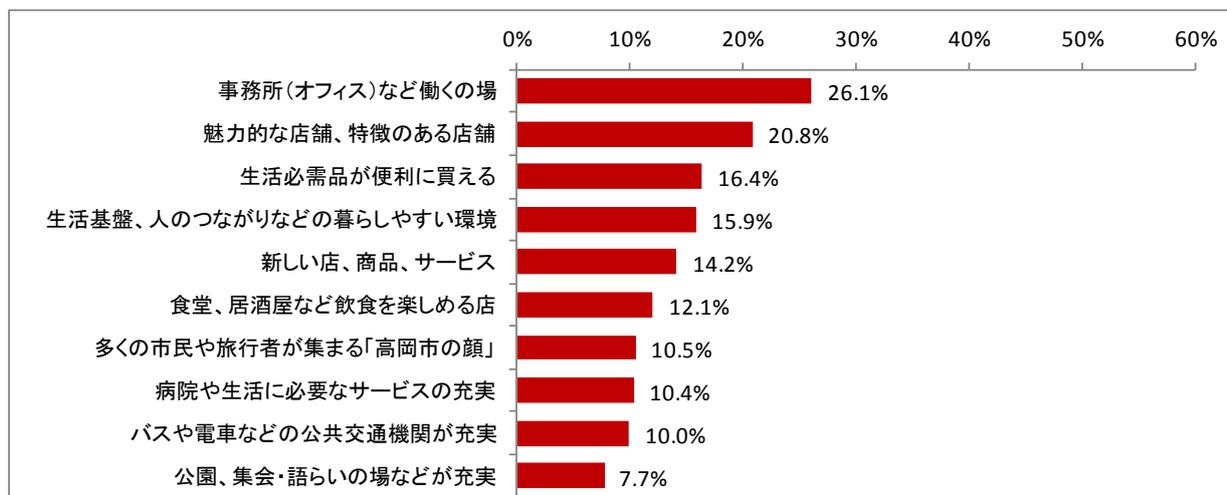
### 中心市街地の現状として評価が低い項目



### 中心市街地において「改善した」とする回答が多くみられた項目



## 中心市街地において「悪化した」とする指摘が多くみられた項目



## ②中心市街地来街者アンケート調査

### i) 調査実施時期

平成 23 年 7 月 29 日・30 日

### ii) 調査対象・方法

中心市街地内の 4 ヶ所（ウイング・ウイング高岡周辺、駅前地下自由通路、駅前バスターミナル周辺、御旅屋セリオ前）において、歩行者に対する直接面接方式により調査を実施し、555 人から回答を得た。

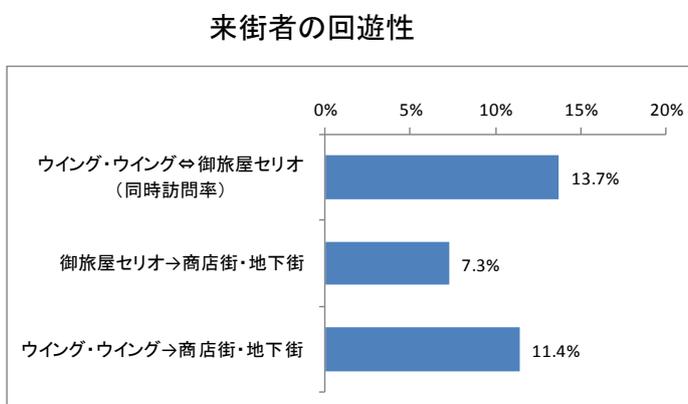
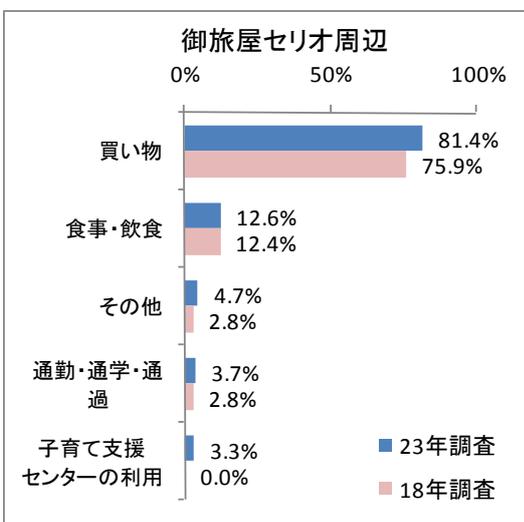
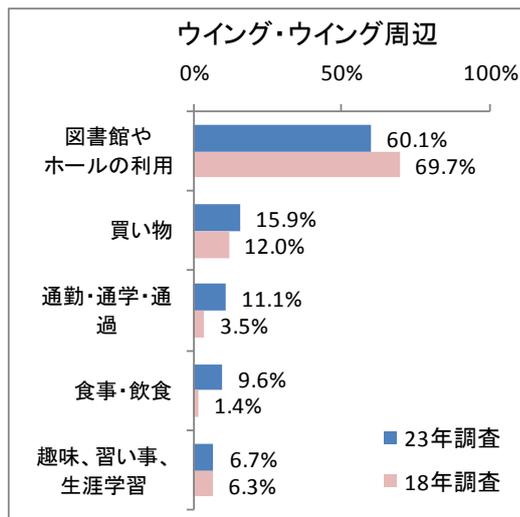
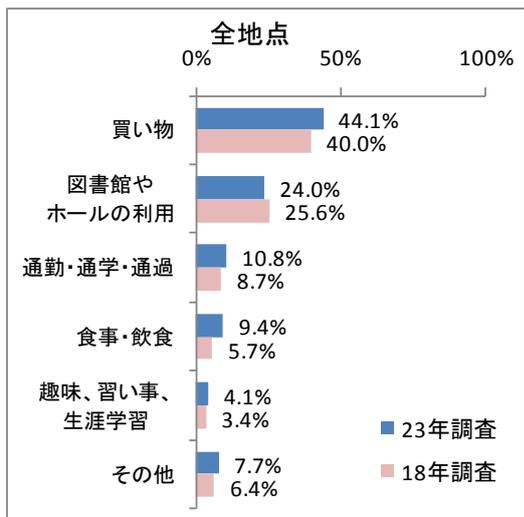
### iii) 中心市街地の来街者の特徴

中心市街地への来街者目的は、「買物」が 44.1%、「図書館・ホールの利用」が 24%、「趣味、習い事、生涯学習」が 4.1%となっており、御旅屋セリオおよびウイング・ウイング高岡が集客の拠点として機能している。また、中心市街地において飲食店が増加したことにより、「飲食」を目的とする来街者が 9.4%となり、平成 18 年調査と比較して増加した。

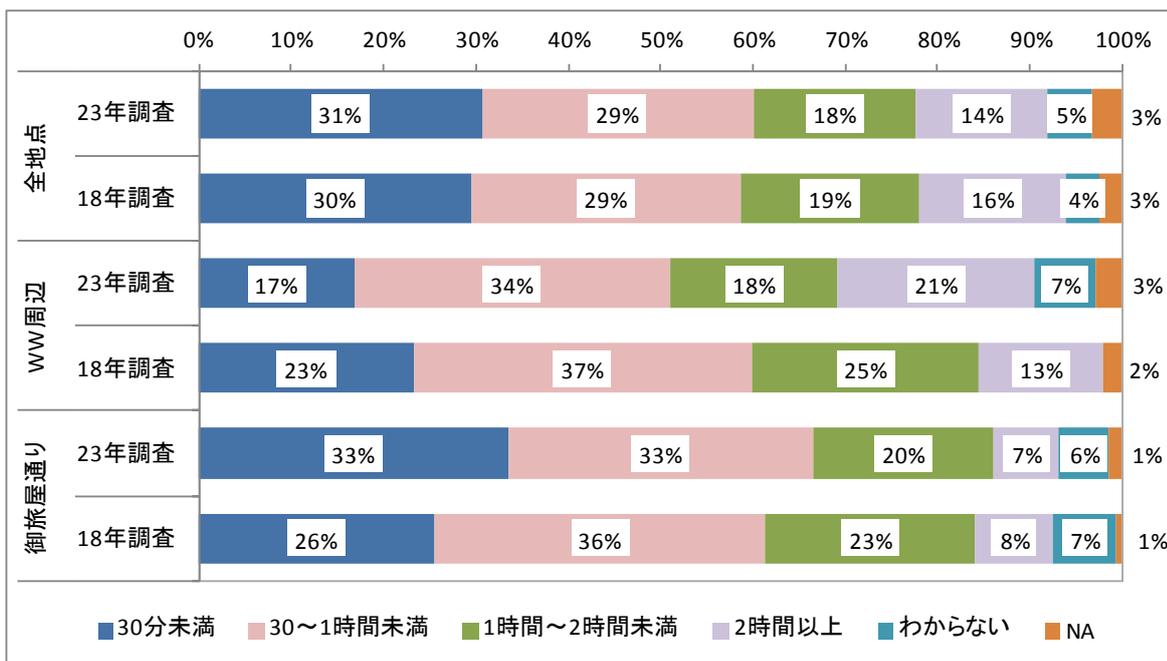
御旅屋セリオ～ウイング・ウイング高岡間の双方向による回遊割合は 13.7%となっており、2 拠点間で一定割合の回遊が発生していることが確認された。

来街者の滞在時間については、回答者の約 6 割が「1 時間未満」としており、平成 18 年調査から大きな変化はみられなかった。但し、ウイング・ウイング高岡周辺における回答者では「2 時間以上」とする回答がやや増加しているのに対し、御旅屋セリオ周辺における回答者では「30 分未満」が増加し、滞在時間が短くなっている。御旅屋セリオ周辺の買物目的による来街者の購入品目として「食料品」の回答割合が増加していることを考慮すれば、御旅屋セリオが周辺住民の日常的な買物の場として機能している度合いが高まっているものと考えられる。

### 中心市街地への来街目的



### 来街者の滞在時間

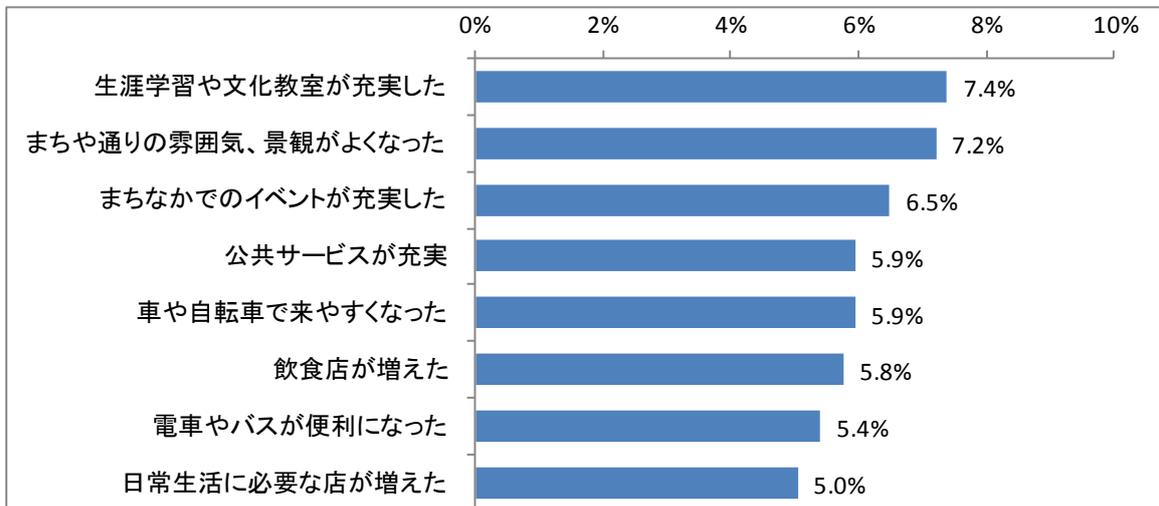


#### iv) 中心市街地活性化の取り組みに対する評価

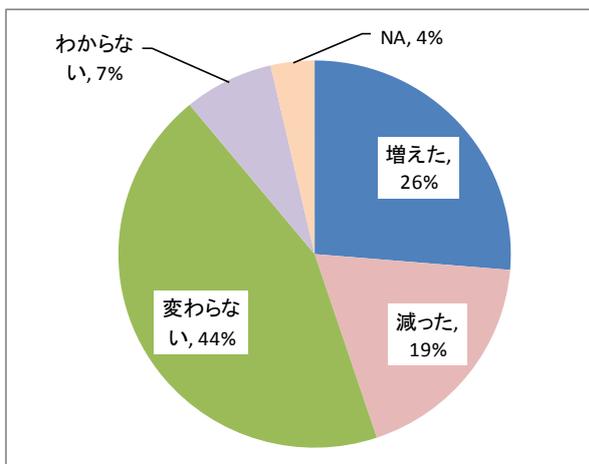
これまでの中心市街地活性化の取り組みに対し、市民意識調査と同様に「文化・学習活動」「まちの雰囲気・景観」「イベントの充実」「公共サービス」「交通利便性」について「良くなっている」との評価が比較的多く、特に「来街頻度が増加した」と回答した者においてこれらの事項が「良くなっている」として評価する傾向がみられた。

また、来街頻度の変化については、「増加」が「減少」を約 7 ポイント上回る結果となっているが、市民意識調査において中心市街地への来街頻度が低下していることや、「買物」「飲食」においては「増加」とした回答数以上に「減少」とした回答数が存在していることから、目的に応じて来街頻度が増加した人と減少した人とに分化しているものと考えられる。

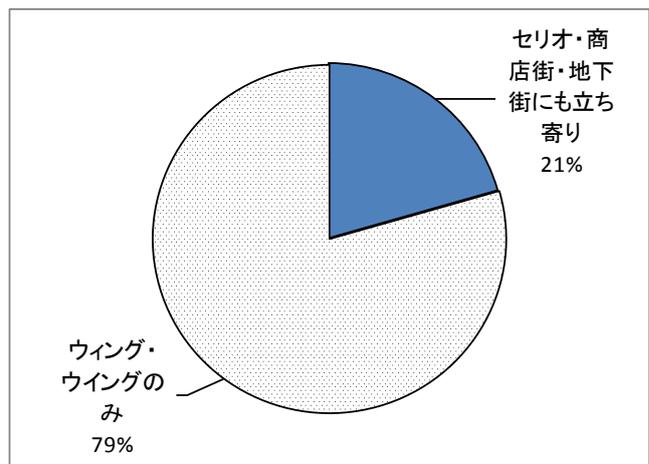
中心市街地で「良くなった点」



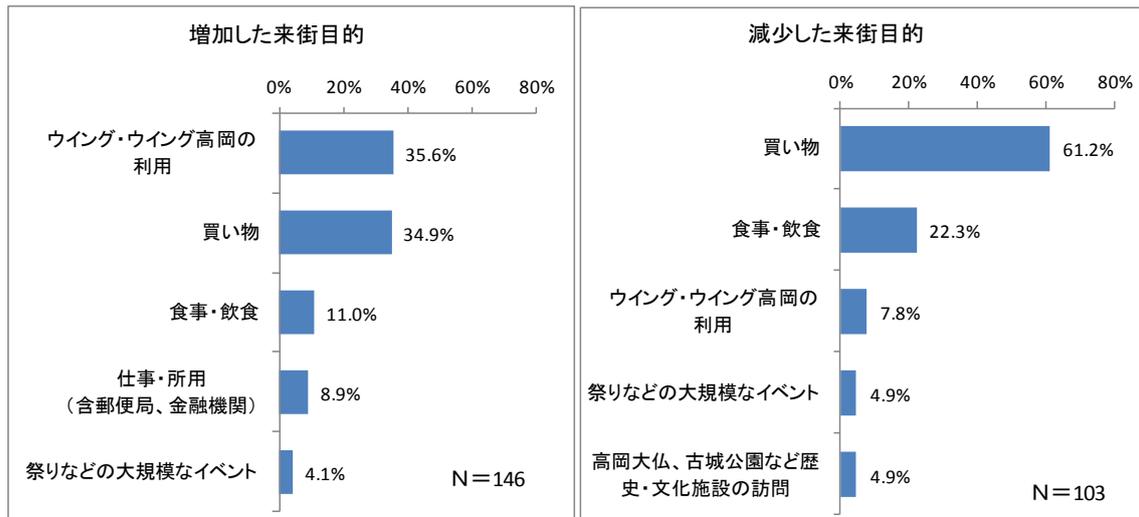
来街頻度の変化



ウイング・ウイング 高岡来館者の中心市街地内他施設訪問率



### 頻度が変化した来街目的



### ③まちなか居住者アンケート調査

i) 調査実施時期：平成 23 年 8 月 30 日～9 月 15 日

#### ii) 調査対象・方法

中心市街地及びその周辺部（平米地区、定塚地区、下関地区、博労地区、川原地区、成美地区の各一部）の 18 歳以上の居住者 1,500 名を無作為に抽出し、郵送配布・回収により調査を実施。719 人から回答を得た（回収率 47.9%）。

#### iii) 中心市街地の居住環境に対する評価

地域の「住みよさ全般」については、86%が「住みよい・どちらかという住みよい」と回答し、平成 18 年に実施したまちなか居住者アンケート調査と同様の結果となった。

また、回答者全体の約 7 割が「今後もまちなかに居住したい」と回答し、市外を含めたまちなか以外への移転を希望する回答は 1 割未満と極めて少なく、まちなかへの強い居住意向があることが確認された。

アンケートにおいて質問した項目のうち、「住みよい・どちらかと言えば住みよい」とする回答が半数を下回っているものは「地価、地代・家賃」（39%）と「雪対策」（48%）であり、中心市街地居住の高コスト構造、高齢化が進む中心市街地での除排雪が障害要因として指摘されている。

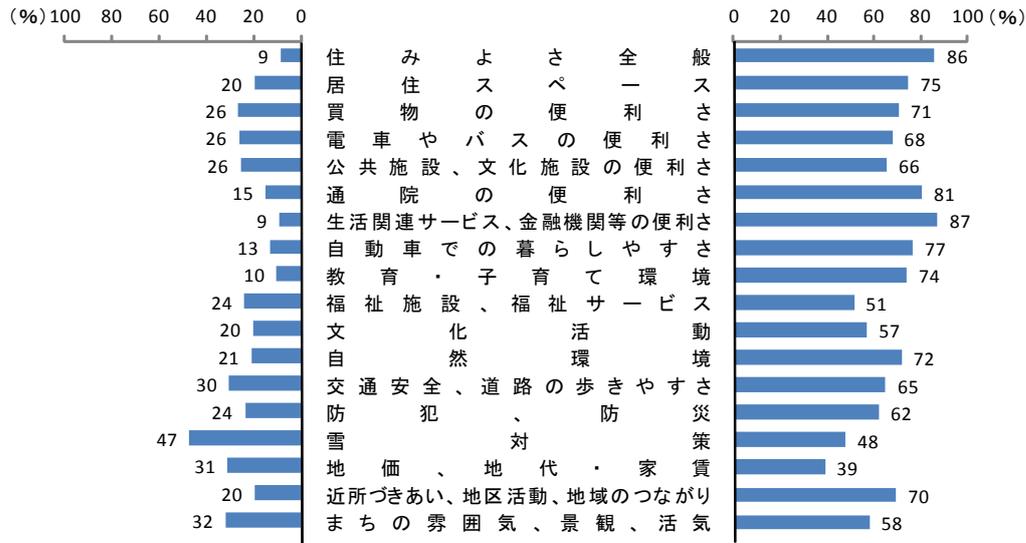
また、「福祉施設、福祉サービス」「まちの雰囲気、景観、活気」「文化活動」「防犯・防災」「公共施設、文化施設の便利さ」「電車やバスの便利さ」「交通安全、道路の歩きやすさ」といった項目は、1 割以上の回答者が「改善した事項」として当該項目を選択していることから、市街地の整備・改善にかかる事業の実施や交通利便性の向上に向けた各種取り組みの成果が居住者に浸透したと考えることができる。

さらには、居住環境で改善した事項として「買物」が最も多く選択されており、中心市街地における空き店舗数の減少や定期的開催している朝市・夕市等の日常生活品の購入機会の提供が、中心市街地居住者の日常生活を支える手段として評価されているものと解することができる。

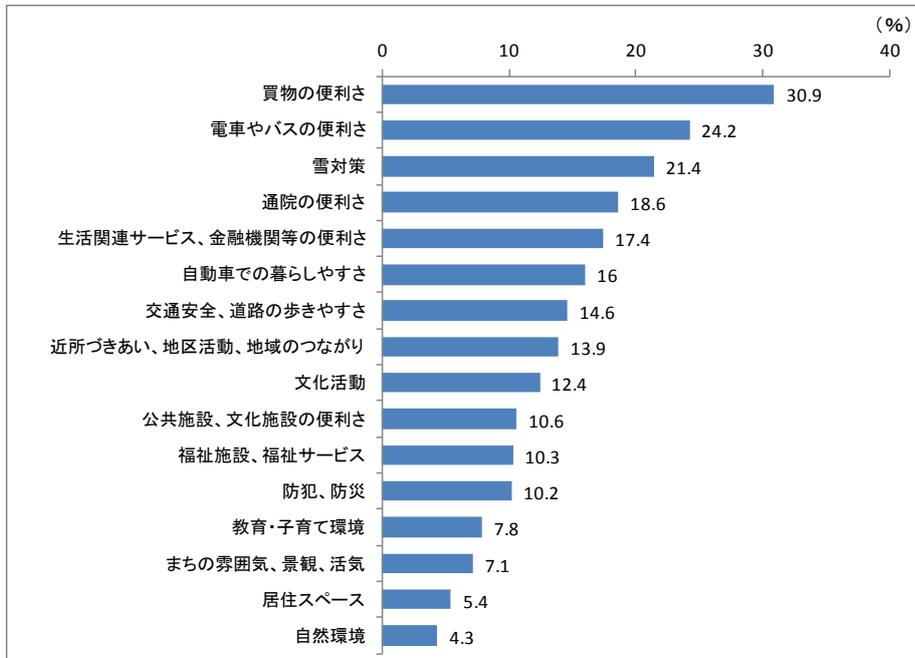
## 中心市街地の住みよさ

住みにくい+どちらかというと住みにくい

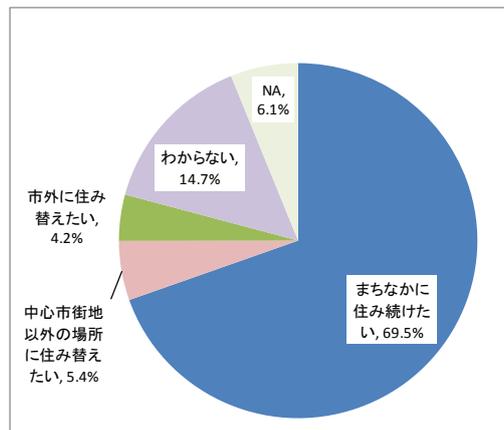
住みよい+どちらかというと住みよい



## まちなかの居住環境について「良くなったもの」



## まちなかへの居住意向

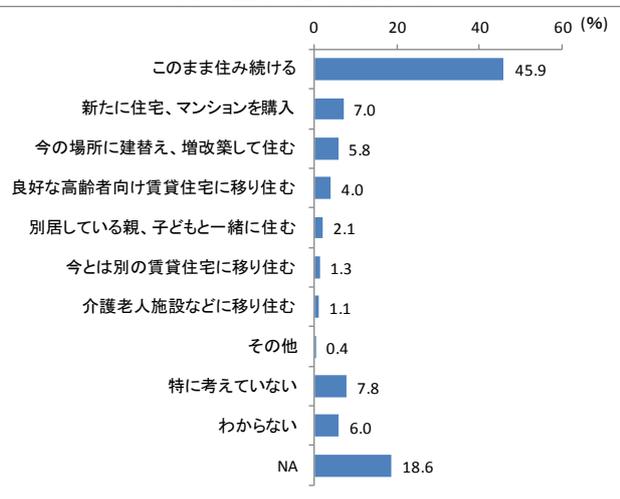


#### iv) 今後予想されるニーズへの対応

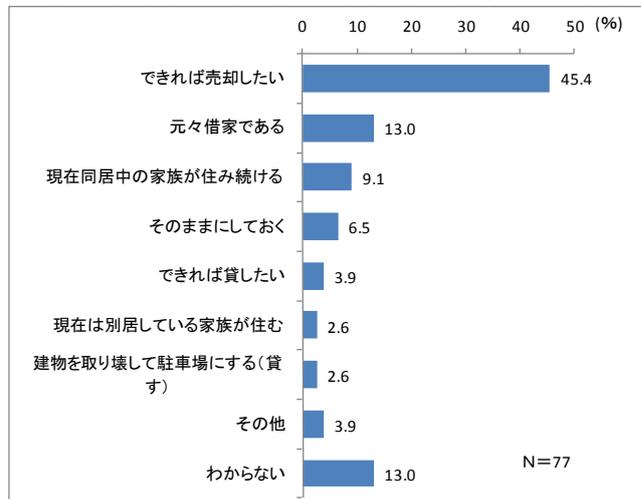
今後希望する居住形態としては、「このまま住み続ける」とする回答が約半数を占めるが、「今の場所に建替え、増改築して住む」「新たに住宅、マンションを購入」を合わせると1割程度存在しており、こうしたニーズに対応するため、住宅取得支援や、マンション建設のまちなかへの誘導を通じ、流出防止を図っていく必要がある。

また、まちなかでの居住に対する強い意向はみられるものの、一部には「転居したい・転居せざるを得ない」という声もあり、中心市街地内外への住み替え時には、約半数が現在の住居を売却したいという意向を持っている。当該住宅の状況にもよるが、こうした将来見通しに対応するため、中古住宅取得支援や隣接地購入による建替え支援を図りながら、空き家化・空き地化の防止に努める必要がある。

今後希望する居住形態



住み替える場合における現在の住まいの処理



### 〔3〕 1期計画に掲げた事業の成果と課題

#### （1） 1期計画の概要

高岡市では、平成12年度から概ね10年間を計画期間として、旧計画を策定し、中心市街地を「高岡・フェスティバルマート（高岡・にぎわ・空間）」として位置づけ、①市民をはじめ広く県内外の人々が集い、非日常的な「時間」と「空間」を楽しめる「交流の場」、②市民から企業まで「多様な主体」により、活発な活動が図れる「活動の場」、③高岡の「顔」としてアピール（主張）する「情報発信の場」、を将来像に置きながら39の事業に取り組んできた。

旧計画の後期（平成17年度からの5年間）途中において、いわゆる中心市街地活性化法の改正を受け、旧計画では十分な成果が挙がらなかった、観光地や商店街の回遊性の向上やまちなか居住の誘発、空き店舗の開業、公共交通の利便性向上など計画内容を見直し、高岡開町以来400年の歴史・文化資産と現代的な都市機能に満たされた居心地の良さと賑わいが調和よく織合わさった高岡の地域特性を生かしたまちづくりに取り組むため、平成19年11月に、1期計画に国の認定を受け、中心市街地活性化の施策推進に積極的に取り組んできた。

1期計画における計画期間は平成19年11月から平成24年3月の4年5カ月間とし、計画最終年次における目標達成項目として以下の3つを設定した。

#### 【目標1】 歴史・文化資産の活用によるまちなか交流人口の拡大

数値目標＝主要観光施設における観光客入込み数：122万人（当初比較25万人増）

#### 【目標2】 まちなか居住の推進

数値目標＝中心市街地における居住人口：17,800人（当初比較203人増）

#### 【目標3】 中心商店街の賑わいの創出

数値目標＝中心商店街（6地点）における平日・休日の歩行者・自転車通行量の  
平均値：13,500人（当初比較2,200人増）

数値目標＝中心商店街（4商店街）における空き店舗数  
：37件（当初比較9件減）

#### （2） 事業の進捗状況

1期計画において掲げた92事業のうち、32事業が完了、56事業が実施中で、未実施の事業は4事業となっており、事業進捗率は95.7%である（平成23年10月現在）。

1 期計画における事業の実施状況（平成 23 年 10 月現在）

No.	事業名	事業期間 (年度)	進捗状況
1	高岡駅交通広場整備事業	H19～	実施中
2	万葉線延伸部施設整備事業(高岡駅地区)	H22～	実施中
3	氷見線移設事業(実施設計等[氷見線移設])	H19	完了
	氷見線移設事業(氷見線移設[高岡駅地区])	H19～H22	
4	市道坂下町大町線整備事業	H19～H21	完了
5	市道坂下町新横町線整備事業	H19～H20	完了
6	市道末広町西2号線整備事業	H18～H19	完了
7	市道鴨島町木舟町線整備事業	H19～H21	完了
8	市道木舟町大坪町一丁目線整備事業	H22～H23	実施中
9	市道堀上町金屋町線整備事業	H19	完了
10	市道堀上町中島町線整備事業	H20	完了
11	市道片原横町川原本町線整備事業	H20～H21	完了
12	市道片原町川原町1号線整備事業	H22	完了
13	市道片原町川原町2号線整備事業	H22	完了
14	高岡駅南駐車場整備事業(駅南駐車場、駅南18号線)	H18～H21	完了
15	高岡駅前自転車駐輪場整備事業	H19	完了
16	地域生活基盤施設(地区内各所)整備事業	H18～H20	完了
17	高岡古城公園整備事業	H19～H20	完了
18	市営オタヤグリーンパーキング設置事業	H19	完了
19	都市計画道路桜馬場長慶寺線整備事業	H16～H25	実施中
20	高岡駅北口駅前広場整備事業 (高岡駅佐加野線(北口駅広))	H16～	実施中
21	高岡駅南北自由連絡通路整備事業 (高岡駅南北自由連絡通路)	H16～H23	完了
22	高岡駅北口歩行者専用道(人工デッキ)整備事業	H16～	実施中
23	市道鴨島町木舟町線整備事業	H18～H23	実施中
24	山町筋重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業	H13～	実施中
25	高岡御車山保存修理事業	H17～	実施中
26	都市計画道路高岡駅佐加野線整備事業	H20～H26	実施中
27	高岡大仏観光バス駐車場整備事業	H19	完了
28	高岡大仏保存修理事業	H19	完了
29	前田利長墓所詳細調査事業	H18～H19	完了
30	金屋町町並み保存に関する意向調査事業	H19～H20	完了
31	高岡市鑄物資料館運営事業	H19～	実施中
32	重要文化財菅野家住宅運営事業	H10～	実施中
33	高岡市土蔵造りのまち資料館運営事業	H14～	実施中

34	「8月のクリスマス」記念館運営事業	H17～H19	完了
35	ウイング・ウイング高岡運営事業	H16～	実施中
36	大手町地内中心市街地共同住宅供給事業		未実施
37	優良住宅団地支援事業	H13～	実施中
38	まちなか住宅取得支援事業	H19～	実施中
39	まちなか共同住宅建設促進事業	H19～	実施中
40	まちなか優良賃貸住宅補助事業	H19～	実施中
41	池の端通り都市景観形成事業	H12～H20	完了
42	大規模小売店舗立地法の特例措置	H19～	実施中
43	まちづくり活動事業(中心市街地回遊性創出事業)	H18～H19	完了
44	高岡開町 400 年記念事業	H19～H21	完了
45	大学連携による伝統産業再生事業 [伝統産業再生事業]	H19～	実施中
	大学連携による伝統産業再生事業 [工芸都市高岡クラフト展開催事業]	S61～	
	大学連携による伝統産業再生事業 [金屋町楽市開催事業]	H20～	
46	(仮称)わろんが横丁整備事業		未実施
47	たかおかナビプロジェクト	H19～H22	完了
48	地域に根ざした文化資産を活用した都市再生プロジェクト	H19	完了
49	“見る”“作る”“学ぶ”『富山県西部地域』産業観光ツーリズム推進事業	H19～H21	完了
50	瑞龍寺ライトアップ事業	H12～	実施中
51	観光バス市営駐車場料金補助事業	H19～	実施中
52	中心商店街活性化センター「わろんが」運営事業	H18～	実施中
53	工房「手わざ」運営事業	H15～	実施中
54	駅地下芸文ギャラリー運営事業	H18～	実施中
55	まちなかギャラリー事業	H18～	実施中
56	中心市街地における開業支援事業	H19～H23	実施中
57	(仮称)高岡まちなか再生基金事業		未実施
58	高岡御車山祭	従前より	実施中
59	「高岡御車山」臨時山倉設置事業	H19～	実施中
60	中心市街地における季節ごとの大型イベント開催事業	従前より	実施中
61	中心商店街活性化イベント開催事業	従前より	実施中
62	文化遺産活用イベント開催事業	従前より	実施中
63	「世界文化遺産をめざす高岡市民の会」の活動	H18～	実施中
64	フィルムコミッション事業	H13～	実施中
65	シルバーサロン坂下小路運営事業	H13～	実施中

66	まちづくり活動支援事業 (中心市街地商店街情報発信事業)	H18～	実施中
67	たかおか観光戦略ネットワーク事業	H17～	実施中
68	まちなか情報発信事業	H14～	実施中
69	コンベンション開催支援事業	H19～	実施中
70	まちの駅ネットワーク事業	H18～	実施中
71	コロッケのまちづくり事業	H16～	実施中
72	個別商店街の活性化事業	従前より	実施中
73	中心市街地における既存店舗リニューアル支援事業	H19～H23	実施中
74	高岡ステーションビル整備調査事業	H23～	実施中
75	高岡御車山展示館建設事業	H19～	実施中
76	朝市・夕市の開催	従前より	実施中
77	元気たかおか未来会議の開催	H19～	実施中
78	末広町電停整備事業	H19	完了
79	LRV導入事業	H13～H20	完了
80	(仮称)第2SOHO事業者支援オフィス整備事業		未実施
81	コミュニティバス事業	H12～	実施中
82	「近世高岡の文化遺産群めぐり」巡回バス事業	H19～	実施中
83	レンタサイクル事業	H17～	実施中
84	高速バス運行事業	H19～H20	完了
85	中心市街地におけるオフィス開設支援事業	H20～	実施中
86	市道下関町4号線整備事業	H20～H22	完了
87	高岡駅交通広場整備事業(万葉線延伸部走行空間整備事業[(万葉線)路面電車走行空間、交通広場整備事業])	H19～	実施中
88	市道坂下町大町線整備事業	H23	実施中
89	市道片原町本郷一丁目線整備事業	H23	実施中
90	高岡駅前東自転車駐車場整備事業	H22～	実施中
91	中心商店街賑わい再生事業	H22	完了
92	高岡駅周辺にぎわい創出事業	H23～	実施中
総事業数 92 (うち完了 32 実施中 56 未実施 4) ※95.7%が完了あるいは実施中			

### (3) 主な事業の成果と課題

#### ①「歴史・文化資産の活用によるまちなか交流人口の拡大」に資する事業

##### i) 全体評価

1期計画に掲げた高岡古城公園整備事業や高岡大仏保存修理事業などのハード事業や、瑞龍寺ライトアップ事業や文化遺産群を活用した各種イベントなどのソフト

事業など様々な事業に取り組み、高岡にしかない歴史・文化資産の魅力を高め、交流人口の拡大を図ってきた。

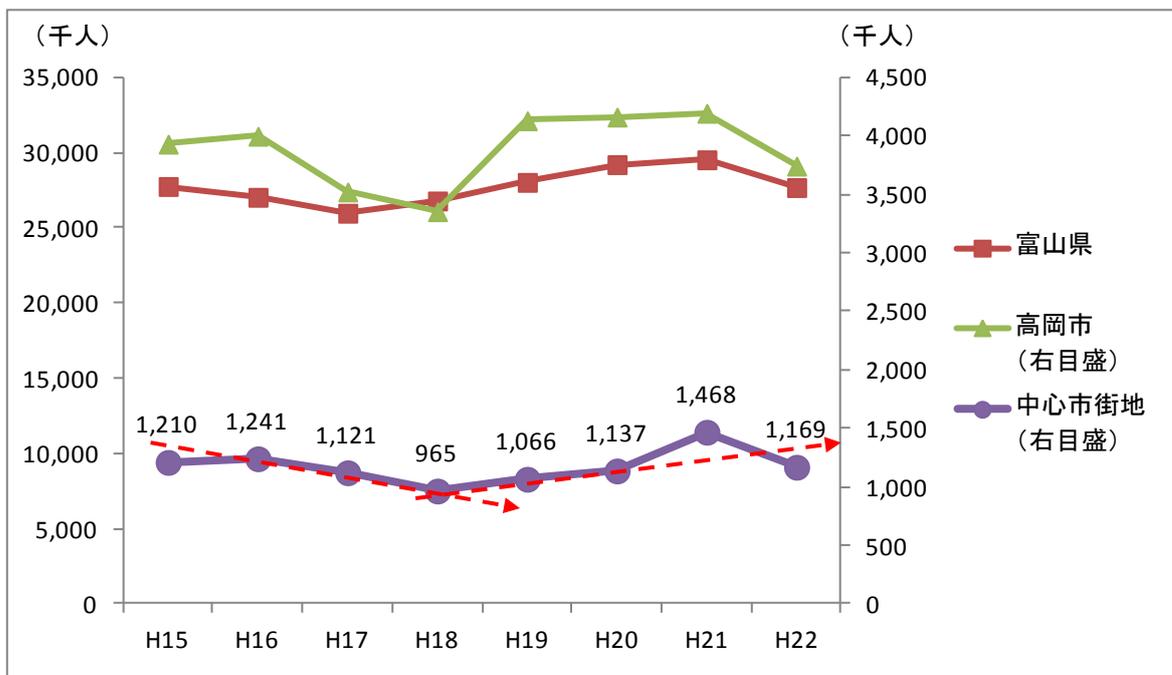
平成22年終了時点において、中心市街地における主要観光施設の観光客入込数は1,169千人に増加し、基準年となる平成18年との比較では204千人の増加(21%増)となり、目標数値に近い水準に達した。

特に、平成21年には、高岡の開町400年を祝う記念事業に年間を通じて取り組み、観光客入込数は、前年比29.1%増、基準年比1.5倍の入込数となった。

また、平成20年には、東海北陸自動車道が全線開通し、サービスエリアや名古屋でのPR活動を行ったことから、観光地を訪れる東海地方ナンバーの車が多く見受けられるなど、東海北陸自動車道の開通効果もあったと考えられる。

平成22年は、前年の反動減と全国的な観光旅行減少の影響から、対前年比で20.4%の減少となったが、対基準年比では21.1%増加しており、対基準年比で見ると引き続き増加基調にある。

### 観光客入込み数の推移



### 中心市街地における主要観光施設ごとの観光客入込み数

	H18	H19	H20	H21	H22	施設目標値
古城公園	712,800	740,450	707,000	1,070,050	830,400	830,000
瑞龍寺	165,000	232,120	316,100	281,500	230,030	199,000
高岡大仏	79,000	72,000	96,000	99,000	93,700	119,000
山町筋(菅野家・土蔵造りのまち資料館)	8,361	11,292	13,609	13,643	10,502	20,000
金屋町(鑄物資料館)		10,178	4,207	3,943	4,116	5,000
<b>施設計</b>	<b>965,161</b>	<b>1,066,040</b>	<b>1,136,916</b>	<b>1,468,136</b>	<b>1,168,748</b>	<b>※1,173,000</b>

※主要観光施設入込数の目標値(122万人)との差は、相乗効果による増加想定数

主要観光施設全てにおいて平成 18 年から平成 22 年の入込数が増加していることや、市民アンケートにおいて観光地としての魅力向上を評価する回答が多くみられ、市民の間で観光による中心市街地の活性化が実感できる状況になっていることを踏まえれば、「歴史・文化資産の活用によるまちなか交流人口の拡大」にかかる各種事業の実施は、それらが複合的に関連し、中心市街地活性化に大きく貢献したと評価することができる。

なお、平成 23 年については 3 月に発生した東日本大震災の影響により観光流動が全国的に減少しており、平成 23 年における観光客入込数は減少するものと考えられる。

## ii) 主な事業の実施成果

### ア. 主要観光施設入込数増加に直接的に寄与する事業

#### ■高岡開町 400 年記念事業

実施時期	平成 21 年度【完了】
事業概要	平成 21 年に高岡開町 400 年を迎えることから、記念事業を開催する。
実施成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開町 400 年である平成 21 年は、記念イベントを合わせ、古城公園の観光客入込数が 107 万人に達した（うち、記念イベントによる古城公園内入込数 25 万人）。</li> <li>・平成 21 年度のみイベントではあるが、古城公園の価値の再評価の契機として位置付けられ、事業実施後の通年入込客数底上げに寄与した。</li> <li>・記念イベント入込数を除いた平成 20～21 年の観光客入込数増加分である 11 万人は、本事業による底上げ効果によるものである。</li> </ul>

#### ■高岡古城公園整備事業

実施時期	平成 19～20 年度【完了】
事業概要	都市公園でもあり、文化遺産群のひとつでもある高岡古城公園の園路整備、および駐車場の整備を行う。
実施成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 20 年度に駐車場および散策路の整備が完了し、翌年度の開町 400 年記念事業に寄与した。</li> <li>・平成 22 年度は、小竹藪駐車場、北口駐車場の合計で年間 27,000 台の利用につながった。</li> <li>・開町 400 年記念事業の来場者を除いた平成 21～22 年の増加傾向線に従った部分については、本事業による寄与が大きいと考えられ、年間 1 万人の入込数増加に寄与している。</li> </ul>

#### ■瑞龍寺ライトアップ事業

実施時期	平成 12 年度～【実施中】
事業概要	「瑞龍寺 100 万人構想」のもと、瑞龍寺のライトアップを行う。
実施成果	・夏季のライトアップ期間の延長、及び冬季の開催による瑞龍寺の魅力向

	上及びPRの取り組みにより、瑞龍寺の観光客入込数が増加（平成 22 年で対基準年比 65 千人増）しており、瑞龍寺の入込客数全体の底上げに寄与している。
--	--

#### ■高岡大仏観光バス駐車場整備事業

実施時期	平成 19 年度【完了】
事業概要	日本三大仏・高岡大仏への団体観光客の増大及び滞留時間の延長を図るため、高岡大仏近隣に観光バス専用の無料駐車場を整備する。
実施成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業実施後の平成 19～20 年において、高岡大仏への観光客入込数が 24 千人増加しており、その後も同様の水準が維持されている。</li> <li>・また、平成 19～22 年において、御旅屋通り～高岡大仏への歩行者通行量が約 20%増加していることから、高岡大仏観光バス駐車場～定塚町 1 丁目～高岡大仏の観光ルートが形成されたと考えることができる。</li> <li>・平成 22 年における駐車場観光バス駐車台数と高岡大仏の月別入込数の間には強い正の相関関係がみられ、観光バス駐車場の整備が高岡大仏の入込数の約 2 割（約 18,000 人）に貢献していると考えられる。</li> </ul>

#### ■高岡大仏保存修理事業

実施時期	平成 19 年度【完了】
事業概要	日本三大仏・高岡大仏の劣化が進んだことから、保存修理事業を実施する。
実施成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業実施後の平成 19～20 年において、高岡大仏への観光客入込数が 24 千人増加しており、その後も同様の水準が維持されていることから、高岡大仏観光バス駐車場整備事業との複合効果により、高岡大仏への観光客入込数増加につながっている。</li> </ul>

高岡古城公園及び瑞龍寺は、各種事業の取り組み効果により、観光客入込み数の目標値に達した。

高岡大仏の観光客入込み数増加にかかる事業については、駐車場方向からの新たな動線の形成や保存修理事業を通じた魅力向上、さらには高岡市全体の観光客入込数底上げによって一定の成果を見たものの、その増加ペースは当初見込みを下回る水準となっており、目標を達成できなかった。

この要因としては、基準年である平成 18 年との比較において、平成 22 年の高岡大仏観光客入込み数は 18.6%増加しているものの、同期間における瑞龍寺の増加率 39.4%の約半分の水準にとどまっており、瑞龍寺の増加分が高岡大仏まで十分に回遊するに至らなかったことが挙げられる。

#### ■山町筋重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業

実施時期	平成 13 年度～【実施中】
事業概要	山町筋重要伝統的建造物群保存地区内において、伝統的な土蔵造りの町並みを保存するため、伝統的建造物の修理事業及び非伝統的建造物の修景事

	業等を実施する。
実施成果	・平成19年度以降の保存修理箇所数（13カ所）と観光客入込数との間に正の相関関係がみられ、基準年～平成22年の山町筋への観光客入込数増加分約2,200人は本事業が貢献したと考えられる。

#### ■重要文化財菅野家住宅運営事業

実施時期	平成10年度～【実施中】
事業概要	山町筋重要伝統的建造物群保存地区における唯一の重要文化財建造物として、建物の一部を公開する。
実施成果	・山町筋における重要な観光拠点として機能し、高岡市土蔵造りのまち資料館運営事業と複合して平成22年は10,502人を集客した。

#### ■高岡市土蔵造りのまち資料館運営事業

実施時期	平成14年度～【実施中】
事業概要	山町筋重要伝統的建造物群保存地区において、土蔵造りの建造物全体を公開している唯一の建造物として、施設を公開する。
実施成果	・山町筋における重要な観光拠点として機能し、重要文化財菅野家住宅運営事業と複合して平成22年は10,502人を集客した。

#### ■山町筋周辺の市道整備（市道鴨島町木舟町線整備事業、市道木舟町大坪町一丁目線整備事業、市道堀上町金屋町線整備事業、市道堀上町中島町線整備事業、市道片原横町川原本町線整備事業、市道片原町川原町1号線整備事業、市道片原町川原町2号線整備事業、市道坂下町大町線整備事業、市道片原町本郷一丁目線整備事業）

実施時期	平成19年度～【実施中】
事業概要	山町筋重要伝統的建造物群保存地区において、快適な町並み散策が可能となるよう、景観に配慮した道路整備を行う。
実施成果	・市民意識調査における「高岡の伝統・歴史・文化を感じさせる町並みや良好な景観が形成されている」という問いに対し、33%が肯定的に評価、39.2%が改善しているとそれぞれ評価しており、山町筋のイメージ形成に貢献している。

#### ■高岡御車山保存修理事業

実施時期	平成17年度～【実施中】
事業概要	高岡市を代表する祭礼であり、重要文化財である高岡御車山祭の保存・継承を図るため、7基ある高岡御車山の計画的な保存修理を行う。
実施成果	・御車山の保存・伝承は高岡御車山祭の根幹をなすものであり、御車山の保存修理により、御車山が色鮮やかに復元され、その華麗さが一層際立ち、御車山の魅力向上に寄与した。 ・平成22年度において、高岡御車山祭には150千人が来場しており、中

心市街地の賑わい創出に大きく貢献している。

#### ■「高岡御車山」臨時山倉設置事業

実施時期	平成 19 年度～【実施中】
事業概要	高岡御車山の見学を天候に左右されずに行えるようにするとともに、前日の夜から展示しライトアップする宵祭りを実施する。
実施成果	・御車山祭り前夜から御車山をライトアップし、光り輝く美しい御車山として展示することで、御車山に施された金工・漆工等の優れた工芸技術による華麗な装飾を間近で見ることができることとなり、祭礼の前夜に各山町で行われる宵祭りを見て感じる機会ともなるなど、御車山祭りの魅力を一層高めるとともに、多くの人々が山町筋を巡る効果があった。 ・御車山の来場者数が増加していることから、誘客要因として貢献した。

山町筋においても、上記のとおり観光客入込数が増加しており、各種事業の実施が一定の成果をみたが、1期計画における目標水準を下回っている。

この要因としては、計画期間中、無電柱化事業が実施され景観整備中だったことが大きく影響したものと推測される。また、1期計画において、山町筋の観光客入込数の見通しは昭和62年～平成3年の瑞龍寺の入込数の推移を参考に設定したが、当時既に国宝級の価値を有していた瑞龍寺と異なり、山町筋は通り全体が見どころであるなかで、観光施設が菅野家および土蔵造りのまち資料館といった比較的小規模の施設が点在しており、核となる拠点施設が不足していることが考えられる。

#### ■高岡市鋳物資料館運営事業

実施時期	平成 19 年度～【実施中】
事業概要	高岡鋳物発祥の地である金屋町において、市内の鋳物に関する資料を収集・展示する「鋳物資料館」を設置・運営する。
実施成果	・平成 22 年は 4,116 人を集客しており、金屋町における誘客拠点として観光客入込数増加に貢献している。

金屋町においては、鋳物資料館開館初年の平成 19 年は、施設開館効果や無料開放期間を設けたため、観光客入込み数が 1 万人を超えたが、平成 20 年～平成 22 年は、4,000 人前後の横ばいで推移し、目標数値を下回っている。

金屋町の伝統的な町家や石畳通りの風情を楽しむ人や、若手のものづくり作家が集い、作品を展示する「金屋町金属工芸工房・かんか」が開店し、金屋町に見どころが増えたことにより、通りを歩く少人数旅行客が見受けられるようになったが、金屋町周辺には観光バスを停める駐車場が無く、金屋町を団体ツアーが訪れ難いことが、入込み数の伸び悩みの要因と推測される。

■大学連携による伝統産業再生事業 [金屋町楽市開催事業]

実施時期	平成 20 年度～【実施中】
事業概要	高岡の地場産業である銅器工芸を生活空間に生かした、生活、工芸、産業が同居するゾーンミュージアムイベントを、高岡鋳物発祥の地である金屋町で開催する。
実施成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 来場者数は、平成 20 年度 10,000 人、平成 21 年度 22,000 人、平成 22 年度 23,600 人と年々増加しており、金屋町における賑わい創出はもとより、本市のイメージアップに繋がった。</li> <li>・ 平成 23 年度は、東京駅前にある丸ビル 1 階マルキューブで、金屋町楽市スタイルの工芸作品の展示・販売イベントを開催した。このイベント来場者が金屋町楽市を訪れたり、首都圏からのバスツアーが人気を博したりするなど、首都圏での PR 効果が観光客入込み数増加に貢献した。</li> </ul>

イ. 主要観光施設入込数増加に間接的に寄与する事業

■文化遺産群を活用したイベント実施に関する事業

- 中心市街地における季節ごとの大型イベント開催事業（高岡獅子舞大競演会、高岡七夕まつり、高岡万葉まつり、日本海高岡なべ祭り）
- 文化遺産活用イベント開催事業（瑞龍寺ライトアップ、八丁道おもしろ市、たかおか朝市、大仏ごりやく市、山町筋土蔵造りフェスタ、山町筋の天神様祭、山町筋のひなまつり、御印祭）
- 中心商店街活性化イベント開催事業（大仏ごりやく市、WE ARE LIVE ナック!?, 高岡御車山祭後のイベント、お買い物ラリー）

実施時期	従前より【実施中】
事業概要	中心市街地における 4 つの大型イベント開催、中心市街地に点在する各文化遺産の特性を生かしたイベントを展開することにより、主要観光地点への誘引を図る。
実施成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中心市街地内で開催される大型イベント・文化遺産活用イベントには毎年 800 千人が来場しており、実施期間中における中心市街地の賑わい創出に繋がった。</li> <li>・ イベント来場者数と主要地点観光客入込数との間には強い正の相関関係がみられ、末広開発(株)まちづくり事業部（まちづくり会社）が主体となったイベント実施による観光客入込数増加への貢献度は高い。</li> </ul>

■文化遺産群の周辺環境整備に関する事業

- 「8月のクリスマス」記念館運営事業

実施時期	平成 17～19 年度【完了】
事業概要	高岡市内で撮影された「8月のクリスマス」の記念館として、撮影に使われた施設（映画での名称：鈴木写真スタジオ）の運営を行う。
実施成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「8月のクリスマス」の撮影で使われたバイク、衣装等を展示し、平成 19 年度は約 4,000 人が来館し、観光客入込に寄与した。</li> </ul>

●フィルムコミッション事業

実施時期	平成 13 年度～【実施中】
事業概要	高岡市内における映画、ドラマ等のロケ誘致および市内ロケ支援等を実施する。
実施成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・撮影場所の紹介やエキストラの提供等で協力を行い、映画やドラマ等の撮影に、年間 10 件～20 件を誘致している。</li> <li>・市内での撮影に協力した「8月のクリスマス」では、撮影地めぐりをする映画ファンが訪れ、「8月のクリスマス」記念館には、平成 19 年度は約 4,000 人が来館し、観光客の増加に寄与した。</li> <li>・市民意識調査において「マンガ、コロケ、映画ロケ地などの新しい資源を活かしたまちづくりが行われている」との問いに対し、約 3 分の 1 の市民が肯定的評価、改善評価をしており、実施成果が市民の間で実感されている。</li> <li>・映画やテレビ等で高岡市が紹介され、高岡市の知名度アップ、イメージ向上、さらには観光客入込数増加に貢献している。</li> </ul>

■文化遺産群の回遊性向上に関する事業

●高岡駅南北自由連絡通路整備事業

実施時期	平成 16～23 年度【完了】
事業概要	高岡駅周辺整備事業として現駅周辺の機能強化に一体的に取り組む中で、現駅の交通機関相互の乗換利便性の向上、南北市街地の連携強化、安全で快適な歩行空間の確保等を図るため、南北自由連絡通路の整備を行う。
実施成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 23 年 8 月に供用開始され、本事業により、北陸本線によって分断されていた瑞龍寺～古城公園・高岡大仏・山町筋・金屋町間の回遊性が向上し、観光客入込数増加に大きく寄与することが期待される。</li> </ul>

●高岡駅北口歩行者専用道（人工デッキ）整備事業

実施時期	平成 16～24 年度【実施中】
事業概要	高岡駅周辺整備事業として現駅周辺の機能強化に一体的に取り組む中で、現駅の交通機関相互の乗換利便性の向上、南北市街地の連携強化、安全で快適な歩行空間の確保等を図るため、北口歩行者専用道の整備を行う。
実施成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高岡駅南北自由連絡通路整備事業が完了し、今後、本事業の整備が進むことで、北陸本線によって分断されていた瑞龍寺～古城公園・高岡大仏・山町筋・金屋町間の回遊性が向上し、観光客入込数増加に大きく寄与することが期待される。</li> </ul>

●レンタサイクル事業

実施時期	平成 17 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地における買物と観光に便利な有料のレンタサイクルを、高岡駅

	北口および駅北側の文化遺産群に配置する。
実施成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業開始以降、利用者は増加を続けており、平成 22 年度は延べ 2,070 人が利用した。</li> <li>・利用者アンケート調査では、観光目的での利用者は、1 人当たり 2.5 カ所の中心市街地内観光地点を訪問しており、延べ約 3,000 人の中心市街地観光客入込数創出に貢献している。</li> </ul>

●観光バス市営駐車場料金補助事業

実施時期	平成 19 年度～【実施中】
事業概要	大型バスが駐車可能な市営駐車場（高岡中央、御旅屋）を利用する観光バス事業者に対し、利用料金の助成を行う。
実施成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業開始以降、毎年 500 台程度が利用し、平成 22 年度は 562 台の利用があった。</li> <li>・本事業により、それまで大型バスによる団体観光のルートに乗らなかった高岡市中心市街地内の観光地点がルート内に組み込まれ、約 30,000 人の観光客入込数増加に寄与したと考えられる。</li> </ul>

●「近世高岡の文化遺産群めぐり」巡行バス事業

実施時期	平成 19 年度～【実施中】
事業概要	JR 高岡駅を挟み、南北に分散している文化遺産群を効率的に巡回するため、1 日乗車券制による文化遺産群をつなぐバスを運行する。
実施成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業開始以降、乗車数は増加傾向にあり、平成 22 年度は 4,583 人が利用している。</li> <li>・バス利用者調査から利用者のうち約半数は市民となっているが、残りの市外利用者については、巡行バスを利用することで行動範囲が広がり、観光訪問地点が増加することによって、1 人当たり 3 か所程度訪れていると見込まれ、延べ約 7,000 人の観光客入込数増加につながった。（3 カ所訪問は平成 18 年「観光客アンケート調査」より）</li> </ul>

■中心市街地の情報発信等に関する事業

●コロッケのまちづくり事業

実施時期	平成 16 年度～【実施中】
事業概要	コロッケをまちづくりのツールとして各種事業を実施する。
実施成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業によるイベントの開催、他地域イベントへの参加、新商品の開発等を通じ、中心市街地への誘客および知名度向上に寄与している。</li> <li>・平成 21 年に実施した「高岡 B 級グルメ博」には 2 日間で約 80,000 人の来場があり、中心市街地の賑わい創出に大きく寄与していることや、市民意識調査において約 3 分の 1 の市民が「マンガ、コロッケ、映画ロケ地などの新しい資源を生かしたまちづくりが行われている」の問いに対して評価が高いことから、高岡市の知名度、イメージ向上、さらには観</li> </ul>

光客入込数増加に対しても効果が表れている。

### ●コンベンション開催支援事業

実施時期	平成 19 年度～【実施中】
事業概要	コンベンション開催に伴い、県外から高岡市内に宿泊する者およびコンベンション開催費用の一部に対して支援を行う。
実施成果	・本事業を通じたコンベンション誘致により、年度によってばらつきはあるものの、2,000～5,000 人の県外客が高岡市に宿泊し、平成 22 年度は 2,105 人が本制度を利用した。 ・コンベンション開催支援は、高岡来訪機会の創出となり観光客入込数の増加がもたらされている。

### ●その他の情報発信事業

中心市街地商店情報発信事業、たかおかなビプロジェクト、たかおか観光戦略ネットワーク事業、まちなか情報発信事業

実施成果	・これらの情報発信事業の実施が、高岡の情報を気軽に得ることができる手段となり、市民意識調査における「中心市街地の情報発信」の効果に対して約 2 割の市民が肯定的で、改善されている評価をしており、肯定的評価の割合は平成 18 年の前回調査時点よりも 8 ポイント上昇していることから、中心市街地の観光スポットやイベント等の認知度向上、イメージアップに貢献した。
------	---

### iii) 2 期計画に向けた課題

1 期計画において、観光イメージアップおよび中心市街地への観光客の呼び込みに一定の成果を上げており、各種取り組みの有効性が確認された。2 期計画においては、1 期計画で効果の認められた事業を継続するとともに、高岡御車山会館建設事業など、観光地の魅力向上に繋がる核となる施設の整備に取り組む必要がある。

同時に、各地点間の回遊性が弱く、必ずしも期待通りの相乗効果が発揮されなかった点を踏まえ、2 期計画においては、各拠点間を連結する機能をハード、ソフトの両面において充実させ、観光客が中心市街地内の各観光施設を回遊する仕組みを構築していく必要がある。

さらに、高岡市歴史的風致維持向上計画の国からの認定（平成 23 年 6 月）を契機として、歴史的建造物や伝統文化、工芸技術といった本市固有の特長を最大限に活かした取り組みを一層強化する必要がある。

## ②「まちなか居住の推進」に資する事業

### i) 全体評価

現行計画策定当初の予測を上回るペースで人口の自然減、および社会減が発生し、

平成 22 年度終了時点において目標数値を下回っている。

特に、全市の自然減の 1/4 に相当する自然減が中心市街地において発生したこと、及び若年層、子供同居世帯の流出が進んだと考えられることから、まちなか居住支援事業による居住者の増加・下支え（約 200 人）、支援事業によらない集合住宅の建設による人口増加・下支え（下関地区で約 200 人）効果が損なわれる結果となった。

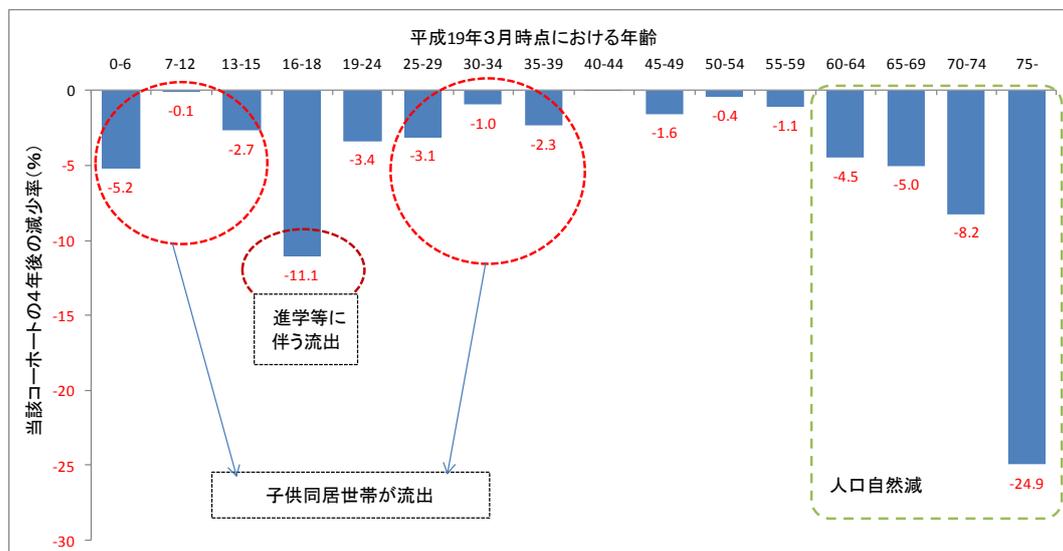
「まちなか居住支援事業」にかかる各種事業の実施は、中心市街地における居住人口の下支えに一定の役割を發揮したと考えられるものの、全体として中心市街地の居住人口を増加させるには至らなかった。しかし、平成 23 年度に建設を開始した「まちなか共同住宅建設促進事業」による 2 棟のマンションが平成 24 年度に完成することから、その効果の発現が待たれる。

#### 高岡市および中心市街地における人口の推移

	高岡市全体	中心市街地
平成 18 年度末居住人口	181, 171 人	17, 597 人
平成 22 年度末居住人口	176, 945 人	16, 360 人
平成 18 年度末→22 年度末人口減少率	▲2. 4%	▲7. 0%
自然減	▲1. 4%	▲3. 7%
社会減	▲1. 0%	▲3. 3%

人口増加に至らなかった原因としては、中心市街地では高齢者の人口割合が全市平均よりも高く、自然減が発生しやすい状況にあることや、20代～30代と未就学児～高校生の減少も発生していることから、子供と同居する世帯が郊外へ転出していると推測される。住宅地の地価は、近年下落が進み、むしろ隣接地区よりも安くなっているが、中心市街地では、狭隘な土地に古い住宅が密集し、住居と空き家が混在していることに加え、地籍境界の未確定、借地権や固定資産税等の問題により、まとまった広さの敷地を確保することが困難なことから宅地開発やマンションや集合賃貸住宅の建設が進んでいない。

#### 中心市街地が含まれる 6 地区における年齢階層による増減率



※平成 19 年 3 月から 4 年間のコーホートによる増減率

なお、中心市街地の居住人口が減少する一方で、市民意識調査結果、まちなか居住者アンケート調査結果では、「歩行環境」「景観整備」といった市街地の居住環境について高い改善評価がなされている。これらは直接的な居住者増加の効果をもたらすものではないが、各種取り組みの実施によるまちなかにおける居住環境の改善は地域住民に浸透しており、着実な成果を上げている。

また、平成 21 年 1 月の高岡サティ閉店による影響を強く受けた定塚地区を除き、中心市街地において買物等日常生活上の利便性が向上したとする回答が多くみられ、中心市街地の空き店舗数の減少や朝市・夕市等の実施がまちなか居住者の生活利便の提供に貢献していると評価することができる。

## ii) 主な事業の実施成果

### ア. まちなか居住の推進に直接的に寄与する事業

#### ■まちなか住宅取得支援事業

実施時期	平成 19 年度～【実施中】
事業概要	高岡市が認定した「まちなかの区域」で、一戸建て住宅の新築や建売住宅・分譲マンションの購入を行う個人に対し、借入金額の 5%（限度額 100 万円）の補助を行う。 なお、平成 23 年度からは、中古住宅・中古マンションの購入および隣接土地購入も支援対象に追加した。
実施成果	・本事業に対しては、平成 23 年 9 月時点で 42 件の利用申請があり、制度利用者の平均世帯人員数は 3.8 人となっていることから、約 160 人の居住人口増加・下支えに寄与している。

#### ■まちなか共同住宅建設促進事業

実施時期	平成 19 年度～【実施中】
事業概要	高岡市が認定した「まちなかの区域」で、一定要件を踏まえた 4 戸以上のアパート・マンションを建設した者に対し、1 戸当たり 100 万円（限度額 5,000 万円）の補助を行う。
実施成果	・旧済生会病院跡地での分譲マンション建設及び旧家具店跡地での賃貸マンション建設が行われており、平成 24 年夏に完工予定のため、事業の効果は、2 期計画期間中に発現する。

#### ■優良住宅団地支援事業

実施時期	平成 13 年度～23 年度【完了】
事業概要	高岡市が認定した優良住宅団地において、土地を取得し住宅を建築する者に対し、取得した土地の面積に応じ、支援を行う（1㎡当たり 4,400 円、限度額 100 万円）。
実施成果	・中心市街地内のトークタウン中島において 19 件の利用申請があり、50 人程度の中心市街地人口増加・下支え効果があった。

現時点において、まちなか居住支援に係る各種事業による増加・下支えが約 200 人、支援によらない増加（下関地区）が約 200 人と推定され、増加・下支え要素は合計で約 400 人となっている。共同住宅の建設は 1 期計画期間内には終了せず、効果は 2 期計画の期間内に現れる。

## イ. まちなか居住の推進に間接的に寄与する事業

### ■池の端通り都市景観形成事業

実施時期	平成 12 年度～20 年度【完了】
事業概要	「高岡市町並み保存・都市景観形成条例」に基づき指定された池の端通り都市景観形成地区において、良好な都市景観の向上を図るための家屋の修繕、緑化等に対して支援を行う。
実施成果	・事業開始から 26 件の制度利用があり、中心市街地の居住人口が減少する中、対象地区となっている本丸町の人口は平成 17 年に下げ止まりを見せ、平成 17 年 3 月～23 年 3 月の間に 10 人増加したことから、人口増加に寄与した。

### ■朝市・夕市の開催

実施時期	従前より【実施中】
事業概要	地産地消の推進と中心市街地への来街者の増大、まちなかへ居住する人の生鮮品等の供給のため、中心市街地において朝市、夕市を開催する。
実施成果	・市民意識調査では、中心市街地に居住する回答者の約 1 割が 1 カ月に 1 回以上朝市・夕市に行くと言われ、朝市や夕市の実施が中心市街地居住者の日常生活利便を高める機会として機能している。

### iii) 2 期計画に向けた課題

中心市街地における歩行者通行量と居住人口との間には強い正の相関関係が見られることから、居住者を増やすことが賑わい創出のための不可欠の要素である。したがって、2 期計画においても、まちなか居住の推進には引き続き取り組んでいく必要がある。

中心市街地では、下関地区を除いて高齢者の人口割合が 3 割以上となっていることから、人口の自然減少が発生しやすい環境にはあるが、各種市の開催や日常生活に必要な店舗誘致を通じて生活利便を提供し、生活利便低下による高齢者の域外流出を防止するとともに、1 期計画期間において、自然減以外にも若年層、子供同居世帯の流出が進んでいると推測される状況を踏まえ、これらの世帯の居住に適した魅力ある商業空間や子育てしやすい環境などの住環境の創出を引き続き実施していく必要がある。

地価が相対的に低下していることや、居住環境の改善が進んでいることを強みと

して活用し、平成 24 年夏には、分譲マンションと賃貸マンションが完工されることや、平成 23 年 11 月に、高岡サティ跡地にホームセンターと食品スーパーを複合した大規模商業施設がオープンし買物利便性が向上したことを、まちなか居住の起爆剤として、まちなかでの更なる住宅建設を 2 期計画において波及させていくことが求められる。

### ③「中心商店街賑わい創出」に資する事業

#### i) 全体評価

#### ア. 中心商店街(6 地点)における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値

平成 22 年における中心商店街(6 地点)の歩行者・自転車通行量は、基準となる平成 18 年比で 322 人/日(平日・休日平均)増加しており、平成 22 年時点では目標数値に到達していないものの、長期的な減少傾向から歯止めが掛かっている。

地点別にみると、駅地下街および高の宮通りの 2 地点で基準年比約 1 割の減少、末広通り東側および末広坂通りで基準年比約 6%の減少、御旅屋通りが基準年比ほぼ横ばいで推移する中、ウイング・ウイング高岡～御旅屋セリオを結ぶ末広通り西側の通行量が 1.7 倍に増加しており、かつ長期的に増加基調にある。

#### 中心商店街(6 地点)における平日・休日の歩行者・自転車通行量推移

地点	平成 18 年	平成 22 年	増減率
駅地下街	2,620 人	2,327 人	▲11%
末広通り(東側)	1,704 人	1,608 人	▲6%
末広通り(西側)	1,292 人	2,141 人	+66%
高の宮通り	1,013 人	914 人	▲10%
末広坂通り	2,059 人	1,981 人	▲4%
御旅屋通り	2,638 人	2,677 人	+2%
6 地点合計	11,326 人	11,648 人	+3%

他の地点の通行量が増加しないなか、末広通り西側のみが大幅に増加しており、ウイング・ウイング高岡～御旅屋セリオ間の回遊性が高まっていることから、「末広町電停整備事業」、「市営オタヤグリーンパーキング設置事業」、「ウイング・ウイング高岡運営事業」などの 2 地点間の回遊性向上に直結する事業については、歩行者・自転車通行量の増加に大きく貢献したと評価することができる。

また、中心市街地における各種イベント、朝市・夕市・フリーマーケットは、中心市街地の賑わいを創出している要素として評価が高いことや、開業支援を通じ、中心商店街における最大誘因である「買物」「飲食」にかかる店舗数の維持・増加が図られ、中心市街地内の通行量が下支えされている状況から、中心市街地への来街を促進するための機能充実の取り組みについても、歩行者・自転車通行量の維持・増加に貢献していると評価することが可能である。

他方、「末広町地内集合住宅整備事業」や、「第 2 SOHO 事業支援オフィス整備事業」、

「中心市街地におけるオフィス開設支援事業」は未実施または申請がなかったこと、中心市街地内の居住人口が減少していることなど、中心商店街の来街者数自体を直接底上げする事業については、十分な成果が得られなかった。

#### イ. 中心商店街(4商店街)における空き店舗数

1期計画実施後、平成22年10月までに中心商店街(4商店街)の空き店舗数は46店舗から25店舗に減少し、目標値を上回る水準となっており、大きな成果を上げた。

特に、「中心市街地における開業支援事業」により、空き店舗の営業店舗化、既存店舗の空き店舗化防止が図られ、飲食店や若者向けファッション、雑貨店といった新たなジャンルの店舗が開業するなど中心商店街の魅力向上に繋がった。また、高岡商工会議所による「たかおか屋」や、末広開発㈱による「町衆スタジオ」のほか、高岡のものづくりや伝統産業を紹介するクラフトショップ「D.front」、「テクテクたかおか」など、高岡の歴史・伝統・文化が感じられる特徴ある店舗が中心市街地で展開されるなど、開業支援制度によらない店舗・施設の立地が促進されるという波及効果をもたらしている。

また、中心商店街の核施設である御旅屋セリオにおいても、開業支援事業によってテナント入居が促進され、御旅屋セリオの拠点性の維持・向上に貢献している。

#### ii) 主な事業の実施成果

##### ア. 中心商店街(6地点)における平日・休日の歩行者・自転車通行量に寄与する事業

###### ■ウイング・ウイング高岡運営事業

実施時期	平成16年度～【実施中】
事業概要	JR高岡駅前において、公共公益施設・ホテル・飲食・業務による複合施設の運営を行う。
実施成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成16年4月に開設し、1日当たり約3,400人の利用者がある。</li> <li>平成23年の調査では、ウイング・ウイング高岡の利用者のうち、36%が末広通り側の出入り口を利用していることから、中心市街地の回遊拠点として、少なくとも1,200人/日分と、末広通り西側の歩行者通行量の半数以上がウイング・ウイング高岡を起点に生み出されていることになり、中心商店街の歩行者通行量増加に対する貢献度は極めて高い。</li> </ul>

###### ■末広町電停整備事業

実施時期	平成19年度【完了】
事業概要	万葉線の利便向上のため、中心市街地の中心部に新たな電停を整備する
実施成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成20年、および平成21年の調査では1日当たりの利用数は100人程度となっており、利便性が向上した。</li> <li>歩行者通行量調査において、ウイング・ウイング高岡～御旅屋セリオ間を結ぶ主要ルートである末広通り西側の通行量のみが大きく増加していることから通行量増加に寄与した。</li> </ul>

### ■市営オタヤグリーンパーキング設置事業

実施時期	平成 19 年度【完了】
事業概要	第三セクター・オタヤ開発が所有する大型駐車場を市営化することで、中心市街地に立地する他の市営大型駐車場と回数券等の共通化を可能とし、利便性を高める。
実施成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通年運営がなされた平成 20 年度以降、年間 70,000 台以上が利用しており、中心市街への来街に資する施設として機能しており、平成 22 年度は 71,040 台（1 日当たり約 200 台）の利用があった。</li> <li>・ 平成 23 年の来街者調査では、ウイング・ウイング高岡～御旅屋セリオの両拠点間の双方向回遊性は 13.7%であることから、1 台当たり平均乗車人員数に基づく歩行者通行量創出効果は約 100 人と推定され、1 期計画策定当初に見込んだ水準にほぼ近い効果を生み出している。</li> </ul>

### ■駅地下芸文ギャラリー運営事業

実施時期	平成 18 年度～【実施中】
事業概要	JR 高岡駅前地下街において、まちづくり会社・末広開発(株)が運営主体となり、富山大学芸術文化学部と末広開発(株)、市が連携し、大学の教官や学生等が企画・立案した企画展の開催や、高岡発の新商品の展示・販売等を行う。
実施成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年間約 30 回の企画展を開催し、企画内容も、大学生の授業成果の発表や大学教員・生徒をはじめ、地元作家や企業の作品の展示・販売に加え、子ども向けのものづくり体験教室を行うなど、子どもから大人まで様々な人が楽しめる企画を行った。</li> <li>・ これまで地下街では姿の見えなかった大学生などの若者が多く訪れるなど、年間 7,000 人の来場を創出し、地下街の魅力の向上と賑わい創出に効果を上げている。</li> </ul>

### ■中心商店街活性化センター「わろんが」運営事業

実施時期	平成 18 年度～【実施中】
事業概要	主に中高年齢層を対象とした商品の販売や講座、イベントの開催等を行い、中心商店街における賑わい拠点施設を運営する。
実施成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 18 年にオープンし、カフェ機能を持つギャラリーとして、各種作家の展覧会を実施するとともに、地場産品の販売市やソフト事業を展開し、女性客を中心に、来街機会の促進に効果を上げている。</li> <li>・ 本施設の前で運営される「おたや市」等のイベントには多くの来場があり、賑わい創出に寄与している。</li> </ul>

### ■工房「手わざ」運営事業

実施時期	平成 15 年度～【実施中】
------	----------------

事業概要	末広町商店街内で、伝統工芸品の高岡銅器の彫金技術を公開する工房を運営する。
実施成果	・市民意識調査において「伝統的なものづくりの特色を生かしたまちづくりが行われている」との問いに対し、22%が改善されている評価をしていることから、本事業の実施が市民に定着してきており、ものづくりを見て楽しめる街中の施設として成果を上げている。

#### ■まちなかギャラリー事業

実施時期	平成 18 年度～【実施中】
事業概要	末広町通り、御旅屋通りの各商店のショーウィンドウを活用し、国指定伝統的工芸品である高岡銅器・高岡漆器を中心とした作品の展示を行い、ものづくりのまちの雰囲気醸成する。
実施成果	・工房「手わざ」運営事業と同様、市民意識調査において「伝統的なものづくりの特色を生かしたまちづくりが行われている」との問いに対し、22%が改善されている評価をしていることから、本事業の実施が市民に浸透し、成果を上げている。 ・また、各商店に展示された工芸品を見て回り、気に入った工芸品を購入した外国人観光客もいることから、通行量の増加に寄与している。

#### イ. 中心商店街（4 商店街）における空き店舗数の減少に寄与する事業

##### ■中心市街地における開業支援事業

実施時期	平成 19 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地における特徴あるまちづくりを推進するため、地域に応じた業種による開業を支援する。空き店舗を活用する開業者への家賃補助と改装費補助、空き店舗所有者への改装費補助を行い、新規開業を促進する。
実施成果	・この支援制度を活用した中心市街地の開業は 32 件あり、中には和風カフェやネイルサロン、アロマ専門店などの若者向けのおしゃれな店舗も開店している。中心市街地の 4 商店街では、平成 22 年度までに、この支援制度を活用して 8 件が開業し、本事業の実施が空き店舗の店舗化に貢献した。 ・特に、平成 20 年度の開業支援制度の見直しにより、中心商店街での店舗改修補助の対象を新規開業者だけでなく店舗所有者にも拡充したことにより、貸し手に対する改修支援が 6 件あり、制度を活用した新規開業の促進に結びついた。 ・なお、中心商店街の 4 商店街の路面店の空き店舗解消ではないが、本制度により御旅屋セリオにおけるテナント新規開業も 12 件あり、御旅屋セリオの拠点性維持・向上にも大きく貢献している。

## ■ 中心市街地における既存店舗リニューアル支援事業

実施時期	平成 19 年度～【実施中】
事業概要	老朽化が進んでいる既存店舗の改善を図るため、店舗のリニューアルを支援する。
実施成果	・平成 22 年度までに 4 件の利用があり、本事業によって既存店舗の空き店舗化防止に一定の役割を發揮した。

### iii) 2 期計画に向けた課題

#### ア. 中心商店街(6 地点)における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値

通行量による賑わい創出においては、ウイング・ウイング高岡～御旅屋セリオ間の回遊促進のための事業は効果が上がっており、拠点間の回遊性向上に向けた取り組みの有効性・重要性が確認された。したがって、回遊促進に向けた取り組みを継続実施する必要がある。特に、高岡駅の南北を結ぶ南北自由通路が開通したことにより、今後はこれまで十分でなかった駅南北の回遊促進に取り組み、回遊の範囲を広げていくことが重要である。

また、中心市街地への重要な誘引機能として「買物」「飲食」「仕事」といった要因が挙げられる。買物・飲食に関する店舗数については、開業支援制度等の実施により 1 期計画において一定の成果をあげたものの、業務機能（仕事）については十分な成果を上げることができず、通行量増加に結び付かなかった。このため、飲食を含めた店舗数の増加（店舗誘致）に引き続き取り組むとともに、事業所の増加を図るための支援策の拡充に取り組む必要がある。

さらには、中心市街地内の居住者の減少が歩行者通行量の伸び悩みの要因の一つとなっており、まちなか居住の推進に取り組んでいく必要がある。

#### イ. 中心商店街(4 商店街)における空き店舗数

中心市街地において賑わいが感じられるようになるには、来街者数の増加が重要なポイントとなるが、中心商店街における歩行者・自転車通行量と中心商店街の営業店舗数には強い正の相関関係がみられ、店舗数を増やすことが賑わい創出に向けて不可欠の要素である。

1 期計画開始以降、中心商店街では、開業支援事業を活用した飲食店や物販店の開業があり、中心商店街（4 商店街）でも、衣料品店や和風カフェ、ネイルサロンが開店するなど空き店舗数は減少し、開業支援事業を中心にした取り組みに一定の成果があった。一方で、店主の高齢化などによる閉店により商店数は減少したため、市民の意識の中では中心市街地の賑わい創出を感じることはできないといった評価もある。

したがって、2 期計画においては、引き続き開業支援事業に積極的に取り組み、制度の継続・拡充を図りながら、中心商店街での開業意欲を喚起し、空き店舗の減少による中心市街地の賑わい創出を図る必要がある。

## 〔4〕現状分析と課題の整理

### （1）現状分析

中心市街地が置かれている状況、および課題については、1期計画策定当時からそれほど大きく変化してはならず、1期計画と共通する現状認識のもと、これまでの事業実施成果および今後予想される変化を踏まえたうえで2期計画に結び付けていく必要がある。

1期計画と共通する現状認識を整理すると以下のとおりである。

分析項目	内 容
1. 高岡市及び中心市街地の位置づけ	<p>①道路網の整備が進んでいることに加え、富山市や金沢市をはじめ周辺都市との距離は全て50キロ圏内と移動が容易であり、日常の生活圏内として捉えられる。</p> <p>②国道や能越自動車道などが市域を縦横に走り、中心市街地内にあるJR高岡駅を中心にJR、万葉線、バス等の公共交通を中心とした呉西の交通結節点である。</p> <p>③人口の市外転出と車社会の進展に伴い、呉西地域における高岡市の中心市街地が保有する中心性は、希薄化の傾向にある。</p> <p>④高岡市全域より高齢化率が高く、また、若年層や子育て世帯の流出により、人口は一貫して減少している。</p> <p>⑤全市および中心市街地の双方において、比較的立地の多い製造業を含めて全産業の事業所数が減少傾向にあり、特に中心市街地では減少が著しい。</p>
2. 歴史文化資産の活用	<p>①県内唯一の国宝・瑞龍寺をはじめ、文化財保護法に基づく指定文化財等の歴史・文化資産の観光資源が数多く集積している。</p> <p>②市民意識調査では、中心市街地の現状として歴史・文化資産を生かしたまちづくりに対し高い評価を得ている。</p> <p>③1期計画により、観光地としての知名度やイメージは向上しているが、観光拠点相互の連携による回遊性向上の仕掛け、滞在時間を延長する仕掛け（例：飲食店、土産店の立寄り場所の集積）が十分ではなく、歴史・文化が多数集積する強みが十分に発揮されていない。</p>
3. 市街地の整備改善	<p>①高岡市の中心市街地は、昭和30年代から50年代にかけて大規模な都市基盤整備事業が実施され、現在の中心市街地が形作られていった。その後、平成以降に、中心市街地の域内で4つの再開発事業により拠点整備が行われた。</p> <p>②昭和の時代に整備された防災街区等の施設は老朽化し、その後、景気の停滞等の問題等から、まちの新陳代謝が進んでいない状況である。</p>

4. 都市福利施設の向上	① 中心市街地には、小規模な行政サービス機関、医療機関のほか、高岡古城公園やウイング・ウイング高岡、子育て支援センターなどの拠点性の高い市民の憩い・学習の場が整っており、中心市街地において一定水準のサービスは提供されている。
5. まちなか居住の推進	① 中心市街地の空き地、空き家は増加傾向であり、人口減少も引き続き進んでいる。 ② 現在、まちなかに居住している者は、まちなかでの生活を住みよいと感じている人が多く、できればまちなかでの居住を続けたいという意向もあわせ持っている。 ③ 空き地や空き家が点在し、まとまった土地を確保できないため、宅地開発が進まない。
6. 高齢化社会への対応	① 中心市街地では、全市の傾向と比べて高齢化が進展しており、今後も全市を上回るペースでの人口減少が予想され、活力の低下が懸念される。
7. 中心商店街の活性化	① 商店数、年間販売額など、商業活動を示すすべての指標において中心市街地（商業集積）の占める割合は減少している。 ② あわせて、事業所数・従業者数も減少しており、昼間人口の減少に繋がっている。 ③ 中心商店街は、買回り品を中心に高岡市全域を週末商圈としているが、そのウェイトは年々低下している。 ④ ウイング・ウイング高岡は、1日あたり約3,400人が来館している。来館者は、それまで中心市街地への来街機会が減少してきた10代から30代の若年層がかなりの割合を占めており、来街機会の創出に大きく寄与している。御旅屋セリオをはじめ中心商店街の主要顧客層が比較的高齢者であり、両者の顧客層が異なることから、来街者アンケートからもウイング・ウイング高岡来館者の中心商店街（4商店街）への回遊率は約20%程度となっているが、歩行者通行量を見る限り、回遊性は高まっていると判断できる。 ⑤ 小売業の年間販売額が減少するなど中心商店街における賑わいが薄らいでいくなか、商業者は、経費削減や在庫圧縮に努めながら営業の維持存続に向けた努力している。一方で、営業期間の比較的短い店舗については、品揃えの充実や仕入先の開拓など事業意欲の高い商業者が多い。 ⑥ 市民意識調査では、中心市街地における商業環境、商業景観が悪化しているとする指摘が特に多く、商業機能の改善、回復が強く求められている。
8. まちづくり会社の役割	① まちづくり会社を担う末広開発(株)は、主にイベントを中心とした商店街の賑わいづくりに寄与している。主催事業と協賛事業をあわせると、ほぼ毎週、中心市街地における大小さまざまな

	<p>イベントを開催（参加）している。</p> <p>②その他、ミニ拠点の管理運営など、まちの顔づくりに向けた活動をはじめ、空き店舗における入居希望者と大家とのマッチング、ホームページ等による情報発信、各種共同販促事業の開催など、幅広い活動を行っている。</p> <p>③このような活動実績により、まちづくり会社に対する中心商店街の信頼は厚く、まちづくり会社が主体となった多面的なまちづくり活動を一層推進することが必要である。</p> <p>④中心市街地でのイベント開催は、事業手法を工夫することにより回遊性が向上することを概ね実証している。</p>
<p><b>9. 公共交通機関の利便性の増進</b></p>	<p>①公共交通の利用者は、万葉線を除き、減少傾向にあるが、JR高岡駅周辺は現在も1日あたり10,000人を超える人の交通・交流結節拠点として重要な役割を担っている。</p> <p>②平成26年度の北陸新幹線の金沢駅までの開業に伴い、現在の高岡駅は生活者のための駅及び交通結節点としての機能が特化される。</p>

## (2) 課題の整理

### ①歴史・文化資産の保存と活用

高岡が開町以来、長い歴史の中で守り育んできた瑞龍寺、山町筋、前田利長墓所、高岡古城公園、金屋町といった貴重な歴史・文化資産の保存と観光資源としての機能充実を図るとともに、これらをトータル的に活用し、市民はもとより観光客が観光地を回遊するような取り組みが必要である。

また、全国で5件しかない重要有形・無形民俗文化財を併せ持った高岡御車山祭の魅力をもっと発信する高岡御車山展示館の建設など、観光地の魅力向上の核となる施設の整備を図るとともに、国の認定を受けた高岡市歴史的風致維持向上計画と一体となった歴史都市高岡を創出する取り組みが必要である。

### ②住環境の整備によるまちなか居住の推進

中心市街地は、コミュニティバス、万葉線などの公共交通機関やウイング・ウイング高岡、子育て支援センター等の都市福利施設が集積しているほか、高岡古城公園という大きな憩いの場所があり、便利で快適な日常生活を営めることができる地域である。

こうした既存インフラを生かし、少子・高齢化社会の進展に対応した過度に車に依存しない都市を実現していくために、徒歩・自転車・公共交通機関を利用して容易に買い物や医療・福祉などの生活支援サービスが享受できる居住環境の向上や民間活力を活用して共同住宅等の整備促進を通じたまちなか居住の推進を図っていく必要がある。

また、中心市街地では、町家が密集していることや道路が狭隘なことなどから、中心市街地の土地利用を見直し、密集地域の防災性の確保に取り組むとともに、街区単

位の小規模開発による商業・文化・居住基盤の整備を進めるなど、安全・安心で居心地の良い居住環境の整備を図る必要がある。

### ③中心商店街の賑わいの創出

中心商店街を大勢の来街者が訪れ、賑わいを取り戻すことが喫緊の課題である。

このため、まちづくり会社や中心市街地活性化協議会が中心となって、魅力ある店舗の誘致や開業者（出店希望者）と空き店舗大家のマッチングを誘導しつつ、開業支援施策を積極的に展開し空き店舗の解消を図り、商業機能および業務機能を回復させていく必要がある。

また、ウイング・ウイング高岡や御旅屋セリオなどまちなかの賑わい拠点施設の特長を活かしながら、中心商店街が主体となり積極的な参画を得て、まちなかを歩いて楽しめる仕掛けづくりを構築し、商店街の顔づくりのための事業に取り組むほか、地場産業（農業も含む）と連携するなど、高岡固有の地域資源を活用した取り組みを積極的に推進し、中心商店街の賑わい創出と魅力向上に努めていく必要がある。

さらには、万葉線等の公共交通の利便性の維持・向上を図るほか、アクセス向上のための道路・歩道整備などの交通基盤整備に取り組む必要がある。

## 〔5〕計画の基本方針

1期計画の成果から、本市中心市街地の現状分析と課題を踏まえて、以下のとおりスローガン及び基本方針を定める。

### （1）スローガン

高岡の開町以来 400 年の歴史・文化資産を生かし、現代的な都市機能に満たされた居心地の良さと賑わいを創出し、それらが調和よく織り合わさった高岡の地域特性を活かしたまちづくりに取り組むことで、誰もが憧れを持って住みたいまち、行きたいまちを実感できる光り輝くまちなかを創生するため、市民が共感できるスローガンを次のとおり定める。

**【スローガン】 光り輝くまちなかの創生**

～ 400年の資産を守り、育み、繋ぐ ～

### （2）基本方針

#### ①世界に誇れる歴史・文化を生かしたまちづくり

中心市街地には開町以来、長い歴史の中で守り育んできた瑞龍寺、山町筋、前田利長墓所、高岡古城公園、金屋町といった貴重な歴史・文化資産が保存・継承されている。

富山県内において、都市性と歴史性の双方を内包する都市は他にはないことから、国の認定を受けた高岡市歴史的風致維持向上計画と一体となり、本市の優れた歴史・文化資産の保存と調査に努めるとともに、核となる施設の整備や文化財周辺の景観整備、市民意識の醸成、観光資源としての活用を図り、観光客がまちなかを回遊する仕

組みを構築する。

## ②便利で住みよく快適なまちづくり

中心市街地には、都市福利施設や公共交通網が集まっており、利便性の高いまちが形成されている。また、高岡御車山祭をはじめとした数多くの伝統行事が残されており、それらを保存・継承していくことが、地域アイデンティティを確立していくために有効である。一方で、早期にまちが形成され、非震災都市であるが故のマイナス面（例：老朽化した建築物や狭隘な道路など）もあることも認識されており、それが、郊外への転出要因となっている。

そのためにも、マイナス要因を改善するとともに、プラス要因の更なる充実により、まちなかの快適な居住環境の充実を推進する。

## ③活力と賑わいあふれるまちづくり

消費者の購買行動の変遷により商業活動の中心は、郊外の大型店へと移り、また、車社会やITの進展とあいまって、事業所等の転出も多く、従来の呉西地域の拠点都市としての位置づけは薄くなっている。

平成26年度に、北陸新幹線が金沢まで開業することを契機に、飛越能86万人の玄関口として、魅力あふれるまちづくりを進めることが重要である。

商業環境においても高岡市の中心市街地でしか体験できない独自性の高いまちづくりに取り組むことが必要である。

そのためには、万葉線など公共交通の利便性向上を図りつつ、豊富な地域資源を活用することにより、商業者・商店街の魅力や活力を引き出すとともに、来街者が多く訪れ、まちなかを楽しく歩く仕組みづくりに取り組み、まちなかに賑わいを創出する。

現状分析・課題から導き出される基本方針の体系

《 現 状 分 析 》

《 課 題 》

《 基 本 方 針 》

高岡市及び中心市街地の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富山市、金沢市は日常的生活圏内</li> <li>・呉西の交通結節点・中心市街地の中心性希薄化</li> <li>・高齢化の著しい進展や若年層、子育て世帯の流出</li> <li>・全産業の事業所数減少</li> </ul>
歴史・文化資産の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定文化財等が多数集積</li> <li>・歴史・文化資産を生かしたまちづくりへの期待度</li> <li>・観光地間の回遊性が弱く、滞在時間が短い</li> </ul>
市街地の整備改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・域内で4つの再開発事業により拠点整備</li> <li>・防災街区等の施設の老朽化とリニューアルの困難さ</li> </ul>
都市福祉施設の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウイング・ウイング高岡や子育て支援センターなど、比較的都市福祉施設が充足しており一定水準のサービスは提供</li> </ul>
まちなか居住の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き地・空き家が増加、人口減少の進展</li> <li>・まちなか居住者の高い満足度</li> <li>・空き地・空き家の点在による、宅地開発の阻害</li> </ul>
高齢化社会への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化に拍車がかかることへの懸念</li> <li>・高齢者にとって安全で暮らしやすいまちなかへの期待</li> </ul>
中心商店街の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商業活動を表す指標はそのほとんどがマイナス</li> <li>・中心商店街の拠点施設来街者のまちなかへの回遊性の期待</li> </ul>
まちづくり会社の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・賑わい創出事業の開催や開業促進など、中心市街地の活性化への幅広い活動の実施</li> <li>・より一層の活動促進と創意工夫</li> </ul>
公共交通機関の利便性増進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・万葉線を除けば総じて減少傾向</li> <li>・北陸新幹線開業後、高岡駅は生活者のための機能に特化</li> </ul>

**歴史・文化資産の保存と活用**

- ・歴史・文化資産をトータル的に活用し観光客が中心市街地や観光地を回遊する仕組みづくりの必要性
- ・観光地の魅力向上に繋がる核となる施設の整備とともに、高岡市歴史的風致維持向上計画と一体となった歴史都市高岡を創出する取り組みの必要

**住環境の整備によるまちなか居住の推進**

- ・子育て世帯や高齢者に考慮した安全で快適なまちなか居住を推進するため、公共交通機関や歩行空間の整備や各種市の開催などの買物機能の充実の必要性
- ・密集した町家や狭隘な道路の整備に向けた土地利用の見直しや、安全で安心な居住地を創出する必要性

**中心商店街の賑わいの創出**

- ・まちづくり会社に関わり、商店街の魅力が向上する店舗誘致による空き店舗の解消を図る取り組みの必要
- ・商店街などと連携を進め、地域資源を活かしたイベント開催や歩いて楽しめるまちづくりなどの創意工夫の必要
- ・事業所の誘致を進め、昼間人口の増加を図る必要性

世界に誇れる歴史・文化を生かしたまちづくり

便利で住みよく快適なまちづくり

活力と賑わいあふれるまちづくり

## 2. 中心市街地の位置及び区域

### [1] 位置

#### 位置設定の考え方

前述の「1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針〔2〕高岡市中心市街地の状況」で詳細に掲げたとおり、JR高岡駅を中心に広がる市街地は、まさに「高岡市の顔」と呼べる場所である。

過去、高岡市総合計画、高岡市都市計画マスタープランなどいずれの上位計画や関連計画においても、常にこの地域が中心市街地と位置づけられてきた。この地域を除いて高岡市の中心市街地と呼べる地域はなく、1期計画から引き続き、2期計画の中心市街地と位置付ける。

#### (位置図)



[再掲]

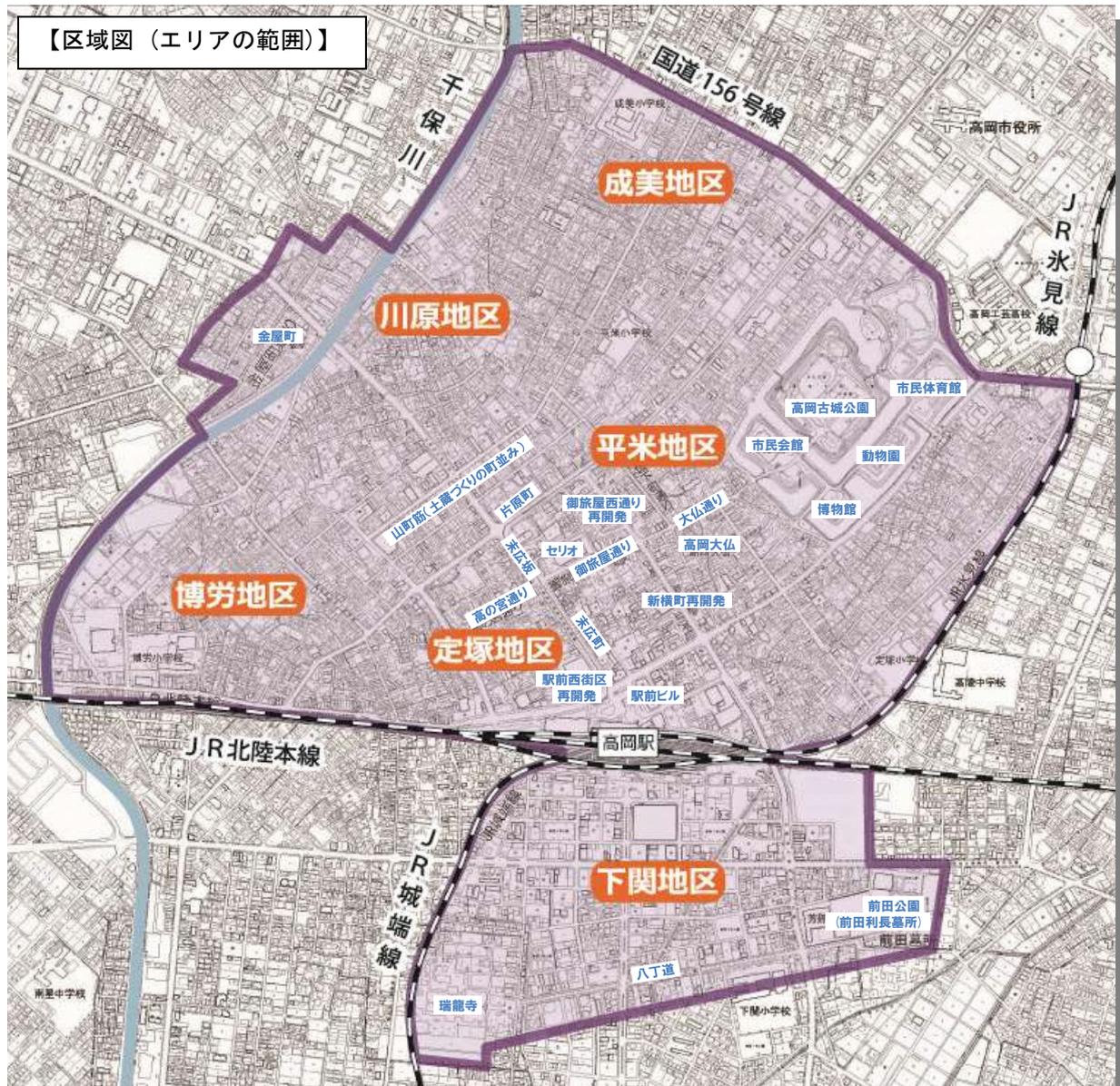
## [2] 区域

### 区域設定の考え方

#### (1) 区域（エリア）

2期計画において中心市街地活性化に向けた各種事業を実施する対象範囲として、1期計画に引き続き、平米、定塚、下関、博労、川原、成美の6地区と金屋町で構成する下図のエリアを設定する。

面積は約340haで、東西約2.5km、南北約2.5kmの正方形に全体が収まるサイズである。



(注) 対象エリアの境界は、左の概略図のとおり、各校下ごとの境界ではなく、主要な鉄道線路、道路、河川で構成する。

校下境界概略図



境 界	
北西側	千保川 (但し金屋町含む)
北東側	国道 156 号および主要地方道富山・高岡線 (都市計画道路名：四屋野村線)
南西側	J R 北陸本線と J R 城端線を境界とし、国宝瑞龍寺まで
南東側	J R 氷見線と J R 北陸本線を境界とし、駅南側はホームセンタームサシ高岡駅南店と前田公園 (前田利長墓所) を含めた区域
南 側	瑞龍寺から八丁道沿道の準防火地域境界線に前田公園 (前田利長墓所) まで
面 積	約 3 4 0 h a

## (2) 中心市街地の範囲の考え方

2期計画においても、引き続き中心商店街を含めた中心市街地全体の活性化を目指すことから、その要素となる商業・業務機能、歴史・文化資源、居住環境、公共交通、都市福利施設等、すべての要素が勘案できる最小限の範囲を中心市街地と定めることが適当であり、1期計画における中心市街地の範囲を維持する。

対象エリア設定の視点は以下に示すとおりである。

### ①歴史・文化資産からの視点

高岡城跡 (高岡古城公園)、金屋町 (高岡鋳物発祥の地、千本格子の町並み)、山町筋 (重要伝統的建造物群保存地区)、瑞龍寺、前田利長墓所を配し八丁道で結ぶこの範囲が高岡の町立ての基本であり、慶長 14 年 (1609) の開町以降の歴史と文化を最も色濃く残し、それを感じることでできる地域である。

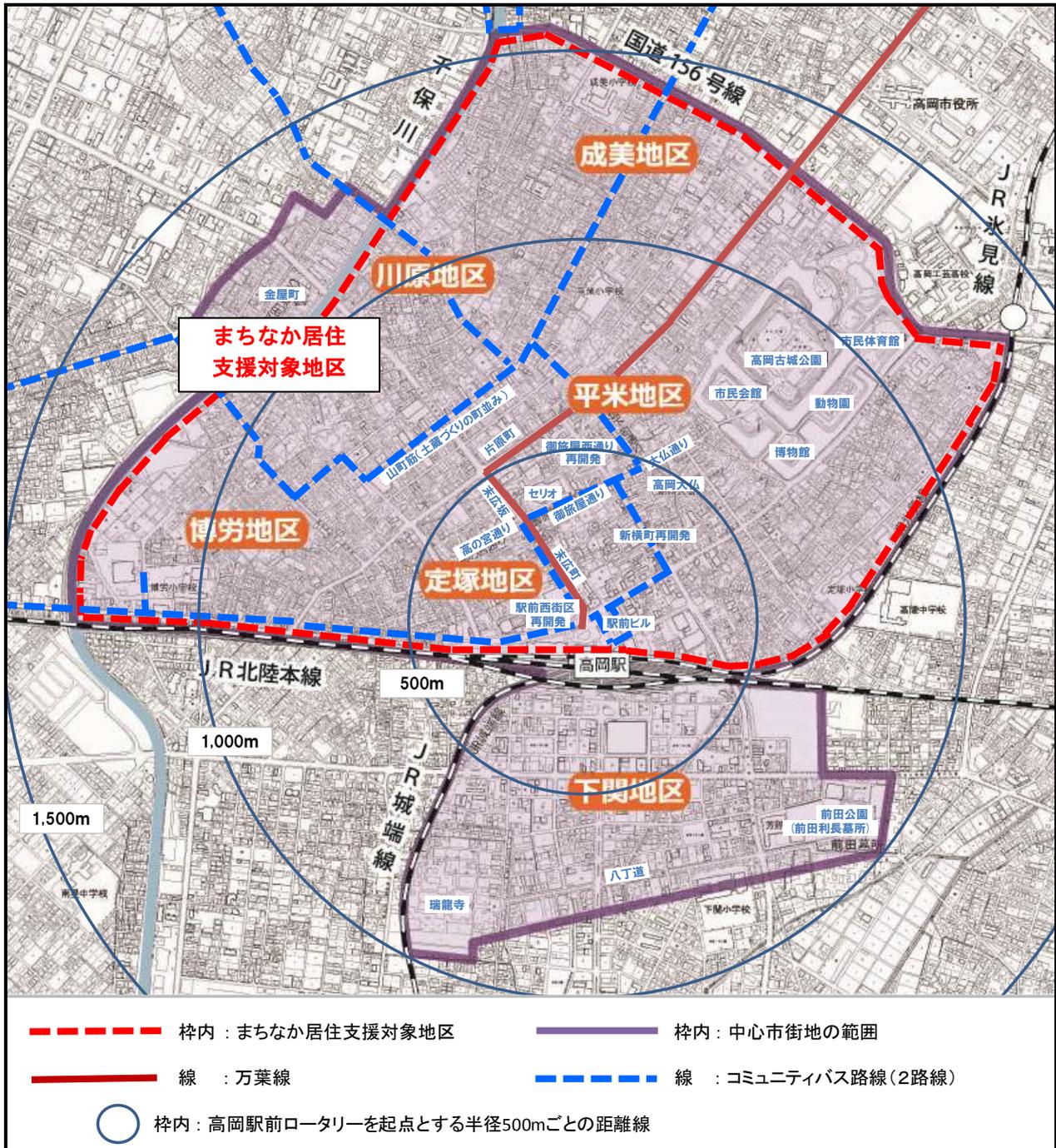
金屋町が当時の城下町から見て千保川を挟んだ対岸に位置しているのは、火気を使用する地域であるため開町当時の町立てにより計画的に対岸に配置されたものであり、高岡鋳物発祥の地として高岡の「ものづくり」の文化を代表する地域であること、明治期の千本格子の町並みが残り、観光資源としても市内を代表する文化遺産が保存されていること、都市計画道路高岡駅佐加野線やコミュニティバス等が整備されていることから交通の便もよく、J R 高岡駅周辺に位置する他の文化遺産との連携が比較的容易であること等の理由により、回遊性を図る上でも、瑞龍寺から金屋町までを一体として取り扱うことが中心市街地の活性化に効果的である。

(3 ページ参照)

### ②まちなか居住推進策からの視点

本市では、平成 19 年度から、世帯数及び居住人口の減少が著しい地区を「まちなか居住支援事業」の対象地区に指定し、まちなか居住の促進を図っているところである。対象地区は、J R 高岡駅北側の約 263ha であり、この範囲には、中心商店街はもとより、徒歩・自転車・公共交通利用による中心商店街への買い物志向の強い範囲であることから、対象地区をすべて中心市街地の範囲に含めることは中心市街地の活性化に効果的である。

金屋町と高岡駅南側は、まちなか居住支援の対象地区には含まれていないものの、金屋町は明治期の千本格子の町並みが残り、町家による優れた都市景観が形成されている地域として、下関地区は、過去の区画整理事業とともに駅至近という好立地条件等もあいまって、民間主導によるアパート、マンション等の集合住宅の建設が進んでおり、都市型居住が進んでいる地域としてまちなか居住推進の観点からも中心市街地の範囲に含める意義がある地区となる。



[3] 中心市街地要件に適合していることの説明

要件	説明			
<p><b>第1号要件</b> 当該市街地に、相当数の小売商業者が集積し、及び都市機能が相当程度集積しており、その存在している市町村の中心としての役割を果たしている市街地であること</p>	<p><b>①小売業の集積</b> 中心市街地の商業集積を見た場合、高岡市全体の小売業のうち、店舗数で17.9%、従業者数で13.8%、年間商品販売額で11.8%、売場面積で17.5%が中心市街地内に集積しており、高い集積率となっている。</p>			
		中心市街地(商業集積) (A)	高岡市全体 (B)	割合 (A/B)
	店舗数	414店舗	2,318店舗	17.9%
	従業者数	1,780人	12,924人	13.8%
	年間商品販売額	261.7億円	2,221億円	11.8%
	売場面積	58,444㎡	334,574㎡	17.5%
	<p>出典：経済産業省「商業統計調査」(平成19年) (注) 中心市街地は、上記統計の立地環境特性格集計に掲載されている中心市街地内に立地する商業集積の合計 (参考) 3.4k㎡(中心市街地エリア) / 209.42k㎡(高岡市行政区域面積) = 1.6%</p>			
	<p><b>②事業所(全業種)の集積</b> 事業所(全業種)のうち、22.3%の事業所が中心市街地に集積しているほか、従業者数の14.3%を有しており、高い集積率となっている。</p>			
		中心市街地 (A)	高岡市全体 (B)	割合 (A/B)
	事業所数	2,369事業所	10,646事業所	22.3%
従業者数	13,409人	93,885人	14.3%	
<p>出典：総務省「経済センサス基礎調査」(平成21年) (注) 中心市街地内に属する全町丁の合計</p>				
<p><b>③都市機能の集積</b> 現在も次表に掲げる多くの公共公益施設の集積があり、特にウイング・ウイング高岡と高岡古城公園内の諸施設は、市民はもとより富山県西部地区の様々な文化・教養活動を支える拠点施設として多くの利用者がある。</p>				

中心市街地に立地する主な都市機能施設

施設名	所在地	
市関係施設	1 高岡市急患医療センター	高岡市本丸町7-1(本丸会館内)
	2 高岡市保健センター	高岡市本丸町7-25
	3 高岡市ふれあい福祉センター	高岡市博労本町4-1
	4 高岡市ボランティアセンター	高岡市博労本町4-1
	5 高岡市シルバー人材センター	高岡市博労本町4-1
	6 高岡子育て支援センター	高岡市御旅屋101(御旅屋セリオ8階)
	7 高岡市教育センター	高岡市京町11-43
	8 高岡市少年育成センター	高岡市京町11-43
	9 高岡市立中央図書館	高岡市末広町1-7(ウイング・ウイング高岡内)
	10 高岡市生涯学習センター	高岡市末広町1-7(ウイング・ウイング高岡内)
	11 高岡市男女平等推進センター	高岡市末広町1-7(ウイング・ウイング高岡内)
	12 高岡市立博物館	高岡市古城1-5
	13 土蔵造りのまち資料館	高岡市小馬出町26
	14 鑄物資料館	高岡市金屋町1-5
	15 高岡市民会館	高岡市古城1-3
	16 高岡市民体育館	高岡市古城1-8
	17 高岡市前田庭球場	高岡市関73
	18 高岡市弓道場	高岡市古城1-1
	19 古城公園管理事務所	高岡市古城1-6
	20 古城公園動物園	高岡市古城1-6
	21 高岡市国際交流センター	高岡市御旅屋101(御旅屋セリオ7階)
	22 高岡市オタヤ市民サービスコーナー	高岡市御旅屋101(御旅屋セリオ7階)
	23 高岡市観光協会	高岡市御旅屋101(御旅屋セリオ7階)
	24 SOHO事業者支援オフィス	高岡市御旅屋町1222-2(エルパセオ地階)
	25 高岡市中心商店街活性化センター	高岡市御旅屋町90-4
県関係施設	26 高岡児童相談所	高岡市本丸町12-12
	27 消費生活センター高岡支所	高岡市本丸町7-1(本丸会館内)
	28 高岡武道館	高岡市関72
	29 富山県旅券センター高岡支所	高岡市御旅屋101(御旅屋セリオ7階)
	30 高岡運転免許更新センター	高岡市駅南四丁目1-22
国関係施設	31 高岡税務署	高岡市博労本町5-30
	32 高岡パートバンク	高岡市御旅屋町1222-2(エルパセオ1階)
	33 富山地方検察庁高岡支部	高岡市中川本町10-21
	34 富山地方裁判所高岡支部	高岡市中川本町10-6
	35 富山家庭裁判所高岡支部	高岡市中川本町10-6
	36 高岡簡易裁判所	高岡市中川本町10-6
その他公的機関	37 高岡商工会議所	高岡市丸の内1-40
	38 高岡郵便局	高岡市御馬出町34

④まとめ

中心市街地の面積(約340 ha)は、高岡市全体の面積(20,942 ha)の1.6%で、市全体の市街化区域の面積(3,627 ha)と比較しても、9.4%に過ぎない。

この狭い範囲内において、商業・業務機能が集積しているほか、様々な市民活動を支える公共施設、さらには、広域的な都市福利施設も有しているなど、高岡市はもとより富山県西部地域の中心的な役割を担っている地域である。

## 第2号要件

当該市街地の土地利用及び商業活動の状況等からみて、機能的な都市活動の確保又は経済活力の維持に支障を生じ、又は生ずるおそれがあると認められる市街地であること

### ①小売業集積、事業所集積の状況

小売業集積、事業所集積は約10年前と比較して全ての指標において減少傾向が続いている。1期計画の実施により、ここ数年は小売業売り場面積を除き、下げ止まりの傾向を見せているものの、継続的な活性化策が講じられなければ、減少トレンドが再び加速する懸念がある。

その場合、地域経済の中心としての役割が一層低下するだけでなく、市街地としての集積も低下することによって、経済活力の一層の低下は避けられない。

中心市街地における小売業の推移

	平成14年	平成16年	平成19年
商店数(店)	503	439	414
増減率	-	-12.7%	-5.7%
従業者数(人)	2,186	1,896	1,780
増減率	-	-13.3%	-6.1%
年間販売額(百万円)	34,168	28,646	26,174
増減率	-	-16.2%	-8.6%
売場面積(m <sup>2</sup> )	68,495	68,017	58,444
増減率	-	-0.7%	-14.1%

出典：経済産業省「商業統計」(立地環境特性格集計)

(注) 中心市街地は、上記統計の立地環境特性格集計に掲載されている中心市街地内に立地する商業集積の合計

中心市街地における事業所数の推移

	平成13年	平成18年	平成21年
事業所数(事業所)	2,908	2,545	2,369
増減率	-	-12.5%	-6.9%
従業者数(人)	15,827	14,426	13,409
増減率	-	-8.9%	-7.0%

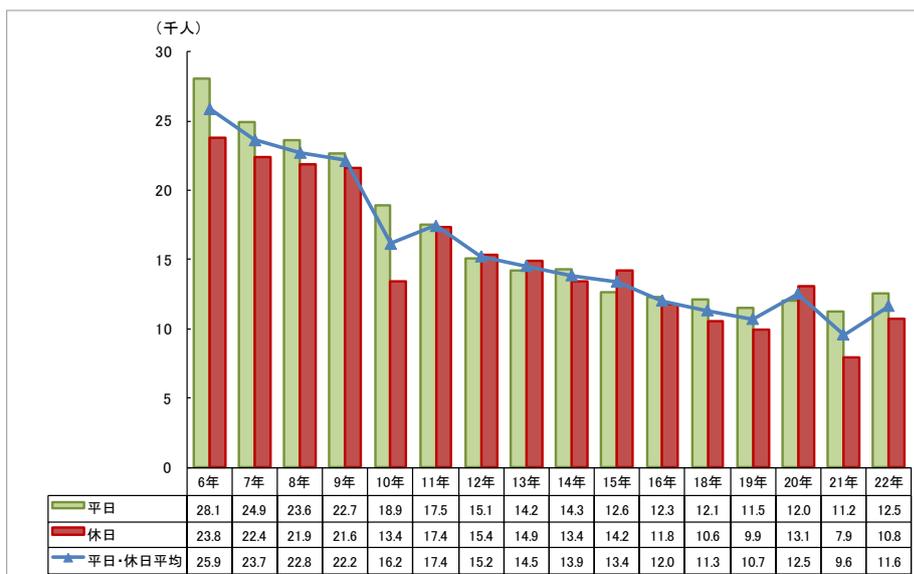
出典：総務省「事業所・企業統計」(13~18年)「経済センサス基礎調査」(21年)

### ②歩行者・自転車通行量の現状

歩行者・自転車通行量は、平成6年の調査開始以来、毎年減少傾向が続いており、特に、平日の減少率が高い状況である。平成15年以降は、平日の通行量が下げ止まっているものの、休日の通行量はその後大きく減少した。

1期計画以降は、休日の通行量についても下げ止まりの傾向を見せているが、継続的な活性化策が講じられなければ再び減少トレンドが加速し、中心商店街が疲弊するとともに、商店街衰退に伴う景観の悪化によって中心市街地の活力が大きく損なわれることが懸念される。

### 中心商店街（6地点）における歩行者・自転車通行量の推移

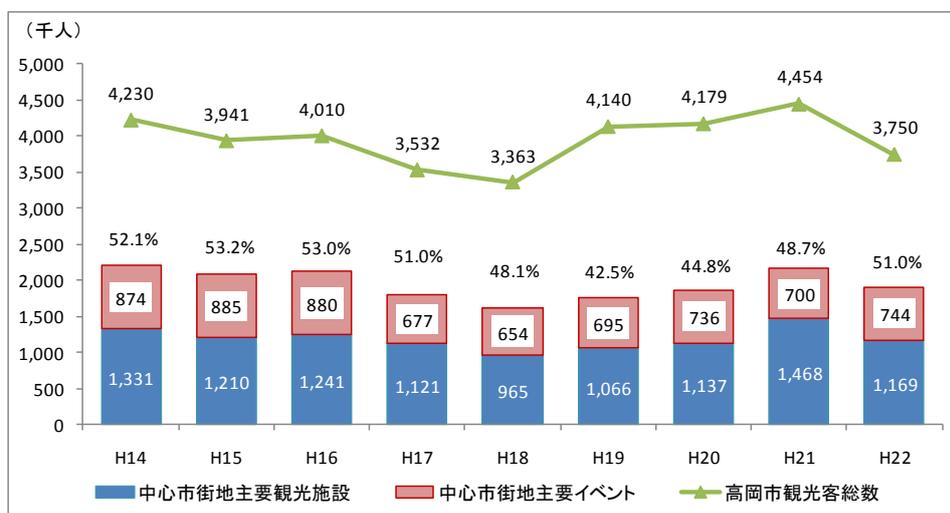


出典：高岡市商業観光課「歩行者・自転車通行量調査」

### ③観光客の状況

1期計画における各種事業の実施により、中心市街地の観光客入込数は増加トレンドを描くようになったものの、継続的な対策が講じられなければ再び下降トレンドとなることも十分に予想される。

#### 中心市街地主要観光施設入込数、主要イベント入込数の推移



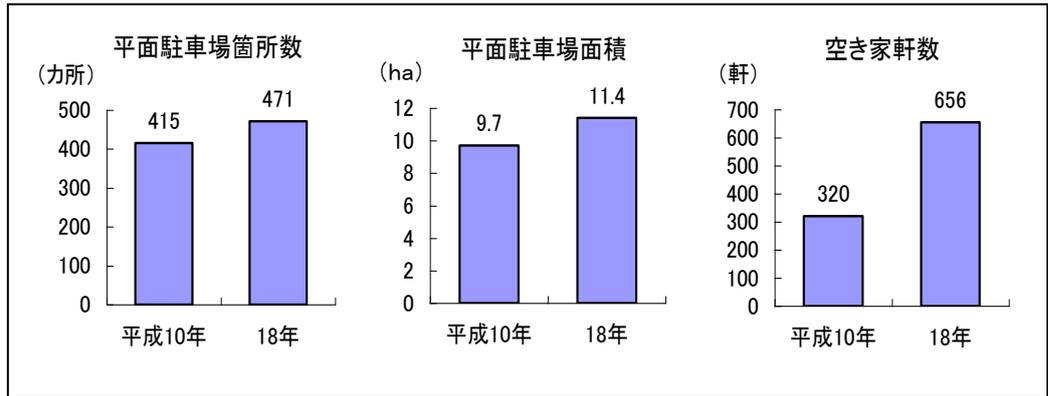
出典：高岡市商業観光課

### ④平面駐車場・空き家の状況

中心市街地のうち、駅南地区と金屋町、金屋本町を除いた地域（まちなか居住支援対象地区）の平面駐車場・空き家の状況を見た場合、駐車場の利用状況では、平成10年と比較して平成18年には平面駐車場の箇所数が56箇所、面積で1.7haとそれぞれ増加している。

また、平成18年の空き家は656軒となり、平成10年の2倍以上となっている。

まちなか居住支援対象地区における駐車場・空き家の状況



出典：H18 高岡市建築住宅課調査

(注) まちなか居住支援対象地区は、JR高岡駅北側で、南はJR北陸本線、東はJR氷見線、北は県道富山高岡線及び国道156号線、西～北は千保川に囲まれた範囲。中心市街地エリアのうち下関校下、金屋町、金屋本町を含まない。

平成18年以降、中心市街地の土地利用状況に関する調査は実施していないが、全市トレンドと比較して居住人口が急速に減少している状況に照らせば、現在は利用密度の低下はよりいっそう進んでいるものと推察される。

平成18年以降の中心市街地

	まちなか居住地区人口 (人)	まちなか居住地区世帯数 (世帯)
平成18年3月	15,338	5,912
平成23年3月	13,786	5,735
増減率	-10.1%	-3.0%

出典：住民基本台帳

⑤まとめ

中心市街地では、土地の利用密度が低下しているほか、商業機能および業務機能集積も低下が進んでおり、都市機能の低下が認められる。

1期計画後は歩行者・自転車通行量、観光客入込み数などの交流機能については歯止めがかかっているものの、継続的な活性化対策が講じられない場合は、再び機能低下が始まる可能性が大きく、高岡市さらには富山県西部地域の経済的活力維持に支障を及ぼす可能性がある。

### 第3号要件

当該市街地における都市機能の増進及び経済活力の向上と総合的かつ一体的に推進することが、当該市街地の存在する市町村及びその周辺の地域の発展にとって有効かつ適切であると認められること

#### ①高岡市総合計画との関係

平成19年6月に策定した「高岡市総合計画基本構想」で、高岡市の重点課題の1つとして「交流の時代のまちづくり」を掲げている。その内容として、中心市街地や地場産業・伝統産業の活性化、万葉と前田家ゆかりの歴史文化、ものづくりの技など高岡の持つ魅力に磨きをかけていくこと等により交流の拡大を促進し、まちづくり・人づくりの好循環を生み出して高岡を大きく飛躍させていくこととしている。

中心市街地については、観光客が回遊しやすくなるような環境の整備、まちなか居住の推進、公共交通及び商店街の活性化を図ることによって充実した生活空間を形成することとしている。

また、平成24年度からスタートする「高岡市総合計画第2次基本計画」では、開町400年を経て、今後の新たな100年のまちづくりに向けた取り組みとして「高岡新世紀創造プロジェクト」を掲げ、東海北陸自動車道と北陸新幹線が交差する結節点に位置する地理的優位性を生かし、高岡市の魅力を高めるとともに、周辺地域との連携を通じて飛越圏域、さらには環日本海沿岸における拠点性の確立を目指して地域の様々な主体の協働によって取り組んでいくこととしており、そのための重要な取り組みとして「市街地のにぎわいづくり」を位置付けている。

#### 高岡市総合計画基本構想（抜粋）

（略）

#### ②中心市街地活性化の推進

富山県西部地域の中核都市として、高岡駅周辺に広がる本市の中心市街地の活性化を推進するため、高岡市中心市街地活性化基本計画に基づき、高岡の歴史・文化・伝統・ものづくりを感じることでできるまちづくりに努めます。

まちなか居住の推進や公共交通の活性化、道路整備を進めるとともに、公共公益施設の拡充を図りながら、働く場所の確保や魅力ある商業空間の創出に努めます。特に、中心商店街においては、高岡らしい特色ある商店街づくりを進めるため、再開発事業により整備された各拠点施設の機能強化を支援するとともに、空き店舗対策や商業施設の再編等に積極的に取り組み、市民が歩いて買い物を楽しみ、観光客にも魅力ある商店街づくりを進めます。

そのため、旧TMOをはじめ、まちづくり活動に参画する個人、企業、団体等からなる高岡市中心市街地活性化協議会の活動を支援し、住みやすく、暮らしやすい高岡ならではのまちづくりの実現に努めます。

（略）

## 高岡新世紀創造プロジェクト（抜粋）

（略）

### 〔市街地のにぎわいづくり〕

市民や観光客が歩いて楽しめるまちとして、通りや商店街を歴史・文化や水辺などの魅力を活かして整備し、市街地のにぎわいを創出します。

- ④高岡駅南北自由通路設置による駅周辺の一体的発展を踏まえ、駅直近部やそれに連なる中心市街地において民間活力も導入しながら再整備を進めます。
- ⑤中心市街地活性化基本計画などによる取組みを行うとともに、高岡駅・新幹線新駅周辺の整備を進め、新幹線新駅から中心市街地に至る一体的なにぎわいづくりを推進します。
- ⑥市民や観光客がまちなかを回遊する仕組みづくりのため、ストリートプログラム※を通して、歴史・文化をテーマに通りを整備します。  
※「歩いて巡るまちづくり」を進めるため、通りの特徴や歴史的背景、景観等を活かしたビジョンの形成に向けた取組み。
- ⑦それぞれの「まち」にふさわしいにぎわいを創出するため、市民や事業者が協働して取り組む「テーマ性」を持ったまちづくりやイベントを展開します。

（略）

## ②高岡市都市計画マスタープランとの関係

平成17年3月に策定された「高岡市都市計画マスタープラン」では、「にぎわいと活気のある都市づくり」「交通利便性の高い交流の都市づくり」「安全で安心して快適に暮らせる都市づくり」「自然・歴史・文化を生かした都市づくり」を都市づくりの目標とし、その中で中心市街地の活性化を図ることとしている。

中心市街地については、歴史・文化資産の保全などに配慮した居住環境の改善、賑わい創出のための活動を展開し、住みたくなる、行きたくなる街の構築を図ることとしている。

## 高岡市都市計画マスタープラン（抜粋）

（略）

### ①中心市街地

中心市街地については、歴史的な街並みや建造物の保全などに配慮し居住環境の改善を図り、にぎわい創出のための様々な活動を展開し、住みたくなる、行きたくなる街としての魅力・求心力を再構築する。

公共交通体系の充実やバリアフリー化を促進するとともに、道路の無電柱化、公園緑地、街路樹などのおいある都市環境を創出し、高齢者をはじめ人にやさしいまちづくりを進め都心居住の推進を図る。

商業業務機能等の強化、生涯学習施設を活用した様々な文化・交流機能などの都市機能の導入により、にぎわいと魅力ある都心空間の形成を図るため、都市基盤施設の整備を推進する。

特に、J R高岡駅周辺及び新幹線新高岡駅（仮称）周辺は、高次都市機能の集積を図るとともに、高岡独自の歴史や文化を感じさせる魅力的な都市空間を創出するための整備を推進する。

また、J R北陸本線によって南北に分断されている市街地については、J R高岡駅周辺の一層の活性化や駅南北の都市軸の形成を図るため、橋上駅、自由通路や南北軸幹線道路等の整備により南北一体化を推進する。

（略）

### ※高岡市都市計画マスタープランの策定（検討中）

富山県が策定している富山高岡広域都市計画区域マスタープランの改定を受け、本市では、高岡市都市計画マスタープランを策定することとしている。その中では、今後の人口減少社会をにらみ、既存の社会資本ストックを利活用しながら、地区の特性に応じた機能分担の下に都市機能を集約配置するとともに交通ネットワークを確保し、持続可能な都市づくりの方向を明確に打ち出すこととしている。

### ③まとめ

本市全体さらには呉西地域の中心としてまちづくりを進める上位計画において、中心市街地は交流や公共公益機能の拠点として、また、まちなか居住や商業活動の拠点としての機能が求められている。

本計画の三つの基本方針である「世界に誇れる歴史・文化を生かしたまちづくり」、「便利で住みよく快適なまちづくり」、「活力と賑わいあふれるまちづくり」の視点から中心市街地の活性化に取り組むことは、上位計画を推進することでもあり、必然的に本市全体並びに富山県西部地区の発展に寄与するものである。

また、高岡新世紀創造プロジェクトは、高岡市～飛越圏域～環日本海沿岸地域全体の発展を見据えた施策展開がなされており、その中の重要な取組みの一つに位置付けられている中心市街地の活性化は、よ

り広域的な発展にも寄与する。

さらには、中心市街地の活性化により税収の増大が期待できるとともに、都市機能の集積による維持コストや環境負荷の低減などにより、市域全体における道路、公園等の管理コストを賄うことができるようになることから、安定的・持続的な都市運営が可能となり全市的な発展に効果が波及すると考えられる。

### 3. 中心市街地の活性化の目標

#### 〔1〕基本計画の目標

高岡市の基本計画では、中心市街地活性化の基本方針に基づき、次の3つを中心市街地活性化の目標として設定する。

目標1：歴史・文化資産の活用によるまちなか交流人口の拡大

目標2：まちなか居住の推進

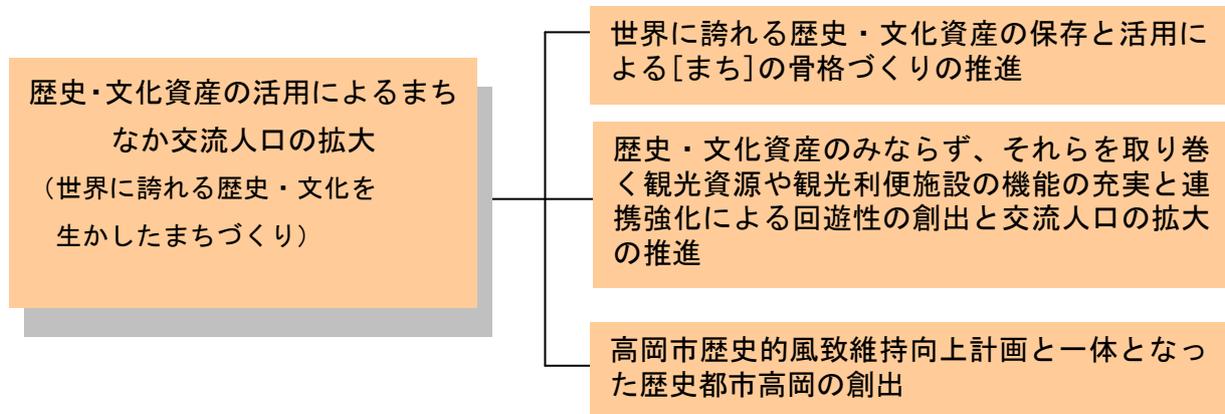
目標3：中心商店街の賑わいの創出

以下、目標ごとの施策を提示する。

#### 目標1：歴史・文化資産の活用によるまちなか交流人口の拡大

本市の中心市街地の特徴を示す「まちの骨格づくり」のため、高岡にしかない歴史・文化資産の魅力の底上げによる交流人口の拡大を通じて中心市街地の活性化を図る。

そのため、高岡の優れた（世界に誇れるような）歴史・文化資産の保存・継承に向けた調査、活用に努めるほか、これらの歴史・文化資産への観光客拡大を図るため、歴史・文化資産周辺における核となる施設の整備や、観光関連店舗の立地支援、観光地を繋ぐ歩道の整備や歩きたくなる仕掛け作りなど、観光地への誘客や滞在時間の延長、観光地間の回遊性の創出に繋がる環境の整備を図る。あわせて、地域住民や商店主などによる活動を通じ、地域に対する愛着を高めるとともに、歴史・文化資産を活用した新たなイベントの開催により、観光客の掘り起こしを図る。



#### 目標2：まちなか居住の推進

既存の都市福祉施設の集積を生かすとともに、市民のライフスタイルの変化に対応した新たな生活空間としての中心市街地を再構築するため、中心市街地において良好な居住環境を提供する。

このため、公共交通体系の充実や歩行空間のバリアフリー化など都市機能の向上と、世代を超えて憩える公園緑地の整備などうるおいある都市環境を創出し、高齢者を始め人にやさしいまちづくりを進めることで、都市居住の推進を図る。

また、まちなかでの良好な住宅建設・取得を支援するとともに、木造住宅密集地域の防災対策や街区単位の再開発などの中心市街地の土地利用を見直す取り組みを進める。

さらに、子育て支援センターの充実を図るなど子育て世代が生活しやすい環境整備に取り組むとともに、趣味の時間を充実させるカルチャー教室の推進など高齢者を始め幅広い層が住みやすいまちづくりを進め、まちなか居住者の利便性向上を図ることにより、中心市街地への居住志向を高める。

まちなか居住の推進  
(便利で住みよく快適なまちづくり)

人口及び世帯数の減少が著しい地域における住宅供給支援体制の整備

### 目標 3 : 中心商店街の賑わいの創出

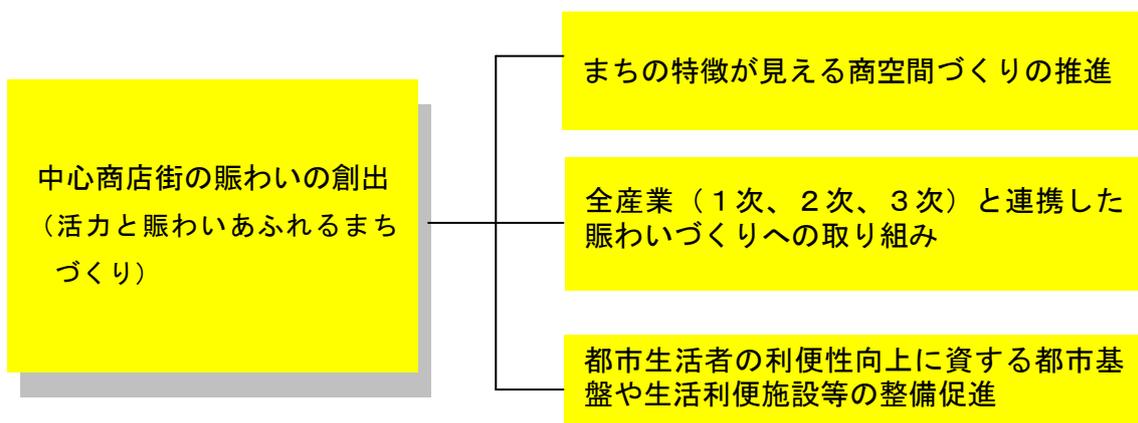
本市の中心市街地の賑わいのバロメーターである高岡駅北側を中心とした中心商店街の活性化を図るため、本市の地域資源を活用した「高岡らしい」商空間の構築を推進する。

そのため、高岡銅器・高岡漆器に代表される「ものづくり」の文化を活用した店舗の開設や陳列方法の工夫等を推進するほか、地場の農産品や農産加工品など安心・安全な地場産品の提供を支援するとともに、チューリップ、コロッケなど、特徴ある商品の提供を推進することにより観光資源としての活用を推進する。

また、商空間形成にあたっては、商店街の周辺地域の特性に応じた店舗配置を推進するほか、オフィス立地支援等を行うことにより、昼間人口の拡大を推進する。

さらには、商店街の特長や歴史的背景等を活用した通りづくりに取り組み、歩いて楽しめるまちづくりを進める。

あわせて、周辺部から中心市街地までや中心市街地内の交通アクセスの向上を図るため、JR高岡駅をはじめ路面電車万葉線やコミュニティバスなどの地域交通の利便性の維持・向上の推進を図る。



### 〔2〕計画期間の考え方

基本計画の期間は、現在取り組んでいる高岡駅周辺整備事業や今後進める高岡御車山会館の建設など、平成26年度に迎える北陸新幹線開業を見据え、中心市街地に誘客を図るためのまちづくりの推進や、平成23年6月に国の認定を受けた高岡市歴史的風致維持向上計画の理念を考慮した各種事業の進捗及びその効果を計るほか、平成24年度からスタートする総合計画第2次基本計画・実施計画の計画期間との整合を図るため、平成24年4月から平成29年3月までの5年とする。

### 〔3〕基本計画で達成すべき数値目標の設定について

本計画の3つの目標にあわせ、それぞれ数値目標を以下のとおり設定する。

#### (1) 歴史・文化資産の活用によるまちなか交流人口の拡大

(世界に誇れる歴史・文化を生かしたまちづくり)

##### ①指標の考え方

歴史・文化資産の活用による交流人口の拡大に関する指標としては、中心市街地内の観光施設やイベントに来訪される観光客入込み数が、客観的な指標として有効であると考えます。

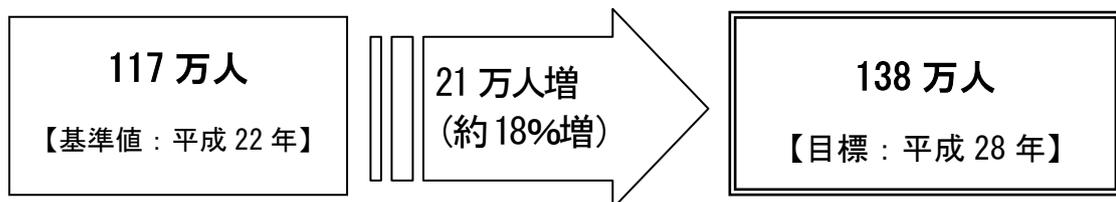
2期計画においても、中心市街地内の主要観光施設（高岡古城公園・瑞龍寺・高岡大仏・山町筋（菅野家・土蔵造りのまち資料館）・金屋町（鋳物資料館））への集客を図るための事業に取り組み、まちなか交流人口の拡大を推進することから、「**主要観光施設における観光客入込み数（人）**」を指標として設定する。

##### ②数値目標設定の考え方

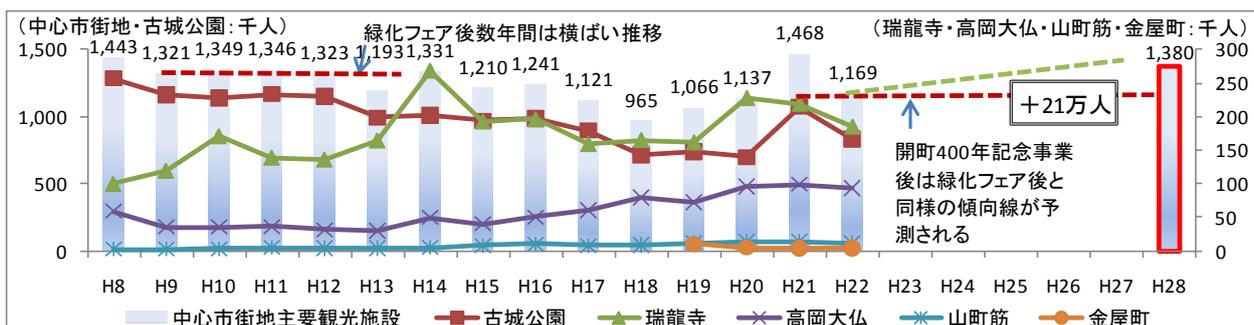
主要観光施設における観光客入込み数は、平成8年には全国都市緑化フェアの開催により飛躍的に増加したが、その後は漸減傾向が続き、1期計画直前の平成18年には97万人まで減少した。

1期計画の取り組みにより増加トレンドに転換し、特に開町400年記念事業を実施した平成21年には過去最高の入込数となる147万人を記録し、関連事業実施期間中の中心市街地は大きな賑わいを見せた。

2期計画期間中においては、北陸新幹線の開業という新たな要素が加わり、これを契機とする観光交流人口の拡大、中心市街地の賑わい創出に対する期待も大きいことから、交流人口拡大による中心市街地の賑わいを強く実感できる数値として、平成8年の全国都市緑化フェアおよび開町400年記念事業実施年レベルに匹敵する138万人を目標とする。



中心市街地の主要観光施設における観光客入込数の推移



	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14
古城公園	1,282,100	1,164,000	1,140,000	1,167,000	1,152,000	995,000	1,008,100
瑞龍寺	99,600	119,200	170,700	138,800	136,000	164,400	268,400
高岡大仏	58,600	35,600	34,900	35,800	31,600	29,800	49,600
山町筋(菅野家・土蔵造りのまち資料館)	2,313	2,225	3,061	4,763	3,471	3,770	4,525
合計	1,442,613	1,321,025	1,348,661	1,346,363	1,323,071	1,192,970	1,330,625

	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
古城公園	969,420	985,304	894,900	712,800	740,450	707,000	1,070,050	830,400
瑞龍寺	192,650	196,000	159,030	165,000	232,120	316,100	281,500	230,030
高岡大仏	40,000	50,000	60,000	79,000	72,000	96,000	99,000	93,700
山町筋(菅野家・土蔵造りのまち資料館)	7,977	9,778	7,490	8,361	11,292	13,609	13,643	10,502
金屋町(鑄物資料館)					10,178	4,207	3,943	4,116
合計	1,210,047	1,241,082	1,121,420	965,161	1,066,040	1,136,916	1,468,136	1,168,748

### ③数値目標達成に向けて実施する事業の概要

JR高岡駅周辺整備事業では、平成23年8月に南北自由通路が開通し、これまで鉄道施設で分断されていた市街地の南北の往来がしやすくなった。平成24年度から開始される高岡ステーションビルの建設や、南北自由通路とウイング・ウイング高岡を結ぶ人工デッキの整備により、バリアフリー対応による回遊性の向上など、駅周辺施設整備を北陸新幹線が開業される予定の平成26年度までの完成を目指す。

さらに、国の有形・無形民俗文化財に指定されている高岡御車山祭の歴史や祭り内容等を紹介し、観光客が御車山をいつでも観覧できるよう御車山を常設展示する高岡御車山会館を建設することで、通年での観光客の増加を目指す。本取り組みにおいては、平成20年から文化財の修復分野で伝統工芸技術を活用し、伝統産業の活性化に取り組んできた金工、漆工、木工、染色等の職人たちの活用も含め、その歴史・背景も伝えることで発信力を高める。

北陸新幹線開業を見据え、中心市街地にある歴史・文化資産を磨き、活かすとともに、たかまちプロムナード事業や中心市街地ストリート回遊計画事業に取り組み、まちの特長を活かした、歩いてたのしいまちづくりを進め、多くの観光客が中心市街地を訪れ、複数の施設を巡る回遊性を生む仕組み作りに取り組み、観光客入込み数の増加を図る。

### ④各事業の実施による効果

#### i) 主要観光施設入込み数に直接的に寄与する事業

##### ア. 高岡古城公園への観光客数の増加

116,000人

##### a) 高岡古城公園整備事業、高岡城跡詳細調査事業

高岡古城公園の園路舗装により、歩いて回りやすい空間を創出する。また、国指定史跡に向け発掘調査や文献調査等の高岡城跡の詳細調査を行っており、本丸御殿の礎石とみられる遺構が発掘されるなど、高岡城跡の全容解明に繋がる成果が表れている。今回の調査で、近世城郭として特徴を表し、学術的価値の向上を図ることで、観光客入込数の増加を見込む。

《事業実施効果》

高岡城跡と同じ加賀藩前田家に関する歴史資産であり、平成 20 年に国指定史跡となった金沢城址の指定前と指定後の来場者数から算出

※公園としての性質、入込数の規模は高岡古城公園と類似しているとともに、周辺の兼六園、21 世紀美術館の入込数に変化は見られない。(単位：千人)

	金沢城址	兼六園	21 世紀美術館
H19	824	1,629	1,318
H20	882	1,820	1,569
H21	1,006	1,836	1,506

A 高岡古城公園入込数（平成 22 年）

B 金沢城址の平成 20 年と平成 21 年入込数の割合 (1,006/882≒1.14)

A × B = 830 千人 × 1.14 ≒ 946 千人 (平成 22 年比 **116 千人増**)

イ. 山町筋（菅野家住宅、土蔵造りのまち資料館）への観光客の増加

**31,000 人**

a) 高岡御車山会館建設事業、平成の御車山制作事業－1

重要有形・無形民俗文化財に指定されている高岡御車山祭の山車を通年展示し、祭りを紹介する展示施設を、御車山を所有する山町筋に整備することによって、通年見学が可能な拠点を整備することにより、山町筋を訪れる観光客の増加を見込む。

《事業実施効果》

高岡御車山会館の来館者見込みを、類似施設と地域の祭りの来場者数が高岡御車山祭りに近い祭りとの来場者数の割合から算出

A 高岡御車山祭入込数（平成 22 年）

B 基礎となるイベント（祭り）に対する発生係数

類似施設			入込数	B/A
八尾おわら風の盆	H21	A	200,000 人	13.4%
八尾曳山展示館	H21	B	26,740 人	
大津祭	H21	A	135,000 人	26.0%
大津祭曳山展示館	H21	B	35,068 人	
			平均	19.7%

A × B = 150,000 人 × 19.7% ≒ 30,000 人 (高岡御車山会館来館者見込み)

高岡御車山会館の来館者が山町筋の 1 施設を来館する割合を、類似性のある八尾曳山展示館と八尾おわら資料館の割合から算出

A 八尾曳山展示館 26,740 人 (H21)

B 八尾おわら資料館 15,445 人 (H21)

B/A × 30,000 人 = 15,445 人 / 26,740 人 × 30,000 人 ≒ **17,500 人**

b) 高岡御車山会館建設事業、平成の御車山制作事業－2

(2 施設の回遊性波及効果)

高岡御車山会館が整備されることにより、山町筋を訪れる観光客の増加が見込まれることから、山町筋にある菅野家、土蔵造りのまち資料館の両施設への回遊が創出され、相乗効果によって山町筋全体の観光客入込数の増加が期待される。

《事業実施効果》

山町筋の見どころは、土蔵造りの家が連坦する町並みと伝統的な町家の造りである。菅野家住宅と土蔵造りのまち資料館には、それぞれ特徴があるため、両施設を訪れる観光客は多い。入込数が少ない菅野家住宅を訪れる人は、土蔵造りのまち資料館を訪れると推察し、観光客が2施設を訪れる割合から算出

A 山町筋の1施設の来館者増加見込み 17,500人(平成28年推定値)

B 菅野家住宅、土蔵造りのまち資料館の両施設来館割合推計

土蔵造りのまち資料館入館者数 5,928人(平成22年)

菅野家住宅入館者数 4,574人(平成22年)

菅野家住宅/土蔵造りのまち資料館 =  $4,574 / 5,928 = 0.77$

$A \times B = 17,500 \text{人} \times 0.77 \div 13,500 \text{人}$

上記  $a + b = 17,500 + 13,500 = 31,000 \text{人}$

ウ. 金屋町(鑄物資料館)への観光客の増加 2,490人

a) 金屋町重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業

金屋町鑄物工場跡地整備事業

金屋町は、高岡鑄物発祥の地であり、「さまのこ」と呼ばれる千本格子の町並みが残っている。伝統的建造物群保存地区として、平成24年度以降に都市計画決定し、国の重要伝統的建造物群保存地区の選定を受け、保存・修景を行うこととしている。

この金屋町にある伝統的な町家の保存や統一的な建物の修景による景観形成及び、観光拠点が増えることによる魅力向上により入込数の増加を見込む。

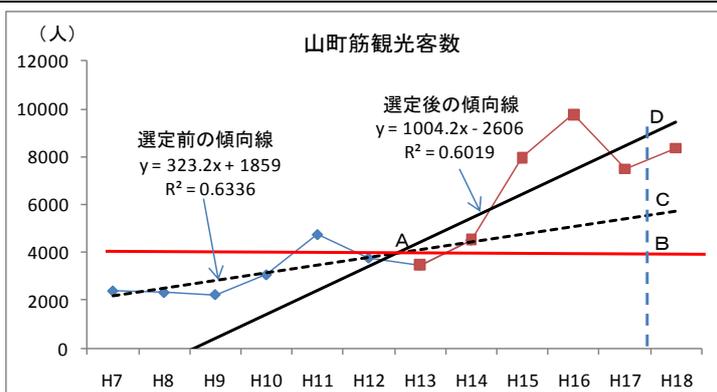
《事業実施効果》

平成13年に重要伝統的建造物群保存地区に選定された山町筋の、選定前の観光客入込数趨勢値と、選定後の観光客入込数趨勢値の比較により算出

A 鑄物資料館入込数(平成22年)

B 山町筋重要伝統的建造物群保存地区選定5年後の増加係数

$A \times B = 4,116 \text{人} \times 1.3 = 5,350 \text{人}$  (平成22年比 1,200人増)



○選定5年後の差異 = BC : BD  
 ○ $\Delta ABC = \int_0^5 (\triangle \text{指定前の趨勢値})$   
 $\Delta ABD = \int_0^5 (\triangle \text{指定後の趨勢値})$   
 ○ $\Delta ABC : \Delta ABD = 1 : 1.3$

### b) 金屋町楽市開催事業

金屋町楽市は、高岡鋳物発祥の地であり伝統工芸の職を残す金屋町で、伝統的な町家や石畳通りの生活空間に、工芸作品を展示・販売する、金屋町一帯の街区を活用するゾーンミュージアムを行っている。

工芸作品の出展作家や展示町家の拡大、茶会や食の提供などのイベント内容の充実に取り組むとともに、他都市での関連イベント開催によりPRを図ることで、金屋町楽市の来場者を増やし、鋳物資料館への誘客に繋げることで来場者400人の増加が見込まれる。平成23年度に、東京駅前の丸ビルで行った金屋町楽市関連イベントなどの効果により、金屋町楽市の来場者が前年比400人増加したところである。

#### 《事業実施効果》

金屋町楽市のイベント来場者増加数から算出

【来場者数】

平成22年 23,600人 平成23年 24,000人 (前年比 400人増)

### c) 金屋町観光駐車場・トイレ整備事業

金屋町周辺には、大型観光バスに対応した駐車場が整備されていないため、団体旅行客が訪れ難い状況である。金屋町周辺に観光バスや普通車を停める駐車場を整備し、併せて観光客が気軽に利用できるトイレを整備することで、来街者の利便性向上を図り、観光客入込数の増加を見込む。

#### 《事業実施効果》

平成19年に駐車場を整備した高岡大仏の整備前(平成18年)と整備後(平成20年)の増加割合から算出

A 鋳物資料館入込み数(平成22年)

B 高岡大仏入込数の駐車場整備前(79,000人)と整備後(96,000人)の割合

$A \times B = 4,116 \text{人} \times 21.5\% \div 890 \text{人}$

a + b + cの合計 : 1,200 + 400 + 890 = 2,490人

## エ. 高岡大仏への観光客の増加

6,300人

### a) たかまちプロムナード事業

JR高岡駅を起点に、末広町通り～御旅屋通りを経て、高岡大仏前、坂下町通りに至るルートにおいて、高岡大仏や商店街の歴史などの地域資源の活用や新たな空間の創出など、中心市街地のストリートビジョンと商店街の顔づくり事業に取り組む。

中心商店街で店舗展開している若手や女性経営者をはじめ、専門家、行政による会議を組織し、まちの魅力となる要素を探し出し、ハード・ソフト事業による具体的な事業を実施することで、歩いて楽しめるストリートづくりを展開し、まちなかの回遊性を高め、高岡大仏の観光客入込み数の増加を図る。

#### 《事業実施効果》

平成22年の高岡大仏入込数と回遊性の創出による増加見込数から算出

A 高岡大仏入込数（平成22年）93,700人

B 回遊性増加係数 1.067

※平成18年に観光客に行ったアンケートで、中心市街地を歩いて移動する観光客と市内観光客の平均的な訪問地点の割合。回遊性の創出により、中心市街地を歩く観光客が増え、他の観光地から高岡大仏を訪れる観光客の見込み

中心市街地少人数旅行者の平均訪問地点数=2.9カ所/人

「市内観光客アンケート」全観光客平均訪問地点数=2.72カ所/人

$A \times B = 93,700 \text{人} \times 1.067 \div 100,000 \text{人} \text{ (Aとの比較 } 6,300 \text{人増)}$

## オ. 中心市街地ストリート回遊計画事業による 山町筋、金屋町、瑞龍寺の観光客の増加

18,640人

### a) 中心市街地ストリート回遊計画事業

北陸新幹線の開業を契機に、北陸新幹線新駅から瑞龍寺、中心商店街を経て山町筋、金屋町の範囲で、「歴史都市・高岡」が誇る歴史的風致を十分に堪能できる歩行系回遊ルートを設定し、回遊性の創出を図る。地域の特性に応じた3つのゾーニングを行い、各ゾーンでの回遊性を確保するため、高岡らしい風情や情緒を楽しみながら散策できる複数のルートを設定し、ハード・ソフト両面から魅力ある通りの開発を進めることで、多くの市民や観光客に中心市街地を歩いて楽しんでいただき、山町筋、金屋町、瑞龍寺の観光客入込み数の増加が期待できる。

#### 《事業実施効果》

山町筋、金屋町、瑞龍寺の入込数と回遊性の創出による増加見込数から算出

A	H28年山町筋期待数	10,502人(H22) + 31,000人	≒ 41,500人
B	H28年金屋町期待数	4,116人(H22) + 2,490人	≒ 6,600人
C	H22瑞龍寺観光客入込数	230,030人	
D	回遊性増加係数	1.067	
	山町筋	$A \times D = 41,500人 \times 1.067$	≒ 44,280人 (2,780人増)
	金屋町	$B \times D = 6,600人 \times 1.067$	≒ 7,040人 (440人増)
	瑞龍寺	$C \times D = 230,030人 \times 1.067$	≒ 245,450人 (15,420人増)
	山町筋増加+金屋町増加+瑞龍寺増加		= 2,780+440+15,420 = 18,640人

ii) 主要観光施設入込数に間接的に寄与する事業

カ. 北陸新幹線開業による観光客増加 36,500人

平成26年度末の北陸新幹線の開業を見据え、首都圏で大々的な出向宣伝や物産展を展開する。また、特典を付したキャンペーンなどを実施して高岡への誘客を図る。

- ・新幹線開業記念広告宣伝事業
- ・食のブランド化推進事業
- ・越中・飛騨観光圏事業

《事業実施効果》

○観光客純増

①新高岡駅乗降者 純増見込	127,750人/年	北陸新幹線新高岡駅（仮称）周辺整備計画策定調査報告書から算定（350人/日）
②うち地元 →県外（関東方面）	63,875人/年	乗降者数の50%を観光客と想定
③県外純増実人数	31,938人/年	行き・帰りの2回利用するものとして実人数換算
④県外のうち 砺波最終目的地	6,835人/年	H17全国幹線旅客純流動調査 （関東・長野・新潟→砺波を目的とするOD） /（関東・長野・新潟→高岡+砺波を目的地とするOD（21.4%））
⑤氷見、小矢部 最終目的地	9,188人/年	富山県観光統計、H17～H21平均入込数（高岡、氷見、小矢部）の構成比による按分（36.6%）
⑥県外純増実人数の うち高岡最終目的地	15,915人/年	③－（④＋⑤）
⑦⑥のうち観光目的	5,554人/年	H17全国幹線旅客純流動調査 関東・長野・新潟→高岡ODのうち観光割合（34.9%）
⑧平均訪問地点数	2.9箇所	平成18年「観光客アンケート」
⑨観光客増加数	16,107人/年	⑦×⑧

○旅行手段シフト利用者の新駅→中心市街地回遊による効果

①航空機・自動車シフトによる新高岡駅（仮称）乗降者増加見込	438,000人/年	北陸新幹線新高岡駅（仮称）周辺整備計画策定調査報告書から算定（1,200人/日）
②うち地元→県外（関東方面）	219,000人/年	乗降者数の50%を観光客と想定
③県外増加実人数	109,500人/年	行き・帰りの2回利用するものとして実人数換算
④県外のうち砺波最終目的地	23,433/年	H17 全国幹線旅客純流動調査（関東・長野・新潟→砺波を目的とするOD） / （関東・長野・新潟→高岡+砺波を目的とするOD（21.4%））
⑤氷見、小矢部最終目的地	31,501人/年	富山県観光統計、H17～H21 平均入込数（高岡、氷見、小矢部）の構成比による按分（36.6%）
⑥県外増加実人数のうち高岡最終目的地	54,566人/年	③－（④＋⑤）
⑦⑥のうち観光目的	19,044人/年	H17 全国幹線旅客純流動調査 関東・長野・新潟→高岡ODのうち観光割合（34.9%）
⑧平均訪問地点増加率（2.72地点→2.9地点）	1.07倍	平成18年「観光客アンケート」
⑨主要地点観光客入込増加数	20,377人	⑦×⑧

観光客純増 ＋航空機・自動車から新幹線にシフト ≒

16,107人 ＋20,377人 ≒ 36,500人

キ. その他の事業による波及効果

主要観光施設における観光客入込み数の増加を図るために一体的に推進する事業は、以下を予定している。

a) 文化遺産群の歴史調査及び保存修理に関する事業

個々の文化遺産の歴史的価値の検証のため、史跡調査等に取り組むとともに、適切な保存修理に取り組むことにより、歴史的・文化的価値の維持、向上を図る。

- ・高岡御車山保存修理事業
- ・高岡御車山祭
- ・瑞龍寺保存修理事業
- ・前田利長墓所保存修理事業

b) 文化遺産群の活用に関する事業

文化遺産群の保存に努めるだけでなく、文化遺産の価値向上を図るための整備を行うとともに、文化遺産の見学機能の充実や文化遺産を活用し

たイベントの開催等により、観光客の誘致とリピート率の向上を図る。

- ・高岡市鋳物資料館運営事業
- ・重要文化財菅野家住宅運営事業
- ・高岡市土蔵造りのまち資料館運営事業
- ・大学連携による伝統・文化再生事業
- ・瑞龍寺ライトアップ事業
- ・「高岡御車山」臨時山倉設置事業
- ・中心市街地における季節ごとの大型イベント開催事業
- ・中心商店街活性化イベント開催事業
- ・文化遺産活用イベント開催事業
- ・文化芸術創造都市モデル事業
- ・セカイカメラ設置事業
- ・「近世高岡の文化遺産を愛する会」の活動

#### c) 文化遺産群の周辺環境整備に関する事業

文化遺産の価値を高めるには、文化遺産の保存、活用を図るだけでなく、文化遺産周辺における観光関連店舗の誘致やフィルムコミッション事業等による従来とは異なる観光視点を提供するなど、周辺環境を整備することにより、対象となる観光客属性の拡大を図る。

- ・TR@P事業
- ・工芸都市高岡クラフト展開催事業
- ・観光地における開業支援事業
- ・観光バス市営駐車場料金補助事業

#### d) 文化遺産群の回遊性の向上に関する事業

個々の文化遺産の価値向上を図ることにより誘客を推進するだけでなく、来訪した観光客が複数の文化遺産を回遊しやすくするため、文化遺産同士を繋ぐための歩きやすい道路整備や誘導案内板の整備等をはじめ、ITを活用した観光情報の発信、レンタルサイクルの設置、コンベンションによる宿泊客への無料観覧券の配付等、ハード・ソフト両面にわたる環境整備により、回遊性の向上を図る。

- ・都市計画道路高岡駅佐加野線整備事業
- ・まちなか情報発信事業
- ・コロッケのまちづくり事業
- ・御旅屋賑わい創出事業
- ・フィルムコミッション事業
- ・たかおか観光戦略ネットワーク事業
- ・コンベンション開催支援事業
- ・まちの駅ネットワーク事業
- ・お祭りシャトルバス運行事業

iii) 中心市街地主要観光施設入込み数の増加目標値（まとめ）

観光客入込数増加内訳		増加数
ア	古城公園への観光客増加数	116,000人
イ	山町筋への観光客増加数	31,000人
ウ	金屋町への観光客増加数	2,490人
エ	高岡大仏への観光客増加数	6,300人
オ	中心市街地ストリート回遊計画事業による観光客増加数	18,640人
カ	北陸新幹線開業による観光客増加数	36,500人
合計		210,930人

よって、目標となる観光客入込み数は、下記の通りとなる。

(H22年観光客入込み数)	(増加見込み)	(H28年目標値)
117万人	21万人	138万人

⑤目標達成の見通し

本市では北陸新幹線開業を見据えた観光交流事業に取り組んでいるところであり、なかでも高岡独自の歴史・文化資産の保存と活用による事業展開をハード、ソフト両面から重点的に進めている。

前述のように中心市街地における観光客入込数は平成18年以降増加トレンドにあり、1期計画における各種取り組みが結実し、旅行者から一定の評価を獲得するに至っていること、および平成26年度の北陸新幹線開業により、東海北陸自動車道全線開通時と同様の底上げ効果が十分に予想されることから、2期計画期間において観光客入込数がさらに増加する環境要素を十分に備えていると考えることができる。

また、各事業実施効果の見通しは、1期計画における実施結果を踏まえた客観的な予測数値であることから、2期計画期間中において観光客入込数21万人の増加を図ることは十分可能である。

⑥フォローアップの考え方

観光客入込み数は、各施設により測定している数値を、4半期ごとに高岡市が調査

を行っている。この数値を根拠とすることにより、数値目標の達成状況を確認する。あわせて、計画の中間地点にあたる平成 26 年度時点において完了もしくは開始している事業について進捗調査を行い、状況に応じて事業の促進などの目標達成に向けた改善措置を講じる。更に、計画期間終了後、数値目標の達成状況を確認するとともに、中心市街地活性化への効果を検証する。

## (2) まちなか居住の推進

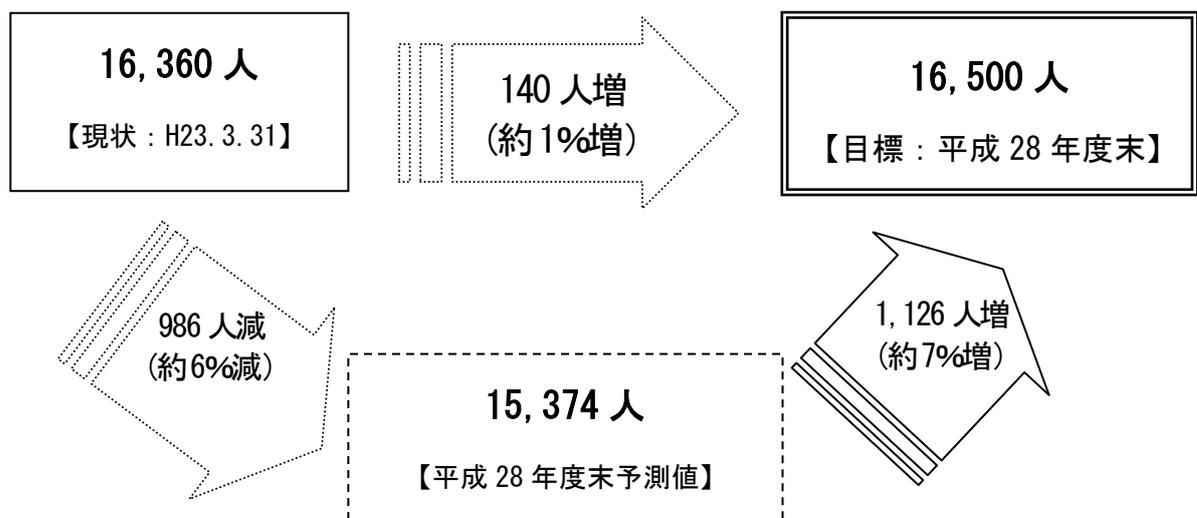
(便利で住みよく快適なまちづくり)

### ①指標の考え方

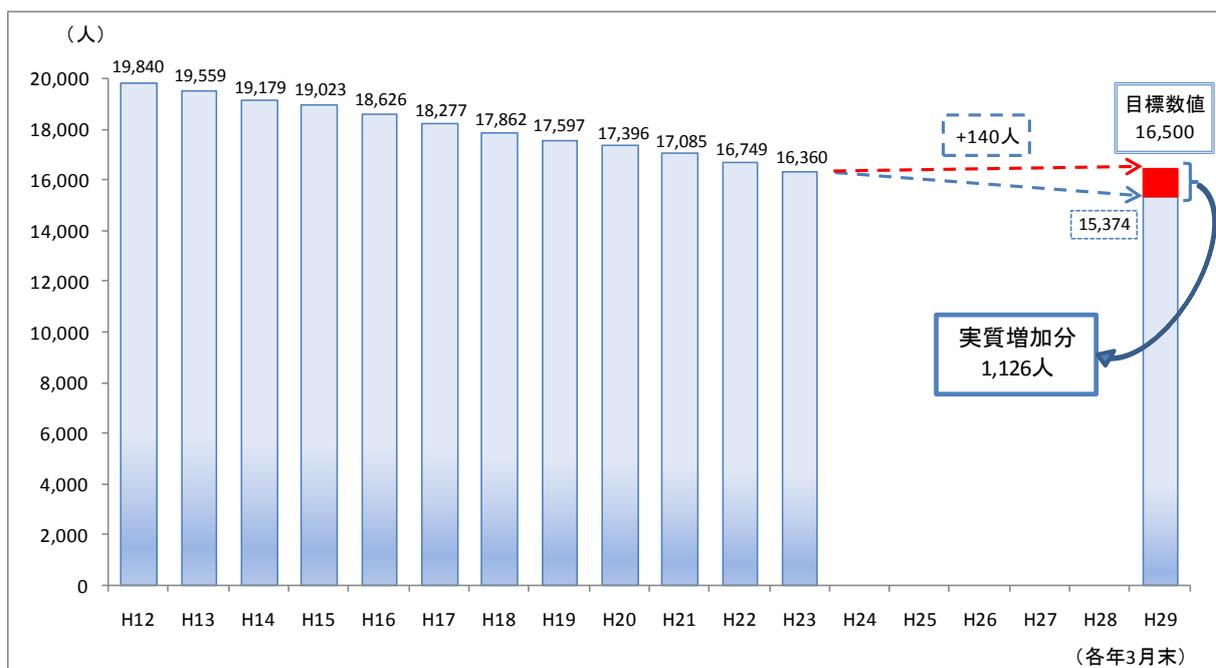
まちなか居住人口の増加に関する指標は、居住人口が客観的な指標として有効であると考え。1 期計画に引き続き、「まちなか居住の推進」の状況を確認・検証する指標として「**中心市街地における居住人口（人）**」を指標する。

### ②数値目標設定の考え方

1 期計画期間において、中心市街地の居住人口は、高齢化の進展による自然減、若年層、子供同居世帯の市外流出が進んだことにより、当初予測を上回るペースで減少が進んだ結果、平成 23 年 3 月末時点で 16,360 人となった。全市と比較して高齢化が進んでいることから、今後自然減については全市平均を上回るペースで発生すると考えられるが、一方で中心市街地においてまちなか居住支援事業を活用した分譲マンションや賃貸マンションの建設が開始されるなど、中心市街地での居住に対するニーズが存在していることが確認されていることから、平成 23 年 3 月時点における水準を上回る 16,500 人を数値目標として設定し、居住地としての中心市街地の機能維持・改善を図る。



中心市街地居住人口の推移（各年3月末）



### ③数値目標達成に向けて実施する事業の概要

まちなか住宅取得支援事業では、まちなか居住人口の増加を進めるため、平成 23 年度から中古の戸建て・共同住宅購入者に対する支援メニューも追加し、支援対象者の拡充に取り組んでおり、制度のさらなる普及を図る。

また、駅周辺地域では、分譲マンション及び賃貸マンションが建設中であり、平成 24 年度に完工することや、中心市街地エリア内の J R 高岡駅南地区にあった高岡サティ跡地に、日用品のホームセンターと食品スーパーが入所する大規模商業施設が、平成 23 年 11 月に開設された。これらのマンション建設や大規模商業施設の開設を起爆剤とし、まちなかでの更なる住宅建設に繋がるよう、住宅供給に対する支援策を引き続き実施する。中心市街地での居住人口を、平成 23 年を超える人口の増加を図る。

### ④各事業の実施による効果

#### i) 居住人口の増加に直接的に寄与する事業

ア. まちなか居住支援事業による増加 250 人

##### a) まちなか居住支援事業

高岡市では、平成 19 年度から中心市街地のうち特に人口、世帯数の減少がみられる高岡駅北側の約 263ha を「まちなか区域」に指定し、個人に対しては、地域内の住宅の新築及び戸建住宅や共同住宅の取得に対する支援制度を創設し、平成 23 年度からは支援対象を中古住宅・中古マンション・隣接土地購入に拡大した。本制度の利用は平成 23 年 9 月時点で 42 件となっている。

また、平成 13 年度より「優良住宅団地支援事業」を実施し、中心市街地内

ではトークタウン中島において19戸の住宅建設がなされた。

こうしたまちなか居住に対するニーズは、2期計画においても同程度存在すると考えられることから、1期計画と同水準の利用を見込む。

《事業実施効果》

まちなか居住支援事業申請件数	A	42	(H23.9までの実績)
優良住宅団地支援事業申請件数	B	19	
平均世帯人員	C	3.8	支援制度利用世帯の平均人員
増加数		250	$[A \times (5 \text{年}/4.5 \text{年}) + B] \times C$

イ. まちなか共同住宅建設促進事業による増加 843人

a) まちなか共同住宅建設促進事業

高岡市では、平成19年度から中心市街地のうち特に人口、世帯数の減少がみられる高岡駅北側の約263haを「まちなか区域」に指定し、個人に対しては、地域内の住宅の新築及び戸建住宅や共同住宅の取得に対する支援制度を創設し、建築事業者に対しては、分譲又は賃貸の共同住宅を建設する際の支援制度を創設した。

現在、本制度の活用により、中心市街地内において分譲マンション1棟、および賃貸マンション1棟の建設が進められており、市営白金町駐車場跡地および丸の内地区での共同住宅建設も計画されているところである。

これらに加え、高岡市内においては、リーマンショックが発生した平成20年を除き、毎年40件内外の共同住宅建設がなされており、常に一定のニーズが存在していることから、現在建設中の2棟によってまちなかの共同住宅に対するニーズが確認されることにより、計画期間内に同数程度の共同住宅が建設されることを見込む。

《事業実施効果》

○実施が確定しているもの

分譲マンション(平成24年夏完成予定)	A	60	戸
賃貸マンション(平成24年夏完成予定)	B	41	戸
高岡市における1世帯当たりの人員数	C	2.8	平成22年度末
増加数		283	$(A+B) \times C$

○実施が見込まれるもの

民間住宅(市営白金町駐車場跡地)	A	60	戸
民間住宅(丸の内)	B	40	戸
高岡市における1世帯当たり人員数	C	2.8	平成22年度末
増加数		280	$(A+B) \times C$

○その他建設が期待されるもの

共同住宅	A	60	戸
共同住宅	B	40	戸
高岡市における1世帯当たり人員数	C	2.8	平成 22 年度末
増加数		280	$(A+B) \times C$

ウ. 中心商店街ミニ拠点開発事業による増加 12人

a) 中心商店街ミニ拠点開発事業

2期計画においては、末広開発(株)による中心商店街内に位置する老朽施設の再整備、単身世帯向け居住施設と商業施設を複合した拠点施設が計画されており、中心市街地の居住人口増加が見込まれる。

《事業実施効果》

共同住宅	A	12	戸
高岡市における1世帯当たり人員数	B	1	単身向け
増加数		12	$A \times B$

ii) 居住人口の増加に間接的に寄与する事業

エ. その他の事業による波及効果

中心市街地の居住人口の増加を図るために一体的に推進する事業は、以下を予定している。

a) 良好な住環境形成に関する事業

良好な住環境の提供を図るため、高岡市景観計画（景観法に基づく）に位置付けている重点地区から高岡市町並み保存・都市景観形成に関する条例により指定している景観形成重点地区への支援を行うとともに、良好な住宅団地の造成を支援することにより、住みよいまちづくりが推進され、居住人口の拡大が期待できる。

- ・まちなか耐震住宅リフォーム支援事業
- ・まちなか優良賃貸住宅補助事業
- ・都心エリア土地利用検討調査事業
- ・池の端景観形成重点地区建物修景等助成事業
- ・坂下町通り景観づくり住民協定地区修景等助成事業

b) 生活支援に関する事業

居住環境の充実のため、最寄品のうち、特に生鮮食料品を扱う店舗の開設を支援するほか、地産地消への取り組みとともに安心して安全な生鮮食料品を中心市街地で提供するため朝市・夕市を開催するなど、買い物の利便性向上

を図る。また、育児相談や交流の場の提供による子育て支援環境の充実や、高齢者向けの飲食や講座等の開催による高齢者が集い楽しむ場所の提供に取り組み、住みよいまちづくりを推進することにより、居住人口の拡大が期待される。

- ・ 中心市街地における開業支援事業
- ・ 朝市・夕市の開催
- ・ エルパセオ・マルシェ（仮称）開催事業
- ・ 高岡子育て支援センター運営事業
- ・ 中心商店街活性化センター「わろんが」運営事業
- ・ シルバーサロン坂下小路運営事業
- ・ コミュニティバス事業

### iii) 中心市街地の居住者人口動態予測数

中心市街地において人口の自然減が全市平均を上回るペースで進んでいることを踏まえつつ、高岡市総合計画における将来人口予測を加味して中心市街地の平成28年度末における人口を予測すると、15,374人と推定される。

(各年度末)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
中心市街地居住人口	16,360	16,191	16,024	15,859	15,696	15,534	15,374

※平均自然増減率=-0.0071人/年として推計

自然増減率 = 平成19年～22年度実績値（中心市街地）×人口減少率低減係数

低減係数 = 0.757241

= (H22→27全市減少率) / (H17→22全市減少率) : 高岡市総合計画推計値より

※平均社会増減率=-0.0032/年（H12～21年度実績（市全体））として推計

### iv) 中心市街地における居住人口の増加目標値（まとめ）

居住人口増加内訳		増加数
ア	まちなか居住支援事業による増加	250人
イ	まちなか共同住宅建設促進事業による増加	843人
ウ	中心商店街ミニ拠点開発事業による増加	12人
合計		1,105人

よって、目標となる中心市街地の居住人口は、下記の通りとなる。

(H28 年度末推定値)	(増加見込)	(H28 年度末目標値)
15,374 人	1,105 人	16,500 人

### ⑤目標達成の見通し

1 期計画期間では、中心市街地において大幅な人口減少となったが、経済情勢の悪化等によって開始が遅れていた共同住宅建設がようやく緒についたこと、地価が低下し、支援制度の活用することによってトータルでは周辺地域と変わらないコストで住宅が取得可能な環境が整ってきていること、中心市街地での居住ニーズや高岡市内における共同住宅建設ニーズが一定程度存在することが確認されていることから、まちなか居住の推進に向けた環境は1 期計画期間中よりも好転していると考えられることができる。

また、過去の実績値および中心市街地の年齢構成から推定した人口トレンドは、引き続き高岡市全体を下回ることが予測される中、2 期計画においては実現性の高い事業が計画されていることから、目標数値の達成は可能と判断する。

但し、今後経済情勢がさらに変化することも考えられるため、事業成果を絶えず検証しながら支援制度の内容の見直しも検討していくこととする。

### ⑥フォローアップの考え方

中心市街地の居住人口は、高岡市の住民基本台帳により毎月末ごとに集計している。この数値を根拠として、数値目標の達成状況を確認する。あわせて、基本計画が認定された2 年後の平成26 年度において完了もしくは開始している事業について進捗調査を行い、状況に応じて事業の促進などの目標達成に必要な改善措置を講じる。更に、計画期間終了後、数値目標の達成状況を確認するとともに、中心市街地活性化への効果を検証する。

## (3) 中心商店街の賑わいの創出

(活力と賑わいあふれるまちづくり)

### ①指標の考え方

中心商店街の賑わいは、まちにあふれている人数や商店街における開業店舗数等により把握することが可能である。来街者数と店舗数は賑わいの要因として因果関係が強いことから、定点観測により中心市街地内の歩行者・自転車導線が把握できる「歩行者・自転車通行量」と現認することにより調査可能な「空き店舗数」が、客観的な指標として有効である。

2 期計画においても、引き続き中心市街地における賑わい創出を目的として各種事業を実施することから、1 期計画と同様に「**中心商店街(6 地点)における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値(人)**」を指標として設定する。

「空き店舗数」については、中心商店街(4 商店街)のうち高の宮通り商店街の

組合が解散したため、末広町・御旅屋通り・末広坂の3商店街を空き店舗数の数値目標の対象とし、「**中心商店街（3商店街）の空き店舗数（件）**」を指標とする。

**A 中心商店街（6地点）における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値**

**② 数値目標設定の考え方**

「歩行者・自転車通行量」は、平成6年から10月中旬の金曜日（平日）及び日曜日（休日）に計測している。計測地点は、高岡駅北口から中心となる3商店街の調査地点（6地点）としている。

「中心商店街（6地点）における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値」は、平成6年の調査開始以降減少が続いていたが、1期計画実施以降は減少に歯止めがかかり、平成22年は対基準年比で増加するに至った。

1期計画においては、目標数値としてイオンモール高岡（出店当時はイオン高岡ショッピングセンター）が開店した平成14年レベルを目指す13,500人を設定したが、期間中に減少トレンドに歯止めがかかったこと、および2期計画期間中は現在事業が進められている高岡駅周辺整備にかかる諸事業が完了するとともに、北陸新幹線開業によって中心市街地の賑わい創出に向けた環境が整うことを踏まえて目標数値を上方修正し、中心商店街（6地点）における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値を14,900人として設定する。

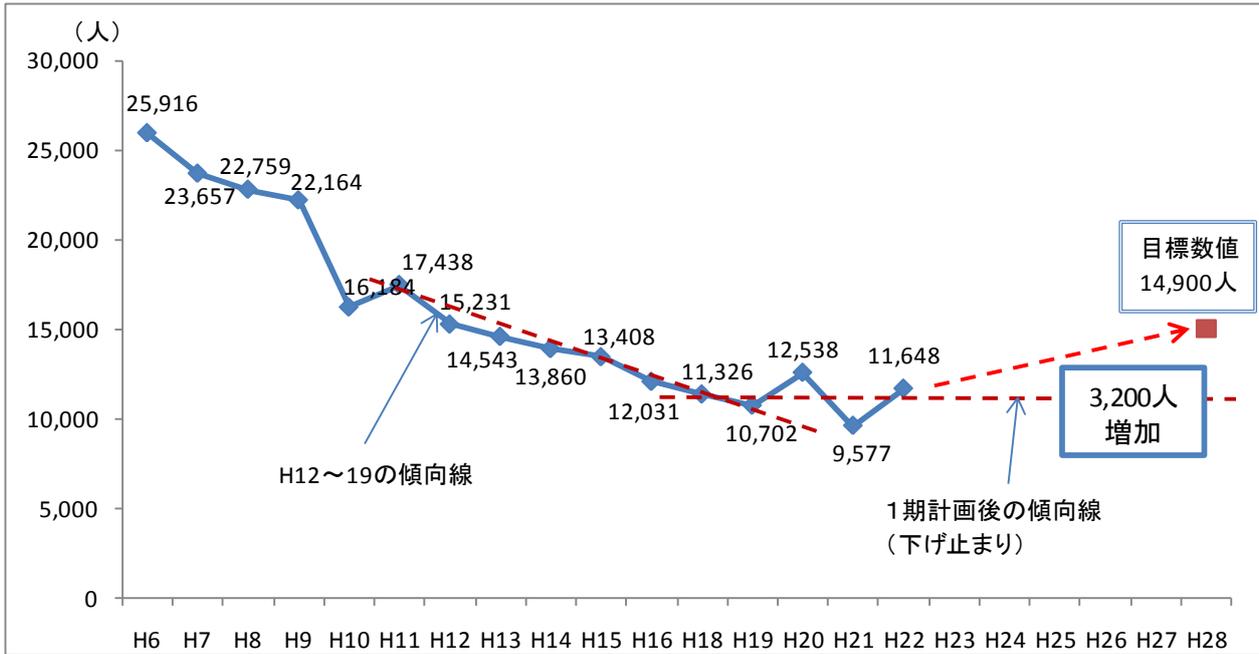


【歩行者・自転車通行量6調査地点】



※「①駅前地下」調査地点は、平成26年の高岡駅北口歩行者専用道（人工デッキ）整備完了後には、歩行者の動線が人工デッキに変わるため、調査地点を人工デッキ上に変更する。

中心商店街（6地点）における歩行者・自転車通行量（平日・休日平均）の推移



### ③数値目標達成に向けて実施する事業の概要

中心商店街（6地点）における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値では、ウイング・ウイング高岡に入居する図書館や、生涯学習センター、平成23年3月に御旅屋セリオに整備した子育て支援センターなどの生涯学習施設や育児支援施設の利用促進や、定期的なイベント開催により、まちなかへの来街を促進する。

また、1期計画において、ウイング・ウイング高岡～御旅屋セリオ間の通行量が増加し、回遊促進のための事業は効果が上がっており、拠点間の回遊性向上に向けた取り組みの有効性・重要性が確認されていることから、回遊促進に向けた取り組みを継続実施させる必要がある。南北自由通路の供用や高岡駅北口歩行者専用道（人工デッキ）整備等の高岡駅周辺整備事業を進め、駅南北の回遊促進に取り組むとともに、JR高岡駅を起点に中心商店街を経て、高岡大仏前に至る中心市街地の顔といえるルートの一歩ストリートビジョンと商店街の顔づくりのための具体的方策として、地元市民のまちなか回帰を目指し、まちなかの魅力を活かした来街動機となる仕掛けづくりや、観光客をおもてなしの心で迎える取り組みなどを通じて、来街者の増加を図る。

さらに、大学との連携事業として、大学が所有する知的財産と地域に脈々と息づく伝統技術の融合を図り、地元の伝統産業再生の方策を検討するとともに、工芸都市高岡クラフト展や金屋町楽市など、工芸、産業、町並みなどの高岡の特性を活用したイベントを開催し、工芸都市としての特徴を発信し、県内外からの来街者の増加とまちの賑わい創出を図る。

### ④各事業の実施による効果

#### i) 中心商店街（6地点）の歩行者・自転車通行量増加に直接的に寄与する事業

ア. 高岡駅周辺整備事業による効果 560人

a) 高岡駅交通広場整備事業（万葉線延伸部走行空間整備事業〔（万葉線）路面電車

走行空間、交通広場整備事業]

高岡駅北口駅前広場整備事業（高岡駅佐加野線（北口駅広））

高岡駅北口歩行者専用道（人工デッキ）整備事業

高岡駅周辺整備事業によって北陸本線で分断されていた下関地区～中心商店街の行き来が物理的・心理的にしやすくなり、特に下関地区から中心商店街への徒歩による移動量の増加が期待できる。

平成23年7月に実施した「中心市街地活性化に関する市民意識調査」では、下関地区からの徒歩による中心市街地への来街割合は、北陸本線北側の平米、定塚、博労、川原地区と比較して低くなっているが、本事業によって高岡駅南側から中心商店街まで歩行通路が地上で連絡され、移動抵抗が減少することによって、歩行者通行量の増加が期待される。

#### 《事業実施効果》

平成23年度に行った市民アンケート及び中心市街地来街者アンケート調査を基に、駅南地区居住者の中心商店街への通行人数を、駅南地区居住者の中心市街地に訪れる来街回数や市民の来街割合から算出

A ウイング・ウイング高岡を中心として、中心市街地範囲の北側を限度に同心円を描いた範囲に属する駅南地区の人口（城端線の西側除外）3,407人

B 駅南側居住者の中心市街地への来街回数 152回/365日

C 高岡駅北口歩行者専用道などの高岡駅周辺整備により、駅南側居住者が歩いて中心商店街に来る割合（19%）が、駅北側居住者の割合（35%）まで高まる期待値  $35\% - 19\% = 16\%$

D 駅南側居住者が2調査地点を通る割合 駅前調査地点：100%  
末広町通り：24%

$A \times B \times C \times D$ （駅前1+末広0.24） $\times 2$ （往復）  
 $= 3,407人 \times 152回/365日 \times 16\% \times 1.24\% \times 2$ （往復） $\approx 560人$

#### 【数値の諸元】

##### A 徒歩来街圏

ウイング・ウイング高岡を中心として、中心市街地活性化区域の北側の範囲を限度に同心円を描いた際に、その範囲に属する町丁を下関地区における徒歩来街圏と設定（但し、城端線西側の居住者は高架下を通り駅北へ行くと考えられるため除外）

下関地区の徒歩来街圏人口（H23.3時点）= 3,407人

（中心市街地地区+東上関+関本町+新寺町+芳野）

##### B H23.7市民アンケート

中心市街地への来街回数

（日/年）

	全目的	うち高岡駅利用目的	金融機関・クリーニング等生活関連サービス目的	高岡駅、生活関連サービスを除く
平米・定塚	307	31	68	208
博労	220	36	35	149
川原	218	9	57	151
下関	258	29	77	152

※アンケート結果に基づき、ほぼ毎日=243日/年（1回/1.5日）、週1回以上=117.5日/年（中間値）、月1回以上=30日/年（中間値）、3カ月に1回以上=8日/年（中間値）、6カ月に1

回以上=3回/年(中間値)、1年に1回以上=1回/年として来街目的別に集計し、全来街目的的合計を延べ回数とした。但し、合計が365日を超える場合は365日とした。  
 ※駅南部の中心市街地にも金融機関・郵便局、日常生活関連サービスがあるため、高岡駅そのものの利用目的と、生活関連サービス以外の目的で中心市街地に行く場合に通行量計測地点での歩行者通行量としてカウントされると考え、その数値を基礎とした。

C H23.7市民アンケート

中心市街地への交通手段

	自動車	自転車	徒歩	
平米・定塚	42%	17%	29%	
博労	27%	18%	45%	
川原	13%	38%	38%	
平米・定塚・博労・川原平均	33%	21%	35%	
下関	55%	16%	19%	⇒35%

D:下関地区からの来街者の目的地(平成23年7月「来街者アンケート」による)

商店街	9%	24%	→駅前調査地点、末広通り調査地点の2か所で補足。 駅を通り商店街へ行く人の割合
御旅屋セリオ	15%		

【徒歩来街圏】



イ. 新高岡ステーションビル建設事業

高岡駅地下街リニューアル事業による効果 2,290人

a) 新高岡ステーションビル建設事業、高岡駅地下街リニューアル事業-1  
 (開業による効果)

現在実施している高岡駅周辺整備事業に合わせ、JR高岡駅に隣接する高岡ステーションビルの改築が行われるとともに、高岡駅地下街が改修のため平成23年度から一時閉鎖になる。

高岡ステーションビルは、通勤・通学客が気軽に立ち寄り寛げる店舗と、新幹線を利用してビジネスや観光に訪れた人が特産品や土産物を購入する店舗の入居を促進し、また、高岡駅地下街は、駅利用者だけでなく、目的を持って来街する人が楽しめるよう飲食店を集めた整備を行い、平成26年度に、再開されることから、通行者の増加が見込まれる。

《事業実施効果》

新高岡ステーションビル及び駅地下街の整備店舗区画数と駅地下街店舗の平均来店者数から算出

A 新高岡ステーションビル及び駅地下街の整備店舗区画数 37店舗

B 各店来店者数（平成23年1月～10月の駅地下街1店舗当たりの買い物・飲食客平均来店者数 24人/日

$A \times B = 37 \times 24 \div 890$ 人

b) 新高岡ステーションビル建設事業、高岡駅地下街リニューアル事業-2

(回遊性の創出による効果)

本事業により現駅周辺に商業施設が設置され、回遊性が向上することが期待される。

高岡ステーションビルが新たな回遊拠点として加わり、かつ人工デッキで車道を渡ることなくウイング・ウイング高岡と連絡することによって、現在のウイング・ウイング高岡～御旅屋セリオの回遊が、高岡ステーションビル～ウイング・ウイング高岡～御旅屋セリオの3地点間の回遊性が創出される。

《事業実施効果》

平成23年度に行った中心市街地来街者アンケート調査を基に、ウイング・ウイング高岡や御旅屋セリオ利用者数とまちなかを回遊する割合から、新たな商業施設としてリニューアルする新高岡ステーションビル及び駅地下街を訪れる人数を算出

A ウイング・ウイング高岡利用者数 約3,400人/日

B 御旅屋セリオ来店者数 約3,250人/日

C ウイング・ウイング高岡⇔御旅屋セリオ回遊性（双方向） 13.7%

(H23.7来街者アンケート)

D 御旅屋セリオ⇒中心商店街回遊性 7.3% (H23.7来街者アンケート)

$A \times C \times 2$  (往復) +  $B \times D \times 2$  (往復)

$= \{3,400 \text{人} \times 13.7\% \times 2 \text{ (往復)}\} + \{3,250 \text{人} \times 7.3\% \times 2 \text{ (往復)}\}$

$\div 1,400$ 人

上記 a + b = 890 + 1,400 = 2,290 人

ウ. 高岡子育て支援センター運営事業による効果

100 人

a) 高岡子育て支援センター運営事業

御旅屋セリオに開設した高岡子育て支援センターには、1 カ月当たり約 3,000 人が利用している。また、北日本新聞カルチャーパークには、1,000 人程度の受講者数が利用している。

まちなかでイベントの開催や店舗情報の提供などを行い、子育て支援センターなどの御旅屋セリオ内の施設に訪れている人が、商店街などを訪れまちなかを回遊する取り組みを進めることで、通行量の増加に寄与することが見込まれる。

《事業実施効果》

高岡子育て支援センター及び北日本新聞カルチャーパーク利用者が中心商店街を回遊する増加数を、両施設利用者数と御旅屋セリオ来店者が街中を歩く回遊率から算出

A 高岡子育て支援センター利用者数 120 人/日 (H23.3~23.9 の平均)

B 北日本新聞カルチャーパーク利用者推定数 143 人/日

(1 週平均 1,000 人/7 日)

C 御旅屋セリオ⇒商店街・ウイング・ウイング高岡方向への回遊率 21%

(H23.7 来街者アンケート)

$$\frac{(A + B) \times C \times 2 \text{ (往復)}}{}$$

$$= (120 \text{ 人} + 143 \text{ 人}) \times 21\% \times 2 \text{ (往復)} \div 100 \text{ 人}$$

エ. たかまちプロムナード事業、

中心市街地ストリート回遊計画事業による効果

220 人

a) たかまちプロムナード事業

JR 高岡駅を起点に末広町、御旅屋通りの商店街を経て、高岡大仏前、坂下町商店街に至る通りに、地域の歴史・文化や新たな素材を付加した通りを特徴付ける事業に取り組み、高岡駅から高岡大仏までのまち歩きを楽しむ空間づくりを進めることから、歩行者通行量の増加が見込まれる。

b) 中心市街地ストリート回遊計画事業

中心市街地ストリート回遊計画事業により、瑞龍寺、山町筋、金屋町までのまち歩きを楽しむ観光客の増加が期待される。

《事業実施効果》

たかまちプロムナード事業及び中心市街地ストリート回遊計画事業により増加が見込まれる観光拠点の入込み増加数と事業エリアにある調査地点数から算出

A たかまちプロムナード事業及び中心市街地ストリート回遊計画事業による  
観光拠点入込み増加数 27,010人/年=74人/日

(高岡大仏：6,300人、瑞龍寺：15,420人、山町筋：4,850人、金屋町：440人)

B 通行量調査地点数 3か所(※駅地下街、末広町通り、御旅屋通り)

$A \times B = 74 \times 3 \div 220$ 人

※他の観光拠点への回遊も期待されているため、片道分のみを評価。

オ. 中心商店街ミニ拠点開発事業による効果 50人

a) 中心商店街ミニ拠点開発事業

本事業の実施により、中心市街地内の居住者が増加するため通行量の増加が図られる。

《事業実施効果》

中心商店街ミニ拠点開発事業による入居見込数と通過が見込まれる調査地点数

A 中心商店街ミニ拠点開発事業 12人

B 通行量調査地点数 2か所(末広町通り、駅地下街)

$A \times B = 12 \times 2 \times 2$ (往復)  $\div 50$ 人

ii) 中心商店街(6地点)の歩行者・自転車通行量増加に間接的に寄与する事業

カ. その他の事業による波及効果

中心商店街の歩行者・自転車通行量の増加を図るために一体的に推進する事業は、以下を予定している。

a) 交通基盤・地域交通網の整備に関連する事業

JR高岡駅の利便性向上のために駅前広場や周辺施設とともに、道路網の整備やコミュニティバスの運行に取り組むことにより、高岡駅の集客力が高まり、回遊性の向上が期待できる。

- ・万葉線延伸部施設整備事業(高岡駅地区)
- ・都市計画道路桜馬場長慶寺線整備事業
- ・都市計画道路高岡駅佐加野線整備事業
- ・高岡駅東自転車駐車場整備事業
- ・コミュニティバス事業
- ・レンタルサイクル事業

b) まちなか居住支援に関する事業

中心市街地における居住を促進し、域内人口を増加させることにより、域内移動の活性化が図られ、回遊性の向上が期待できる。

- ・まちなか住宅取得支援事業
- ・まちなか耐震住宅リフォーム事業
- ・まちなか共同住宅建設促進事業
- ・まちなか優良賃貸住宅補助事業
- ・都心エリア土地利用検討調査事業

**c) イベントの開催による回遊性の向上に関する事業**

定期的にさまざまなイベントを開催することにより、中心市街地への来街機会を増大させる。満足度の高いイベントの開催により、平時においても来街機会の向上が期待されることから回遊性の向上が期待できる。

- ・大学連携による伝統・文化再生事業
- ・工芸都市高岡クラフト展開催事業
- ・金屋町楽市開催事業
- ・中心商店街活性化イベント開催事業
- ・個別商店街の活性化事業

**d) 魅力ある商空間形成に関する事業**

魅力ある商空間形成に努めるため、中心市街地において、個々の地域特性に応じた開業を支援するほか、既存店舗のリニューアルを支援するとともに、若手事業者の事業意欲の向上を支援することにより、回遊性の向上が期待できる。

- ・観光地における開業支援事業
- ・中心市街地における開業支援事業
- ・中心市街地における既存店舗リニューアル事業
- ・元気たかおか未来会議の開催

**e) 拠点機能の向上に関する事業**

中心市街地における集客ポイントの機能向上を図ることにより、回遊性の向上が期待できる。

- ・高岡御車山会館建設事業
- ・平成の御車山制作事業
- ・ウイング・ウイング高岡運営事業
- ・大規模小売店舗立地法の特例措置
- ・芸文ギャラリー一運営事業
- ・中心商店街活性化センター「わろんが」運営事業
- ・シルバーサロン坂下小路運営事業
- ・朝市・夕市の開催
- ・高岡駅周辺にぎわい創出事業

- ・エルパセオ・マルシェ（仮称）開催事業
- ・賑わい施設魅力向上事業
- ・工房「手わざ」運営事業

#### f) 情報発信による回遊性の向上に関する事業

中心市街地に内包する各種情報を総合的に発信するとともに、従来の中心市街地のイメージとは異なる情報を付加することにより、新たな来街機会の誘発を行うことから回遊性の向上が期待できる。

- ・まちなかギャラリー事業
- ・まちなか情報発信事業
- ・コロッケのまちづくり事業
- ・たかおか未来WEB商店街事業
- ・TR@P事業
- ・食のブランド化推進事業
- ・フィルムコミッション事業
- ・たかおか観光戦略ネットワーク事業

#### g) 昼間人口の拡大に関する事業

昼間人口の拡大のため、オフィス誘導を図ることにより、回遊性の向上が期待できる。

- ・中心市街地におけるオフィス開設支援事業
- ・まちなか第2SOHOオフィス整備事業

### iii) 中心商店街(6地点)における歩行者・自転車通行量の増加目標値(まとめ)

歩行者・自転車通行量増加内訳		増加数
ア	高岡駅周辺整備事業による効果	560人
イ	新高岡ステーションビル建設事業、高岡駅地下街リニューアル事業による効果	2,290人
ウ	高岡子育て支援センター運営事業による効果	100人
エ	たかまちプロムナード事業及び中心市街地ストリート回遊計画事業による効果	220人
オ	中心商店街ミニ拠点開発事業による増加	50人
合計		3,220人

よって、目標となる観光客入込み数は、下記の通りとなる。

(H22年通行量)	(増加見込)	(H28年目標値)
11,700人	3,220人	14,900人

### ⑤目標達成の見通し

1期計画において、中心市街地の居住人口が減少する中、1期計画で実施した各種事業は一定の成果が上がっており、2期計画において完成する高岡駅周辺整備事業及び回遊性の創出を図る取り組みによって効果が増幅されることが十分に予測される。

併せて、2期計画におけるまちなか居住の促進に向けた各種事業の推進を通じ、居住人口の増加を図るとともに、中心商店街の店舗数増加に向けた取組みを強力に推進することによって基礎通行量が増加することになるため、目標数値の達成は可能である。

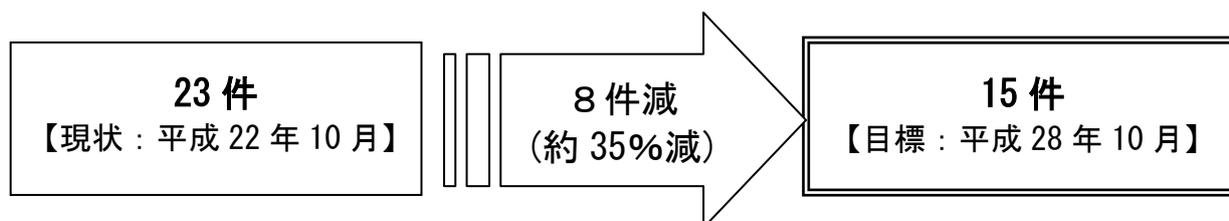
### ⑥フォローアップの考え方

歩行者・自転車通行量は、毎年10月に中心商店街の6地点で調査を実施している。これらの数値を根拠とすることにより、数値目標の達成状況を確認する。あわせて、2期計画の中間時点となる平成26年度において完了もしくは開始している事業について進捗調査を行い、状況に応じて事業の促進などの目標達成に向けた改善措置を講じる。更に、計画期間終了後、数値目標の達成状況を確認するとともに、中心市街地活性化への効果を検証する。

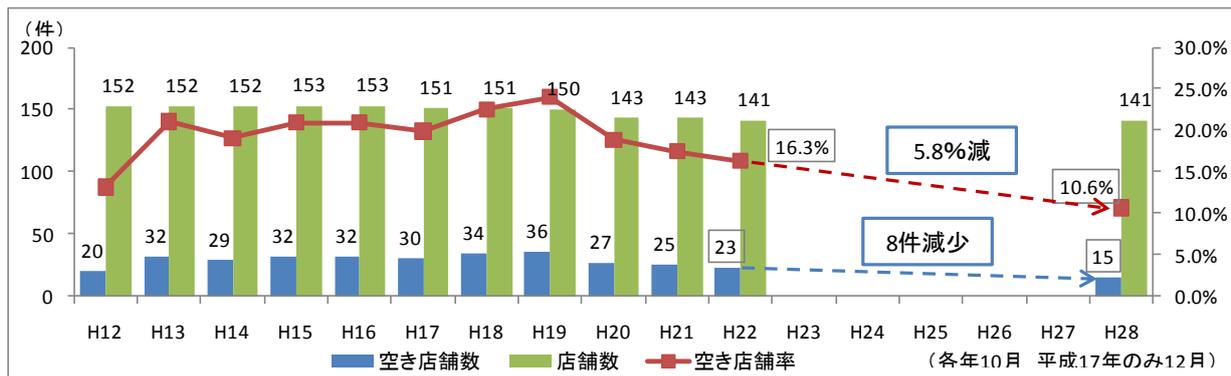
## B 中心商店街（3商店街）における空き店舗数

### ②目標数値の考え方、および目標達成に向けて実施する主な事業

中心商店街（3商店街）における空き店舗数は、1期計画期間に実施した各種事業の取り組みにより、空き店舗が減少する効果が表れた。2期計画期間においては、平成23年11月に、高岡サティ跡地にホームセンターおよび食品スーパーの大規模商業施設が開店し、中心市街地への誘引機能が強化される環境となることを契機に、中心商店街にも買物客が訪れるよう、引き続き開業相談や開業支援事業を推進する。中心商店街の空き店舗数減少を進め、平成12年（3商店街における空き店舗数＝20件）以下の水準となる15店舗を目標数値として設定し、空き店舗数の減少を図る。



中心商店街（3商店街）空き店舗数の推移



		H12.10	H13.10	H14.10	H15.10	H16.10	H17.12	H18.10	H19.10	H20.10	H21.10	H22.10
末広町	空き店舗数	9	12	11	14	15	13	14	15	13	15	13
	空き店舗率	12.7%	16.7%	15.3%	19.2%	20.5%	18.1%	19.2%	20.5%	18.3%	21.1%	18.3%
	店舗数	71	72	72	73	73	72	73	73	71	71	71
御旅屋通	空き店舗数	8	12	11	15	14	14	17	16	10	9	9
	空き店舗率	14.5%	22.2%	20.4%	27.8%	25.9%	25.9%	32.1%	30.8%	21.3%	19.1%	19.6%
	店舗数	55	54	54	54	54	54	53	52	47	47	46
末広坂	空き店舗数	3	8	7	3	3	3	3	5	4	1	1
	空き店舗率	11.5%	30.8%	26.9%	11.5%	11.5%	12.0%	12.0%	20.0%	16.0%	4.0%	4.2%
	店舗数	26	26	26	26	26	25	25	25	25	25	24
3商店街計	営業店舗数	132	120	123	121	121	121	117	114	116	118	118
	空き店舗数	20	32	29	32	32	30	34	36	27	25	23
	空き店舗率	13.2%	21.1%	19.1%	20.9%	20.9%	19.9%	22.5%	24.0%	18.9%	17.5%	16.3%
	店舗数	152	152	152	153	153	151	151	150	143	143	141

③各事業の実施による効果

i) 中心商店街（3商店街）の空き店舗減少に直接的に寄与する事業

ア. 中心市街地における開業支援事業による効果 8件

a) 中心市街地における開業支援事業

1期計画で効果が認められる本支援事業を継続し、新規開業希望者に対する店舗改装や家賃への補助、また、空き店舗所有者に対して店舗改修補助を行うことで、空き店舗を活用した開業を促進し、2期計画においても空き店舗数の減少を図る。

《事業実施効果》

末広町、末広坂、御旅屋の3商店街において、1期計画期間中に本制度を活用して開業した店舗数 8件

ii) 中心商店街（3商店街）の空き店舗減少に間接的に寄与する事業

イ. その他の事業による波及効果

中心商店街（3商店街）の空き店舗数の減少を図るために一体的に推進する事業は、以下を予定している。

**a) 営業支援に関する事業**

開業店舗や既存店舗が永続的に営業できるよう、ITを活用したWEBでの商売に支援を行うとともに、核となる大規模小売店舗の立地促進ややる気のある店主の活動を支援することにより、空き店舗数の減少が期待される。

- ・大規模小売店舗立地法の特例措置
- ・中心市街地における既存店舗リニューアル支援事業
- ・元気たかおか未来会議の開催
- ・たかおか未来WEB商店街事業

**b) 昼間人口の増大に関する事業**

商業・サービス業のみならず、昼間時における消費人口の増大に繋がる一定規模以上のオフィスの開業への支援を行う。1期計画では申請がなかったことから、事業の見直しを行うことで、支援事業活用による空き店舗数の減少が期待される。

- ・中心市街地におけるオフィス開業支援

**iii) 中心商店街（3商店街）の空き店舗数減少の目標値（まとめ）**

空き店舗数減少内訳		減少数
ア	中心市街地における開業支援事業による効果	8件
合計		8件

よって、目標となる中心商店街（3商店街）の空き店舗数は、次の通りとなる。

(H22.10)	(減少見込)	(H28年目標値)
23件	8件	15件

**④目標達成の見通し**

1期計画の実績を踏まえた目標値であり、達成は可能である。

**⑤フォローアップの考え方**

空き店舗数は、まちづくり会社である末広開発株が出店希望者への開業相談や大家への賃貸意向確認等により現況調査を実施している。過去の調査が10月期のものが多いことから、毎年10月の現況調査により比較する。あわせて、2期計画の中間時点となる平成26年度に完了もしくは開始している事業について進捗調査を行い、状況に応じて事業の促進などの目標達成に向けた改善措置を講じる。更に、計画期間終了後、数値目標の達成状況を確認するとともに、中心市街地活性化への効果を検証する。

#### 4. 土地区画整理事業、市街地再開発事業、道路、公園、駐車場等の公共の用に供する施設の整備その他の市街地の整備改善のための事業に関する事項

##### [1] 市街地の整備改善の必要性

###### (1) 現状分析・課題

中心市街地は、昭和30年代からの駅北地区の幹線道路、防災街区の整備や駅南地区における土地区画整理事業により現在の都市基盤が形成され、その後、昭和61年から平成16年まで駅北地区に4つの再開発事業（うち、1つは沿道区画整理事業との合同事業）に取り組み、商業施設とホテル、特定公共賃貸住宅と市営駐車場、商業施設、公共施設を主体とした複合施設、といった特色ある拠点が高岡駅周辺を中心に数多く整備されている。

一方、高岡市は1609年の開町以来、武家が中心となる城下町から商人が中心の商業のまちへと歴史的背景に応じて変化しながら発展したまちであり、中心市街地には、歴史・文化資産をはじめとする歴史的な要素が数多く位置している。そうした歴史的な特長は、高岡のまちづくりにおいて重要な位置付けとなるものであり、歴史・文化資産を磨き、活かすため、伝統的な町並みでの建物の修理・修景や道路の無電柱化事業など文化遺産の付加価値向上を図るための景観形成や、歩道・車道の整備や駐車場整備など来街者の利便性向上を図る取り組みを進めている。歴史・文化資産を訪れる観光客は増加しているところであるが、歴史・文化資産の保存整備や調査研究による価値の向上と、通りの景観や歩きやすさに配慮しながら、歴史・文化資産を繋ぐ、歩いて楽しめる魅力ある通りづくりに取り組み、居住者には住みよく、来街者にとっても居心地の良いまちづくりを進めていく必要がある。

また、平成26年度に北陸新幹線が金沢まで開業し、新駅が設置される中で、市民生活における交通拠点として高岡駅の役割がますます重要となるため、高岡駅の橋上駅化や駅南北を繋ぐ自由通路を整備したところであり、交通広場や路面電車万葉線の高岡駅までの延伸化整備などを実施し、利用者の利便性を高め、交通拠点の結節機能の向上を図る必要がある。

###### (2) 取り組むべき事業

- ① まちの特長である文化遺産を生かすため、文化財の保存修理に取り組むとともに、高岡独特の風情やまちのたたずまいを歩いて楽しむまちづくりを進めるため、ハード・ソフト両面からの整備を行う。
- ② 高岡駅の公共交通結節拠点としての機能向上を図るため、万葉線の近接事業をはじめ、交通広場、北口駅前広場、ステーションビル等の整備等の高岡駅周辺整備事業を行う。

###### (3) フォローアップの考え方

基本計画が認定された2年後の平成26年度において、完了もしくは開始している事業について進捗調査を行い、状況に応じて事業の促進等の目標達成に向けた改善措置を講じる。更に、計画期間終了後、数値目標の達成状況を確認するとともに、中心市街地活性化への効果を検証する。

## [2] 具体的事業の内容

### (1) 法に定める特別の措置に関連する事業

該当なし

### (2) ①認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した特例措置に関連する事業

No.事業名 ●内容 ◎実施時期	実施 主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の 内容及び実 施時期	その他 の事項
1. 高岡古城公園 整備事業 ●園路整備及び 施設改修、水濠の 水質改善 ◎H24～H28 年度	高岡市	高岡古城公園は、中心市街地における貴重な緑地公園であり、高岡城跡としては、近世高岡の文化遺産群のひとつである。園路の舗装整備や施設の改修を行うとともに、水濠の水質改善を進める。 この事業により、園内散策の利便性向上や良好な景観形成が図られ、「観光客入込み数の増加」に寄与することから必要な事業である。	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画(高岡駅周辺地区)) H24 年度	
2. 高岡御車山会 館建設事業 ●耐火建築物 2 階建(御車山展示 室、資料展示室 等) 敷地 2,051 m <sup>2</sup> 建築 約 1,600 m <sup>2</sup> 延床 約 2,600 m <sup>2</sup> ◎H24～H26 年度	高岡市	歴史都市高岡において、観光客と地元住民が交流する新たな観光拠点として、高岡御車山を所有する山町内に、文化財保護と公開の双方の観点を踏まえた展示館を整備する。 重要有形・無形民俗文化財に指定されている高岡御車山祭の山車の通年展示、祭りの紹介、地元住民との交流が可能な施設を整備することで、観光客の年間を通じての来街促進が可能となるため、「観光客入込み数の増加」と「歩行者・自転車通行量の増加」に寄与することから必要な事業である。	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画(高岡駅周辺地区)) H24～ H26 年度	
3. 平成の御車山 制作事業 ●伝統工芸技術 を集めた新しい 御車山の制作 ◎H24 年度～	高岡市	高岡で守られてきたものづくりの伝統と技術を次世代へ継承し、また、広く全国へ発信するため、高岡に息づく金工・漆工・木工等の伝統工芸技術の粋を集めた平成の御車山を制作する。 制作事業は、長い歳月を掛けて実施し、完成した部材から順次展示することから、「観光客入込み数の増加」と「歩行者・自転車通行量の増加」に寄与することから必要な事業である。	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画(高岡駅周辺地区)) H24～ H28 年度	
4. 万葉線延伸部 施設整備事業(高 岡駅地区) ●JR と万葉線 の乗換利便性向 上のため、近接化 に必要な施設整	高岡市	平成 26 年度に北陸新幹線が金沢駅まで開業し、現駅から約 1.5km 南に新高岡駅(仮称)が整備されることとなっており、高速交通体系が新駅に移管されることから、現在の JR 高岡駅は、生活者のための駅としての機能が顕在化する。 本市では、高岡駅周辺整備事業として現駅周辺の機能強化を一体的に取り組むこととしており、	社会資本整備総合交付金(都市・地域交通戦略推進事業) H22～ H25 年度	

備を行う。 ◎H22～H25 年度		その中で、現駅の公共交通機関相互の乗換利便性の向上を図るため、路面電車「万葉線」を延伸し、J R 高岡駅へ近接化を行う。 公共交通結節機能の向上により、歩いて暮らせるまちとしての機能が向上され、「 <b>歩行者・自転車通行量の増加</b> 」に寄与することから必要な事業である。		
----------------------	--	--	--	--

(2) ②認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した重点的な支援措置に関連する事業

No.事業名 ●内容 ◎実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
5. 高岡駅交通広場整備事業(万葉線延伸部走行空間整備事業 [(万葉線)路面電車走行空間、交通広場整備事業]) ●交通広場整備、J R と万葉線の乗換利便性向上のための万葉線延伸に係る路面走行空間及び電停の整備を行う。 ◎H19～H25 年度	高岡市	平成 26 年度に北陸新幹線が金沢駅まで開業し、現駅から約 1.5km 南に新高岡駅（仮称）が整備されることとなっており、高速交通体系が新駅に移管されることから、現在の J R 高岡駅は、生活者のための駅としての機能が顕在化する。 本市では、高岡駅周辺整備事業として現駅周辺の機能強化を一体的に取り組むこととしており、現駅の公共交通機関相互の乗換利便性の向上を図るため、万葉線高岡駅前電停と、J R 高岡駅の近接化のための交通広場整備を行う。 公共交通結節機能の向上により、歩いて暮らせるまちとしての機能が向上され、「 <b>歩行者・自転車通行量の増加</b> 」に寄与することから必要な事業である。	社会資本整備総合交付金（道路事業（街路）） H19～ H25 年度	
6. 高岡駅北口駅前広場整備事業（高岡駅佐加野線（北口駅広）） ●高岡駅北口の交通広場の再整備（区域：11,350 m <sup>2</sup> ） ◎H16～H25 年度	高岡市	平成 26 年度に北陸新幹線が金沢駅まで開業し、現駅から約 1.5km 南に新高岡駅（仮称）が整備されることとなっており、高速交通体系が新駅に移管されることから、現在の J R 高岡駅は、生活者のための駅としての機能が顕在化する。 本市では、高岡駅周辺整備事業として現駅周辺の機能強化を一体的に取り組むこととしており、その中で、現駅の公共交通機関相互の乗換利便性の向上、南北市街地の連携強化、安全で快適な歩行空間の確保等を図るため、ロータリーの見直し等による北口交通広場の再整備を行う。 円滑な公共交通路線の確保により公共交通結節機能が向上し、歩いて暮らせるまちとしての機能が向上され、「 <b>歩行者・自転車通行量の増加</b> 」に寄	社会資本整備総合交付金（道路事業（街路）） H16～ H25 年度	

		与することから必要な事業である。		
<p><b>7. 高岡駅北口歩行者専用道(人工デッキ)整備事業</b></p> <p>●南北自由通路と中央駐車場を結ぶ人工デッキの整備(面積: 2,590 m<sup>2</sup>)</p> <p>◎H16~H25年度</p>	高岡市	<p>平成26年度に北陸新幹線が金沢駅まで開業し、現駅から約1.5km南に新高岡駅(仮称)が整備されることとなっており、高速交通体系が新駅に移管されることから、現在のJR高岡駅は、生活者のための駅としての機能が顕在化する。</p> <p>本市では、高岡駅周辺整備事業として現駅周辺の機能強化を一体的に取り組むこととしており、その中で、現駅の公共交通機関相互の乗換利便性の向上、南北市街地の連携強化、安全で快適な歩行空間の確保等を図るため、北口歩行者専用道の整備を行う。</p> <p>2階レベルでの歩行者動線を確保することによりJR高岡駅と中心商店街とのアクセス性が向上され、「観光客入込み数の増加」と「歩行者・自転車通行量の増加」に寄与することから必要な事業である。</p>	<p>社会資本整備総合交付金(道路事業(街路))</p> <p>H16~ H25年度</p>	
<p><b>8. 高岡駅前東自転車駐車場整備事業</b></p> <p>●自転車駐車場の整備(区域:2,200m<sup>2</sup>、収容台数1,000台)</p> <p>◎H22~H26年度</p>	高岡市	<p>平成26年度に北陸新幹線が金沢駅まで部分開業し、現駅から約1.5km南に新高岡駅(仮称)が整備されることとなっており、高速交通体系が新駅に移管されることから、現在のJR高岡駅は、生活者のための駅としての機能が顕在化する。</p> <p>本市では、高岡駅周辺整備事業として現駅周辺の機能強化を一体的に取り組むこととしており、その中で、通勤・通学者等の駅利用者の利便性の向上を図るため、自転車駐車場の整備を行う。</p> <p>自転車駐車場整備に伴い、自転車利用者の利便性が向上され、「歩行者・自転車通行量の増加」に寄与することから必要な事業である。</p>	<p>社会資本整備総合交付金(道路事業(街路))</p> <p>H22~ H26年度</p>	
<p><b>9. 金屋町鋳物工場跡地整備事業</b></p> <p>●鋳物工場の復元修理等</p> <p>◎H26~H28年度</p>	高岡市	<p>金屋町は高岡鋳物発祥の地であり、鋳物・銅器産業を象徴する遺産である鋳物工場跡が残っている。</p> <p>鋳物工場の復元修理に取り組み、資料保存及び体験交流施設として活用することで、文化的価値や観光地としての魅力が向上され、「観光客入込み数の増加」に寄与することから必要な事業である。</p>	<p>社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)</p> <p>H26~ H28年度</p>	

<p>10. 都市計画道路桜馬場長慶寺線整備事業</p> <p>●道路拡幅、歩車道の区分(L:540m)</p> <p>◎H16～H25年度</p>	富山県	<p>都市計画道路桜馬場長慶寺線は、高岡市南部地域からJR高岡駅前や中心商店街への主要なアクセス道路となることから主要な幹線道路と位置付けている。</p> <p>道路の4車線化及び歩道の確保に取り組むことで、中心市街地へのアクセス向上及び歩きやすい歩行空間が確保され、「歩行者・自転車通行量の増加」に寄与することから必要な事業である。</p>	<p>地域自主戦略交付金(道路事業)</p> <p>H16～ H25年度</p>	
<p>11. 都市計画道路高岡駅佐加野線整備事業</p> <p>●片原町交差点から山町筋までの無電柱化(L:150m)</p> <p>◎H23～H25年度</p>	富山県	<p>高岡駅前から山町筋までの区間のうち、無電柱化されていない区間について、無電柱化整備を行う。</p> <p>無電柱化に取り組むことにより、高岡駅前から山町筋までの景観の改善と良好な歩行空間が確保され、「観光客入込み数の増加」と「歩行者・自転車通行量の増加」に寄与することから必要な事業である。</p>	<p>地域自主戦略交付金(道路事業)</p> <p>H23～ H25年度</p>	
<p>18. 中心市街地ストリート回遊計画事業</p> <p>●北陸新幹線新駅から中心市街地にある歴史・文化資産への回遊を促す事業の実施(区域:北陸新幹線新駅から中心市街地の地域)</p> <p>◎H24～H28年度</p>	高岡市	<p>北陸新幹線の開業を契機に、新幹線新駅から金屋町にかけての歴史・文化資産を堪能できる歩行系回遊ルートを提案し、高岡らしい風情や情緒を楽しむながら散策できるまちづくりを進める。</p> <p>観光客が一定の時間内で楽しめるよう地域特性に応じたゾーニングを行い、歩く仕組みづくりのためのハード・ソフト事業を効果的に組み合わせつつなぎ、歩いて楽しめるまちを創る。</p> <p>中心市街地の見どころを繋ぎ、回遊性の向上を図るため、「観光客入込み数の増加」と「歩行者・自転車通行量の増加」に寄与することから必要な事業である。</p>	<p>社会資本整備総合交付金(道路事業、街なみ環境整備事業)</p> <p>H25～ H28年度</p>	

(3) 中心市街地の活性化に資するその他の支援措置に関連する事業

No.事業名 ●内容 ◎実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
<p>12. 瑞龍寺保存修理事業</p> <p>●回廊・禅堂等の屋根修理</p> <p>◎H24～H31年度</p>	宗教法人瑞龍寺	<p>瑞龍寺は、平成9年に、山門・仏殿・法堂が国宝に指定され、多くの参拝者や観光客が訪れている。瑞龍寺の回廊及び禅堂等の屋根に損傷が見られることから、保存修理事業を行う。</p> <p>この事業により、文化財的価値が向上し、瑞龍寺の魅力が一層高まり、「観光客入込み数の増加」に寄与することから必要な事業である。</p>	<p>国宝重要文化財等保存整備等事業補助金</p> <p>H24～ H31年度</p>	

<p>13. 金屋町重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業</p> <p>●伝統的建造物の修理等(区域：同地区約 6.4ha)</p> <p>◎H25 年度～</p>	<p>金屋町 住民など(伝建地区内での土地・建物所有者)</p>	<p>金屋町は、千本格子が特徴的な町家が並び、石畳み通りと相まって、歴史的な景観を形成している。金屋町の伝統的な町並みの保存に取り組むため、伝統的建造物等の修理、修景等を支援する。</p> <p>保存修理事業に伴い、歴史的な景観や観光地としての魅力が向上され、「観光客入込み数の増加」に寄与することから必要な事業である。</p>	<p>国宝重要文化財等保存整備等事業補助金</p> <p>H25 年度～</p>	
<p>14. 前田利長墓所保存修理事業</p> <p>●国指定史跡の保存・修理(区域：33,392 m<sup>2</sup>)</p> <p>◎H24 年度～</p>	<p>高岡市</p>	<p>前田利長墓所は、全国でも有数の規模と威厳を備え、近世大名の政治権力や墓制を知る上で貴重であるとして、平成 21 年に国史跡の指定を受けた。墓所が持つ威厳と風格を保ちながら、史跡の価値を高めるため、石造物、玉垣、堀の修理などに取り組む。</p> <p>保存修理事業に伴い、文化的価値が向上し、観光地としての魅力が高まり、「観光客入込み数の増加」に寄与することから必要な事業である。</p>	<p>国宝重要文化財等保存整備等事業補助金</p> <p>H24 年度～</p>	
<p>15. 高岡城跡詳細調査事業</p> <p>●城跡の調査(区域：242,133 m<sup>2</sup>)</p> <p>◎H24 年度</p>	<p>高岡市</p>	<p>県指定史跡「高岡城跡」は、土塁、堀はほとんど当時と変わらず護り伝えられている。高岡城跡の国指定史跡を目指して、遺構・遺物資料、文献史料等の調査からなる、高岡城跡の学術的価値や特徴を明らかにするための調査を行う。</p> <p>この総合調査により高岡城跡の文化遺産としての価値が高まり、観光地としての魅力が向上され、「観光客入込み数の増加」に寄与することから必要な事業である。</p>	<p>国宝重要文化財等保存整備等事業補助金</p> <p>H24 年度</p>	
<p>16. 山町筋重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業</p> <p>●伝統的建造物の修理等(区域：同地区約 5.5Ha)</p> <p>◎H13 年度～</p>	<p>山町筋 住民など(伝建地区内での土地・建物所有者)</p>	<p>山町筋重要伝統的建造物群保存地区は、平成 12 年 12 月に選定されて以来、伝統的な土蔵造りの町並みの保存に取り組むため、伝統的建造物等の修理、修景等を実施している。</p> <p>修理事業等に伴い、観光地としての魅力が向上され、「観光客入込み数の増加」に寄与することから必要な事業である。</p>	<p>国宝重要文化財等保存整備等事業補助金</p> <p>H13 年度～</p>	

<p>17. 高岡御車山保存修理事業</p> <p>●重要有形民俗文化財「高岡御車山」の保存修理</p> <p>◎H17年度～</p>	<p>高岡御車山保存会</p>	<p>高岡御車山祭は、重要有形民俗文化財と重要無形民俗文化財の双方の指定を受けている全国に5つしかない文化財のひとつであり、高岡市を代表する祭礼である。文化財の継承を図るため、7基ある高岡御車山の計画的な保存修理を行う。</p> <p>中心市街地における伝統行事の保存と活用により、高岡御車山祭と関連が深い山町筋の観光地としての魅力が向上され、「観光客入込み数の増加」に寄与することから必要な事業である。</p>	<p>国宝重要文化財等保存整備等事業補助金</p> <p>H17年度～</p>	
---	-----------------	--	---	--

#### (4) 国の支援がないその他の事業

<p>No.事業名</p> <p>●内容</p> <p>◎実施時期</p>	<p>実施主体</p>	<p>目標達成のための位置付け及び必要性</p>	<p>国以外の支援措置の内容及び実施時期</p>	<p>その他の事項</p>
<p>19. 都心エリア土地利用検討調査事業</p> <p>●中心市街地の商業的・文化的な都市基盤整備などによる効果的な土地利用の検討</p> <p>◎H24～H28年度</p>	<p>高岡市</p>	<p>中心市街地の土地利用を見直し、考え方を整理し、少子高齢化の進展や郊外への転出、店舗閉店などによるまちなかの空洞化の進行等、中心市街地の諸課題に対し、総括的なプランづくりのため、木造密集市街地の防災対策、街区単位のミニ開発や再開発による商業・文化・居住基盤の整備の新たな方針を検討し、実施につなぐ。</p> <p>中心市街地における良好な街区整備や、集合住宅などの都市基盤整備を推進し、「居住人口の増加」と「歩行者・自転車通行量の増加」に寄与することから必要な事業である。</p>		
<p>20. 金屋町観光駐車場・トイレ整備事業</p> <p>●観光客専用駐車場とトイレの整備</p> <p>◎H25～H26年度</p>	<p>高岡市</p>	<p>金屋町は、高岡鋳物発祥の地で、千本格子の伝統的な町家と石畳み通りが美しく、多くの観光客が訪れている。</p> <p>金屋町における観光客の増大と滞在時間の延長を図るため、金屋町の近隣において、観光バスや普通車を停める駐車場とトイレを整備する。</p> <p>観光駐車場とトイレの整備により、観光地としての機能が向上され、「観光客入込み数の増加」に寄与することから必要な事業である。</p>		

## 5. 都市福利施設を整備する事業に関する事項

### [1] 都市福利施設の整備の必要性

#### (1) 現状分析・課題

本市では、従前より、高岡古城公園内に、市民会館、市民体育館、動物園、博物館等を整備し、中心市街地における市民の憩いの場を提供しているほか、古城公園周辺には、富山地方裁判所高岡支部、高岡法務合同庁舎、高岡市急患医療センターをはじめ多くの行政機関・団体が入居する本丸会館、高岡市保健センター等が立地している。

また、高岡駅周辺では、御旅屋セリオ内に高岡子育て支援センターや高岡市オタヤ市民サービスセンター、富山県旅券センター高岡支所が設置されているとともにウイング・ウイング高岡内に、富山県立志貴野高等学校、高岡市生涯学習センター、高岡市立中央図書館等が設置されており、駅南地区には、高岡運転免許更新センターがある。特に、ウイング・ウイング高岡は、公共公益棟とホテル・飲食・業務棟の複合施設として、1日あたり3,000人を超える集客を誇り、市民生活に密着した施設となっている。

他にも、中心市街地全体には、複数の保育所、小学校、中学校が配置されているほか、校下ごとの地区公民館が設置されているなど、公共公益施設の適切な配置がなされている。

医療施設、介護保険施設のうち総合病院については、中心市街地内には立地していないものの、市内にある4つの総合病院のうち伏木地区にある総合病院を除き、すべて中心市街地に近接しており、高岡駅から路線バス、万葉線等、公共交通の利用により10分程度で通院が可能である。これに加えて、総合病院を補完する開業医が中心市街地に点在していることから、一定の医療サービスは供給されている。

介護保険施設については、特別養護老人ホームは立地していないものの、デイサービスセンター等通所施設を中心に点在している。

このように、本市の中心市街地においては、市庁舎や総合病院など、拠点となる都市福利施設の立地はないものの、市民生活の利便性を確保する都市福利施設は充足している。

上記のような市民生活を支える都市福利施設のほか、文化遺産及び見学機能を有する資料館等を整備、公開するとともに、(社)高岡市観光協会及びまちの駅ネットワーク等による観光案内機能の充実により、観光客を支える都市福利施設も供給されている。

#### (2) 取り組むべき事業

- ①既存施設における安定的なサービス提供とともに更なる利活用を図り、事業運営の充実に努める。
- ②文化遺産の観覧機能の向上を図るため、周辺部における関連施設の充実や新たなサービスの提供に努める。

#### (3) フォローアップの考え方

基本計画が認定された2年後の平成26年度において、完了もしくは開始している事

業について、進捗調査を行い、状況に応じて事業の促進等の目標達成に向けた改善措置を講じる。更に、計画期間終了後、数値目標の達成状況を確認するとともに、中心市街地活性化への効果を検証する。

## [2] 具体的事業の内容

### (1) 法に定める特別の措置に関連する事業

該当なし

### (2) ①認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した特例措置に関連する事業

該当なし

### (2)②認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した重点的な支援措置に関連する事業

該当なし

### (3) 中心市街地の活性化に資するその他の支援措置に関連する事業

No.事業名 ●内容 ◎実施時期	実施 主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
21. 高岡子育て支援センター運営事業 ●子育て支援センターの運営(位置:御旅屋セリオ内) ◎H23年度～	高岡市	子育て支援センターは、子育て親子の交流促進や遊びの場の提供、育児相談、子育て関連情報の提供等、子どもの健やかな育成に関する支援事業を総合的に行っている。 この事業により、子育て世帯が中心市街地を訪れる機会に繋がり、「居住人口の増加」と「歩行者・自転車通行量の増加」に寄与することから必要な事業である。	子育て支援交付金 H23年度～	

### (4) 国の支援がないその他の事業

No.事業名 ●内容 ◎実施時期	実施 主体	目標達成のための位置付け及び必要性	国以外の支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
22. 高岡市鋳物資料館運営事業 ●資料館の運営(位置:金屋町地内) ◎H19年度～	高岡市	高岡銅器発祥の地である金屋町は、「さまのこ」と呼ばれる格子づくりの街並みとして知られている。 街並みに位置する鋳物資料館は、鋳物資料の常設展示を行う施設として位置づけられており、金屋町の「観光客入込み数の増加」に寄与することから必要な事業である。		

<p>23. 重要文化財菅野家住宅運営事業</p> <p>●資料館の管理 (位置：山町筋重要伝統的建造物群保存地区) ◎H10年度～</p>	<p>菅野家住宅保存活用協議会</p>	<p>山町筋重要伝統的建造物群保存地区における唯一の重要文化財建造物として、建物の一部を公開している。</p> <p>山町筋における主要な観光資源のひとつとして重要な施設であり、山町筋の「観光客入込み数の増加」に寄与することから必要な事業である。</p>		
<p>24. 高岡市土蔵造りのまち資料館運営事業</p> <p>●資料館の運営 (位置：山町筋重要伝統的建造物群保存地区) ◎H14年度～</p>	<p>高岡市</p>	<p>山町筋重要伝統的建造物群保存地区において、土蔵造りの建造物全体を公開している唯一の建造物として、施設を公開している。</p> <p>山町筋における主要な観光資源のひとつとして重要な施設であり、山町筋の「観光客入込み数の増加」に寄与することから必要な事業である。</p>		
<p>25. ウイング・ウイング高岡運営事業</p> <p>●ウイング・ウイング高岡の運営 ◎H16年度～</p>	<p>末広開発(株)、富山県、高岡市 (指定管理者：末広開発(株))</p>	<p>高岡駅前において、公共公益施設、ホテル・飲食・オフィスによる複合施設の運営を行う。</p> <p>ウイング・ウイング高岡は、高岡市中央図書館の利用者を中心に中心商店街で最大の集客力がある施設であり、「歩行者・自転車通行量の増加」に寄与することから、必要な事業である。</p>		

## 6. 公営住宅等を整備する事業、中心市街地共同住宅供給事業その他の住宅の供給のための事業及び当該事業と一体として行う居住環境の向上のための事業等に関する事項

### [1] まちなか居住の推進の必要性

#### (1) 現状分析・課題

本市の中心市街地における居住人口は長期的に減少を続けている。この間、世帯数の減少は緩やかに進む中、平均世帯人員数が大きく減少していることから、核家族化・世帯の分離が進み、中心市街地の高齢化率が高まっていることから、高齢者夫婦のみの世帯、高齢者単独世帯が、中心市街地に相当数存在していると推察される。

バブル経済崩壊以降、中心市街地住宅地は地価の下落が進み、中心市街地の良好な生活環境のもとで住宅を取得しやすい環境は整いつつあるものの、中心市街地の歴史的発展経緯から、いわゆる「鰻の寝床型」の狭隘な区画に住宅が連なり、かつ現住住居と空き家が混在しているため、新たな住宅の建設が進みにくいという問題もあり、中心市街地において、空き家、空き地の発生が多くみられるようになった。さらには、周辺地域よりも早い時期に町が形成されたため老朽化した建物も多く、防災面における問題も存在している。

他方、公共施設や公共交通、商業機能などの都市基盤の集積があることから、居住者においては「住みやすい」という意識が強く、また、中心市街地においては、高岡御車山祭をはじめとした伝統的行事が多数行われるなど、「高岡らしさ」を感じる環境となり、まちなかの魅力は高まってきている。

また近年では、雪害対策やライフスタイルの変化等に伴い、集合住宅志向も高まり、駅南地区や中心市街地近接地において、複数のマンション整備が進んだ。中心市街地エリア内では、駅北地区と駅西地区に、分譲マンションと賃貸マンションの建設が進んでおり、公共交通等の利便性が高い中心市街地における居住ニーズが高まりつつある。

#### (2) 取り組むべき事業

- ①まちなか居住への指向を高め、居住人口の増加を図るため、土地・住宅取得や共同住宅の建設など各種まちなか居住支援策を講じることや、景観法に基づき策定した高岡市景観計画により、地域特性に応じた魅力ある景観づくりに取り組むなど、良好な住環境を整備し、まちなか居住を推進する。
- ②中心市街地に点在する空き家や空き地等の敷地の有効利用を図るため、木造密集市街地の防災対策や街区単位の再開発など、中心市街地の効果的な土地利用を検討する。

#### (3) フォローアップの考え方

基本計画が認定された2年後の平成26年度において、完了もしくは開始している事業について、進捗調査を行い、状況に応じて事業の促進等の目標達成に向けた改善措置を講じる。更に、計画期間終了後、数値目標の達成状況を確認するとともに、中心市街地活性化への効果を検証する。

## [2] 具体的事業の内容

### (1) 法に定める特別の措置に関連する事業

該当なし

### (2) ①認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した特例措置に関連する事業

No. 事業名 ●内容 ◎実施時期	実施 主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の 内容及び実 施時期	その他 の事項
26. まちなか住宅 取得支援事業 ●戸建住宅の新 築、住宅・マンシ ョンの取得等 に対する支援(対象 区域:まちなかの 区域(270ha)) ◎H19年度～	高岡市	高岡市が指定した「まちなかの区域」において、家屋の新築や、新築・中古住宅の取得、新築・中古分譲マンションの取得、隣地の取得を行う者に対し、費用の一部を支援する。 中心市街地における空き地の解消と老朽化した家屋の建て替えが促進されることにより、中心市街地における良好な住宅が供給され、「 <b>居住人口の増加</b> 」と「 <b>歩行者・自転車通行量の増加</b> 」に寄与することから必要な事業である。	中心市街地 活性化ソフト事業 H19～ H28年度	
27. まちなか耐震 住宅リフォーム 支援事業 ●耐震改修工事 に伴うリフォーム に対する支援 (対象区域:まちな かの区域 (270ha)) ◎H21年度～	高岡市	高岡市が指定した「まちなかの区域」において、富山県が実施する耐震診断に基づく耐震改修を行う者に対し、費用の一部を支援する。 中心市街地における住宅の耐震化が促進されることにより、中心市街地における良好な住宅が供給され、「 <b>居住人口の増加</b> 」と「 <b>歩行者・自転車通行量の増加</b> 」に寄与することから必要な事業である。	中心市街地 活性化ソフト事業 H24～ H28年度	
58. 中心商店街ミ ニ拠点開発事業 ●老朽建物の建 替えや街区の再 編について再開 発手法を用いた 整備を進める。 ◎H26年度～	関係権 利者	老朽建物の共同建て替えを実施するにあたり、共同住宅の建設に加え、中心商業地に必要な機能を整備し、にぎわいの拠点とする。 この事業により、商業施設や居住施設が再整備され、「 <b>居住人口の増加</b> 」と「 <b>歩行者・自転車通行量</b> 」の増加に寄与することから必要な事業である。	社会資本整備 総合交付金 (末広町西地区 暮らし・にぎわい 再生事業) H26～ H30年度	
83. 高岡駅前東第 3街区再開発事 業 ●老朽建物の建 替えや街区の再 編について再開	高岡市  関係権 利者	老朽建物の共同建て替えにあわせ、必要な都市機能を拡充整備することにより、高岡駅前の拠点性を高め、歩行者の回遊ネットワークの起点とする。 この施設は高岡駅に隣接し、駅利用者の利便性・拠点性を高めることから「 <b>観光客入込数の増加</b> 」と「 <b>歩行者・自転車通行量</b> 」の増加に寄与す	社会資本整備 総合交付金 (高岡駅前東 地区暮らし・にぎわい	

発手法を用いた整備を進める。 ◎H26 年度～		ることから必要な事業である。	再生事業) H26～ H29 年度	
----------------------------	--	----------------	-------------------------	--

(2)②認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した重点的な支援措置に関連する事業

No. 事業名 ●内容 ◎実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
28. まちなか共同住宅建設促進事業 ●共同住宅を供給する事業者への支援(区域：まちなかの区域(270ha)) ◎H19 年度～	高岡市	高岡市が指定した「まちなかの区域」において、分譲又は賃貸による共同住宅を建設する者に対し、費用の一部を支援する。 中心市街地における良好な集合住宅が供給され、「居住人口の増加」と「歩行者・自転車通行量の増加」に寄与することから必要な事業である。	社会資本整備総合交付金(地域住宅計画に基づく事業(地域住宅政策推進事業)) H22～ H31 年度	

(3) 中心市街地の活性化に資するその他の支援措置に関連する事業  
該当なし

(4) 国の支援がないその他の事業

No. 事業名 ●内容 ◎実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	国以外の支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
29. まちなか優良賃貸住宅補助事業 ●地域優良賃貸住宅を整備する事業者への上乗せ支援(区域：まちなかの区域(270ha)) ◎H19 年度～	高岡市	高岡市が指定した「まちなかの区域」において、地域優良賃貸住宅の整備事業を実施する者に対し、建設に係る費用の一部に対し上乗せ支援する。 中心市街地における良好な集合住宅が供給され、「居住人口の増加」と「歩行者・自転車通行量の増加」に寄与することから必要な事業である。		
19. 都心エリア土地利用検討調査事業【再掲】 ●中心市街地の商業的・文化的な	高岡市	中心市街地の土地利用を見直し、考え方を整理し、少子高齢化の進展や郊外への転出、店舗閉店などによるまちなかの空洞化の進行等、中心市街地の諸課題に対し、総括的なプランづくりのため、木造密集市街地の防災対策、街区単位のミニ開発や再開		

<p>都市基盤整備などによる効果的な土地利用の検討</p> <p>◎H24～H28 年度</p>		<p>発による商業・文化・居住基盤の整備の新たな方針を検討し、実施につなぐ。</p> <p>中心市街地における良好な街区整備や、集合住宅などの都市基盤整備を推進し、「<b>居住人口の増加</b>」と「<b>歩行者・自転車通行量の増加</b>」に寄与することから必要な事業である。</p>		
<p>30. 池の端景観形成重点地区建物修景等助成事業</p> <p>●池の端都市景観形成重点地区における修景等（区域：池の端景観形成重点地区）</p> <p>◎H21～H28 年度</p>	<p>池の端地区住民など（地区内での土地・建物所有者）</p>	<p>池の端景観形成重点地区は、高岡市景観計画（景観法に基づく）に位置付けている重点地区の中から高岡市町並み保存・都市景観形成に関する条例に基づき指定した地区であり、家屋の修景事業等を実施している。</p> <p>建築物の修景事業等により、高岡古城公園沿いの良好な都市景観の保全が図られ、「<b>居住人口の増加</b>」に寄与することから、必要な事業である。</p>		
<p>31. 坂下町通り景観づくり住民協定地区修景等助成事業</p> <p>●坂下町通り景観づくり住民協定地区における修景等（区域：坂下町通り景観づくり住民協定地区）</p> <p>◎H22～H28 年度</p>	<p>坂下町通りの協定締結者（地区内での土地・建物所有者）</p>	<p>坂下町通り景観づくり住民協定地区は、富山県景観条例に基づく地区であり、家屋の修景事業等を実施している。</p> <p>建築物の修景事業等により、高岡大仏の参道としての良好な都市景観の保全が図られ、「<b>居住人口の増加</b>」に寄与することから、必要な事業である。</p>		

## 7. 中小小売商業高度化事業、特定商業施設等整備事業その他の商業の活性化のための事業及び措置に関する事項

### [1] 商業の活性化の必要性

#### (1) 現状分析・課題

高岡市中心商店街はJR高岡駅の正面に位置しており、高岡に降り立った際に最初に目にする地点であることから高岡市全体のイメージを形成する重要な地点である。また、中心市街地への最大の来街誘因は買物であることから、中心商店街の活性化がまちの賑わいを創出するために不可欠の要素となっている。

平成元年以降、高岡駅北口に広がる中心商店街では、アーケードの更新、大型共同イベントの開催、市街地再開発事業により大和高岡店を核店舗とした「御旅屋セリオ」の整備による商業核の強化を図るなど、活性化に向けた取り組みを行ってきた。

また、御旅屋駐車場（355台収容）、高岡中央駐車場（751台収容）などの大型駐車場の設置・運営による来街手段の確保や、中心市街地における集客施設であるウイング・ウイング高岡の整備、まちづくり会社による商店街活動の支援や集客のためのイベントを積極的に実施するなど、全市を挙げて中心市街地の活性化に向けた取り組みを進めているところである。

しかしながら、中心市街地からの大型店（ユニー高岡店、ダイエー高岡店、高岡サティ等）の撤退や、郊外・近隣市町村に立地する大型商業施設との競争激化により、平成23年に実施した市民意識調査において一次商圈として辛うじて高岡市全域を保っているものの、中心商店街の相対的位置付けは低下を続けている。そして、中心商店街の一角を形成していた高の宮通り商店街が解散するなど、商店街活動も衰退している。

中心商店街における商店数、販売額は減少を続け、来街者数も長期的に減少しており、平成23年度の市民意識調査においても商業面における活性化状況、改善状況に対して否定的な見方が強くなっている。こうした状況を放置すれば、第1期計画以降高まりつつある高岡市の観光イメージにも影響を与えかねず、中心商店街の再生は喫緊の課題である。

他方、第1期計画以降は、末広坂を中心に新たな出店が進み、中心商店街において店舗の新陳代謝が見られるようになった。独自の集客力が弱い新規開業者には中心市街地が持つ集客力は大きな魅力であり、中心市街地は意欲のある事業者の新規創業の場として重要な役割を担うようになってきている。

また、まちづくり会社・末広開発㈱を中心に、歴史・文化遺産も活用しながら中心市街地への多様な来街機会を創出していることで、中心市街地への人の流れの回復が見受けられるようになった。来街者が中心商店街へ還流する仕組みを構築し、「賑わい感」を生み出すと同時に商店街の再生を図り、市民、さらには観光客が中心市街地の活性化を実感できるまちづくりに努めている。

#### (2) 取り組むべき事業

- ①他都市にはない特徴的なまちづくりを進めるため、高岡のまちのイメージである「歴史・伝統・文化・ものづくり」が醸し出る商空間形成を推進する。
- ②中心商店街、観光地、居住地域、業務地域等、中心市街地には複数の地域特性が存

在することから、それぞれの立地環境に応じた開業支援、営業支援を実施する。あわせて、商店の連坦性を高めるよう、賃貸が可能となる空き店舗を確保するため、老朽化した空き店舗の改装、改築を支援する。

③従来実施してきたイベントの創意工夫により、回遊性や顧客・観光客の拡大等に対する効果を高める。

④通りの特徴や地域の歴史・文化、景観等を活かしたストリートビジョンを策定し、パイロット的事業を実施することで、市民や観光客がまちなかを回遊する仕組みづくりを進める。

### (3) フォローアップの考え方

基本計画が認定された2年後の平成26年度において完了もしくは開始している事業について、進捗調査を行い、状況に応じて事業の促進等の目標達成に向けた改善措置を講じる。更に、計画期間終了後、数値目標の達成状況を確認するとともに、中心市街地活性化への効果を検証する。

## [2] 具体的事業の内容

### (1) 法に定める特別の措置に関連する事業

No. 事業名 ●内容 ◎実施時期	実施 主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の 内容及び実 施時期	その他 の事項
32. 大規模小売店 舗立地法の特例 措置 ●大店立地法の 手続きの簡素化 の措置 (区域: 中心市街 地) ◎H19 年度～	富山県	中心市街地に見られる空き地・空き店舗の活用 並びに老朽施設の建替え等を支援するため、富山 県との協議により、中心市街地における特定施設 に対し大店立地法の特例措置を設ける。  これにより、中心市街地に多くの集客が見込め る新たな大型商業施設の出店を促進していくこ とが可能となり、「歩行者・自転車通行量の増加」 と「空き店舗数の減少」に寄与することから必要 な事業である。	大規模小売 店舗立地法 の特例 H19 年度～	

(2) ①認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した特例措置に関連する事業

No. 事業名 ●内容 ◎実施時期	実施 主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の 内容及び実 施時期	その他 の事項
<p>33. 観光地における開業支援事業</p> <p>●特徴的な店舗進出への支援及び賃貸可能物件の拡大のための支援(区域：全市の観光地のうち特定地区。)</p> <p>◎H19～H28 年度</p>	高岡市	<p>市内の主要観光地に、主に観光客を対象とした飲食・物販を中心とした店舗の進出を促進するため、空き店舗における開業者及び空き店舗の所有者に対し、支援を行う。</p> <p>観光地に飲食・土産物販売などの立ち寄り場所が開業することにより、観光客の滞留時間の延長や各観光地の回遊が可能となるなど、「観光客入込み数の増加」と「歩行者・自転車通行量の増加」に寄与することから必要な事業である。</p>	<p>社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(高岡駅周辺地区)と一体の効果促進事業)</p> <p>H24～ H28 年度</p>	
<p>34. たかまちプロムナード事業</p> <p>●回遊性創出のためのハード、ソフト事業の実施(区域：中心商店街)</p> <p>◎H24～H28 年度</p>	たかまちプロムナード会議(商店街の若手・女性経営者など)	<p>高岡市の公共交通の中心である JR 高岡駅を起点に末広町～御旅屋通り商店街を経て、高岡大仏前、坂下町商店街に至る通りに、地域資源や新たな素材を付加した、通りを特徴付ける事業に取り組み、中心市街地のストリートビジョンと商店街の顔づくりの事業を実施する。</p> <p>商店街に特長を付ける仕掛けを行うことで、商店街の回遊性向上が期待され、「観光客入込み数の増加」と「歩行者・自転車通行量の増加」に寄与することから必要な事業である。</p>	<p>中心市街地活性化ソフト事業</p> <p>H24～ H28 年度</p>	
<p>35. 大学連携による伝統・文化再生事業</p> <p>●大学連携による伝統・文化イベントの活性化や、伝統産業の再生に向けた各種事業の推進(区域：中心市街地)</p> <p>◎H19 年度～</p>	国立大学法人富山大学、高岡市など	<p>富山大学の特色ある地域研究・学術研究を生かし、市内の伝統産業の活性化に向けた取り組みとともにまちの賑わいづくりが融合することにより地域に根ざした各種事業を推進するため、大学連携による調査研究及び企画・検証等を実施する。</p> <p>「ものづくりのまち高岡」の特徴づくりに寄与するとともに、学生、産業界、市民等の多様な参画が期待され、「観光客入込み数の増加」と「歩行者・自転車通行量の増加」に寄与することから必要な事業である。</p>	<p>中心市街地活性化ソフト事業</p> <p>H24～ H28 年度</p>	

<p><b>36. 工芸都市高岡クラフト展開催事業</b></p> <p>●大学やデザイナー等との連携による伝統産業の活性化とまちの賑わいづくりに向けた事業の推進(区域：中心市街地)</p> <p>◎S61年度～</p>	<p>工芸都市高岡クラフトコンペ実行委員会(国立大学法人富山大学芸術文化学部、高岡商工会議所、高岡市などにより構成)</p>	<p>歴史ある銅器・漆器のまち高岡の背景を生かし、創造的な工芸作品を全国公募し、新産業創造へ向けてのクラフトの「力」を集結すると同時に、展示・販売等を行う「工芸都市高岡クラフト展」を開催する。事業の開催にあたっては、伝統産業の再生とまちの賑わいづくりに寄与する新たなクラフト展を展開するため、富山大学芸術文化学部の知見を生かした調査研究、企画・検証等を実施する。</p> <p>「ものづくりのまち高岡」の特徴づくりに寄与するとともに、学生、産業界、市民等の多様な参画が期待され、「観光客入込み数の増加」と「歩行者・自転車通行量の増加」に寄与することから必要な事業である。</p>	<p>中心市街地 活性化ソフト事業</p> <p>H21～ H28年度</p>	
<p><b>82. 高岡クラフト市場街開催事業</b></p> <p>●製造業者や商業者、大学等との連携による伝統産業の活性化とまちの賑わいづくりに向けた事業の推進(区域：中心市街地)</p> <p>◎H24年度～</p>	<p>高岡商工会議所 実行委員会等</p>	<p>25年の歴史を持つ全国公募「工芸都市高岡クラフトコンペ・クラフト展」の開催に合わせ、「ものづくり」の現場体験や県内クラフトマンたちの作品を商店街の店舗を活用して展示即売する「クラフトマンズギャザリング」、「作家の引き出し展」等や、地元伝統産業企業による開発製品の販売、飲食店でのクラフト作家の器を活用したイベントなど、生活の中に息づくクラフトの演出を一堂に集め、町中を見て感じて買っていただく「高岡クラフト市場街」を開催する。</p> <p>また、「クラフトスタンプラリー」や「まち歩きワークショップ」等のイベントを通じて回遊を促すことにより、中心市街地の魅力訴求を図る。</p> <p>こうした「ものづくり」と「商業・サービス」の複数事業の融合と連携をさせシナジー効果を生み出すことにより、北陸新幹線開業を見越し、高岡への来街者を増加させるための街のブランディングと地域振興に寄与するとともに、市民、学生、飲食店、産業界等の多様な参画が期待され、「観光客入込み数の増加」と「歩行者・自転車通行量の増加」に寄与することから必要な事業である。</p>	<p>中心市街地 魅力発掘・創造支援事業</p> <p>◎H24年度～</p>	

<p><b>37. 金屋町楽市開催事業</b> ●地域と大学連携による伝統産業の活性化とまちの賑わいづくりに向けたイベントの開催 ◎H20年度～</p>	<p>金屋町楽市実行委員会</p>	<p>高岡の地場産業である銅器工芸を生活空間に生かした、生活、工芸、産業が同居するゾーンミュージアムイベントを、高岡鋳物発祥の地で、伝統的な千本格子の町家と石畳の町並みが残る金屋町で開催する。事業の実施では、富山大学芸術文化学部が持つ知的財産と高岡に脈々と息づく銅器・漆器などの技術の融合を図り、新たなものづくりの在り方を発信する。</p> <p>「ものづくりのまち高岡」の特徴づくりに寄与するとともに、学生、産業界、市民等の多様な参画が期待され、「観光客入込み数の増加」と「歩行者・自転車通行量の増加」に寄与することから必要な事業である。</p>	<p>中心市街地活性化ソフト事業 H24～ H28年度</p>	
<p><b>38. 瑞龍寺ライトアップ事業</b> ●瑞龍寺のライトアップ及び瑞龍寺を活用した関連イベントの開催 ◎H12年度～</p>	<p>各会ごとに実行委員会を組織</p>	<p>国宝に指定されている瑞龍寺の山門、仏殿、法堂を光と音で彩り幻想的な雰囲気包むライトアップ事業を開催するとともに、関連イベントの拡充を図る。</p> <p>瑞龍寺観光客の増大を図る事業であり、「観光客入込み数の増加」に寄与することから必要な事業である。</p> <p>★ライトアップ事業開催時期 春[4月下旬]、夏[8月上旬]、冬[2月中旬]</p>	<p>中心市街地活性化ソフト事業 H19～ H28年度</p>	
<p><b>39. 芸文ギャラリー一運営事業</b> ●富山大学芸術文化学部の協力によるギャラリーの管理運営(位置：中心商店街) ◎H18年度～</p>	<p>高岡市</p>	<p>富山大学芸術文化学部との連携により、学生の授業成果・制作活動の発表、地場産業活性化・まちづくりの交流の拠点として、アートやクラフトを含む芸術文化、地域産業の情報発信を行う。</p> <p>ギャラリーの開設等に伴い、大学生のみならず多くの来場者が訪れるようになり、中心商店街に来街機会が創出されており、「歩行者・自転車通行量の増加」に寄与することから必要な事業である。</p>	<p>中心市街地活性化ソフト事業 H19～ H28年度</p>	
<p><b>40. まちなかギャラリー事業</b> ●中心商店街のウィンドウを利用した伝統工芸品等の展示 ◎H18年度～</p>	<p>末広開発(株)</p>	<p>末広町通り、御旅屋通りの各商店街のウィンドウを活用し、国指定伝統的工芸品である高岡銅器、高岡漆器を中心とした展示を行う。展示物は販売も可能であり、販売手数料は、展示してある店舗の売上げとなる。</p> <p>「ものづくりのまち」高岡のイメージ創出とともに、嗜好性の強い、「わろんが」、「手わざ」、「芸文ギャラリー」等のミニ拠点を繋ぐ仕組みとして、「歩行者・自転車通行量の増加」に寄与する</p>	<p>中心市街地活性化ソフト事業 H19～ H28年度</p>	

		ことから必要な事業である。		
41. 中心商店街活性化センター「わろんが」運営事業 ●中心商店街の賑わい拠点施設の管理運営(位置:御旅屋通り商店街内) ◎H18年度～	高岡市 (指定管理者:末広開発(株))	「わろんが」は、地元野菜を使ったランチや、軽食・喫茶の提供、各種講座・イベントの開催等を実施している。イベント開催時は、施設内に留まらず、御旅屋通りの路上も含めた事業展開をしており、御旅屋通り商店街のミニ拠点として機能している。 「わろんが」の運営により、周辺店舗に顧客の回帰を創出していることから、御旅屋通りの回遊性の向上が期待され、「歩行者・自転車通行量の増加」に寄与することから必要な事業である。	中心市街地活性化ソフト事業 H24～ H28年度	
42. 中心市街地における開業支援事業 ●特徴的な店舗進出への支援及び賃貸可能物件の拡大のための支援(区域:中心市街地のうち特定地区) ◎H19～H28年度	高岡市	中心市街地の魅力向上に寄与する店舗の進出を促進するため、空き店舗を活用した開業者及び空き店舗の所有者に対し、支援を行う。 ①中心商店街・ものづくりのまち高岡の特徴を出すため、物販を中心とした店舗配置 ②まちなか居住地域・生活に便利な生鮮三品を取り扱う店舗配置 中心商店街全体を見据えたテナントミックスが図られ、特徴ある商業集積が進むことにより回遊性の向上が図られ、「観光客入込み数の増加」、「居住人口の増加」、「歩行者・自転車通行量の増加」、「空き店舗数の減少」に寄与することから必要な事業である。	中心市街地活性化ソフト事業 H19～ H28年度	
43. 高岡御車山祭 ●重要有形・無形民俗文化財「高岡御車山」の奉曳 ◎従前より	高岡御車山保存会	高岡御車山は、慶長14年(1609)に前田利長が高岡に城を築いて町を開いた折、城下の町内の大町(山町)に与えたもので、祭礼の山車として奉曳されたのが始まりと言われている。毎年5月1日の関野神社の例大祭に、中心市街地で奉曳される。 高岡御車山祭は、高岡の代表的な文化遺産であり、高岡御車山の巡行路及びその周辺の高岡大仏や山町筋の「観光客入込み数の増加」に寄与することから必要な事業である。	中心市街地活性化ソフト事業 H19～ H28年度	
44. 「高岡御車山」臨時山倉設置事業 ●祭礼時における臨時山倉の設置 区域:山町内	高岡御車山保存会	高岡御車山は、毎年5月1日の祭礼日に奉曳されることとなっているが、雨天時には御車山の保存に影響を与えるため奉曳されない。しかし、祭礼の準備は事前から行っており、雨天対策として臨時山倉を設置することにより、御車山の保存とあわせ天候に左右されない御車山の見学が可能となる。	中心市街地活性化ソフト事業 H19～ H28年度	

◎H19 年度～		臨時山倉の設置により、市民のみならず多くの観光客の方々に文化財を公開することが可能となり、周辺の高岡大仏や山町筋の「観光客入込み数の増加」に寄与することから必要な事業である。		
<p>45. 中心市街地における季節ごとの大型イベント開催事業</p> <p>◎（獅子舞）S51～</p> <p>（七夕）従前より</p> <p>（万葉）S54～</p> <p>（なべ）S62～</p>	各実行委員会	<p>中心市街地には、高岡御車山祭のほか、季節ごとに高岡を代表する4つの大型イベントが毎年開催されている。</p> <p>これらのイベントは、中心市街地への来街者の誘引要因となり、イベント時における回遊性が向上するため、古城公園、高岡大仏、山町筋への「観光客入込み数の増加」に寄与することから必要な事業である。</p> <p>★主なイベントの概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高岡獅子舞大競演会 開催日：5月3日 会場：中心商店街一帯 内容：高岡市及びその周辺の獅子舞保存会の演舞（8団体程度） 委員会事務局：末広開発㈱</li> <li>・高岡七夕まつり 開催日：8月1日～7日 会場：中心商店街一帯 内容：日本海側最大の七夕飾り、各種イベント 委員会事務局：末広開発㈱</li> <li>・高岡万葉まつり 開催日：10月最初の金～日曜（3日間） 会場：高岡古城公園 内容：万葉集全20巻朗唱の会、芸能発表、茶会など 委員会事務局：高岡市</li> <li>・日本海高岡なべ祭り 開催日：1月中旬の土、日曜（2日間） 会場：中心商店街一帯 内容：日本最大のアルミ鍋、銅鍋を使った鍋を中心とした食のイベント 委員会事務局：末広開発㈱</li> </ul>	中心市街地活性化ソフト事業 H19～ H28 年度	
<p>46. 中心商店街活性化イベント開催事業</p> <p>●TMO等が実施する商店街活性化イベント</p>	末広開発㈱  実行委員会、協議会等	<p>TMOである末広開発㈱では、大型イベントのほかに、商店街活性化のための各種イベントを開催している。</p> <p>これらの事業は、中心商店街への来街頻度を増大させ、中心商店街における回遊性の向上を目指すものであり、「観光客入込み数の増加」と「歩行者・自転車通行量の増加」に寄与することから必要な事業である。</p> <p>★主なイベントの概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大仏ごりやく市</li> </ul>	中心市街地活性化ソフト事業 H19～ H28 年度	

		<p>開催時期：毎月第1日曜【10:00～14:00】  開催場所：大仏寺  内容：屋台、寄席、抽選会など</p> <p>・WE ARE LIVE ナンケ！？  開催時期：奇数月第4木曜【19:00～21:00】  開催場所：中心商店街店舗  内容：イベント、店舗、新商品等の情報交換会</p> <p>・高岡御車山祭後のイベント  開催時期：5月1日 夜  開催場所：ウイング・ウイング高岡広場  内容：高岡御車山祭は、日中の祭礼であることから、祭りの賑わいを夜間にも継続するためのイベント開催</p> <p>※ここまで事業主体：末広開発㈱</p> <p>・わくわくメルヘンランド  開催時期：毎月第1・第3日曜日を中心に月1・2回程度開催【12:00～16:00】  開催場所：御旅屋メルヘン広場  内容：主に子ども向けのイベントとゲームコーナーを開催  事業主体：御旅屋賑わい創出実行委員会</p> <p>・お買い物ラリー  開催時期：未定（年4回程度）  開催場所：中心商店街一帯  内容：中心商店街での一定期間内における複数店舗での購入による抽選会の開催  事業主体：たかまち街づくり協議会</p>		
<p>47. 文化遺産活用イベント開催事業【一部再掲】</p> <p>●各文化遺産の特性を生かしたイベントの開催（位置：中心市街地内の文化遺産所在地及びその周辺）  ◎従前より</p>	各実行委員会	<p>中心市街地に点在する各文化遺産の特性を生かしたイベントを開催する。</p> <p>イベントの開催により、定期的に観光客が確保され、「観光客入込み数の増加」に寄与することから必要な事業である。</p> <p>★文化遺産ごとの主なイベントの内容  （瑞龍寺、八丁道、前田墓所）</p> <p>・瑞龍寺ライトアップ事業【再掲】  開催時期：年3回（4月、8月、2月）  内容：瑞龍寺のライトアップ、イベントなど</p> <p>・八丁道おもしろ市  開催時期：年2回（5月、11月）  内容：フリーマーケット  （高岡大仏周辺）</p> <p>・たかおか朝市【再掲】  開催時期：4月～10月の第2、4日曜【5:30～7:30】  内容：農産品、加工品等の販売</p> <p>・大仏ごりやく市【再掲】  開催時期：毎月第1日曜【10:00～14:00】  内容：屋台、寄席、抽選会など  （山町筋）</p> <p>・山町筋土蔵造りフェスタ  開催時期：8月中旬の土、日曜  内容：町並みを活用したフリーマーケット、町</p>	中心市街地 活性化ソフト事業 H19～ H28年度	

		<p>家の公開など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山町筋の天神様祭 開催時期：1月中旬の土、日曜 内容：天神様の展示、町家の公開など (天神信仰は、加賀藩の特徴。)</li> <li>・山町筋のひなまつり 開催時期：3月中旬の土、日曜 内容：雛人形の展示、町家の公開など (金屋町)</li> <li>・御印祭 開催時期：6月19日、20日 内容：前田利長公の遺徳をしのび、開催される祭礼。神事、奉納踊り(弥栄節)など</li> </ul>		
<p>48. シルバーサロン坂下小路運営事業</p> <p>●中心商店街における高齢者向けサロンの管理運営(位置：坂下町通り商店街内) ◎H13年度～</p>	未広開発(株)	<p>「高齢者に優しいまちづくり」を目指し、高齢者向けの飲食、講座の提供、イベント等の開催を行う。また、施設の後背地に観光バス向けの無料駐車場が整備されたため、高齢者のみならず観光利便施設として飲食の提供等、機能の拡充を行い、「観光客入込み数の増加」と「歩行者・自転車通行量の増加」に寄与することから必要な事業である。</p>	<p>中心市街地活性化ソフト事業 H19～ H28年度</p>	
<p>49. まちなか情報発信事業</p> <p>●ホームページとミニFM局による店舗、空き店舗、イベント等の発信 発信方法：(ホームページ) 随時更新、(ラジオ) 週1回 ◎H14年度～</p>	未広開発(株)	<p>中心市街地を中心とした商店情報、空き店舗情報、イベント情報の発信のため、ホームページ「たかおかストリート」の管理運営及び地元のミニFM局「ラジオたかおか」からの情報発信を行う。</p> <p>中心市街地情報の発信は、来街者を誘発するきっかけとなるため、「観光客入込み数の増加」と「歩行者・自転車通行量の増加」に寄与することから必要な事業である。</p> <p>★ホームページ 「たかおかストリート」 イベント情報、店舗情報、空店舗情報、サービス券の発行、まちの駅情報、伝統工芸情報など</p> <p>★ミニFM局(ラジオたかおか) 「いらっしやいませ高岡中心商店街」 月～金曜 15分番組×1日2回 (同一番組を1週間放送) 各店舗の紹介、イベントの紹介など</p>	<p>中心市街地活性化ソフト事業 H19～ H28年度</p>	

<p><b>50. コロッセのまちづくり事業</b></p> <p>●「コロッセ」をテーマにしたまちづくりの実施（HP告知、イベント開催等）（区域：市内全域）</p> <p>◎H16年度～</p>	<p>高岡コロッセ実行委員会</p> <p>ほか、参加希望者</p>	<p>コロッセをまちづくりのツールとして各種事業を実施する。</p> <p>「コロッセのまち高岡」の活動は、市内の精肉店、飲食店のコロッセ販売のみならず、地産地消の取り組みによる学校給食への展開、高岡コロッセソース、コロッセ柄のネクタイなどの新商品開発等、市内のあらゆる産業分野に展開している。</p> <p>また、高岡コロッセや周辺地域のご当地グルメを集めた食のイベントをまちなかで開催している。</p> <p>イベントの開催により中心市街地への来街機会の増加に繋がり、また、高岡コロッセを販売する店舗は中心市街地にも多く、中心市街地の来街機会の創出及び回遊性の向上に繋がるため、「<b>観光客入込み数の増加</b>」と「<b>歩行者・自転車通行量の増加</b>」に寄与することから必要な事業である。</p>	<p>中心市街地活性化ソフト事業</p> <p>H24～</p> <p>H28年度</p>
<p><b>51. 個別商店街の活性化事業</b></p> <p>●個別商店街の主体的な取り組みによる商店街活性化のための各種事業</p> <p>◎（すえひろーどインフォメーション）H11年度～</p> <p>（まちまちシール）H13年度～</p> <p>（キャッシュバック）H13年度～</p> <p>（きらきらドーム市）H12年度～</p>	<p>各商店街</p>	<p>各商店街がそれぞれの特徴と商店街自らの工夫によって各種事業を展開し、来街者の増大を図り、まちなかの賑わいづくりや空き店舗の解消に努めているところである。</p> <p>今後とも商店街が主体的に取り組む事業は、「<b>歩行者・自転車通行量の増加</b>」と「<b>空き店舗率の減少</b>」に寄与することから必要な事業である。</p> <p><b>★主な事業</b></p> <p>（末広町商店街）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すえひろーどインフォメーション運営事業（H11年度～）</li> </ul> <p>当該商店街の利用客（特に高齢者のバス利用者）への休憩機能、商店街の情報を提供する施設の管理運営を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちまちシール事業（H13年度～）</li> </ul> <p>当該商店街の買物客に、各店舗の商品単価、売上原価、販促イベントに応じたポイントシールを発行し、満杯になれば景品を贈呈する。また、ポイントシールに応じて月1回の抽選会を開催し、景品を贈呈する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャッシュバックセール事業（H13年度～）</li> </ul> <p>毎月第2土曜の13時から15時の間に当該商店街で買い物した際、購入金額の一部を買物客に払い戻すサービスを実施する。</p> <p>（御旅屋通り商店街）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オタヤきらきらドーム市（H12年度～）</li> </ul> <p>当該商店街のアーケードを活用し、毎月第3日曜日の午後に普段は見られないような種々雑多のフリーマーケットを開催する。</p>	<p>中心市街地活性化ソフト事業</p> <p>H19～</p> <p>H28年度</p>

<p>52. 中心市街地における既存店舗リニューアル支援事業</p> <p>● 既存店舗大規模改修への支援 (区域：中心市街地のうち特定地区)</p> <p>◎H19年度～</p>	<p>高岡市</p>	<p>老朽化が進んでいる既存店舗の改善を図るため、店舗のリニューアルを支援する。</p> <p>既存店舗のリニューアルは、新規開業店舗とあいまって、中心商店街に対するイメージの向上につながることで、施設の更新に伴うコストの圧縮を図ることにより、事業意欲を向上させ、廃業を防止すること等の効果が期待され、「歩行者・自転車通行量の増加」と「空き店舗数の減少」に寄与することから必要な事業である。</p>	<p>中心市街地活性化ソフト事業</p> <p>H19～ H28年度</p>	
<p>53. 朝市・夕市の開催</p> <p>● 地産地消の「市」の開催(位置：中心商店街)</p> <p>◎[朝市] S56年度～ [夕市] ・えき近夕市 H23年度～ ・おたや市 H18年度～</p>	<p>たかおか朝市実行委員会 えき地下夕市実行委員会 御旅屋通り商店街振興組合</p>	<p>地産地消の推進と中心市街地への来街者の増大、まちなかに居住する人への生鮮品の供給等のため、中心商店街において、朝市、夕市を開催する。</p> <p>地域の安心、安全、安価な農産品や農産加工品の販売により、主にまちなかに居住者への最寄品提供の場となるとともに、中心商店街への来街者の増加が図られ、「居住人口の増加」と「歩行者・自転車通行量の増加」に寄与するため必要な事業である。</p> <p>★主な朝市、夕市</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たかおか朝市[坂下町通り] (4月～10月の第2、4日曜【5:30～7:30】)</li> <li>・えき近夕市 [南北自由通路(万葉ロード)] (毎週火、金曜【15:00～17:00】)</li> <li>・おたや市[御旅屋通り] (毎週木曜【13:00～16:00】)</li> </ul>	<p>中心市街地活性化ソフト事業</p> <p>H19～ H28年度</p>	
<p>54. 元気たかおか未来会議の開催</p> <p>● 中心市街地活性化に向けた若者による研究・事業の実施</p> <p>◎H19年度～</p>	<p>末広開発(株)</p>	<p>中心市街地活性化に向けた各種課題を抽出し、改善及び事業化に向けた検討を行うため、地域の利害関係者のうち若者による研究会を開催する。</p> <p>高岡の中心商店街にある歴史・文化資産を活用し、高岡大仏・高岡関野神社・射水神社の3つを結ぶルートを、願いの叶うストリート「願道」と名付け、来街機会の創出と回遊性の向上を図っている。</p> <p>会議の実施により、実務レベルでの情報共有が図られ、問題解決及び事業の早期着手が可能となるほか、参加者の事業意欲の向上に繋がるため、「歩行者・自転車通行量の増加」や「空き店舗数の減少」に寄与することから必要な事業である。</p>	<p>中心市街地活性化ソフト事業</p> <p>H19～ H28年度</p>	

<p>55. 御旅屋賑わい創出事業</p> <p>●御旅屋セリオ周辺を中心に、季節に応じたイベントによる賑わいを創出</p> <p>◎H22年度～</p>	<p>御旅屋賑わい創出実行委員会</p>	<p>中心商店街の核施設である御旅屋セリオ周辺から賑わいを創出し、各商店街への波及を図るため、食や演芸などを活用した季節に応じたイベントを実施する。</p> <p>中心商店街への来街頻度を増大させ、イベント時における回遊性が向上するため、「<b>観光客入込み数の増加</b>」に寄与することから必要な事業である。</p> <p>★主なイベントの概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地ビールフェスタ 開催時期：7月下旬 開催場所：旧万葉の杜、御旅屋通り 内容：地元や外国産ビールの販売、地元飲食店による食のイベント、ステージショー</li> <li>・スイーツマルシェ 開催時期：10月中旬 開催場所：御旅屋通り 内容：県内有名洋菓子店のオリジナルスイーツを集めた食のイベント</li> <li>・クリスマスペットボトルアート 開催時期：12月中旬～下旬 開催場所：御旅屋通り、御旅屋メルヘン広場 内容：2Lのペットボトルを組み合わせた電飾クリスマスツリーを通りや広場に設置し、幻想的に彩るイベント</li> </ul>	<p>中心市街地活性化ソフト事業</p> <p>H24～ H28年度</p>	
<p>58. 中心商店街ミニ拠点開発事業</p> <p>●老朽建物の建替えや街区の再編について再開発手法を用いた整備を進める【再掲】</p> <p>◎H26年度～</p>	<p>関係権利者</p>	<p>老朽建物の共同建て替えを実施するにあたり、共同住宅の建設に加え、中心商業地に必要な機能を整備し、にぎわいの拠点とする。</p> <p>この事業により、商業施設や居住施設が再整備され、「<b>居住人口の増加</b>」と「<b>歩行者・自転車通行量</b>」の増加に寄与することから必要な事業である。</p>	<p>中心市街地再興戦略事業費補助金</p> <p>H26年度～</p>	
<p>84. ウイング・ウイング高岡交流スペース活用事業</p> <p>●防音設備等を整備、イベントの開催をする。</p> <p>◎H25年度～</p>	<p>末広開発(株)</p>	<p>JR高岡現駅前のランドマークであるウイング・ウイング高岡1階交流スペースを開館10周年に併せ、防音効果を高める設備を整備し、新たなイベントスペースとしてリニューアルさせる。</p> <p>末広町をはじめとする中心市街地の活性化、歴史的町並みを有する「まちなかエリア」での交流拡大を誘発する魅力あるスペースとして再構築をすることにより「<b>歩行者・自転車通行量の増加</b>」に寄与することから必要な事業である。</p>	<p>中心市街地活性化事業（中心市街地再興戦略）</p> <p>H25年度～</p>	

(2)②認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した重点的な支援措置に関連する事業

No. 事業名 ●内容 ◎実施時期	実施 主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の 内容及び実 施時期	その他 の事項
56. 高岡駅周辺に ぎわい創出事業 ●高岡ステー ションビル入居者 の仮設店舗の設 置 ◎H23～H26年度	高岡市	<p>平成26年度に北陸新幹線が金沢駅まで開業し、現駅から約1.5km南に新高岡駅（仮称）が整備されることとなっており、高速交通体系が新駅に移管されることから、現在のJR高岡駅は、生活者のための駅としての機能が顕在化する。</p> <p>本市では、高岡駅周辺整備事業として現駅周辺の機能強化を一体的に取り組むこととしており、現駅周辺の賑わい確保を図るため、高岡ステーションビルの解体期間中に閉鎖する店舗が入居する仮設店舗を設置する。</p> <p>現駅周辺に商業施設を設置することにより駅周辺と商店街との回遊性の向上が図られ、「歩行者・自転車通行量の増加」に寄与することから必要な事業である。</p>	<p>社会資本整備総合交付金（道路事業と一体の効果促進事業）</p> <p>H23～ H26年度</p>	

(3) 中心市街地の活性化に資するその他の支援措置に関連する事業

該当なし

(4) 国の支援がないその他の事業

No. 事業名 ●内容 ◎実施時期	実施 主体	目標達成のための位置付け及び必要性	国以外の支援 措置の内容及 び実施時期	その他 の事項
57. 新高岡ステー ションビル建設 事業 ●鉄骨造3階建 敷地:2,000㎡、 建物:1,800㎡ 1階：交通広場、 2階：店舗、 3階：事務所等 ◎H24～H25年度	(株)高岡 ステー ション ビル	<p>富山県西部地域の交流結節点であるJR高岡駅に隣接する高岡ステーションビルの全面改築を行う。</p> <p>この事業により、まちなかにある商業の拠点施設が生まれることで、市民・観光客の誘客と賑わい創出が期待され、「歩行者・自転車通行量の増加」に寄与することから必要な事業である。</p>		

<p>59. 文化芸術創造都市モデル事業</p> <p>●万葉をキーワードとしたイベントの開催</p> <p>◎H24年度～</p>	<p>高岡万葉遊楽宴（仮称）実行委員会</p>	<p>高岡市は、古くは越中の国府が置かれ、万葉歌人・大伴家持が国司として赴任し、多くの秀歌が残された地であり、万葉のふるさとづくりに取り組んでいる。</p> <p>市民文化の向上とまちなかの賑わい創出を図るため、万葉をキーワードとした複数のイベントを、まちなかの会場で開催することにより、「<b>観光客入込み数の増加</b>」に寄与することから必要な事業である。</p>		
<p>60. 高岡駅地下街リニューアル事業</p> <p>●駅地下街の再整備</p> <p>◎H24～H25年度</p>	<p>(株)高岡ステーションビル</p>	<p>高岡駅地下街は、昭和45年に富山県で唯一であり、北陸地方で最初にオープンした歴史を有する地下街である。</p> <p>高岡駅北口駅前広場整備に合わせた改修のため、平成23年度から一時閉鎖され、再整備の後、平成26年度に新規店舗を入れて再開されるため、来街者増加が期待され、「<b>歩行者・自転車通行量の増加</b>」に寄与することから必要な事業である。</p>		
<p>61. たかおか未来WEB商店街事業</p> <p>●インターネット上に、仮想商店街を開設（区域：市内全域）</p> <p>◎H23年度～</p>	<p>たかおか未来WEB商店街実行委員会</p>	<p>インターネットショッピングサイト大手の楽天市場の「まち楽」サイトに、中心商店街の店舗をはじめとした高岡市内の事業者のホームページを集合した特設ページを開設する。</p> <p>インターネットを通じて、地元商店や高岡市の魅力を世界に発信することより、来街機会の増加が期待され、「<b>歩行者・自転車通行量の増加</b>」に寄与することから必要な事業である。</p>		
<p>62. TR@P事業</p> <p>●オリジナルキャラクターによる観光宣伝</p> <p>◎H23～H25年度</p>	<p>観光戦略ネットワーク（TR@P部会）</p>	<p>高岡市ゆかりの著名アニメーターの作画によるオリジナルキャラクターが、「観光大使」として活躍し、市内の地域資源を全国に発信する。</p> <p>キャラクターを活用したグッズ展開や情報誌の発行、ホームページの作成などにより、高岡の魅力を発信し広く浸透を図るとともに、巨大タペストリーやラッピング電車など、まちなかでの露出機会を増やすことで、来街機会の増大や回遊性の創出に繋がり、「<b>観光客入込み数の増加</b>」と「<b>歩行者・自転車通行量の増加</b>」に寄与することから必要な事業である。</p>		

<p>63. セカイカメラ設置事業</p> <p>●観光施設へのエアタグ設置による多言語（6ヶ国語）案内</p> <p>◎H23～H26 年度</p>	高岡市	<p>携帯電話のスマートフォンアプリ「セカイカメラ」のシステムを活用し、セカイカメラを通じて見ることができる多言語案内の電子タグを観光施設に設置する。</p> <p>日本語、英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、ロシア語の6ヶ国語に対応する観光案内を観光施設の各ポイントに設置することにより、外国人観光客の誘客が期待でき、「<b>観光客入込み数の増加</b>」に寄与することから必要な事業である。</p>		
<p>64. 食のブランド化推進事業</p> <p>●地域の特長を活用した食の提案</p> <p>◎H23 年度～</p>	高岡食のブランド推進実行委員会	<p>高岡の歴史、風土、食材等を踏まえた高岡らしい食を開発し、ホームページなどでの情報発信や、各種イベントでの出品、協力店舗での提供に取り組む。</p> <p>中心市街地への来街機会の増加に繋がり、「<b>観光客入込み数の増加</b>」と「<b>歩行者・自転車通行量の増加</b>」に寄与することから必要な事業である。</p>		
<p>65. 新幹線開業記念広告宣伝事業</p> <p>●新幹線開業を見据えた首都圏による出向宣伝事業</p> <p>◎H25～H28 年度</p>	高岡市	<p>平成 26 年度に北陸新幹線が金沢まで開業することから、首都圏からの誘客を図るため、首都圏において出向宣伝事業を行う。</p> <p>首都圏に出向き、高岡の特徴を最大限に生かした大規模なプロモーションを行い、知名度向上と来訪意識の醸成を図ることで、「<b>観光客入込み数の増加</b>」に寄与することから必要な事業である。</p>		
<p>66. エルパセオ・マルシェ（仮称）開催事業</p> <p>●エルパセオでの定期市の開設</p> <p>◎H24 年度～</p>	(株)えんじゅビル	<p>中所得者層向け市営住宅と商業店舗が同居する複合施設・エルパセオで、西洋風のおしゃれな外観にマッチした西洋惣菜やパンなどを販売する定期市を行う。</p> <p>エルパセオの一室を活用し、市内外の人気店のパン、惣菜を揃え、イートインスペースを設けることで、まちなか居住者の来街機会の増加に繋がり、「<b>歩行者・自転車通行量の増加</b>」に寄与することから必要な事業である。</p>		
<p>67. 賑わい施設魅力向上事業</p> <p>●御旅屋セリオの屋上緑化事業</p> <p>◎H24 年度</p>	オタヤ開発(株)	<p>御旅屋セリオの屋上を人工芝や緑化パネルで整備し、子育て支援センターの利用者を中心とした「憩いの広場」として活用する。</p> <p>親子連れや買物客の憩いの場として来街が期待され、「<b>歩行者・自転車通行量の増加</b>」に寄与することから必要な事業である。</p>		

<p><b>68. 工房「手わざ」運営事業</b></p> <p>● 中心商店街における伝統産業（彫金技術）の見える工場の管理運営（末広町商店街内）</p> <p>◎H15 年度～</p>	<p>末広開発㈱</p>	<p>末広町商店街内において、伝統的工芸品の高岡銅器の彫金技術を公開する工房を運営する。</p> <p>この事業により、「ものづくりのまち高岡」のPRになるとともに、「ものづくりのまち」としての特徴を持つ店舗間を楽しく歩けるようになるため、「歩行者・自転車通行量の増加」に寄与することから必要な事業である。</p>		
<p><b>69. (仮称) 高岡まちなか再生基金事業</b></p> <p>● 老朽化した店舗の再生を促進するための基金を造成（区域：中心市街地のうち特定地区）</p> <p>◎H28 年度～</p>	<p>末広開発㈱</p>	<p>中心市街地における老朽化が著しい建物のうち、修繕による活用が困難なものについて、一時取得、老朽化した建物の解体、建替え等を行い、新たな店舗展開が可能な物件に対応するため官民一体となった基金を造成する。</p> <p>従来の空き店舗支援だけでは対応できない部分への対応が可能となるため、「空き店舗数の減少」に寄与することから必要な事業である。</p>		
<p><b>70. 「近世高岡の文化遺産を愛する会」の活動</b></p> <p>● 市民参加による文化遺産群の顕彰及び関連イベント等の開催</p> <p>◎H18 年度～</p>	<p>近世高岡の文化遺産を愛する会</p>	<p>「近世高岡の文化遺産群」の世界文化遺産登録の実現をめざし、文化遺産群への市民の関心並びに保護意識の醸成を図ることを目的とし、運動の普及啓発及び各種イベントの開催等を実施する。</p> <p>文化遺産群への観光客の増大を図る事業であり、「観光客入込み数の増加」に寄与することから必要な事業である。</p>		
<p><b>71. フィルムコミッション事業</b></p> <p>● 高岡市内における映画、ドラマ等のロケ誘致及び支援（区域：市内全域）</p> <p>◎H13 年度～</p>	<p>高岡フィルムコミッション（社）高岡市観光協会</p>	<p>高岡市内における映画、ドラマ等のロケ誘致及び市内ロケの支援等を実施する。</p> <p>この事業により、メディアを活用した高岡市の情報発信が可能になるとともに、ロケ地となった文化遺産群や中心商店街等をはじめとした既存の都市ストックに対し新たな観光価値が付与され、「観光客入込み数の増加」と「歩行者・自転車通行量の増加」に寄与することから必要な事業である。</p>		

<p>72. たかおか観光戦略ネットワーク事業</p> <p>●産学官が一体となった観光地の課題解決と誘客促進事業の推進</p> <p>◎H17年度～</p>	<p>たかおか観光戦略ネットワーク</p>	<p>高岡市内の観光に携わる産学官の関係者が連携し、高岡市内の観光に関する諸課題を検討し、あわせて、即時性の高い課題に取り組むことにより、課題の解消と地域活性化を図る。</p> <p>現地調査やアンケート調査等の実態調査に基づき、地元関係者と連携し、観光地の目に見える形でのリニューアルを進め、観光客の満足度向上を図るための事業に取り組むことにより、回遊性が向上するため、「観光客入込み数の増加」と「歩行者・自転車通行量の増加」に寄与することから必要な事業である。</p>		
<p>73. コンベンション開催支援事業</p> <p>●コンベンション開催団体を対象とした支援(宿泊施設：市内全域)</p> <p>◎H19年度～</p>	<p>(社) 高岡市観光協会</p>	<p>高岡市内で宿泊しコンベンションを開催する団体に開催費用の一部を支援し、交流人口増加と滞在型観光客の誘致を図る。</p> <p>また、支援対象者には、市内観光施設の無料観覧券を配布するなど、「観光客入込み数の増加」に寄与することから必要な事業である。</p>		
<p>74. まちの駅ネットワーク事業</p> <p>●市内の「まちの駅」登録店舗のネットワーク化(中心市街地及びその周辺部)</p> <p>◎H18年度～</p>	<p>末広開発(株)</p>	<p>「まちの駅」は、来訪者への情報提供、トイレ利用等の利便的な機能を持つ施設として、NPO法人により全国的な取り組みが行われている。</p> <p>市内には22箇所のまちの駅が存在し、これらは市民や観光客に対し、中心市街地への来街者への気軽な情報提供の場として、活用が図られている。</p> <p>これらをネットワーク化することで、観光客へのサービスの質の一元化と来街者への安心感を提供できるため、「観光客入込み数の増加」に寄与することから必要な事業である。</p>		
<p>75. 観光バス市営駐車場料金補助事業</p> <p>●市営駐車場の大型観光バスの料金助成</p> <p>◎H19年度～</p>	<p>(社) 高岡市観光協会</p>	<p>大型バスが駐車可能な市営駐車場(高岡中央、御旅屋)を利用する観光バス事業者に対し、利用料金の助成を行う。</p> <p>中心市街地における観光客の滞在時間の延長に繋がり、対象駐車場周辺の高岡大仏や山町筋重要伝統的建造物群保存地区における「観光客入込み数の増加」に寄与することから必要な事業である。</p>		

## 8. 4から7までに掲げる事業及び措置と一体的に推進する事業に関する事項

### [1] 公共交通機関の利便性の増進及び特定事業の推進の必要性

#### <公共交通機関の利便性の増進>

##### (1) 現状分析・課題

高岡市および富山県西部の公共交通網は、J R 高岡駅を起点に放射線状に延びており、高岡駅が富山県西部地域の交通結節点に位置している。公共交通の利用者数は、万葉線を除いて減少傾向にあるものの、高岡駅周辺における電車・バスの利用者数は1日当たり1万人以上と推定され、現在も重要な役割を担っている。

平成26年度末の北陸新幹線開業後は、現在担っている機能のうち長距離移動にかかる部分を新幹線新駅が担うこととなり、現在のJ R 高岡駅の役割は地域交通の結節点としての機能に特化されることから、そうした役割変化に対応すべく、高岡駅周辺の整備が現在進められているところである。

富山県は全国有数の自動車社会であるが、今後さらなる高齢社会の進展が確実視される中、高齢者の日常の移動手段としての公共交通の重要性が高まることが予想され、そうした社会変化に対応するため、公共交通機関の維持・利便向上に取り組んでいく必要がある。また、公共交通機関の維持・利便向上により、その結節点に位置する高岡市中心市街地での滞留が促されることから、既存の社会資本活用による中心市街地活性化にも資するものである。

このほか、中心市街地には数多くの文化遺産が点在しており、これらを効率よく観光できるため、平成17年度よりレンタルサイクル事業に取り組んでおり、一定の成果を上げている。今後、高岡の特徴である歴史・文化遺産を活用した中心市街地の活性化をさらに進めていくうえでも、交通機能の強化、利便性の向上が重要かつ有効な要素となっている。

##### (2) 取り組むべき事業

- ①高岡駅の公共交通結節拠点としての機能向上を図るため、駅前交通広場や北口歩行者専用道（人工デッキ）の整備など高岡駅周辺整備事業を行う。
- ②万葉線の乗客数の増大と中心商店街における利便性の向上のため、万葉線のJ R 高岡駅への延伸整備を実施する。
- ③誰でも手軽に効率よく文化遺産巡りや文化遺産を活用したイベントへの来場が可能となるよう、歴史の街に似合うスローな移動手段（自転車）の提供事業やイベント会場までのシャトルバス運行を実施する。

##### (3) フォローアップの考え方

基本計画が認定された2年後の平成26年度において完了もしくは開始している事業について、進捗調査を行い、状況に応じて事業の促進等の目標達成に向けた改善措置を講じる。また、計画期間満了時点において再度進捗調査を行い、中心市街地活性化の効果的な推進を図るものとする。

## ＜特定事業の推進＞

### (1) 現状分析・課題

高岡市の中心市街地における事業所数は、年々減少傾向にあり、近年のリーマンショックと相まって、平成 21 年には中心市街地に立地する事業所数の割合は全市の約 22.3%まで低下している。事業所数の減少は中心市街地だけでなく全市、全県的な傾向であるが、特に中心市街地では商業地の地価水準が高いこともあり、統廃合の対象として高い優先順位で選択されたものと推察される。

中心市街地の業務機能が低下したことは空きビルや空き地の増加を招き、中心市街地の景観を悪化させ、「賑わい感」を大きく低下させている。平成 23 年度の市民意識調査においても、中心市街地で最も悪化している要素として、商業機能と並んで業務機能が指摘されていることから、これに歯止めをかける必要がある。

高岡市 S O H O 事業者支援オフィスは、J R 高岡駅 3 階に立地していたが、エルバセオに移転し、機能強化を図り、新たな入居者を創出しており、中心市街地において小規模事業所開設のニーズが存在していることが確認されている。今後、中心市街地にこうした機能を集約することにより、多様でかつ新たな事業活動が行われる場として、中心市街地の活力向上に結び付けていくことが重要である。

### (2) 取り組むべき事業

- ① 中心市街地における雇用を創出し、昼間時における消費人口の増加を図るため、事業所進出に支援する。
- ② 多様な起業形態を支援するため、新たなインキュベーション施設を整備する。

### (3) フォローアップの考え方

基本計画が認定された 2 年後の平成 26 年度において完了もしくは開始している事業について、進捗調査を行い、状況に応じて事業の促進等の目標達成に向けた改善措置を講じる。更に、計画期間終了後、数値目標の達成状況を確認するとともに、中心市街地活性化への効果を検証する。

## [ 2 ] 具体的事業の内容

### (1) 法に定める特別の措置に関連する事業

該当なし

### (2) ① 認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した特例措置に関連する事業

No. 事業名 ●内容及び ◎実施時期	実施 主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の 内容及び実 施時期	その他 の事項
4. 万葉線延伸部 施設整備事業(高	高岡市	平成 26 年度に北陸新幹線が金沢駅まで開業し、現駅から約 1.5km 南に新高岡駅(仮称)が整	社会資本整備総合交付	

<p><b>岡駅地区【再掲】</b></p> <p>● JR と万葉線の乗換利便性向上のため、近接化に必要な施設整備を行う。</p> <p>◎H22～H25 年度</p>		<p>備されることとなっており、高速交通体系が新駅に移管されることから、現在の JR 高岡駅は、生活者のための駅としての機能が顕在化する。</p> <p>本市では、高岡駅周辺整備事業として現駅周辺の機能強化を一体的に取り組むこととしており、その中で、現駅の公共交通機関相互の乗換利便性の向上を図るため、路面電車「万葉線」を延伸し、JR 高岡駅へ近接化を行う。</p> <p>公共交通結節機能の向上により、歩いて暮らせるまちとしての機能が向上され、「<b>歩行者・自転車通行量の増加</b>」に寄与することから必要な事業である。</p>	<p>金（都市・地域交通戦略推進事業）</p> <p>H22～H25 年度</p>	
<p><b>76. コミュニティバス事業</b></p> <p>● コミュニティバスの運行（2 系統）（区域：中心市街地と周辺部を結ぶ地域）</p> <p>◎（第 1 ルート）H13 年度～ （第 2 ルート）H18 年度～</p>	高岡市	<p>中心市街地及びその周辺の文化遺産、都市福利施設、住宅地を結ぶコミュニティバスを運行する。</p> <p>中心市街地及びその周辺に居住する者や観光客等に対し、安価で便利な公共交通が提供され、「<b>歩行者・自転車通行量の増加</b>」に寄与することから必要な事業である。</p>	<p>中心市街地活性化ソフト事業</p> <p>H19～ H28 年度</p>	
<p><b>77. お祭りシャトルバス事業</b></p> <p>● JR 高岡駅やイベント専用駐車場とイベント会場を結ぶシャトルバスの運行</p> <p>◎H24 年度～</p>	高岡市	<p>瑞龍寺や金屋町など、中心市街地にある歴史・文化資産を活用したイベントを開催する際に、イベント会場と JR 高岡駅やイベント専用駐車場を結ぶシャトルバスを運行する。</p> <p>自動車での来街者には駐車場の心配がなく、また公共交通利用者には、会場までの移動手段が確保され、来街の利便性向上が図られることから、イベント来街者の増加が見込まれ、「<b>観光客入込み数の増加</b>」に寄与することから必要な事業である。</p>	<p>中心市街地活性化ソフト事業</p> <p>H24～ H28 年度</p>	
<p><b>78. レンタルサイクル事業</b></p> <p>● 中心市街地の主要観光地から利用可能なレンタルサイクルの貸出し（区域：中心市街地）</p>	末広開発㈱	<p>中心市街地における買い物と観光に便利なレンタルサイクルを、JR 高岡駅や観光拠点、まちの駅などに配置する。</p> <p>レンタルサイクル拠点を分散して配置することにより歩行者の機動性を高め、「<b>観光客入込み数の増加</b>」と「<b>歩行者・自転車通行量の増加</b>」に寄与することから必要な事業である。</p>	<p>中心市街地活性化ソフト事業</p> <p>H19～ H28 年度</p>	

◎H17年度～				
79. 中心市街地におけるオフィス開設支援事業 ●一定規模以上のオフィス立地に対する支援(区域：中心市街地) ◎H20年度～	高岡市	中心市街地へのオフィスの誘導を図るため、一定要件を満たすオフィス入居者や物件所有者を支援する。 オフィスが整備されることにより昼間人口の増大とともに空き店舗の解消が図られるため、「歩行者・自転車通行量の増加」と「空き店舗数の減少」に寄与することから必要な事業である。	中心市街地 活性化ソフト事業 H20～ H28年度	

(2) ②認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した重点的な支援措置に関連する事業

No. 事業名 ●内容及び ◎実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
5. 高岡駅交通広場整備事業(万葉線延伸部走行空間整備事業[(万葉線)路面電車走行空間、交通広場整備事業])【再掲】 ●交通広場整備のための設計、JRと万葉線の乗換利便性向上のための万葉線延伸に係る路面走行空間及び電停の整備を行う。 ◎H19～H25年度	高岡市	平成26年度に北陸新幹線が金沢駅まで開業し、現駅から約1.5km南に新高岡駅(仮称)が整備されることとなっており、高速交通体系が新駅に移管されることから、現在のJR高岡駅は、生活者のための駅としての機能が顕在化する。 本市では、高岡駅周辺整備事業として現駅周辺の機能強化を一体的に取り組むこととしており、現駅の公共交通機関相互の乗換利便性の向上を図るため、万葉線高岡駅前電停とJR高岡駅の近接化のための交通広場整備を行う。 公共交通結節機能の向上により、歩いて暮らせるまちとしての機能が向上され、「歩行者・自転車通行量の増加」に寄与することから必要な事業である。	社会資本整備総合交付金(道路事業(街路)) H19～ H25年度	
6. 高岡駅北口駅前広場整備事業(高岡駅佐加野線(北口駅広))【再掲】 ●高岡駅北口の交通広場の再整備(区域：11,350㎡) ◎H16～H25年度	高岡市	平成26年度に北陸新幹線が金沢駅まで開業する際に、現駅から約1.5km南に新高岡駅(仮称)が整備されることとなっており、高速交通体系が新駅に移管されることから、現在のJR高岡駅は、生活者のための駅としての機能が顕在化する。 本市では、高岡駅周辺整備事業として現駅周辺の機能強化を一体的に取り組むこととしており、その中で、現駅の公共交通機関相互の乗換利便性の向上、南北市街地の連携強化、安全で快適な歩行空間の確保等を図るため、ロータリーの見直し等による北口交通広場の再整備を行う。 円滑な公共交通路線の確保により公共交通結節	社会資本整備総合交付金(道路事業(街路)) H16～ H25年度	

		機能が向上し、歩いて暮らせるまちとしての機能が向上され、「歩行者・自転車通行量の増加」に寄与することから必要な事業である。		
7. 高岡駅北口歩行者専用道（人工デッキ）整備事業 【再掲】 ●南北自由通路と中央駐車場を結ぶ人工デッキの整備（面積：2,590㎡） ◎H16～H25年度	高岡市	平成26年度に北陸新幹線が金沢駅まで開業する際に、現駅から約1.5km南に新高岡駅（仮称）が整備されることとなっており、高速交通体系が新駅に移管されることから、現在のJR高岡駅は、生活者のための駅としての機能が顕在化する。 本市では、高岡駅周辺整備事業として現駅周辺の機能強化を一体的に取り組むこととしており、その中で、現駅の公共交通機関相互の乗換利便性の向上、南北市街地の連携強化、安全で快適な歩行空間の確保等を図るため、北口歩行者専用道の整備を行う。 2階レベルで歩行者動線を確保することによりJR高岡駅と中心商店街とのアクセス性が向上され、「観光客入込み数の増加」と「歩行者・自転車通行量の増加」に寄与することから必要な事業である。	社会資本整備総合交付金（道路事業（街路）） H16～ H25年度	

### (3) 中心市街地の活性化に資するその他の支援措置に関連する事業

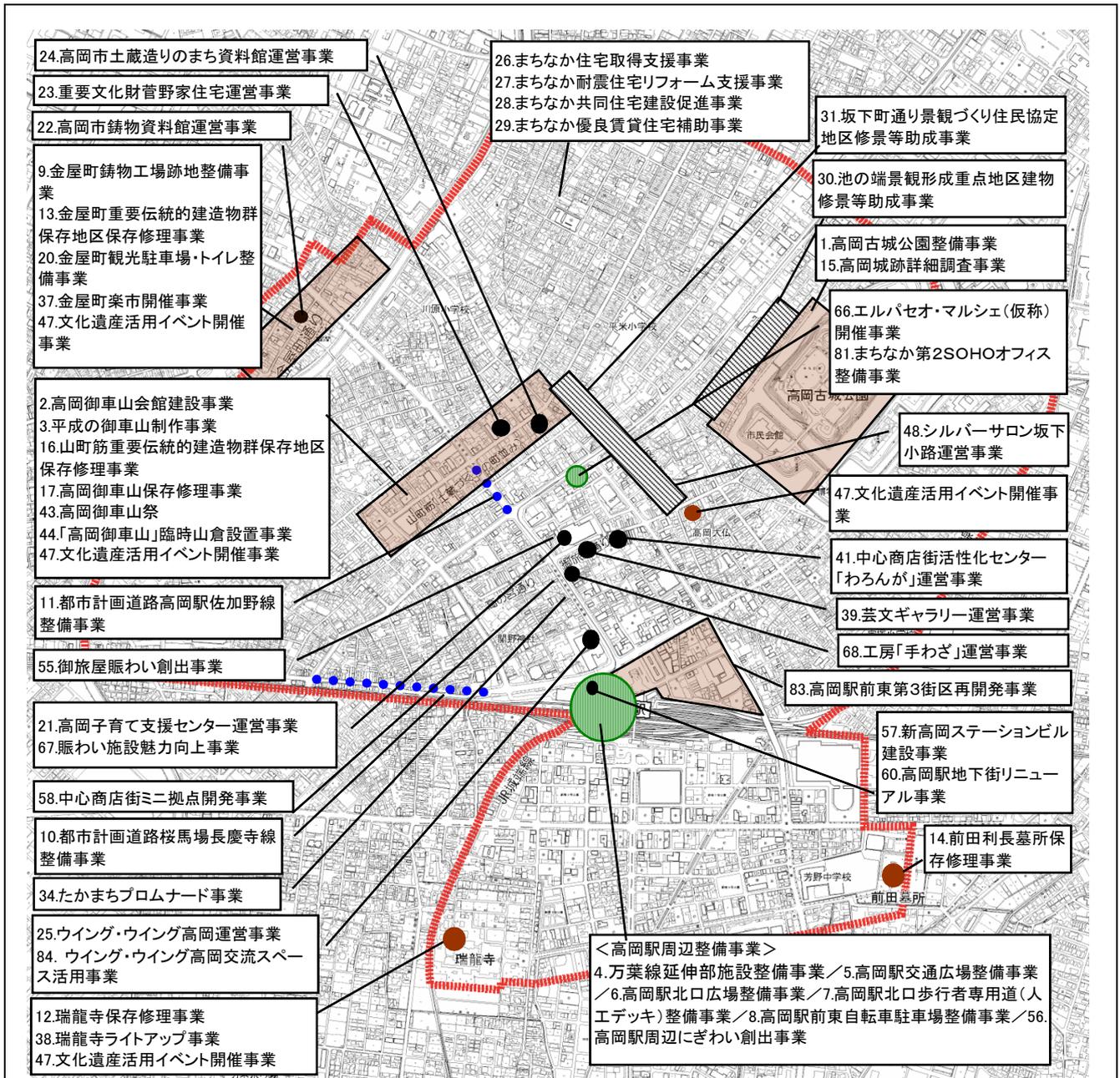
No. 事業名 ●内容 ◎実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
80. 越中・飛騨観光圏事業 ●富山県西部及び岐阜県飛騨地域が一体となった観光客誘客事業の推進 ◎H22年度～	越中・飛騨観光圏協議会	平成22年4月に国の認定を受けた「越中・飛騨観光圏整備実施計画」に基づき、富山県西部地域と岐阜県飛騨地域の観光素材を組み合わせ、磨き、育て、新たな観光ルートを形成し、国内外に地域の魅力を発信する。 圏域内の連泊促進キャンペーンや域内旅行商品の造成などに取り組み、「観光客入込み数の増加」に寄与することから必要な事業である。	観光地域づくりプラットフォーム事業 H24年度	

### (4) 国の支援がないその他の事業

No. 事業名 ●内容 ◎実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	国以外の支援措置の内容及び実施時期	その他の事項

<p>81. まちなか第2 SOHO オフィス整備事業</p> <p>●新たな SOHO 支援オフィスの整備</p> <p>◎H27 年度</p>	<p>高岡市</p>	<p>既存のビルのコンバージョンにより、中心市街地で2つめのSOHO事業者支援オフィスの整備を行う。</p> <p>中心市街地に新たな事業所を整備することにより、昼間人口の増加が図られるほか、既存のSOHO事業者支援オフィスへ入居するSOHO事業者との連携も期待され、「歩行者・自転車通行量の増加」に寄与することから必要な事業である。</p>		
---	------------	---	--	--

◇ 4 から 8 までに掲げる事業及び措置の実施箇所



※図示されていない事業

- 18. 中心市街地ストリート回遊計画事業
- 19. 都心エリア土地利用検討調査事業
- 32. 大規模小売店舗立地法の特例措置
- 33. 観光地における開業支援事業
- 35. 大学連携による伝統・文化再生事業
- 36. 工芸都市高岡クラフト展開催事業
- 40. まちなかギャラリー事業
- 42. 中心市街地における開業支援事業
- 45. 中心市街地における季節ごとの大型イベント開催事業
- 46. 中心商店街活性化イベント開催事業
- 49. まちなか情報発信事業
- 50. コロッケのまちづくり事業
- 51. 個別商店街の活性化事業
- 52. 中心市街地における既存店舗リニューアル支援事業
- 53. 朝市・夕市の開催
- 54. 元気たかおか未来会議の開催
- 59. 文化芸術創造都市モデル事業
- 61. たかおか未来WEB商店街事業

- 62. TR@P事業
- 63. セカイカメラ設置事業
- 64. 食のブランド化推進事業
- 65. 新幹線開業記念広告宣伝事業
- 69. (仮称)高岡まちなか再生基金事業
- 70. 「近世高岡の文化遺産を愛する会」の活動
- 71. フィルムコミッション事業
- 72. たかおか観光戦略ネットワーク事業
- 73. コンベンション開催支援事業
- 74. まちの駅ネットワーク事業
- 75. 観光バス市営駐車場料金補助事業
- 76. コミュニティバス事業
- 77. お祭りシャトルバス事業
- 78. レンタルサイクル事業
- 79. 中心市街地におけるオフィス開設支援事業
- 80. 越中・飛騨観光圏事業
- 82. 高岡クラフト市場街開催事業

9. 4から8までに掲げる事業及び措置の総合的かつ一体的推進に関する事項

[1] 市町村の推進体制の整備等

(1) 市内における推進・連携体制

① 中心市街地活性化を統括する組織

本市では、中心市街地の活性化をハード・ソフト両面から、より一層強力かつ一体的に推進するため、平成20年4月に機構改革を行い、産業振興部商業観光課に、中心市街地活性化推進担当を設置した。

所 属	員数・役割
課 長	1名 中心市街地活性化施策推進の統括
担 当	8名（うち2名は兼務〈建築住宅課1名、都市計画課1名〉） 中心市街地活性化施策の推進に関すること
合 計	9名（うち兼務2名）

② 高岡市中心市街地活性化基本計画市内推進会議及び市内推進会議幹事会

中心市街地活性化基本計画の策定及び計画に掲げた施策・事業を円滑に推進するため、平成19年4月に高岡市中心市街地活性化基本計画市内推進会議及び市内推進会議幹事会を設置した。

名 称	メ ン バ ー
市内推進会議	副市長(2名)、教育長、水道事業管理者、経営企画部長、総務部長、産業振興部長、生活環境部長、福祉保健部長、建設部長、都市整備部長
市内推進会議幹事会	都市経営課長、産業振興部理事、商業観光課長、地域安全課長、社会福祉課長、道路建設課長、建築住宅課長、都市計画課長、駅周辺・新幹線対策課長、生涯学習課長、文化財課長

(2) 高岡市議会における討議の内容

高岡市議会において、中心市街地活性化等に関連した質問に対して、以下のとおり答弁している。

会議・年月日	討議内容
平成22年9月定例会 (H22.9.17)	<p>自民党議員会 個別質問 (質問要旨)</p> <p>中心市街地活性化の取り組みについて 中心市街地活性化基本計画の計画期間が1年半後に終了するが、今後の計画を策定するに当たり、わかりやすい目標と具体的な案を今からつくるべき。</p> <p>(産業振興部長答弁)</p> <p>中心市街地活性化基本計画では3つの基本目標と4つの目標指標を掲げている。基本目標の1つ目には、歴史・文化資産の活用によるまちなか交流人口の拡大、2つ目には、まちなか居住の推進、3つ目には、中心商店街のにぎわいの創出を定めている。目標指標は、1つには主要観光施設における</p>

	<p>観光客入り込み数、2つには中心市街地における居住人口、3つには中心商店街における平日、休日の歩行者、自転車通行量の平均値、そして4つには中心商店街における空き店舗数、以上の4つを定めており、この数値目標を達成すべく85の事業に取り組んでいる。</p> <p>計画は平成24年3月に終期を迎え、中心市街地活性化のための新たな整備計画が必要になってくるものと考えている。</p> <p>今後、本計画に基づいた事業の進捗管理や事業効果の検証など総合的なフォローアップを行うとともに、高岡市中心市街地活性化協議会や関係団体等の皆様と意見交換や協議を進めていきたいと考えている。そして、国の動向も見きわめながら、よりわかりやすい高岡らしい次期中心市街地活性化基本計画とも言うべきものを策定していければと考えている。</p>
<p>平成23年6月定例会 (H23. 6. 22)</p>	<p><b>日本共産党 個別質問</b> (質問要旨)</p> <p>高岡駅周辺整備事業完了後について</p> <p>高岡駅周辺整備事業完了後、周辺の通行量の増大や中心商店街のにぎわい創出等、数値的にどのように予測しているか。</p> <p>(産業振興部長答弁要旨)</p> <p>中心市街地活性化基本計画では、商店街のにぎわいを示す数値目標を定めている。中心商店街における平日、休日の歩行者、自転車通行量の平均値を1万1,300人から1万3,500人に、空き店舗数を46件から37件としている。現在、平成24年度から28年度までの5年間を計画期間とする計画の改定作業を進めている。その中で、高岡駅周辺整備事業をはじめ、5年間で取り組む事業の効果を勘案しながら、新たな数値目標を設定することとしている。</p>
<p>平成23年12月定例会 (H23. 12. 9)</p>	<p><b>政峰会 個別質問</b> (質問要旨)</p> <p>高岡の中心市街地の今後について</p> <p>1期計画が終了する来年3月以降の取り組みと将来像についての考えは。</p> <p>(市長答弁要旨)</p> <p>平成24年度から5ヵ年を計画期間とした第2期計画案の作成を進めている。市議会をはじめ中心市街地活性化協議会や、市民の皆様の意見を伺いながら、3月の認定に向けて策定作業を進めていく。第2期計画では、第1期計画の成果と課題を十分に検証し、計画期間中に開業する北陸新幹線の効果を取り込みながら、中心市街地エリアの賑わいを取り戻すことが課題である。さらに、いわゆる歴史都市の認定を受けて、</p>

歴史・文化資産の高岡の地域特性を活かした中心市街地の活性化を図ることが重要と考えている。このため第2期計画では、JR高岡駅周辺整備事業に引き続き取り組むとともに、ステーションビルの改築、駅地下街のリニューアルなど、新しい街の拠点整備を進める。また、駅前から中心商店街の拠点である御旅屋セリオを経て大仏に至る通りを、賑わいあふれるエリアに復活させ、さらには、山町、金屋町へと歩いて楽しい空間になるように「たかおかストリート構想」を積極的に展開する。さらに、歴史都市への取り組みと連動しながら、御車山会館の建設、金屋町の重要伝統的建造物群の指定を進めるとともに、新幹線新駅から中心市街地へ人々の流れを導く方策、さらにはまちなか居住の促進策など、ハード・ソフトを織り交ぜて、総合的な事業展開を計画的、積極的に進めていく。

### (3) 中心市街地活性化等について市民意見を聴取する場の設定

市民と市長が語り合う「わがまちトーク」を市内全域で開催し、その中で中心市街地の活性化等についても議論が行われた。これとは別に、階層別・テーマ別の「ふれあいトーク」も開催してきたところである。

#### わがまちトークの開催状況（中心市街地区域該当地区抜粋）

開催日	対象地区	会場	参加人員
平成21年11月9日(月)	平米地区	平米公民館	86名
平成21年11月12日(木)	川原地区	川原公民館	58名
平成21年12月2日(水)	定塚地区	定塚公民館	78名
平成22年1月14日(木)	成美地区	成美公民館	110名
平成22年2月24日(水)	下関地区	東部公民館	74名
平成22年3月29日(月)	博労地区	博労公民館	46名

#### 階層別・テーマ別わがまちトークの開催状況（中心市街地区域該当地区抜粋）

開催日	対象の階層・テーマ	会場	参加人員
平成21年9月28日(月)	観光	瑞龍寺	14名
平成23年4月23日(土)	子育て支援	子育て支援センター	19名
平成23年7月25日(月)	歴史・文化資産を活かすまちづくり	金屋町公民館	17名

## [2] 中心市街地活性化協議会に関する事項

### (1) 高岡市中心市街地活性化協議会の概要

本市のまちづくり機関（旧TMO）を担う第三セクターである株末広開発及び高岡商工会議所が共同設立者となり、平成18年12月21日、高岡市中心市街地活性化協議会（以下、「協議会」という。）を設立した。

協議会の構成員は、経済団体、まちづくり会社、商業者、交通事業者、地域団体、学識経験者、行政からなる17団体の代表者等の22名である。

また、協議会の下部組織として幹事会を置き、多様な団体が中心市街地の活性化という大きな課題にどのように参画し、どう連携を図っていくのかを協議しながら取り組んでいる。

なお、幹事会には自治会代表、まちづくり市民団体などからも参画いただいている。

基本計画の進捗や新たな状況に対応するため、適宜、協議会や幹事会を開催し、具体的な中心市街地の活性化策について検討・協議している。

第2期高岡市中心市街地活性化基本計画（案）に対する意見等については、別記のとおり提出されている。

### (2) 高岡市中心市街地活性化協議会の組織等

#### ① 事務局

本協議会の事務局は、末広開発(株)まちづくり事業部に置く。

② 構成員 (H23. 12. 15 現在)

役 職	区 分 (根拠条項)	所 属 及 び 役 職 等	氏 名
会長	商工会議所	高岡商工会議所会頭	川村 人志
副会長	〔 第 15 条第 1 項 第 2 号 〕	高岡商工会議所副会頭	塩谷 雄一
委員		高岡商工会議所専務理事	荻原 隆夫
副会長	まちづくり会社 〔 第 15 条第 1 項 第 1 号 〕	末広開発(株)代表取締役社長	荒井 公夫
副会長	行政機関 〔 第 15 条第 4 項 関係 〕	高岡市副市長	林 時彦
委員		高岡市産業振興部長	坂下 照夫
委員		高岡市都市整備部長	加藤 雅俊
委員		高岡市建設部長	長岡 裕
委員	商業者 〔 第 15 条第 4 項 関係 〕	高岡市商店街連盟会長	酒井 敏行
委員		末広町商店街振興組合理事長	吉居 正
委員		御旅屋通商店街振興組合理事長	河合 晋
委員		(株)大和高岡店店長	高田 睦男
委員	交通事業者 〔 第 15 条第 4 項 関係 〕	JR 西日本旅客鉄道(株)金沢支社高岡駅長	朽木 勝宣
委員		加越能鉄道(株)取締役社長	川岸 宏
委員		万葉線(株)代表取締役社長	竹平 栄太郎
委員	地域経済 〔 第 15 条第 4 項 関係 〕	(株)高岡ステーションビル代表取締役社長	堀 巖
委員		オタヤ開発(株)代表取締役社長	濱谷 元一郎
委員		北陸電力(株)高岡支社長	山下 義順
委員		北陸銀行(株)常務執行役員高岡地区事業本部長	西田 隆文
委員		協同組合高岡建設業協会会長	寺崎 敏治
委員	都市福利施設 〔 第 15 条第 4 項 関係 〕	(株)蔵のまちスクエア「山町茶屋」代表取締役社長	菅野 克志
委員	有識者 〔 第 15 条第 4 項 関係 〕	富山大学芸術文化学部教授	貴志 雅樹
	オブザーバー 〔 第 15 条第 7 項 関係 〕	富山県商工労働部商業まちづくり課長	杉田 和樹
		富山県土木部都市計画課長	林 正之
		高岡警察署交通官 (交通第一課長)	河村 盛夫
		高岡消防署長	今井 仁至

③ 幹事会の構成員（H23.12.15 現在）

役 職	区 分	所 属 及 び 役 職 等	氏 名
副会長	商工会議所	（会長代行）高岡商工会議所副会頭	塩谷 雄一
幹事		高岡商工会議所流通対策常任委員長	山崎 隆志
幹事		高岡商工会議所地域開発常任委員長	小竹 哲
幹事		高岡商工会議所第2流通部会長	土田 一清
委員／幹事		高岡商工会議所専務理事	荻原 隆夫
幹事	まちづくり会社	末広開発(株)代表取締役専務	岩坪 正人
委員／幹事	高岡市	高岡市産業振興部長	坂下 照夫
幹事		高岡市産業振興部商業観光課長	青島 恒巳
幹事		高岡市都市整備部都市計画課長	高木 邦昭
幹事		高岡市都市整備部駅周辺・新幹線対策課長	藤井 久雄
幹事		高岡市建設部建築住宅課長	北野 弘信
委員／幹事	商業者など	高岡市商店街連盟会長	酒井 敏行
委員／幹事		末広町商店街振興組合理事長	吉居 正
委員／幹事		御旅屋通商店街振興組合理事長	河合 晋
幹事		(社)高岡市観光協会専務理事	蒲田 幸雄
幹事		BELLISSIMO KEI 567 代表	金三津 景子
委員／幹事		(株)大和高岡店店長	高田 睦男
委員／幹事	交通事業者	JR 西日本旅客鉄道(株)金沢支社高岡駅長	朽木 勝宣
幹事		加越能鉄道(株)営業部副部長	山崎 勝
幹事		万葉線(株)代表取締役専務	椎木 辰雄
委員／幹事	地域経済	(株)高岡ステーションビル代表取締役専務	石黒 賢正
幹事		高岡ケーブルネットワーク(株)専務取締役	石丸 昌之
委員／幹事		協同組合高岡建設業協会会長	寺崎 敏治
幹事		高岡市ホテル旅館事業（協）理事長	宇波 真一郎
幹事		高岡商工会議所青年部会長	杉本 一
幹事		高岡青年会議所理事長	高野 裕史
幹事		オタヤ開発(株)常務取締役	西湊 一郎
委員／幹事	都市福利施設	(株)蔵のまちスクエア「山町茶屋」代表取締役社長	菅野 克志
幹事		まちの駅ネットワーク高岡会長	伏江 努
委員／幹事	有識者	富山大学芸術文化学部教授	貴志 雅樹
幹事	自治会及び コミュニティ など	元気たかおか未来会議会長	松田 英昭
幹事		G A 開発研究所所長	柴田 裕弘
幹事		まちづくり市民応援団会長	武山 良三
幹事		瑞龍寺夢参道まち衆会会長	川原 隆平

### (3) 高岡市中心市街地活性化協議会による意見書

---

平成24年1月26日

高岡市長 高橋 正樹 様

高岡市中心市街地活性化協議会  
会 長 川村 人志

#### 第2期高岡市中心市街地活性化基本計画（案）に関する意見書

平成24年1月19日付け商観第185号で、意見照会のありました「第2期高岡市中心市街地活性化基本計画（案）」（以下「基本計画（案）」）については、概ね妥当であるとの結論に至りました。

なお、基本計画（案）が実効性あるものとなるため、下記のとおり意見を申し添えます。

（付帯意見）

#### （1） 中心市街地活性化への取り組みについて

高岡市が富山県西部の中核都市として機能していくためには、市全体の活性化が是非とも必要であり、とりもなおさず中心市街地の活性化が重要であります。第1期計画に引き続き、基本計画（案）を策定され、国の認定を目指されることは、時宜を得たものと評価するものであります。

当協議会においては、これまで協議会・幹事会・専門部会等を開催し、官民一体となった中心市街地活性化の取り組みについて議論を進めてまいりました。

高岡市におかれては、今後とも市民・民間事業者、商業者等が共有・共感できるまちづくりを目指し、尽力されるようお願いいたします。

#### （2） 中心市街地活性化の基本方針・目標について

第1期計画における各事業の実施により、4つの目標指標のうち、「主要観光施設における観光客入込み数」、「中心商店街（6地点）における歩行者・自転車通行量の平均値」、「中心商店街（4商店街）における空き店舗数」においては、上昇ないしは下げ止まりのトレンドを描いており、改善が進んでいます。第1期計画の取り組みが中心市街地活性化に向けて有効であると確認されたことから、第2期計画では、第1期計画の基本方針・目標に沿ったまちづくりを進めることは、妥当であると考えます。

また、事業進捗の成果として定められている4つの数値目標については、実現性が高く、活性化の状態を図る上で妥当であると考えます。

### (3) 中心市街地活性化の事業について

基本計画（案）に盛り込まれた事業については、1期計画の成果・課題を踏まえた取り組みとなっており、概ね妥当と考えます。ただし、当協議会において特に意見のあった次の事項について、十分配慮いただきたい。

- ① まちづくりは、市民が主体となることが必要であり、そのためには、市民・地域住民にとって判りやすく、共感できるまちづくりプラン・活性化事業の推進に努めること。
- ② 国の認定を受けた高岡市歴史まちづくり計画との連携や平成26年度末に迎える北陸新幹線の開業効果を取り込みながら、中心市街地の活性化に努めること。
- ③ 基本計画（案）に掲げる事業の実効性を確保するとともに、各事業のフォローアップにより、事業の成果・妥当性の検証に努めること。

また、検証結果に応じて、基本計画（案）の事業見直し等に柔軟に対応すること。

- ④ 今後、基本計画（案）に記載されていない事業が実施されることとなった場合、協議会の協議を経て、速やかに基本計画の変更等の対応を行うこと。

### (4) 中心市街地活性化の推進体制について

高岡商工会議所とまちづくり会社末広開発(株)が共同して、「高岡市中心市街地活性化協議会」を平成18年12月21日に設立しました。

また、末広開発株式会社では、平成17年4月に高岡商工会議所からTMOの事業移管を受け、まちづくり事業部を設置し、様々な中心市街地活性化のための事業を主体的に展開しております。

高岡市中心市街地活性化基本計画の推進にあたっては、当協議会が中核的な役割を担いつつ、末広開発(株)をはじめ、行政、市民、事業者、商業関係者及び関係団体が一体となって取り組むことが重要であります。

当協議会では、引き続き、事業の推進に積極的に取り組んでまいり所存でありますので、高岡市におかれても当協議会にご支援くださるようお願いいたします。

#### (4) 高岡市中心市街地活性化協議会の活動経過

平成 25 年 3 月 11 日	計画の一部変更に係る意見聴取に対して回答する。
平成 26 年 1 月 23 日	計画の一部変更に係る意見聴取に対して回答する。
平成 27 年 5 月 28 日	計画の一部変更に係る意見聴取に対して回答する。

[3] 基本計画に基づく事業及び措置の一体的推進

(1) 中心市街地活性化基本計画 1期計画の総括（詳細は1.-[3]を参照）

i) 実施状況

1期計画は、平成19年11月に策定し、「光り輝くまちなかの創生～400年の資産を守り、育み、繋ぐ～」をスローガンに掲げ、目標を、①歴史・文化資産の活用によるまちなか交流人口の拡大、②まちなか居住の推進、③中心商店街の賑わい創出、の3項目に定め、中心市街地の活性化に取り組むこととした。

1期計画において掲げた92事業のうち、平成23年10月時点で32事業が完了、56事業が実施中、未実施の事業は4事業となっており、事業進捗率は95.7%である。

ii) 実施成果および課題

1期計画における各事業の実施により、目標指標はまちなか居住人口を除いて上昇ないしは下げ止まりのトレンドを描いており、改善が進んでいる。現時点では目標数値に到達していない指標もあるが、事業実施の成果は着実に表れている。

また、1期計画において必ずしも十分な成果が上がっていないまちなか居住の推進についても、中心市街地における共同住宅の建設開始や大規模商業施設の出店がなされるなど、今後のまちなか居住推進に向けて土台となる環境は整いつつある。

2期計画では、1期計画において大きな成果を上げた事業に取り組むとともに、高岡市歴史的風致維持向上計画との連動と北陸新幹線開業効果を取り込みながら、それぞれの事業のレベルアップと連携によって、波及効果を生みながら中心市街地全体の活力を向上させていく必要がある。

	事業数	完了	実施中	未実施	実施率
①土地区画整理事業、市街地再開発事業、道路、公園、駐車場等の公共の用に供する施設の整備その他の市街地の整備改善のための事業	35*	21*	14*	0	100%
②都市福利施設を整備する事業	5	1	4	0	100%
③公営住宅等を整備する事業、中心市街地共同住宅供給事業その他の住宅供給のための事業及び当該事業と一体として行う居住環境の向上のための事業等	6	1	4	1	83.3%
④中小小売商業高度化事業、特定商業施設整備事業その他の商業の活性化のための事業及び措置	38	6	30	2	94.7%
⑤①から④までに掲げる事業及び措置と一体的に推進する事業	15*	5*	9*	1	93.3%
合計	92	32	56	4	95.7%

(平成23年10月現在) \*複数の項目にまたがる事業(7事業)を含む

①歴史・文化資産の活用によるまちなか交流人口の拡大

i) 実施結果

1期計画の取り組みにより、中心市街地主要観光施設の観光客入込み数は増加基調に転じ、平成22年は117万人と、基準値である平成18年比で20万人(21%)の増加となり、ほぼ目標数値に近い水準に達している。また、高岡の歴史・文化資産を活用

したまちづくりの取り組み状況については、市民意識調査では、中心市街地の観光地としての魅力向上を評価する回答が多くみられ、市民の中で改善が実感されていることから、全体として計画通りの成果を上げている。

## ii) 2期計画に向けた課題

主要観光施設全体では、ほぼ計画通りの成果を上げているが、高岡古城公園および瑞龍寺と比較し、高岡大仏および山町筋では、観光客入込み数に伸び悩みがみられる。観光地の魅力向上及び集客に繋がる核施設の整備に取り組むとともに、観光拠点間を歩いて巡る回遊性を創出する仕組みづくりが課題として挙げられる。

## ②まちなか居住の推進

### i) 実施結果

平成23年3月末時点における中心市街地の居住人口は16,360人と、目標数値を下回る結果となった。まちなか居住支援事業の利用による人口増加・下支え効果があるなど、1期計画の取り組みにより一定の成果をみたが、当初予想を上回る人口の自然減及び子供同居世帯の流出をはじめとする社会減が発生したことから、居住人口の増加には至らなかった。

まちなか居住人口が減少する一方で、継続的に取り組んでいる朝市・夕市の開催やホームセンターと食品スーパーを複合した大規模商業施設が開店したことにより、中心市街地における日常生活の利便性が向上していることや、共同住宅2棟の建設が進むなど、1期計画の取り組みにより、まちなか居住の環境は、着実に好転している。

### ii) 2期計画に向けた課題

まちなか居住支援事業を継続するとともに、中心市街地での高齢化の進展や若年層、子供同居世帯の流出が進んでいる状況を踏まえ、公共交通機関の利便性向上や子育て支援センターや生涯学習センターなどの都市福利施設の取り組みの充実を図るなど、高齢者や子育てなどの幅広い層が住みやすい住環境の創出に取り組む必要がある。

また、駅周辺地域で進む共同住宅2棟の建設や大規模商業施設の開店などを好機として捉え、まちなか居住支援事業を活用した更なる住宅建設を促進するなど、まちなか居住を推進していく必要がある。

## ③中心商店街の賑わい創出

### i) 実施結果

中心商店街（6地点）における歩行者・自転車通行量の平均値については、平成22年には11,648人となり、基準年比で3%増加し、平成22年時点では目標数値は到達していないものの、1期計画以降はそれまでの長期的な減少傾向に歯止めがかかっており、各事業実施による効果が表れてきている。特に、ウイング・ウイング高岡～御旅屋セリオを結ぶ末広通り西側の通行量が基準年比1.7倍の増加となっていることから、回遊向上に向けた取組みは成果が確認されている。また、各種イベント、朝市・夕市・フリーマーケットの実施、および開業支援による商業・飲食機能強化の取組

みは、来街機会の創出を通じて中心市街地の歩行者・自転車通行量の増加に寄与していると考えられる。

中心商店街（4商店街）における空き店舗数については、1期計画の取り組みにより、平成18年の空き店舗数46店舗から目標数値37店舗を大幅に上回る25店舗へと減少し、大きな成果を上げている。特に、中心市街地における開業支援事業は、中心商店街（4商店街）において8店舗の開業に寄与するとともに、既存店舗リニューアル支援事業は既存店舗の空き店舗化防止に寄与した。これらの店舗開業・維持に空き店舗減少は、間接的な効果として、開業支援によらない新たな店舗の出店を促すなど、中心商店街の機能維持・向上に寄与した。

## ii) 2期計画に向けた課題

1期計画の取り組みにより末広通り西側の通行量は増加したが、今後は、ウイング・ウイング高岡や御旅屋セリオの拠点施設から商店街へ回遊する取り組みを進めるとともに、高岡駅南北自由通路を通る駅南北の回遊促進に取り組むことが重要である。オフィス開設支援については、支援制度の利用申請がなかったことから、オフィス開設支援の拡充を図り、昼間人口の増加に繋がるオフィス開設誘致に取り組む必要がある。あわせて、飲食や物販店舗の開業も促進し商業機能の強化を図ることで、来街者数を増加し空き店舗数を減少する取り組みを進める必要がある。

## (2) さまざまな主体の巻き込みと各種事業等との連携・調整等

### ①地域住民を対象とした中心市街地活性化に関する啓発活動の実施状況

#### (ア) 各種広報活動の実施

- ・委員会開催時における議事の公開（新聞、テレビ報道による情報提供）
- ・ホームページによる情報公開
- ・市民等からの意見募集の実施（平成23年1月（予定））
- ・高岡市広報「市民と市政」への掲載（平成23年6月（予定））

#### (イ) まちづくり活動の一元化

平成17年度から、中心市街地活性化のシンボルであるウイング・ウイング高岡を管理、運営する第3セクター・末広開発(株)をまちづくり機関（旧TMO）として、まちづくり活動に取り組んでいる。末広開発(株)は、中心市街地の活性化に取り組む部門としてまちづくり事業部を設置し、末広開発(株)の担当職員（2名）及びパート職員（3名）、商工会議所における担当職員（1名）、民間企業からの派遣（3名）、高岡市における担当職員（2名）により、中心市街地や店舗で行われるイベントや新規開業店舗の情報、中心商店街にある空き店舗の状況など、中心市街地に関する情報の一元化が図られ、まちづくり活動がより活性化している状況である。

あわせて、指定管理者制度を活用し、中心市街地に立地する公共施設を末広開発(株)等に委託することにより、効率的な施設運用が図られている。

(参考) 中心市街地に立地する公共施設の指定管理制度の活用状況

施設名	委託先	業務内容
高岡市生涯学習センター	末広開発(株)	生涯学習センターの管理運営 (ウイング・ウイング 高岡内に立地)
ウイング・ウイング高岡 広場	末広開発(株)	公園の管理運営 (ウイング・ウイング 高岡前に立地)
高岡市中心商店街活性化 センター「わろんが」	末広開発(株)	中心商店街における利便施設の 管理運営
高岡市SOHO 事業者支援オ フィス	(株)えんじゅビル	SOHO オフィスの管理運営 (ビル内に設置)
高岡市営高岡中央駐車場 高岡市営オタヤグリーン パーキング 高岡市営高岡駐車場 高岡市営高岡駅南駐車場	三菱電機ビルテクノサー ビス株式会社・テクノトラ スト株式会社共同企業体	駐車場の管理
高岡市営御旅屋駐車場	(株)えんじゅビル	駐車場の管理 (ビルと併設)
高岡市土蔵造りのまち資 料館	土蔵造りのある山町筋ま ちづくり協議会	資料館の管理運営

(ウ) 各種団体等からの参加によるまちづくり活動の推進及び各種事業との連携

・ No.34 たかまちプロムナード事業 の取り組み

中心商店街は、店主の高齢化や後継者不足による閉店、大規模小売店舗の郊外進出による消費者の商店街離れなどにより、かつての賑わいに比べると停滞している状況にある。中心商店街の賑わい創出と魅力の向上を図るため、JR高岡駅を起点に末広町通り、御旅屋通りを経て高岡大仏前に至る本市の中心市街地の代表的なルートofのストリートビジョンと、商店街の顔づくりのための具体的な方策を研究している。

事業に研究にあたっては、中心商店街に店舗を展開する若手や女性経営者とまちづくりの専門家、高岡市から組織する会議を設置し、まちの魅力となる要素を探し出しや、具体的な取り組みを実践するための体制・仕組みづくりの構築を図っている。

今後は、実践的な事業の展開を図り、市民や観光客がまち歩きを楽しむ仕掛け作りを進めていく。

・ No.37 金屋町楽市開催事業 の取り組み

金屋町は、400年の歴史を誇る高岡鑄物発祥の地で、「さまのこ」呼ばれる千本格子がはめ込まれた伝統的な町家が残る石畳通りと合わせて美しい町並みを形成している。地域住民は、「金屋町まちづくり憲章」の制定や、まちづくり協議会や観光ボランティアガイドを組織するなど、まちづくり活動に熱心に取り組んでいる。

伝統工芸の職と人々の生活が一体となって今に残る金屋町で、歴史的・文化的な町並みと「ものづくりのまち」という地域資源を生かし、伝統工芸の再活性化と地場産業の再生、中心市街地の賑わい創出を図るため、平成20年に、地元

立地する富山大学芸術文化学部と地元自治会、商工会議所、市による産・学・官・民連携の「金屋町楽市実行委員会」を立ち上げた。

「金屋町楽市」では、伝統的な町家内や通りの日常生活空間内に工芸品を展示する「ゾーンミュージアム」というコンセプトで、2日間だけの時間と空間を限定したイベントを展開し、中心市街地の賑わい創出に取り組んでいる。

今後も新たな企画を加えるなどイベント内容の充実を図るとともに、他都市でのPRにも取り組み、来場者の増加及び中心市街地の活性化に繋げる。

#### ・No.39 芸文ギャラリー運営事業 の取り組み

学術研究面におけるものづくりのまちの象徴として、富山大学芸術文化学部のキャンパスが市内にある。富山大学芸術文化学部に進学する学生には県外出身者が多いことから、実りある学生生活の一要素として、学内では体験できない仕掛けづくりをまちなかで提供することが重要である。

そのため、富山大学芸術文化学部、末広開発(株)、高岡市等が連携し、平成19年から高岡駅前地下街に「駅地下芸文ギャラリー」を設置した。ギャラリーでは、大学の学生、教官、卒業生等による企画展が開催されるなど、中心市街地における大学の活動発表の拠点として活用がなされている。

今後は、ものづくりのまち高岡の特長を広めるため、中心商店街にある伝統工芸技術が見える施設「工房「手わざ」」や、金屋町に開設されたものづくりに携わる若手が集まる「金属工芸工房かんか」などとの連携を図り、ものづくりの文化を活用した事業を実施する。

#### ・No.45 中心市街地における季節ごとの大型イベント開催事業／No.46 中心商店街活性化イベント開催事業／No.47 文化遺産活用イベント開催事業 の取り組み

中心市街地では、末広開発(株)が主体となった各種イベントを開催している。

1月に行われる日本海高岡なべ祭りや、8月の高岡七夕まつりでは、商店街団体や、中心市街地の大型店等から成る「たかまち街づくり協議会」が、イベントにあわせた共同販促事業を開催することにより、中心商店街の回遊性の向上及び賑わい創出を図っている。

また、地元の自治会や商業団体などが中心となり、国宝・瑞龍寺を幻想的にライトアップし、参道では門前市を開催する「瑞龍寺ライトアップ事業」や、瑞龍寺から前田利長墓所を繋ぐ八丁道で、飲食物や衣料品、小物など様々な人が出店するフリーマーケット「八丁道おもしろ市」の開催など、市民が主体となり、自分たちでできるまちづくり活動を実践している。

今後とも、中心市街地活性化に取り組んでいる各種団体や関係者のみならず、中心市街地活性化に興味がある人が気軽に参画しやすい環境を整備することにより、多方面に渡る中心市街地活性化に関する取り組みを支援していく。

### (3) 客観的現状分析、ニーズ分析

「1.-〔2〕-(3) データから見た中心市街地の現状」及び「1.-〔2〕-(4) 市民から見た中心市街地の現状」(6～26 ページ)を参照

## 10. 中心市街地における都市機能の集積の促進を図るための措置に関する事項

### [1] 都市機能の集積の促進の考え方

都市機能の集積の考え方として、平成 19 年 6 月に策定した「高岡市総合計画基本構想」において、中心市街地については、観光客が回遊しやすくなるような環境の整備、まちなか居住の推進、公共交通及び商店街の活性化を図ることによって充実した生活空間を形成することとしている。

平成 24 年度からスタートする「高岡市総合計画 2 次基本計画」では、「高岡新世紀創造プロジェクト」を掲げ、東海北陸自動車道と北陸新幹線が交差する結節点に位置する地理的優位性を生かし、高岡市の魅力を高めるとともに、周辺地域との連携を通じて飛越圏域、さらには日本海沿岸における拠点性の確立を目指して地域の様々な主体の協働によって取り組んでいくこととしており、そのための重要な取り組みとして「市街地のにぎわいづくり」を位置付けている。

また、平成 17 年 3 月に策定された「高岡市都市計画マスタープラン」では、中心市街地については、歴史・文化資産の保全などに配慮した居住環境の改善、賑わい創出のための活動を展開し、住みたくなる、行きたくなる街の構築を図ることとしている。

なお、富山県が策定している富山高岡広域都市計画区域マスタープランの改定を受け、本市では、高岡市都市計画マスタープランを策定することとしている。その中では、今後の人口減少社会をにらみ、既存の社会資本ストックを利活用しながら、地区の特性に応じた機能分担の下に都市機能を集約配置するとともに交通ネットワークを確保し、持続可能な都市づくりの方向を明確に打ち出すこととしている。

### [2] 都市計画手法の活用

中心市街地の活性化の取組効果を確保するとともに、中心市街地への都市機能の集積を促し、コンパクトなまちづくりを目指すため、準工業地域において、1 万㎡を超える大規模集客施設の立地を制限する特別用途地区の指定を行っている。

対象区域：高岡市内の全ての準工業地域（約 409ha（富山高岡広域都市計画区域（旧高岡市） 約 367ha・福岡町都市計画区域 約 42ha）

### [3] 都市機能の適正立地、既存ストックの有効活用等

#### (1) 都市機能の状況

##### ① 公共施設

中心市街地には、平成 6 年の御旅屋セリオのオープンに伴うオタヤ市民サービスセンター等の開設以降、市民向けの窓口サービスをはじめ、社会教育施設、福祉施設、観光施設、SOHO 支援施設など数多くの公共施設が立地している。

##### ② 公園

中心市街地内の高岡古城公園（高岡城跡）は、堀や土塁などの遺構が残り、400 年経過した現在でも往時における高岡城の姿を多く留めることから、歴史・文化資産としての評価がある一方で、市内でも最大規模の公園として、芝生広場や動物園などがあり、市民の身近な憩いの場としても重要な公園である。その他、中心商店街では、ウイング・ウイング高岡広場公園と御旅屋メルヘン広場がイベント会場として機能的な役割を果たしている。それ以外の駅北地区には金屋緑地など一部の公園を除き、小公園などが点在している。また、駅南地区においては、前田利長墓所の

ほか、区画整理に伴う公園の配置など、一定規模の公園が計画的に配置されている。

### ③ 駐車場・駐輪場

中心市街地には、中心商店街（3商店街）を取り囲むように、御旅屋(355台)、オタヤグリーンパーキング（機械式180台）、高岡中央(751台)、高岡駐車場(170台)が市営大型駐車場として設置されている。

民営の駐車場は、空地を利用した平面駐車場が多く、大規模なものは旧ユニー高岡店跡地のN P C 24H高岡駅前パーキング（自走式336台）が立地している。

これら時間料金制の駐車場のほか、中心市街地の主要観光地である瑞龍寺、古城公園、高岡大仏、山町筋、金屋町には、無料の観光駐車場を整備している。

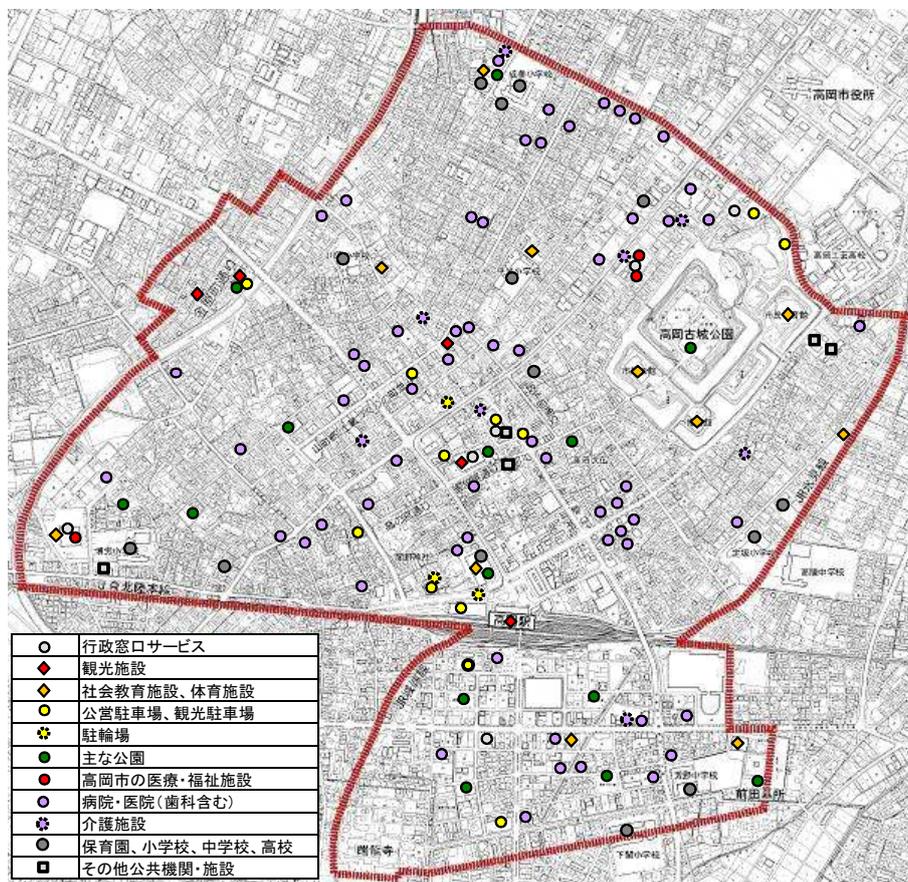
駐輪場は、J R 高岡駅および万葉線片原町電停周辺に4カ所整備されている。

### ④ 医療・福祉機関

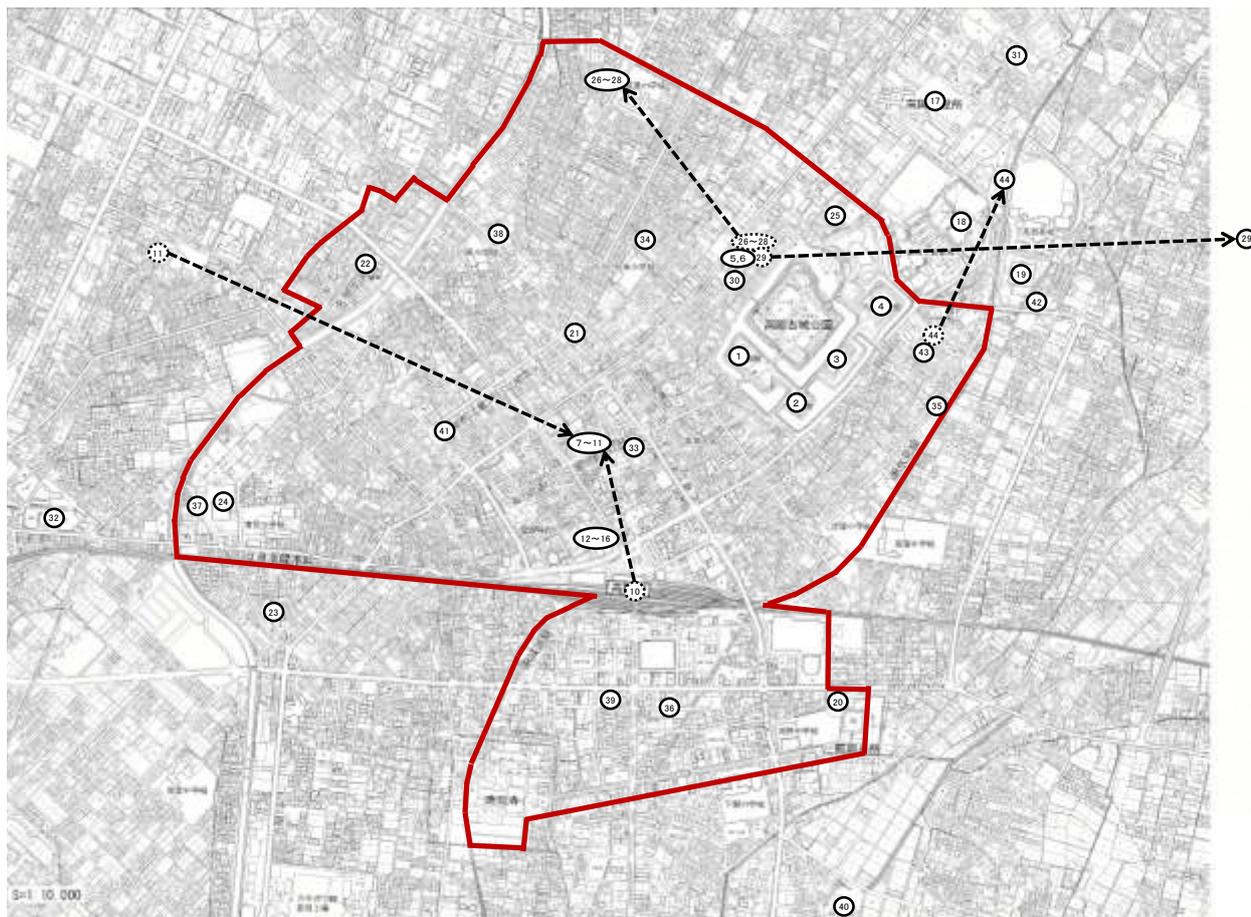
高岡駅前（北側）に立地していた済生会高岡病院が平成6年に二塚校下（駅南方面）に移転した後、中心市街地内に立地する総合病院は無くなった。しかしながら、済生会高岡病院を含めた3つの主要総合病院（高岡市民病院、厚生連高岡病院）は、高岡駅からの公共交通（万葉線、路線バス、コミュニティバス、専用バス）が充実しており、交通弱者にとっても利便性は確保されている。

また、高岡市急患医療センターが本丸会館内に開設されているほか、その他の医療機関は、個人病院を中心に、概ね均一に分布している。

福祉施設としては、平成8年6月に開設した総合福祉拠点施設である高岡市ふれあい福祉センターがあり、ボランティアセンターおよび高岡市シルバー人材センターが併設されている。



■ 中心市街地周辺の主な公共公益施設、主要病院の配置、移転状況



施設名	H19以降の移動の状況	備考
1 市民会館	—	古城公園内
2 博物館	—	古城公園内
3 動物園	—	古城公園内
4 市民体育館	—	古城公園内
5 高岡市急患医療センター	—	本丸会館内
6 富山県消費生活センター高岡支所	—	本丸会館内
7 オタヤ市民サービスコーナー	—	御旅屋セリオ内
8 国際交流センター	—	御旅屋セリオ内
9 富山県旅券センター	—	御旅屋セリオ内
10 高岡市観光協会	内 → 内 (高岡ステーションビルより移転)	御旅屋セリオ内
11 高岡子育て支援センター	外 → 内 (高岡市西部保育園より移転)	御旅屋セリオ内
12 生涯学習センター	—	ウイング・ウイング高岡内
13 中央図書館	—	ウイング・ウイング高岡内
14 男女平等推進センター	—	ウイング・ウイング高岡内
15 県立志貴野高校	—	ウイング・ウイング高岡内
16 県立生涯学習カレッジ	—	ウイング・ウイング高岡内
17 市役所	—	エリア外
18 美術館	—	エリア外
19 高岡文化ホール	—	エリア外
20 県営高岡武道館	—	
21 土蔵造りのまち資料館	—	
22 鋳物資料館	—	
23 高岡市社会福祉協議会	—	エリア外
24 ふれあい福祉センター	—	
25 富山県高岡児童相談所	—	
26 高岡市教育センター	内 → 内 (本丸会館内より移転)	
27 高岡市少年育成センター	内 → 内 (本丸会館内より移転)	
28 高岡市少年なんでも相談所	内 → 内 (本丸会館内より移転)	
29 財高岡市勤労者福祉サービスセンター	内 → 外 (本丸会館内より職業訓練センター内へ移転)	エリア外
30 保健センター	—	

31	市民病院	—	エリア外
32	厚生連高岡病院	—	エリア外
33	中心商店街活性化センター(わろんが)	—	
34	平米公民館	—	
35	定塚公民館	—	
36	東部公民館	—	
37	博労公民館	—	
38	川原公民館	—	
39	高岡運転免許更新センター	—	
40	富山県高岡合同庁舎	—	エリア外
41	高岡郵便局	—	
42	高岡年金事務所	—	エリア外
43	富山地方裁判所高岡支部	—	
44	富山地方法務局高岡支局	内 → 外 (中川本町より中川1丁目へ移転)	エリア外

## ■教育・文化・医療福祉施設数

種類	市内施設数	内訳等
幼稚園	12	公立1、私立11
小学校	27	すべて市立
中学校	12	すべて市立
特別支援教育諸学校	3	県立2、市立1
高等学校	12	県立9、私立3
高等教育機関(大学等)	2	国立法1、私立1
文化施設	16	図書館5、文化会館3、ほか
スポーツ施設	32	高岡市民体育館ほか
保育所	47	県立1、市立18、私立28
病院・医療施設	243	病院17、一般診療所146、歯科診療所80
福祉施設	269	高齢者福祉施設等220、児童福祉施設10、社会福祉センター3、その他36

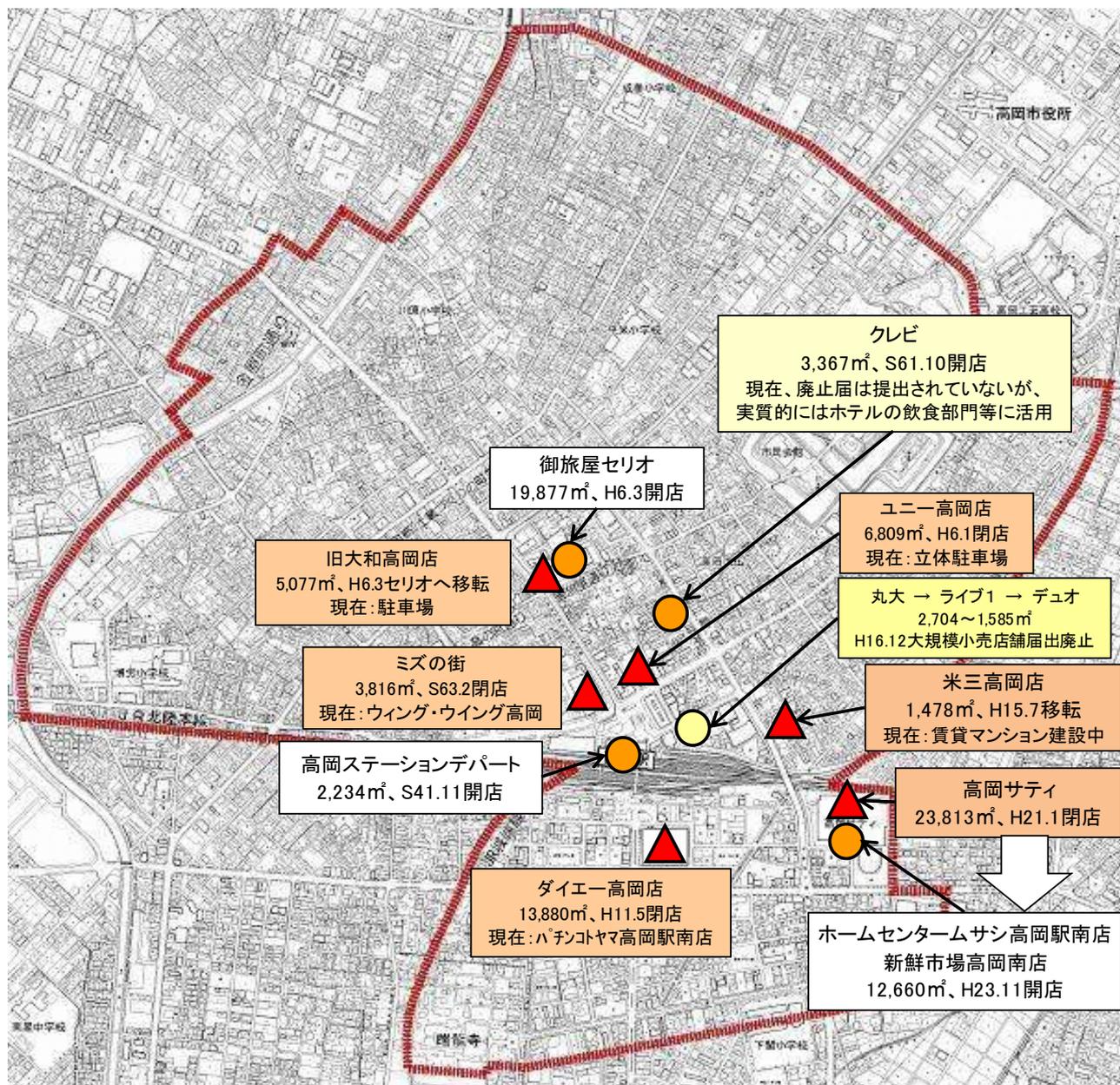
出典：高岡市政要覧(2011年3月作成)、平成22年度高岡市統計書

## (2) 大型店の状況

本市の中心市街地においては、大規模小売店舗が高度成長期に相次いで出店し、バブル崩壊後にその多くが撤退した。(いとはん系列のミズの街3,816㎡、ユニー高岡店6,809㎡、ダイエー高岡店12,998㎡など) これらの跡地については、再開発事業地・立体駐車場・パチンコ店へと転用されている。

また、当時富山県内最大の売り場面積を有するショッピングセンターとして平成5年10月に開店した高岡サティ(23,813㎡)は、経営母体のイオンへの統合を経て21年1月に閉店となった。高岡サティ跡地は、閉店後後約2年半の間未利用地となっていたが、平成23年11月にホームセンタームサシおよび食品スーパー新鮮市場が入居による大規模商業施設が開店している。

## 中心市街地における大規模小売店舗の出退店の状況



中心市街地の大型店の撤退・閉店が進む中、国道8号をはじめとする郊外幹線道路沿線、駅南地区、野村地区、牧野地区などの郊外部には、大規模小売店舗のみならず大店立地法の対象外である、いわゆる「999㎡店舗」や郊外型飲食店の立地が進み、ロードサイド型の商業集積が形成され、高岡市の小売業売り場面積は増加を続けている。

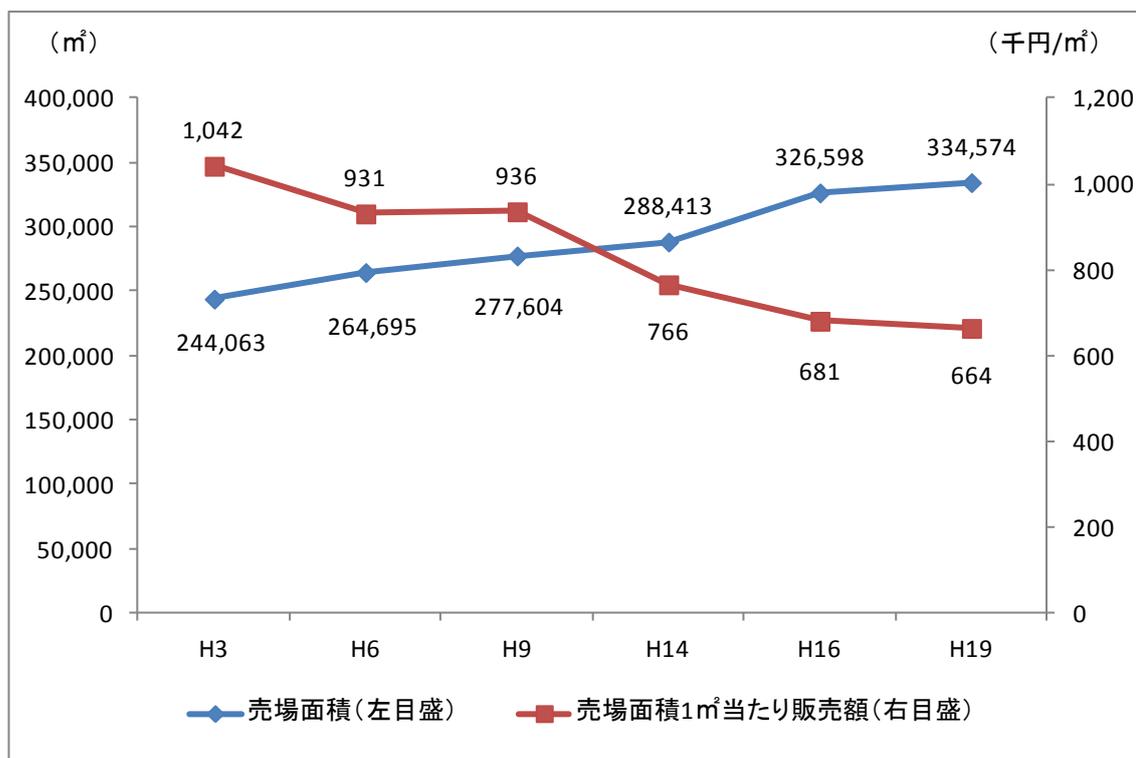
一方、平成14年9月に富山県内最大の売り場面積を持つイオンモール高岡(54,200㎡)がオープンしたことにより、売場面積当たりの販売効率は大きく低下し、大型店同士の競争が激化している。こうした流れを背景に、近年の大型店の出店状況をみると、既存の商業集積地への更なる出店のほか、取り扱い品目の異なる複数の専門店による出店(例:スーパーとホームセンター等)が多く、ワンストップサービスを強化した商業集積形成が進む傾向にある。

近年の大規模小売店舗の出店動向（平成19年度出店分～）

開店日	店舗面積 (㎡)	出店場所	核店舗業態	出店形態	備考
H19.4.20	5,271	国道8号沿線	ホームセンター	複合	ロードサイド型商業集積内の閉店した商業施設の跡地に 出店
H19.6.1	3,900	郊外・電車通り沿線	食品スーパー	複合	既存の衣料品スーパーに隣接して出店
H19.6.13	4,051	国道8号沿線	スーパーセンター	単独出店	
H20.8.8	1,394	佐野地区・国道156号沿線	食品スーパー	複合	既存のドラッグストアに隣接して出店
H20.12.20	1,710	中心市街地隣接・国道156号沿線	ドラッグストア	複合	ドラッグストアと生活雑貨店の複合による出店
H20.11.20	4,945	牧野地区	食品スーパー	複合	食品スーパーを核とするショッピングセンター
H22.10.12	6,873	牧野地区	ホームセンター	複合	公道をはさみ、H20新規出店のSCに隣接して出店
H23.7.24	1,494	国道156号沿線	衣料品専門店	複合	郊外型SC跡地に衣料品専門店、リサイクルショップ、 カメラ店の複合による出店

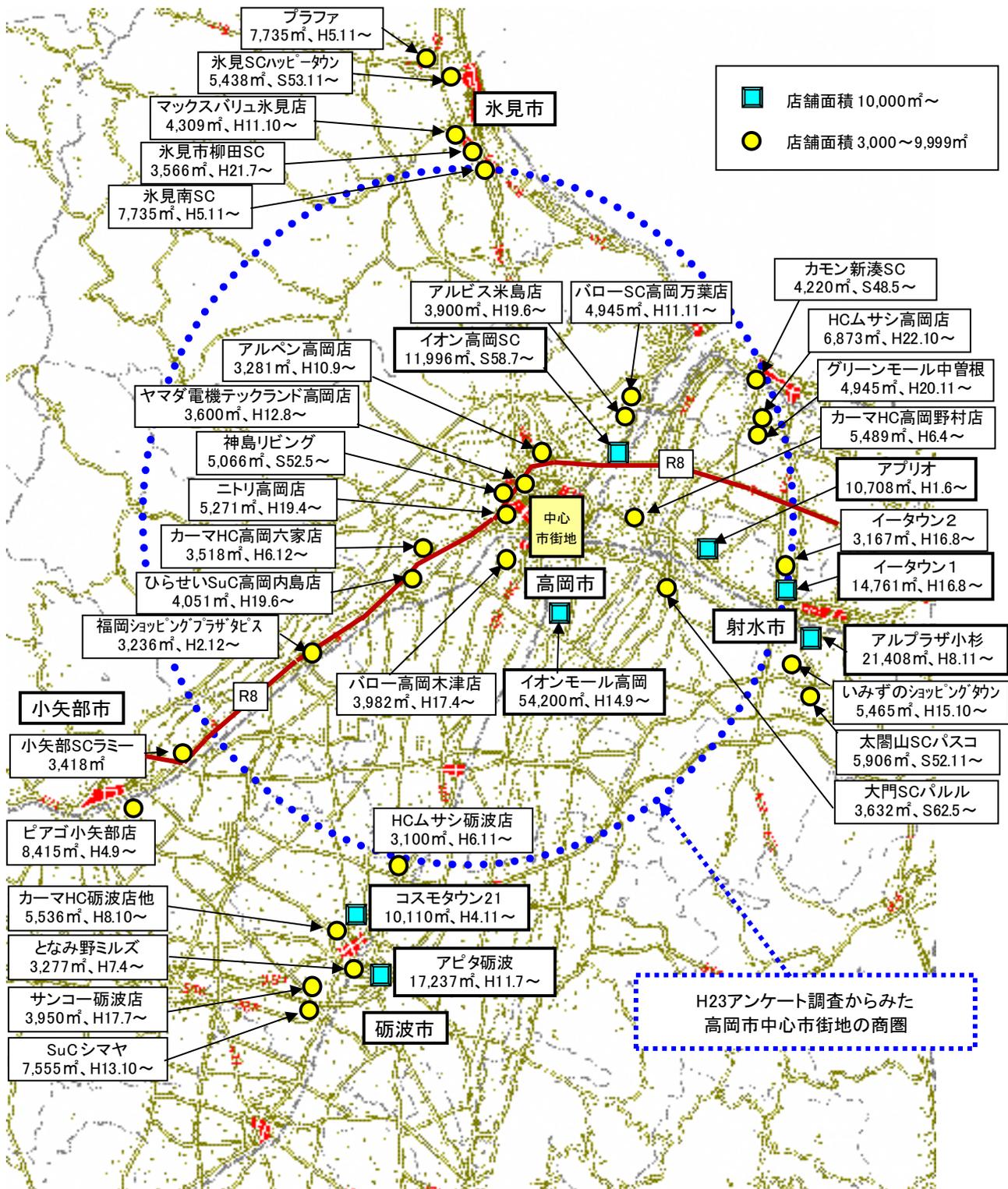
出典：富山県商業まちづくり課「大規模小売店舗の概要」（平成23年4月1日現在）、「大規模小売店舗立地  
法届出一覧」（各年度）、高岡市商業観光課

高岡市における小売業売り場面積および売場面積当たり販売効率の推移



出典：経済産業省「商業統計」

高岡市中心市街地と商圈が競合する大規模集客施設の状況（平成 23 年 4 月 1 日現在）



出典：富山県商業まちづくり課「大規模小売店舗の概要」（平成 23 年 4 月 1 日現在）をもとに作成

（注）届出店舗面積 3,000 ㎡以上の大型商業施設を掲載。

#### [4] 都市機能の集積のための事業等

都市機能の集積にあたっては、今まで整備してきた公共公益施設の利活用の推進をはじめ、公共交通結節点の機能充実、公共交通網の改善や道路整備等による中心商店街へのアクセス性の向上、まちなか居住の推進、「高岡らしさ」を生み出す文化遺産群やものづくりの伝統を生かした商空間づくり等を総合的に推進することにより、中心市街地の活性化を進めていく。

#### 4. 市街地の整備改善のための事業等

1. 高岡古城公園整備事業
2. 高岡御車山会館建設事業
4. 万葉線延伸部施設整備事業（高岡駅地区） ※
5. 高岡駅交通広場整備事業（万葉線延伸部走行空間整備事業〔（万葉線）路面電車走行空間、交通広場整備事業〕） ※
6. 高岡駅北口駅前広場整備事業（高岡駅佐加野線（北口駅広）） ※
7. 高岡駅北口歩行者専用道（人工デッキ）整備事業 ※
8. 高岡駅前東自転車駐車場整備事業 ※  
※「高岡駅周辺整備事業」として、一体的に取り組んでいる事業

#### 5. 都市福利施設を整備する事業

25. ウイング・ウイング高岡運営事業

#### 6. 居住環境の向上のための事業

26. まちなか住宅取得支援事業
27. まちなか耐震住宅リフォーム支援事業
28. まちなか共同住宅建設促進事業
29. まちなか優良賃貸住宅補助事業

#### 7. 商業の活性化のための事業

57. 新高岡ステーションビル建設事業
60. 高岡駅地下街リニューアル事業
69. （仮称）高岡まちなか再生基金事業

#### 8. 4から7までの事業

4. 万葉線延伸部施設整備事業（高岡駅地区）【再掲】 ※
5. 高岡駅交通広場整備事業（万葉線延伸部走行空間整備事業〔（万葉線）路面電車走行空間、交通広場整備事業〕）【再掲】 ※
6. 高岡駅北口駅前広場整備事業（高岡駅佐加野線（北口駅広））【再掲】 ※
7. 高岡駅北口歩行者専用道（人工デッキ）整備事業【再掲】 ※
81. まちなか第2 SOHOオフィス整備事業  
※「高岡駅周辺整備事業」として、一体的に取り組んでいる事業

## 11. その他中心市街地の活性化のために必要な事項

### [1] 基本計画に掲げる事業等の推進上の留意事項

#### (1) 個別事業等に関連した実践的・試行的活動の内容・結果等

##### ①No.37 金屋町楽市開催事業 の取り組み

金屋町は、400年の歴史を誇る高岡鋳物発祥の地で、「さまのこ」呼ばれる千本格子がはめ込まれた伝統的な町家が残り、銅片が敷きこまれた石畳通りと合わせて美しい町並みを形成している。現在も伝統工芸の職と人々の生活が一体の在り方を続ける金屋町の街区内で、金屋町の歴史・文化や日本の典型的な町家の構造を紹介しながら、日常生活内での「用の美」を追求することで磨かれた日本の工芸品を、日常の生活空間内に展示する「ゾーンミュージアム」というコンセプトで構成した。事業の実施にあたっては、富山大学芸術文化学部、地元自治会、商工会議所、市による産・学・官・民連携の実行委員会を立ち上げ取り組んだ。

平成20年は、有田の陶芸家や博多の人形師などの当代一流の作家や北陸地方の作家から出展を募り、町家内や石畳通りに展示し、2日間の開催で、約1万人の来場者が訪れた。

平成21年には、前年の来場者の意見を生かし、地域の飲食店を集めた食のブース開設や、きもの姿で小粋に町歩きを楽しむ企画を行うなど、様々な企画を実践することでイベント内容の充実を図り、2日間で前年の倍にあたる2万人の来場者を記録した。

来場者は年々増加しており、今後も新たな企画を加えるなどイベント内容の充実を図ることに加え、他都市でのPRにも取り組み、来場者の増加及び中心市街地の賑わい創出を図る。

##### ②No.39 芸文ギャラリー運営事業 の取り組み

芸文ギャラリーは、高岡市内のある富山大学芸術文化学部との連携により、高岡駅と中心商店街を結ぶ重要な商店街として位置づけられている高岡駅地下商店街に、学生の瑞々しいエネルギーを注入することで、活気をもたらし来街者の増加を図るため、平成19年4月に駅地下商店街の3区画を整備し開設した。

大学の教育作品や授業成果の展示、学生が独自に企画・運営したプロジェクト、若手経営者を集めたトークイベント、子供たちを集めてのワークショップなど、多彩な取り組みを行うことで、学生を始めとする若者や、芸術・文化やまちづくりに関心のある来館者が訪れるようになり、駅地下街の賑わい創出に寄与した。

今後は、地下街から地上の中心商店街に場所を変えることで今までよりも多くの人の目に付くようになるが、学生やクリエイターによる多彩な企画展を、施設内だけでなく通りや他の店舗などへの展開を図り、まちなかに刺激を与え、中心商店街全体の賑わい創出に繋がるための事業を実施する。

##### ③No.53 朝市・夕市の開催／No.66 エルパセオ・マルシェ（仮称）開催事業 の取り組み

平成17年12月に、空き店舗を活用し、試行的に地産地消の夕市を開催したところ、1日当たり200人が来場されたことから、平成18年度から週2回の通年開催による「え

き地下夕市」の開催を行い、まちの賑わい創出に寄与している。

また、平成 18 年からは、御旅屋通りでも夕市を開催し、地場野菜や総菜を求める地域住民で賑わっている。

更に、坂下町通りでは、昭和 56 年から朝市を開催しており、こちらは、野菜、果物、卵などの生鮮品やパン、干物などの食料品、日用生活小物などの様々な出店があり、地域住民だけでなく、車で訪れる来街者も多数いるなど、日常生活品の購入場所としての朝市・夕市のニーズの高さが見受けられる。

こうした市の開催は、日常生活の利便性に寄与するだけでなく、生産者と直接触れ合う楽しみもあることから今後も継続しながら、駅地下で開催している夕市を駅の南北自由通路に移転し、駅利用者にも分かりやすい場所で実施することで、認知度の向上と集客の増加を図るとともに、中心商店街にある市営住宅と商業店舗の複合施設・エルパセオで、西洋惣菜やパンなどを販売する定期市「エルパセオ・マルシェ（仮称）」を開催し、更なる地域住民の日常生活の利便性向上と周辺住民の来街機会の創出に取り組む。

## [ 2 ] 都市計画との調和等

### ( 1 ) 高岡市総合計画との関係

平成 19 年 6 月に策定した「高岡市総合計画基本構想」で、高岡市の重点課題の 1 つとして「交流の時代のまちづくり」を掲げている。その内容として、中心市街地や地場産業・伝統産業の活性化、万葉と前田家ゆかりの歴史文化、ものづくりの技など高岡の持つ魅力に磨きをかけていくこと等により交流の拡大を促進し、まちづくり・人づくりの好循環を生み出して高岡を大きく飛躍させていくこととしている。

中心市街地については、観光客が回遊しやすくなるような環境の整備、まちなか居住の推進、公共交通及び商店街の活性化を図ることによって充実した生活空間を形成することとしている。

また、平成 24 年度からスタートする「高岡市総合計画第 2 次基本計画」では、開町 400 年を経て、今後の新たな 100 年のまちづくりに向けた取り組みとして「高岡新世紀創造プロジェクト」を掲げ、東海北陸自動車道と北陸新幹線が交差する結節点に位置する地理的優位性を生かし、高岡市の魅力を高めるとともに、周辺地域との連携を通じて飛越圏域、さらには環日本海沿岸における拠点性の確立を目指して地域の様々な主体の協働によって取り組んでいくこととしており、そのための重要な取り組みとして「市街地のにぎわいづくり」を位置付けている。(抜粋部分 63 ページ参照)

### ( 2 ) 高岡市都市計画マスタープランとの関係

平成 17 年 3 月に策定された「高岡市都市計画マスタープラン」では、「にぎわいと活気のある都市づくり」「交通利便性の高い交流の都市づくり」「安全で安心して快適に暮らせる都市づくり」「自然・歴史・文化を生かした都市づくり」を都市づくりの目標とし、その中で中心市街地の活性化を図ることとしている。

中心市街地については、歴史・文化資産の保全などに配慮した居住環境の改善、賑わい創出のための活動を展開し、住みたくなる、行きたくなる街の構築を図ることとしている。(抜粋部分 64 ページ参照)

## ※高岡市都市計画マスタープランの策定（検討中）

富山県が策定している富山高岡広域都市計画区域マスタープランの改定を受け、本市では、高岡市都市計画マスタープランを策定することとしている。その中では、今後の人口減少社会をにらみ、既存の社会資本ストックを利活用しながら、地区の特性に応じた機能分担の下に都市機能を集約配置するとともに交通ネットワークを確保し、持続可能な都市づくりの方向を明確に打ち出すこととしている。

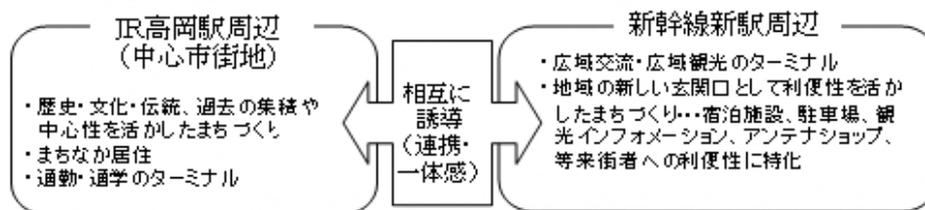
### （３）北陸新幹線新高岡駅（仮称）周辺まちづくり計画との関係

「北陸新幹線新高岡駅（仮称）周辺まちづくり計画」（平成 19 年 4 月）では、「高岡の顔」である J R 高岡駅周辺の中心市街地と機能分化を図り、新高岡駅（仮称）周辺を富山県の呉西地域のみならず、能登半島や飛騨地方を含めた地域の広域的な玄関口と位置付け、金沢駅までの部分開業時にあわせ、交通結節機能や観光機能など、いわゆる「ターミナル機能」に特化した整備方針が盛り込まれている。

具体的には、駅前広場や駐車場の整備をはじめ、観光案内所の設置や隣接する J R 城端線への新駅設置などが予定されており、新高岡駅（仮称）の利用者を中心市街地に誘導する仕掛けが検討されている。

このように、同計画では、都市機能の拡散を目的としているものではなく、本基本計画で掲げる既存の都市ストックの利活用を進めながら、新駅周辺まちづくり計画による広域的な集客を進めることにより、両計画は相互に連携し、一体感を持たせる開発を行うこととしている。

現駅周辺と新駅周辺の機能分担イメージ





## 12. 認定基準に適合していることの説明

基準	項目	説明
第1号基準 基本方針に 適合するも のであるこ と	意義及び目標に関する事項	「1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針」及び「3. 中心市街地の活性化の目標」に記載
	認定の手続	認定申請は本市が行う。協議会の意見は、「9. [2]中心市街地活性化協議会に関する事項」に記載
	中心市街地の位置及び区域に関する基本的な事項	「2. 中心市街地の位置及び区域」に記載
	4から8までの事業及び措置の総合的かつ一体的推進に関する基本的な事項	「9. 4から8までに掲げる事業及び措置の総合的かつ一体的推進に関する事項」に記載
	中心市街地における都市機能の集積の促進を図るための措置に関する基本的な事項	「10. 中心市街地における都市機能の集積の促進を図るための措置に関する事項」に記載
	その他中心市街地の活性化に関する重要な事項	「11. その他中心市街地の活性化のために必要な事項」に記載
第2号基準 基本計画の 実施が中心 市街地の活 性化の実現 に相当程度 寄与するも のであると 認められる こと	目標を達成するために必要な4から8までの事業等が記載されていること	「4. 土地区画整理事業、市街地再開発事業、道路、公園、駐車場等の公共の用に供する施設の整備その他の市街地の整備改善のための事業に関する事項」から「8. 4から7までに掲げる事業及び措置と一体的に推進する事業に関する事項」までに記載
	基本計画の実施が設定目標の達成に相当程度寄与するものであることが合理的に説明されていること	「3. 中心市街地の活性化の目標」に記載
第3号基準 基本計画が 円滑かつ確 実に実施さ れると見込 まれるもの であること	事業の主体が特定されているか、又は、特定される見込みが高いこと	「4. 土地区画整理事業、市街地再開発事業、道路、公園、駐車場等の公共の用に供する施設の整備その他の市街地の整備改善のための事業に関する事項」から「8. 4から7までに掲げる事業及び措置と一体的に推進する事業に関する事項」までに記載
	事業の実施スケジュールが明確であること	「4. 土地区画整理事業、市街地再開発事業、道路、公園、駐車場等の公共の用に供する施設の整備その他の市街地の整備改善のための事業に関する事項」から「8. 4から7までに掲げる事業及び措置と一体的に推進する事業に関する事項」までに記載